

琵琶湖博物館 年報

第 23 号

2018 年度（平成 30 年度）

滋賀県立琵琶湖博物館

2019 年（令和元年）9 月

ごあいさつ

2018年度の活動をまとめた年報が発行されることになりましたが、まずは2019年度より、館長が前任の篠原 徹から高橋啓一に替わりましたことをお知らせいたします。琵琶湖博物館は、これまでどおり「湖と人間」をテーマに、琵琶湖の価値の発見と発信を地域の皆様といっしょに進めてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

さて、琵琶湖博物館では、現在、6年間に渡る展示・交流空間のリニューアルを進めております。このリニューアルは、3期に分けて行われていますが、2018年度は第2期が終了する時期でした。それは計画どおり進み、4月にレストランや別館の団体向け交流・休憩ゾーンが、また7月には「ディスカバリールーム」と新設の「おとなのディスカバリー」がオープンしました。さらに11月には、屋外空間に新設の「樹冠トレイル」と名付けられた空中回廊がオープンしました。これらの評判は上々の様です。樹冠トレイルができたことで博物館内をめぐる来館者の流れが変わりました。トレイルの先から湖岸にある砂浜に降りる人の姿もよくみかけるようになりました。砂浜が人工であるのが残念ですが、屋外展示が「博物館を入口として野外にある本当の“博物館”に足を向けるきっかけの場になって欲しい」という私たちの思いが、一方前進したような気がします。リニューアル計画は、企業の方々のご支援も受けながら、第3期へと進んでおります。来年2020年の夏にはすべての計画が終了し、グランドオープンを迎える予定ですので、ご期待ください。

こうした、展示・交流空間の整備を進める一方で、私たちは博物館活動の基盤となる資料の充実やそれを使った研究の推進も行わなくてはなりません。私たちは、県費における総合研究、共同研究、専門研究のほかに、国の科学研究費などをはじめとする外部資金にも申請を行い、研究予算の確保に努力しています。2018年度には、継続していた科学研究費による研究3件に加え、新規で7件採択されました。そして、収蔵資料は130万点を越えるまでになりました。こうして進めた研究は、2018年度にも企画展示や水族企画展示、水族トピック展示、研究部主催の新琵琶湖学セミナー、市販の琵琶湖博物館ブックレット、新聞の連載など、様々な方法で広く発信することができました。また、海外の研究機関ともこれまでフランスのパリ国立自然史博物館、ロシアのバイカル博物館、北マケドニアの国立オフリド水生生物研究所、中国の中国科学院水生生物研究所や湖南省博物館、韓国の洛東江生物資源館などと協力協定を締結し、連携を図ってきました。このうち、2018年度は7月に淡水エビ類の共同研究のために洛東江生物資源館から3名の研究者が来日したほか、9月には洛東江で、12月には琵琶湖博物館で合同研究セミナーを開催しました。こうした国際交流も行いながら、様々な方々に使っていただける琵琶湖博物館を磨いていきたいと思っております。

2019年9月21日

滋賀県立琵琶湖博物館
館長 高橋啓一

目 次

ごあいさつ	1
I 博物館機能の強化	
1 資料が活用できる博物館	
資料整備活動	4
(1) 収蔵資料	4
(2) 資料の活用	9
(3) 資料の保管	12
2 研究を進めて活かせる博物館	
研究推進	13
(1) 総合研究	13
(2) 共同研究	13
(3) 専門研究	14
(4) 研究審査委員会	15
(5) 研究助成を受けた研究	15
(6) 研究員の受け入れ	17
研究発信	18
(1) 公表された主な研究業績	18
(2) 新琵琶湖学セミナー	21
(3) 研究セミナー・特別研究セミナー	22
(4) 琵琶湖博物館サイエンスセミナー	24
(5) 琵琶湖博物館ブックレット	24
研究交流	24
(1) 協力協定に基づく連携	24
(2) 研究機関との連絡活動	26
(3) 海外活動	26
研究部活動	26
(1) 研修	26
(2) 薬品類の管理	27
(3) 研究備品の管理	27
3 新たな参加と発見ができる博物館	
展示活動	28
(1) 常設展示の主な更新	28
(2) 企画展示・水族企画展示	37
(3) ギャラリー展示・トピック展示等	41
展示交流	42
(1) フロアートーク	42
(2) ディスカバリールームのイベント	42
(3) 展示交流員と話そう	44
(4) デジタルサイネージ	45
博物館連携	47
(1) 滋賀県博物館協議会	47
(2) 烏丸半島活性化連携事業	47

4 体験と交流を促す博物館	
一般利用者へのサービス	49
(1) 観察会・見学会等	49
(2) 講座	49
(3) 体験教室	50
(4) 体験学習	51
学校連携	52
(1) 学校団体	52
(2) 教育指導者等研修	55
企業連携	56
研修・実習	57
(1) 国際交流	57
(2) 視察対応（国内）	59
(3) 博物館実習	61
5 対話と応援ができる博物館	
利用者主体の事業	62
(1) フィールドレポーター	62
(2) はしかけ制度	63
地域交流活動への支援	83
(1) 博物館内での支援活動	84
(2) 地域での支援活動	86
(3) 質問対応	88
(4) びわ博フェス 2018	88
琵琶湖博物館環境学習センター	89
(1) 環境学習に関する相談対応・情報提供	89
(2) 環境学習の交流の場づくり	89
情報発信活動	91
(1) 地域発見！参加型移動博物館	91
(2) インターネットを利用した館外への情報提供	92
(3) 印刷物	92
II 新琵琶湖博物館の創造	94
III 環境の整備	
1 拠点としての施設整備	
(1) 利用者用施設の整備	95
(2) 情報システムの整備	95
(3) 来館者アンケート調査	96
2 柔軟な運営組織	
(1) 組織	100
(2) 職員	101
3 社会的支援と新しい経営	
(1) 利用状況（2018年度入館者数）	106
(2) 広報活動	108
(3) 予算	128
(4) 寄付など	128
4 存在基盤の確立	
(1) 琵琶湖博物館協議会	129
(2) 企画・計画	129
IV 2018年度をふり返って	
1 研究部	131
2 事業部	132
3 総務部	133

I 博物館機能の強化

1 資料が活用できる博物館

資料整備活動

琵琶湖博物館では、「琵琶湖とその集水域および淀川流域」を中心として、その全体評価に関わるもの、博物館のテーマである「湖と人間」に係る日本やアジア、世界の湖沼とその周辺地域における自然・人文・社会科学等に関する過去から現在までの資料を収集し、それらの整理、保管を行い、活用することで博物館活動の充実に努めている。

それらの資料は、実物資料のほか、生魚などの生体資料、映像資料、図書資料および博物館業務に必要な資料があり、博物館職員や参加型調査による収集、受贈、受託、提供、交換、購入、製作などの方法によって受け入れられる。また、それらは必要な時に利用できるよう、各資料の体系に従って整理し、次世代へ引き継ぐために、長期間にわたって安全に良好な状態で保管する活動を行っている。保管や利用にあたっては、各資料に関する専門の学芸職員のほか、図書資料については、司書資格をもった職員が対応にあっている。

以下に、2018年度の資料整備および利活用の状況を示す。

(1) 収蔵資料

収蔵資料は、地学標本、動物標本、植物標本、微小生物標本、水族資料（生体資料）、考古資料、歴史資料、民俗資料、環境資料、図書資料、映像資料の11分野にわたる。

登録資料数とは、琵琶湖博物館情報システムの資料データベースに登録されているものの総数をいい、収蔵概数とは、登録資料数と未整理な資料を含めた収蔵全体数である。

2018年度末現在で、博物館登録資料は611,450で、収蔵概数は1,345,977となった。これらの収蔵資料は、保存に影響を与えない範囲で、展示、閲覧および貸出等に利用している。

1) 収蔵資料数

2019年3月末現在

	登録資料数	収蔵概数	2018年度登録数	2018年度受入総数
地学	75,028	111,110	16,076	1,561
動物	188,971	359,796	1,647	3,160
植物	88,956	190,460	1,048	2,116
微生物	10,070	69,810	258	8
水族（生体）	14,525	14,525	14,852	14,852
考古	0	1,429箱と392	0	0
歴史	2	211	0	0
民俗	6,721	6,837	0	0
環境	0	45箱と770	0	0
図書	151,411	158,000	3,216	4,450
映像	75,766	432,592	0	330,737
合計	611,450	1,345,977	37,097	356,884

【各分野別の詳細】

地学標本	2018年度							累 積	
	登録数	採集数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
化石	67	0	1	0	42	43	データベースの各アイテムへの入力作業中	43,335	48,000
岩石・鉱物	1,791	0	69	0	36	105		11,962	21,450
堆積物	14,218	0	0	0	0	0		18,480	39,000
プレパラート	0	0	0	0	1,413	1,413		1,251	2,660
小 計	16,076	0	70	0	1,491	1,561		75,028	111,110

動物標本	2018年度							累 積		
	登録数	採集数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数	
脊椎動物（魚類除く）	30	6	3	0	25	34		3,701	4,034	
内 訳	哺乳類骨格標本	8	0	0	0	8		901	901	
	哺乳類乾燥標本	14	0	2	0	15		144	144	
	哺乳類(その他)	2	0	0	0	2		817	817	
	鳥類骨格標本	2	2	0	0	0	2	骨格標本 2	243	243
	鳥類乾燥標本(巢, 卵, レプリカ等含む)	4	4	1	0	0	5	仮剥製標本 4 部分剥製標本 1	1,019	1,020
	爬虫類骨格標本	0	0	0	0	0	0		43	43
	爬虫類剥製標本	0	0	0	0	0	0		10	10
	爬虫類液浸標本	0	0	0	0	0	0		44	44
	爬虫類(その他)	0	0	0	0	0	0		43	90
	両生類骨格標本	0	0	0	0	0	0		7	7
	両生類剥製標本	0	0	0	0	0	0		0	0
	両生類液浸標本	0	0	0	0	0	0		351	351
	両生類 (その他)	0	0	0	0	0	0		79	364
魚類（淡水魚類）	439	0	10	0	13	23		57,442	85,611	
内 訳	乾燥骨格および アクリル包埋標本	0	0	0	0	0	0	収蔵標本の維持管理、データベースの修正などをおこなった	2,678	2,678
	DNA 分析用標本	1	0	0	0	1	1	収蔵標本の維持管理、データベースの修正などをおこなった。1件を新規登録した	3,724	3,724
	その他の液浸標本	438	0	10	0	12	22	新規に提供された標本および前年度までの未登録標本を整理し、データベースへ438件を新規登録した	51,040	79,209
昆虫	0	3	2,814	0	2	2,819		102,272	237,718	
内 訳	昆虫液浸標本	0	0	0	0	1	1		12,304	31,066
	昆虫乾燥標本	0	3	2,814	0	1	2,818	宮田彬コレクション 35,457件をデータベースへ新規登録。布藤コレクションの整理、登録作業	89,968	206,652
貝類	30	15	0	0	230	245	当館には収蔵されていなかった種を含めた30件を新規登録した	14,454	17,712	
昆虫と貝類以外の無脊椎動物（甲殻類、寄生虫など）	1,148	0	34	0	5	39		11,102	14,721	
小 計	1,647	24	2,861	0	275	3,160		188,971	359,796	

植物標本	2018年度							累 積	
	登録数	採集数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
さく葉標本	1,048	0	2,116	0	0	2,116	登録・ラベル貼付・収蔵・管理、 収蔵庫燻蒸	88,956	190,282
植物液浸標本	0	0	0	0	0	0		0	0
菌類乾燥標本	0	0	0	0	0	0		0	121
水草包埋標本	0	0	0	0	0	0		0	57
小 計	1,048	0	2,116	0	0	2,116		88,956	190,460

微生物標本	2018年度							累 積	
	登録数	作成・撮影	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
微小生物液浸標本	253	0	0	0	3	3		8,673	6,889
微小生物プレパラート	0	0	0	0	0	0		0	31
珪藻プレパラート	5	5	0	0	0	5		1,397	1,397
珪藻顕微鏡写真フィルム	0	0	0	0	0	0		0	25,324
珪藻顕微鏡写真 デジタルファイル	0	0	0	0	0	0		0	25,251
微小生物顕微鏡写真 デジタルファイル	0	0	0	0	0	0		0	10,052
微小生物動画ファイル	0	0	0	0	0	0		0	866
小 計	258	5	0	0	3	8		10,070	69,810

水族資料 (生体)	2018年度							累 積	
	登録数	採集数	提供数	購入数	繁殖数	受入総	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
脊椎動物	12,416	1,047	50	8,367	2,952	12,416		13,826	13,826
内 訳	哺乳類	29	0	0	0	29		42	42
	魚類	12,368	1,032	48	8,367	2,921		13,726	13,726
	両生類	15	15	0	0	0		25	25
	爬虫類	4	0	2	0	2		28	28
	鳥類	0	0	0	0	0		5	5
無脊椎動物	2,436	2,294	43	99	0	2,436		699	699
内 訳	昆虫類	0	0	0	0	0		0	0
	貝類	393	294	0	99	0		488	488
	甲殻類	941	898	43	0	0		188	188
	扁形動物	1,102	1,102	0	0	0		23	23
小 計	14,852	3,341	93	8,466	2,952	14,852		14,525	14,525

考古資料	2018年度			累 積	
	登録数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
土器・石器等(コンテナ数)	0	0		0	1,394(箱)
木器等(棚置き数)	0	0		0	357
礎石・大型木製品等(床置き数)	0	0		0	26
展示用保管資料等(コンテナ数)	0	0		0	14(箱)
展示用大型資料	0	0		0	6
瓦・金属製品	0	0		0	21(箱)と3
小 計	0	0		0	1,429(箱)と392

歴史資料	2018年度						累 積	
	登録数	購入数	寄贈数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
古文書、絵図、絵画等	0	0	0	0	0		2	163
二次資料 (レプリカ、模写、模造)	0	0	0	0	0		0	41
その他	0	0	0	0	0		0	7
小 計	0	0	0	0	0		2	211

民俗資料	2018年度				累 積	
	登録数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
生活生業用具	0	0	0		4,133	4,140
漁撈用具(船関係用具を含む)	0	0	0		2,588	2,589
二次資料	0	0	0		0	108
小 計	0	0	0		6,721	6,837

環境資料	2018年度					累 積	
	登録数	提供数	寄贈数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
水環境調査資料	0	0	0	0		0	74
生活用具類	0	0	0	0		0	37
民具類	0	0	0	0		0	22箱と630
二次資料(レプリカなど)	0	0	0	0		0	23箱と25
海外の湖沼船	0	0	0	0		0	4
小 計	0	0	0	0		0	45箱と770

図書資料	2018年度					累 積	
	登録数	購入数	寄贈・提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
書籍	1,648	32	2,187	2,219	おとなのディスカバリーへ図書約1,600冊、雑誌16誌を配架。その他書籍レファレンス、コピーサービス(有料)。資料整理として蔵書点検55,000点、図書装備約1,600冊	90,664	94,000
文献	329	0	329	329		54,542	57,000
雑誌	1,239	235	1,667	1,902		6,205	7,000
小 計	3,216	267	4,183	4,450		151,411	158,000

(*)ニュースレターを含まない。博物館関係の雑誌を含む

映像資料	2018年度						累 積		
	登録数	撮影数	移管数	寄贈・寄託数	提供数	受入総	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
静止画資料	0	0	0	329,939	0	329,939	Photo CDのフィルム対応リストの作成、大橋コレクションの登録準備、画像データベース資料データの修正	75,766	422,870
動画資料	0	0	0	727	71	798		0	9,722
小 計	0	0	0	330,666	71	330,737		75,766	432,592

2) 寄贈者および提供者 敬称略(点数)

【地学資料】

岩石・鉱物：小谷富士夫(34) 中村豊美(1) 岸原正恭(68) 岡村太一郎(2)

化石：岡村喜明(1) 北田稔(1) 北村浩(2) 田村唯(1) 池田朝未(1) 馬越仁志(37)

プレパラート：中野聰志(1,413)

【動物標本】

哺乳類乾燥標本：梶谷 洋 (1) 岡村勝司 (1)

魚類液浸標本：川瀬成吾 (9) ぼてじゃこトラスト (1) 安井幸男 (3) 猪塚彬土 (1) 北野大輔 (1)
韓国国立洛東江生物資源館 (1) 鹿野雄一 (3)

昆虫液浸標本：八尋克郎 (1)

昆虫乾燥標本：中島久晴 (2, 814) 野々口拓実 (1) 中川 優 (3)

貝類液浸標本：石田末基 (213) 上地健流 (17)

昆虫と貝類以外の無脊椎動物：高橋法人 (4) 大高明史 (30) 志賀鉄三 (5)

【植物標本】

さく葉標本：多賀榮之 (2, 116)

【図書資料】

伊谷純一郎 (1, 091) 用田政晴 (287) 篠原 徹 (50) 西田謙二 (39) 川那部浩哉 (17)

龍人間科学宗教総合研究センター (3) 藤松 高 (3) 中野聰志 (2) 志岐常正 (2) 前畑政善 (2)

山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会 (2) 嘉田由紀子 (1) 寺本憲之 (1) 今里哲久 (1)

小島道裕 (1) 下物町町内会安井正一 (1) マーク J. グライガー (1) 国立洛東生物資源館 (1)

滋賀大学教育学部附属中学校 (1)

【映像資料】

寄贈：(株) CNインターボイス (42) 関 和夫 (330, 624)

3) 購入資料

なし

4) 水族繁殖生物

種 名	学 名	個体数
日本産魚類		
コイ科		
イチモンジタナゴ	<i>Acheilognathus cyanostigma</i>	200
イタセンパラ	<i>Acheilognathus longipinnis</i>	9
シロヒレタビラ	<i>Acheilognathus tabira tabira</i>	177
アカヒレタビラ	<i>Acheliognathus tabira erythropterus</i>	134
ゼニタナゴ	<i>Acheilognathus typus</i>	29
ニッポンバラタナゴ	<i>Rhodeus ocellatus kurumeus</i>	64
カゼトゲタナゴ	<i>Rhodeus atremius atremius</i>	111
ミヤコタナゴ	<i>Tanakia tanago</i>	50
アブラボテ	<i>Tanakia limbate</i>	145
ホンモロコ	<i>Gnathopogon caeruleus</i>	150
イトモロコ	<i>Squalidus gracilis gracilis</i>	142
カワバタモロコ	<i>Hemigrammocypripis rasborella</i>	206
ウシモツゴ	<i>Pseudorasbora pugnax</i>	235
モツゴ	<i>Pseudorasbora parva</i>	200
ビワヒガイ	<i>Sarcocheilichthys variegatus microculus</i>	54
アブラヒガイ	<i>Sarcocheilichthys biwaensis</i>	31
ドジョウ科		
ビワコガタスジシマドジョウ	<i>Cobitis minamorii oumiensis</i>	45

種 名	学 名	個体数
日本産魚類		
フクドジョウ科		
ナガレホトケドジョウ	<i>Lefua torrentis</i>	2
メダカ科		
ミナミメダカ	<i>Oryzias latipes</i>	175
トゲウオ科		
ハリヨ	<i>Gasterosteus microcephalus</i>	123
スズキ科		
オヤニラミ	<i>Coreoperca kawamebari</i>	119
ハゼ科		
アオバラヨシノボリ	<i>Rhinogobius</i> sp.	109
外国産魚類		
カワスズメ科		
アウロノクロミス・デウインディ	<i>Auronocromis dewindi</i>	49
コパディクロミス・アズレウス	<i>Copadichromis azureus</i>	46
ニンボクロミス・リビングストーン	<i>Nimbochromis livingstonii</i>	25
アウロノカラ・ヤコブフライベルグ	<i>Aulonokara jacobfreibergi</i>	272
ラビドクロミス・カエルレウス	<i>Labidochromis caeruleus</i>	19

(2) 資料の活用

1) 資料の貸出 (研究依頼を含む) 4件 15点

月	日	貸出先	資料内容	利用目的
4	11	産業技術総合研究所	マイコアカネ♀標本 1点	DNA解析
4	28	サケのふるさと千歳水族館	ビワコガタスジシマドジョウ 3点 アジメドジョウ 3点 ナガレホトケドジョウ 3点	特別展での生態展示
4	30	東京大学総合文化研究科	カワムラナバブタムシ乾燥標本 2点	系統解析
3	1	名古屋港水族館	ニゴロブナ (生体) 3点	特別展での展示

2) 資料の譲与 4件 61点

月	日	譲与先	資料内容	利用目的
5	10	京都市動物園	イチモンジタナゴ 30個体	展示および生息域外保全
12	4	世界淡水魚園水族館	カヤネズミ 10個体	展示および繁殖
3	12	米原市立双葉中学校	ハリヨ 20個体	生息域外保全および環境学習
2	28	北九州市立自然史・歴史博物館	タニガワナマズ 1個体	常設展示での生体展示

3) 特別観覧

<映像資料・静止画> 31件 445点

月	日	貸出先	資料内容	使用目的
4	4	長谷川嘉和	近江水産図譜 2点	学術研究
4	5	滋賀県農政水産部	湖魚の写真 29点	申請書・ビデオ等への掲載
4	29	宮崎佑介	水族展示生体写真 2点	書籍への掲載
4	29	滋賀県立びわ湖フローティングスクール	水草写真 9点 魚類写真 23点	学習のしおりへの掲載

月	日	貸出先	資料内容	使用目的
4	29	滋賀県立びわ湖フローティングスクール	水草写真 18点 魚類写真 74点 貝類写真 35点 水鳥写真 23点	タブレット学習ソフトでの使用
5	7	京都府立海洋高等学校	ビワコオオナマズ写真 1点	学校案内・ポスターへの掲載
5	19	株式会社ジャンプコーポレーション	写真で見る生活史 3点	テレビ番組での使用
6	6	岐阜市長良川鶴飼伝承館	カワウ全身写真 1点	特別展示でのパネル展示、チラシなどへの掲載
6	15	北村美香	前野隆資氏撮影写真 8点	学術研究調査でのヒアリング資料
7	13	株式会社NHKエデュケーショナル	藤村和夫氏撮影写真 2点	放送大学授業での使用
7	13	株式会社NHKエデュケーショナル	前野隆資氏撮影写真 2点	放送大学授業での使用
8	4	株式会社 叶 匠寿庵	前野隆資氏撮影写真 1点	広報誌への掲載
8	4	仙台うみの杜水族館	ゴロミヤンカ 1点 バイカルヨコエビ 1点	展示
8	23	下物町 町史編纂委員会	前野隆資氏撮影写真 6点	郷土誌への掲載
9	30	西本香子	松原内湖遺跡出土ヘラ状木製品写真 1点	書籍への掲載
10	17	アインズ株式会社	琵琶湖固有魚種写真 15点	図鑑への掲載
10	20	野洲市	明治29年洪水災害写真 2点	近畿地方治水大会での使用
10	27	医療法人 青葉会	魚類写真 1点	研究会での使用
11	3	彦根市栄町二丁目栄寿会（老人会）	大橋コレクション 23点	作品展のパネルへの掲載
11	30	琵琶湖環境部琵琶湖保全再生課	ビワコオオナマズ等 12点	ポータルサイトへの掲載
12	4	大家翔吾	ビワコオオナマズ等 7点	研究会での使用
12	14	有限会社 樹林舎	前野隆資氏撮影写真 53点	書籍への掲載
12	27	大津市教育委員会	ビワマス 1点	報告書への掲載
1	4	マリンワールド海の中道	タナゴ等 8点	館内解説板への掲載
1	4	日田市立博物館	安心院動物化石群画像 22点	特別展「太古の湖とそこに暮らした生きものたち」図録に使用
1	20	水本邦彦	琵琶湖真景図 1点	学術研究
2	14	琵琶湖環境部琵琶湖保全再生課	ビワコオオナマズ等 9点	琵琶湖ハンドブック概要版への掲載
2	14	琵琶湖環境部琵琶湖保全再生課	ビワコオオナマズ等 5点	リーフレットへの掲載
2	26	滋賀県立びわ湖フローティングスクール	水草写真 11点 魚類写真 23点 貝類写真 8点	学習のしおりへの掲載
3	9	国立民族学博物館	ヤマメ	博物館施設に関する教育資材への掲載
3	9	滋賀県立図書館	B展示丸子船	館報特集記事に掲載

<館内閲覧・撮影> 14件 117点

月	日	利用者	閲覧内容	閲覧目的
6	8	木谷 徹	漁撈関係民俗資料 4点	学術研究
6	22	前田大智	骨格標本 13点	卒業研究

月	日	利用者	閲覧内容	閲覧目的
7	20	小島隆宏	烏丸地区深層ボーリングコア 1式	学術研究
8	23	近江八幡市	ヒガイウエなど漁撈用具・農具 7点	『近江八幡の歴史』の参考資料とするため
9	27	草津東高等学校放送部	水族展示資料 (ブラックバス・ブルーギル)	文化祭出品作品で使用
9	28	中村正聡	大正十五年「マラリヤ」患者調査票 2点	学術研究
11	29	西野麻知子	条虫・線虫の液浸標本 2点	書籍掲載のための写真撮影
11	30	草津市教育研究所	C展示室「暮らしは変わる」展示資料 2点	社会科副読本への掲載のための撮影
2	15	小島隆宏	関西国際空港2期空港島深層ボーリングコア 1式	学術研究
2	16	人見佐知子	民俗資料 39点	学術研究
2	25	丸山 敦	水族資料 ニンボクロミス・リビングストーニー 6個体	学術研究(展示水槽内での行動撮影)
3	7	富永浩史	シマドジョウ類液浸標本 36点	高校部活動での研究およびその指導のための調査
3	8	小椋純一	琵琶湖真景図 1点	
3	21	丸山 敦・八杉公基	水族資料 ニンボクロミス・リビングストーニー 2個体	学術研究(3DCG 素材のための撮影)

4) 資料の利用による成果

さまざまな形で資料は利用されるが、そのことによって多岐にわたる成果があがる。また、資料が利用されてから実際に成果が論文などの形にまとまるまでに要する時間もさまざまである。2018年度には以下の論文・書籍が公表された。

著者	年	タイトル	雑誌名または出版物頁	種別	活用標本
Nakahama, N. et al.	2018	Historical changes in grassland area determined the demography of semi-natural grassland butterflies in Japan.	Heredity, 121: 155-168	論文	昆虫乾燥標本
Kano, Y. et al.	2018	Photo images, 3D models and CT scanned data of loaches (Botiidae, Cobitidae and Nemacheilidae) of Japan.	Biodiversity Data Journal, e26265	論文	魚類液浸標本
Ohtsuka, T., Kitano, D. and Nakai, D.	2018	<i>Gomphosphenia biwaensis</i> , a new diatom from Lake Biwa, Japan: description and morphometric comparison with similar species using an arc constitutive model.	Diatom Research, 33: 105-116	論文	微生物資料
Ohtsuka, T.	2018	LM and SEM observation of <i>Kurtkammeria spicula</i> (Hust.) comb. nov.	Diatom, 34: 49-50.	論文	微生物資料
Matsuoka, K. and Miura, O.	2018	Five new species of the genus <i>Semisulcospira</i> (Mollusca: Caenogastropoda: Semisulcospiridae) from the Pleistocene Katata Formation of the Kobiwako Group, Shiga Prefecture, central Japan.	Bulletin of the Mizunami Fossil Museum, 44: 59-67.	論文	貝類化石標本
富永浩史・鹿野雄一	2019	新潟県および京都府の河川で観察・採集されたカマツカの斑紋変異個体	魚類学雑, DOI: 10.11369/jji.19-002 (J-Stage 早期公開版)	論文	魚類液浸標本

(3) 資料の保管

資料を保管するには、ガス燻蒸、冷凍処理および二酸化炭素処理など、防虫・防黴対策を行った後に収蔵庫へ収納している。また、収蔵資料が長期間にわたり安全で良好な状態が保てるよう、目視による資料チェックや保存液の補充などを行うほか、収蔵庫の適切な保存環境を維持するため、収蔵庫内の温湿度管理、生物トラップ調査、定期的な清掃などの総合的有害生物防除管理（IPM）を行っている。

2018年度は、収蔵庫空間においてカビ防御のため、温湿度センサーの較正を行い、前年に引き続き、扇風機や除湿器の設置や外気の遮断など空気環境の改善も行った。動物標本（剥製）などが展示されているC展示室内においては、昨年度に引き続き文化財害虫の生物トラップによるモニタリングを継続した。また、廊下排水口からハエ類の侵入が認められたため、一部排水口の防虫ネットの更新を行い、カビの発生がみられた前室においては、資料の一斉搬出を行い、環境改善を行った。

1) 収蔵空間の管理

温湿度管理	各収蔵庫定点観測を実施 ・時間ごとに計測し、全データを保存。一部収蔵庫では、データロガーを使用。 ・温湿度の変化を年間通して把握し、環境の基準を設定する。 ・温湿度センサーの較正
定期清掃	・収蔵庫の清掃：月1回原則として第1金曜日に実施 ・収蔵庫前廊下の清掃：当番で割り振られた範囲を週1回実施
特別清掃等	生物環境調査の結果から、特別清掃の実施(害虫の増加場所を対象とした一部展示室内) 乳剤散布4回、委託業者清掃実施
生物環境調査	年3回の生物環境調査 ・2018年6月1日～6月15日 昆虫トラップ調査 241カ所(設置・回収・分析) ・2018年11月16日～11月30日 昆虫トラップ調査 247カ所(設置・回収・分析) ・2019年3月1日～3月15日 昆虫トラップ調査 247ヶ所(設置・回収・分析) *当館のIPM基準値 ・虫：非誘因性トラップで1日につき捕獲される指標種（チャタテムシ）の個体数（捕獲指数）が 1

2) 燻蒸・処理

収蔵資料が長期間にわたり安全で良好な状態を保てるよう、収蔵庫内の温湿度管理、定期清掃、トラップ調査などといった、総合的有害生物防除管理（IPM）と合わせ、必要に応じた燻蒸処理を行っている。また、昆虫トラップの結果を踏まえて、害虫の発生源となりやすい箇所等について、今後の対策の検討を行っている。

新たに収集した資料や、収蔵庫外で活用後の資料は、収蔵庫への搬入前に燻蒸処理を行っている。大型燻蒸庫では、二酸化炭素ガスによる燻蒸を5回、エキヒューム燻蒸を1回実施し、小型燻蒸庫では、二酸化炭素ガスによる燻蒸を1回実施した。また、密閉テント方式あるいは直接包み込み方式のエキヒューム燻蒸を3回実施した。その他、資料によっては冷凍庫による冷凍処理および脱酸素処理を実施している。

2 研究を進めて活かせる博物館

研究推進

琵琶湖博物館では、研究事業、交流サービス事業、情報事業、資料整備事業、展示事業という5つの事業を総合的に行なっている。その中でも研究活動が全ての博物館活動の基礎となる。すなわち、研究の成果やその発信として、展示、資料、交流活動が行なわれ、研究が魅力的であれば、博物館の他の事業も魅力的なものとなる。

研究部では2015年3月に策定された新琵琶湖博物館創造基本計画に従い、3つの役割である 1)「湖と人間」のあり方を県民とともに考え、ともに行動する博物館、2) 次代を担う人が育つ拠点となる博物館、3) 地域活性化の核となる博物館を、博物館の研究活動を通じて具現化することを目指している。そのため、2016年度から2020年度の5年間の研究活動方針および行動計画に従い、「湖と人間」のテーマのもと、琵琶湖とその周辺の多面的な価値を地域の人たちと共に探っていくことを進めている。この役割や活動は、主な3つの研究の方向性に沿って、継続していく予定である。

- ・琵琶湖地域の「湖と人間」の関係性を探る総合的な研究の推進

琵琶湖博物館の専門、共同、総合研究や外部資金による研究を組み合わせで行う。

- ・「古代湖」としての琵琶湖の価値を探る比較研究

国際協力協定を結んでいる海外の博物館、研究機関との資料交換や共同研究を行う。

- ・「木から森へ」の博物館学の追求

博物館機能を活用して誰もが琵琶湖博物館の活動を知り、研究や事業に参加できるための博物館学研究を行う。

これまで琵琶湖博物館の研究事業では、学際的な総合研究やテーマをしばった共同研究、ならびに個々の学芸員の資質を高める専門研究に取り組んできた。2017年度に整備した当館の研究評価実施要綱に従い、総合研究と共同研究については、研究計画調書ならびに説明によって、研究審査委員会の審査を受け、その結果を踏まえて、当館で行う研究課題を定めた。また、専門研究については、内部評価委員会を設置し、研究課題を検討し、助言を行いながら、研究を推進した。なお、専門研究の中で、申請額の多い研究は申請専門研究として、同じく研究審査会での審査を受けた。2018年度は、次の研究課題が実施された。

(1) 総合研究

琵琶湖博物館の設立理念を実現することに直接結びつく研究として、次の総合研究1件を行った。

- ・前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究

代表者：橋本道範，研究期間：2014～2018年度

(2) 共同研究

琵琶湖博物館のテーマにしたがった研究として共同研究を以下のテーマで行った。共同研究のテーマは次の10件であった。

- ・水資源を活かした地域再生のありかたに関する社会学的研究

代表者：楊 平，研究期間：2016～2019年度

- ・微小な生物を用いた交流プログラムの開発

代表者：松田征也，研究期間：2016～2018年度

- ・「田んぼのいきもの全種リスト」の増補更新と公開システムの構築

代表者：大塚泰介，研究期間：2017～2020年度

- ・古琵琶湖誕生期における化石林に基づく水辺植生と古環境の解明
代表者：山川千代美，研究期間：2017～2019年度
- ・カワウの影響を受けた森林生態系の長期変遷
代表者：亀田佳代子，研究期間：2017～2019年度
- ・琵琶湖南湖において沈水植物の量を適正化するための条件探索
代表者：芳賀裕樹，研究期間：2017～2019年度
- ・琵琶湖種とされるピワマスにおける遺伝的多様性の変化
代表者：桑原雅之，研究期間：2018～2019年度
- ・琵琶湖南湖堆積物からみた過去 2000 年間の古植生解析
代表者：里口保文，研究期間：2018～2020年度
- ・RAD-seq データに基づく歴史人口学解析による琵琶湖魚類相形成史の解明
代表者：田畑諒一，研究期間：2018～2019年度
- ・幼児の博物館体験と野外体験の効果
代表者：中村久美子，研究期間：2017～2019年度

(3) 専門研究

各学芸職員が、自らの専門分野の研究をおこなった。専門研究は特別な経費を要求した申請専門研究と、通常の経費で研究をしたものとに区別している。

＜申請専門研究＞

- ・琵琶湖湖岸に生育する絶滅危惧植物の種子更新の解明（大槻達郎）

＜専門研究＞

環境史研究領域担当

- ・阿山・甲賀湖湖岸～陸域の堆積環境解析（里口保文）
- ・中部更新統古琵琶湖層群産クルミ属堅果類の食痕化石（山川千代美）
- ・地域環境史の理論的構築（橋本道範）
- ・愛知川における総合土砂管理に関する基礎的検討（北井 剛）
- ・共同空間の利用と管理（楊 平）
- ・植生-気候変動の関係性解明に向けた因果推論とモデルシミュレーションの古生態学的応用（林 竜馬）
- ・近代移行期における内湖の資源利用の変動（渡部圭一）
- ・胎土からみた琵琶湖周辺地域の縄文土器の地域性（妹尾裕介）
- ・ナマズ属魚類の 3 次元形態計測と新種ナマズの生態（田畑諒一）

生態系研究領域担当

- ・ウ類と人との軋轢と軽減に関する国際比較のための基礎情報の収集（亀田佳代子）
- ・琵琶湖水質の長期変遷に関する資料の所在調査（芳賀裕樹）
- ・ニッポンバラタナゴにおける性決定について（松田征也）
- ・琵琶湖水系に生息するアマゴの遺伝的由来に関する情報の収集（桑原雅之）
- ・滋賀県多賀町の古琵琶湖層群から産出した昆虫化石（八尋克郎）
- ・淡水生物の保全と管理に関する基礎的研究（中井克樹）
- ・水生双翅目昆虫アシナガバエ科の分類学的研究（榎永一宏）
- ・東アジアの田んぼに生息するカイミジンコの分類学的分析（ロビン ジェームス スミス）
- ・湖水利用型かんがい施設の持続可能性に関する調査（下松孝秀）
- ・耳石を用いた魚類の生態解析（片岡佳孝）
- ・少花粉ヒノキの品種開発（山本綾美）

- ・微小生物の効率的、安定的な維持、培養条件を探る（鈴木隆仁）

博物館学研究領域担当

- ・滋賀県におけるハッタミミズの分布地図・ポテンシャルマップの更新（大塚泰介）
- ・地球物理学からの博物館学の展開～科学館の在り方からのアプローチ（戸田 孝）
- ・イバラモ群落の成立環境とフェノロジーに関する研究（芦谷美奈子）
- ・琵琶湖周辺の水田地帯に出現する魚類リストの作成（金尾滋史）
- ・飼育下バイカルアザラシの摂取カロリーに関する研究2（松岡由子）
- ・学習内容に合わせた博物館の活用Ⅱ ～学校の利用目的から考える博物館～（奥野知之）
- ・学校と博物館それぞれの特色を活かした連携のあり方（小林偉真）

(4) 研究審査委員会

琵琶湖博物館総合研究・共同研究審査委員会 委員

氏名	現職
林田 明	同志社大学理工学部 教授
中村 正久	滋賀大学環境総合研究センター 特任教授
不破 徹也	滋賀県総合教育センター 係長
瀬田 勝哉	武蔵大学 名誉教授
細谷 和海	近畿大学農学部環境管理学科 教授
遊磨 正秀	龍谷大学理工学部環境ソリューション工学科 教授
足立 重和	追手門学院大学社会学部社会学科 教授
齊藤 純	天理大学文学部歴史文化学科 教授
篠原 徹	滋賀県立琵琶湖博物館 館長
高木 浩文	滋賀県立琵琶湖博物館 副館長
高橋 啓一	滋賀県立琵琶湖博物館 副館長

(5) 研究助成を受けた研究

琵琶湖博物館では、研究費用として外部資金を獲得することを推進している。その多くは文部科学省科学研究費助成事業で、今年度は新規6件の採用と継続3件を合わせ計9件が採択されている。また、日本学術振興会二国間交流事業の共同研究・セミナー助成が1件あった。学芸職員等が受けた外部研究助成のうち、主なものは以下のとおりである。

篠原 徹

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「琵琶湖地域を対象とした地域環境史モデルの構築」研究分担者（2015～2018年度）

高橋啓一

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「東アジアの古代湖「琵琶湖」の固有種成立過程の解明のための総合的研究」研究代表者（2018～2022年度）

山川千代美

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「東アジアの古代湖「琵琶湖」の固有種成立過程の解明のための総合的研究」研究分担者（2018～2022年度）

里口保文

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「琵琶湖地域を対象とした地域環境史モデルの構築」研究分担者（2015～2018年度）

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「東アジアの古代湖「琵琶湖」の固有種成立過程の解明のための総合的研究」研究分担者（2018～2022 年度）

橋本道範

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「琵琶湖地域を対象とした地域環境史モデルの構築」研究代表者（2015～2018 年度）

林 竜馬

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「琵琶湖地域を対象とした地域環境史モデルの構築」研究分担者（2015～2018年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「東アジアの古代湖「琵琶湖」の固有種成立過程の解明のための総合的研究」研究分担者（2018～2022年度）

亀田佳代子

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「琵琶湖地域を対象とした地域環境史モデルの構築」研究分担者（2015～2018年度）
- ・日本学術振興会二国間交流事業 共同研究・セミナー「日本と韓国における淡水生物の多様性と変遷」共同研究・セミナー代表者（2018年度）

中村久美子

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「琵琶湖地域を対象とした地域環境史モデルの構築」研究分担者（2015～2018年度）

大塚泰介

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「鈹質土壌湿原の成立条件と生物群集の解明」研究代表者（2015～2018年度）

渡部圭一

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「東北型社会の特質に関する史的研究：地域資源の開発・管理・利用との関係を重視して」研究分担者（2015～2019年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「琵琶湖地域を対象とした地域環境史モデルの構築」研究分担者（2015～2018年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「宮座文書における「差定状」の管理史および儀礼史の解明：物質文化研究の視点から」研究代表者（2018～2020 年度）

榊永一宏

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「アフリカ大陸における海洋性双翅目昆虫の分散と進化」研究代表者（2018～2020 年度）

大槻達郎

- ・文部科学省科学研究費助成事業（若手）「マメ科植物の地域適応に関与する根粒菌のゲノム進化－共生関係の創出維持機構の解明－」研究代表者（2018～2020 年度）

田畑諒一

- ・文部科学省科学研究費助成事業（若手）「淘汰・浸透を経験したミトゲノムと核ゲノム内関連遺伝子の共進化プロセスの解明」研究代表者（2018～2020 年度）

朱 偉

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「Microcystisの群体集積によるアオコ発生メカニズムの解明」研究代表者（2015～2018年度）

中野正俊

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「汎用性のある博物館・学校・地域等連携実践の新たな開発と普及」研究代表者（2018～2020 年度）

<研究調査業務受託>

- ・京都府いなべ市 天然記念物ネコギギ飼育増殖業務 松田征也 (2018年度)

(6) 研究員の受け入れ

- ・池田 勝 2018年4月1日～2019年3月31日
テーマ：幼児期の自然体験型教育プログラムの開発とその実践研究
- ・北村美香 2018年4月1日～2019年3月31日
テーマ：教育普及事業に資する効果的な博物館活用モデル提示に向けた基礎研究
- ・辻川智代 2018年4月1日～2019年3月31日
テーマ：考古学的手法を用いた民具の分類とその歴史の変遷を通じた地域文化研究
- ・黒岩啓子 2018年4月1日～2019年3月31日
テーマ：博物館におけるコミュニケーションと学びを支える展示評価・来館者調査
- ・柏尾珠紀 2018年4月1日～2019年3月31日
テーマ：滋賀、琵琶湖周辺農山村におけるジェンダーの社会学的考察
- ・廣石伸互 2018年4月1日～2019年3月31日
テーマ：蛍光抗体法によるアオコ単独細胞の検出に関する研究
- ・朱 偉 2018年4月1日～2019年3月31日
テーマ：吹送流による*Microcystis*の群体集積およびアオコ発生メカニズムの研究
- ・中野聰志 2018年4月1日～2019年3月31日
テーマ：滋賀県琵琶湖周辺花崗岩類・国内外関連花崗岩類及びそれらに伴う長石類の研究
- ・天野一葉 2018年4月1日～2019年3月31日
テーマ：外来種ソウシチョウの形態・遺伝学的研究
- ・藤岡康弘 2018年4月1日～2019年3月31日
テーマ：琵琶湖固有種の分類ならびに生態に関する研究、および琵琶湖博物館の総合研究「前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究」
- ・中野正俊 2018年4月1日～2019年3月31日
テーマ：児童の活用型学力と学びの有用感を高める理科・環境学習：「主体的・対話的で深い学び」を理科・環境学習にどう生かすか
- ・矢田直樹 2018年4月1日～2019年3月31日
テーマ：滋賀県内の祭礼行事や民間信仰に関する歴史民俗学的研究
- ・高梨純次 2018年4月1日～2019年3月31日
テーマ：日本彫刻史、特に近江における仏教美術史
- ・瀬口眞司 2018年4月1日～2019年3月31日
テーマ：縄文時代を中心とする人類の資源利用と自然観の通時的変遷に関する研究
- ・寺本憲之 2018年4月1日～2019年3月31日
テーマ：ブナ科植物を寄主とする鱗翅目昆虫相と食性に関する研究／伝統文化産業「蚕糸業」の指導／地域ぐるみによる野生動物管理などの指導／環境保全型農業などの指導
- ・岩木真穂 2018年4月1日～2019年3月31日
テーマ：水位変動に関連する諸現象の観測的解明を通じた、琵琶湖の物理現象を「よりよく伝える」方法の探求
- ・山本充孝 2018年4月1日～2019年3月31日
テーマ：琵琶湖の魚貝類の飼育技術ならびに生態に関する研究

- ・楠岡 泰 2018年4月1日～2019年3月31日
テーマ：「共生藻類をもつ繊毛虫の生態」および「微小生物を用いた交流プログラムの開発」
- ・鈴木真裕 2018年4月1日～2019年3月31日
テーマ：二次的自然における水生生物群集の形成過程と多様性に関する研究
- ・根来 健 2018年4月1日～2019年3月31日
テーマ：浄水処理に障害を及ぼすプランクトン等（水道障害生物）の体系の再構築
- ・今井一郎 2018年4月1日～2019年3月31日
テーマ：有毒アオコ *Microcystis aeruginosa* の制御に有効な水生植物由来の殺藍藻細菌の生態に関する研究

<名誉学芸員>

- ・前畑政善 2016年4月1日～2021年3月31日
テーマ：水田魚類の研究
- ・布谷知夫 2014年4月1日～2019年3月31日
テーマ：住民による公立博物館への期待とその社会的役割についての研究
- ・川那部浩哉 2015年4月1日～2020年3月31日
テーマ：博物館における生物と文化の多様性に関する研究・展示・普及
- ・中島経夫 2015年4月1日～2020年3月31日
テーマ：コイ科魚類の咽頭歯からみた湖と人の関わりについての研究
- ・用田正晴 2016年4月1日～2021年3月31日
テーマ：湖沼環境が果たした歴史的機能・評価に関する考古学的研究
- ・マーク J グライガー 2017年4月1日～2022年3月31日
テーマ：甲殻類分類学、魚類寄生虫調査、田んぼにすむエビ類の様々な研究と海洋寄生虫

研究発信

(1) 公表された主な研究業績

学芸職員等が公表した研究に関する著作物のうち、学術雑誌や書籍などで公表されたオリジナルな論文あるいはそれと同等なものをあげた。研究業績全体については、琵琶湖博物館インターネットページ (<http://www.biwahaku.jp/research/publication>) に掲載した。

<原著論文>

- Izuho, M., Terry, K., Vasil'ev, S., Konstantinov, M. and Takahashi, K. (2018) Tolbaga revisited: Scrutinizing occupation duration and its relationship with the faunal landscape during MIS 3 and MIS 2. *Archaeological Research in Asia*, <https://doi.org/10.1016/j.ara.2018.09.003>.
- Sagawa, T., Nagahashi, Y., Satoguchi, Y., Holbourn, A., Itaki, T., Gallagher, S.J., Saavedra-Pellitero, M., Ikehara, K., Irino T. and Tada, T. (2018) Integrated tephrostratigraphy and stable isotope stratigraphy in the Japan Sea and East China Sea using IODP Sites U1426, U1427, and U1429, Expedition 346 Asian Monsoon. *Progress in Earth and Planetary Science*, 5:18. DOI 10.1186/s40645-018-0168-7.
- Suganuma, Y., Haneda, Y., Kameo, K., Kubota, Y., Hayashi, H., Itaki, T., Okuda, M., Head, M. J., Sugaya, M., Nakazato, H., Igarashi, A., Shikoku, K., Hongo, M., Watanabe, M., Satoguchi, Y., Takeshita, Y., Nishida, N., Izumi, K., Kawamura, K., Kawamata, M., Okuno, J., Yoshida, T., Ogitsu, I., Yabusaki, H. and Okada, M. (2018) Paleoclimatic and paleoceanographic records

- through Marine Isotope Stage 19 at the Chiba composite section, central Japan: A key reference for the Early-Middle Pleistocene Subseries boundary. *Quaternary Science Reviews*, 191: 406-430.
- 千葉セクション GSSP 提案チーム (里口保文) (2019) 千葉セクション: 下部-中部更新統境界の国際協会模式層断面とポイントへの提案書 (要約). *地質学雑誌*, 125: 5-22.
- 池田重人・志知幸治・岡本 透・林 竜馬 (2019) 鳥海山麓の桑ノ木台湿原周辺における晩氷期以降の植生変遷と「鳥海ムラスギ」の消長. *日本花粉学会会誌*, 64: 39-53.
- 大塚泰介・芝崎美世子・富 小由紀・小滝篤夫・高原 光・林 竜馬・安野敏勝 (2019) 京都府京丹後市の更新統の堆積環境の推定および日本海側更新統からの珪藻種 *Pseudopodosira kosugii* の初産出. *第四紀研究 (The Quaternary Research)*, 58: 57-63.
- 渡部圭一・芳賀和樹・福田 恵・湯澤規子・加藤衛弘 (2019) 明治中～後期山村の生業と地域ネットワークー旧秋田藩領荒瀬村肝煎・湊家文書の解題と翻刻. *筑波大学農林社会経済研究 (筑波大学大学院生命環境科学研究科農林社会経済学領域)*, 34: 1-44.
- 渡部圭一 (2019) 万延元年上妙典村「異流ケ間敷法門」一件一妙好寺住職の江戸出訴日記『荒塵記』翻刻と解題 (2). *市史研究いちかわ (市川市役所文化スポーツ部文化振興課)*, 10: 38-51.
- 妹尾裕介 (2018) 西日本の鍋釜のスス・コゲと形・作りからみた米蒸しの方法. *物質文化 (物質文化研究会)*, 98: 79-98.
- Hibino, Y. and Tabata, R. (2018) Description of a new catfish, *Silurus tomodai* (Siluriformes: Siluridae) from central Japan. *Zootaxa*, 4459 (3): 507-524.
- Kano, Y., Nakajima, J., Yamasaki, T., Kitamura, J. and Tabata, R. (2018) Photo images, 3D models and CT scanned data of loaches (Botiidae, Cobitidae and Nemacheilidae) of Japan. *Biodiversity Journal*, 6: e26265.
- Amano, Y., Kuwahara, M., Takahashi, T., Shirai, K., Yamane, K., Kawakami, T., Yokouchi, K., Amakawa, H. and Otake, T. (2018) Low-fidelity homing behaviour of Biwa salmon *Oncorhynchus* sp. landlocked in Lake Biwa as inferred from otolith elemental and Sr isotopic compositions. *Fisheries Science*, 84: 799-813.
- Kuwahara, M., Takahashi, H., Kikko, T., Kurumi, S. and Iguchi, K. (2019) Trace of outbreeding between Biwa salmon (*Oncorhynchus masou* subsp.) and amago (*O. m. ishikawae*) detected from the upper reaches of inlet streams within Lake Biwa water system, Japan. *Ichthyological Research*, 66: 67-78.
- 桑原雅之 (2019) ビワマスの保全遺伝学的研究 (Study on conservation genetics of Biwa Salmon) . 博士論文, 三重大大学生物資源学研究科: 104p.
- Yahiro, K., Sugiyama, K. and Hayashi, M. (2018) Late Pliocene of Fossil *Calosoma* (Coleoptera, Carabidae) from the Koka Formation, Kobiwako Group in Shiga Prefecture, Japan. *Elytra, New Series (日本甲虫学会)*, 8(1): 1-7.
- 芳賀和樹・酒井陽一郎・石川可奈子 (2019) 琵琶湖南湖における 2017 年 9 月の沈水植物の現存量の平面分布. *陸水学雑誌*, 80: 13-21.
- Ishikawa, K., Haga, H., Inoue, E. and Ban, S. (2019) Determining suitable submerged macrophyte biomass in terms of dissolved oxygen concentration and biodiversity in the South Basin of Lake Biwa, Japan. *Limnology*, 20: 69-82.
- Miura, O., Urabe, M., Nishimura, T., Nakai, K. and Chiba, S. (2019) Recent lake expansion triggered the adaptive radiation of freshwater snails in the ancient Lake Biwa. *Evolution Letters*, 3 (1): 43-54.
- 松崎厚史・沖津二郎・浅見和弘・樋口貴哉・鎌田健太郎・大杉奉功・中井克樹・松田裕之・小山幸男 (2019)

階段式水位低下によるダム湖のオオクチバスの繁殖抑制. *応用生態工学*, 21:145-158.

Masunaga, K. (2018) Taxonomic study of rocky shore flies of the genus *Cemocar* Meuffels & Grootaert (Dolichopodidae) from South Africa. *9th International Congress of Dipterology (Windhoek, Namibia) - Abstract Volume*, 175.

Meisch, C., Smith, R. J. and Martens, K. (2019) A subjective global checklist of the extant non-marine Ostracoda (Crustacea). *European Journal of Taxonomy*, 492: 1-135.

Ohtsuka, T., Kitano, D. and Nakai, D. (2018) *Gomphosphenia biwaensis*, a new diatom from Lake Biwa, Japan: description and morphometric comparison with similar species using an arc constitutive model. *Diatom Research*, 33: 105-116. (オンライン版は前年度に報告済)

Chiba, T., Nishimura, Y. and Ohtsuka, T. (2018) Fossil diatom assemblages during the last millennium in the Toberi River mouth area, Hokkaido, Japan. *Diatom (Japanese Society of Diatomology)*, 34: 8-29.

Ohtsuka, T. (2018) LM and SEM observation of *Kurtkammeria spicula* (Hust.) comb. nov. *Diatom (Japanese Society of Diatomology)*, 34: 49-50.

Iida, S., Ashiya, M. and Kadono, Y. (2018) The hybrid origin of *Potamogeton biwaensis*, an endemic submerged plant in Lake Biwa, Japan. *Aquatic Botany*, 150: 23-26.

中田和義・金尾滋史・伊藤健二 (2018) 農業農村整備のための生態系配慮の基礎知識 (7) - 水田・水利施設の外来生物とその対策一. *水土の知 (農業農村工学会)*, 86(7) : 619-624.

澤邊久美子・夏原由博 (2019) 小規模半自然草地におけるカヤネズミの冬季の営巣環境. *保全生態学研究*, 24 : 31-38.

<専門分野の著作>

高橋啓一・楊 平 (2019) 中国黒竜江省ハルビン市周辺のマンモス動物群を訪ねてー中国東北地域の後期更新世哺乳動物群から日本のマンモス動物群を考えるー. *化石研究会会誌*, 51 : 43-52.

高橋啓一・楊 平 (2019) 标本探訪之旅ー黒竜江省猛犸象動物群之奥妙. *化石 (中国科学院古脊椎动物与古人类研究所)*, 2019年1号 : 49-53.

亀田佳代子・里口保文 (2018) 琵琶湖博物館常設展示C展示室のリニューアル. *博物館学雑誌*, 43(2) : 159-169.

橋本道範 (2018) 南北朝期・室町期 社会・経済. *史学雑誌*, 127-5 : 86-90.

北井 剛・林 竜馬 (2019) 琵琶湖博物館第2期リニューアル「樹冠トレイル」の整備について. *平成30年度(第40回) 滋賀県土木技術研究発表会* : 77-81.

楊 平 (2018) 水上生活における資源利用. 鳥越皓之・足立重和・金 菱清 (編), *生活環境主義のコミュニケーション分析*, ミネルヴァ書房, 京都, 443-460.

楊 平 (2018) 博物館における多言語対応 (特集博物館における多言語対応). *Museum Studies (日本博物館協会)*, 53 (1) : 11-14.

林 竜馬 (2018) 遺跡の花粉分析から地域スケールの植生史をさぐるー滋賀県の遺跡古生態学データベースに基づく植生景観復元への試みー. *季刊考古学*, 145 : 24-27.

渡部圭一 (2018) 宮座. 大谷栄一・菊地 暁・永岡 崇 (編), *日本宗教史のキーワードー近代主義を超えて*. 慶應義塾大学出版会, 東京, 195-201.

渡部圭一 (2018) 大和の宮座. 奈良県教育委員会事務局文化財保存課 (編), *奈良県無形民俗文化財ガイドブック 2018*, 奈良県教育委員会事務局文化財保存課, 奈良, 50.

渡部圭一 (2018) 近世「村の鎮守」祭祀の成立. 水谷 類・渡部圭一 (編), *オビシヤ文書の世界ー関東の村の祭り*と記録. 岩田書院, 東京, 133-155.

- 渡部圭一 (2018) オニツキの史料学序説 (ほか2篇). 水谷 類・渡部圭一 (編), *オビシヤ文書の世界—関東の村の祭りと記録*. 岩田書院, 東京, 159-164, 212-224.
- 渡部圭一 (2019) 書評 小池淳一 著『陰陽道の歴史民俗学的研究』. *日本民俗学*, 297 : 108-115.
- 渡部圭一・三樹友梨香 (2019) 比良山麓の「石屋」用具調査. *地域の歴史から学ぶ災害対応 比良山麓の伝統知・地域知*. 総合地球環境学研究所, 京都, 38-41.
- 妹尾裕介 (2018) *琵琶湖博物館第26回企画展「化石林—ねむる太古の森」展示解説書*. 滋賀県立琵琶湖博物館 : 46-50, 52.
- 泉 拓良・妹尾裕介 (2018) わたしの社会貢献 Vol.5 考古学のあらたな挑戦. *社会科 NAVI2019 (日本文教出版)*, 21 : 12-13.
- 田畑諒一・渡辺勝敏 (2018) 日本の魚類相—淡水魚. 日本魚類学会 (編), *魚類学の百科事典*. 丸善出版, 東京 : 186-187.
- 松田征也 (2018) 市民参加型の希少淡水魚の保全. *独立行政法人日本学術振興会 韓国 NRF との二国間交流事業 (セミナー) 「日本と韓国における淡水生物の多様性と変遷講」演要旨集*, 17-18.
- 八尋克郎 (2018) 180万年前に生息していた昆虫たち. *第26回企画展示「化石林—ねむる太古の森」展示解説書*, 琵琶湖博物館, 24.
- 八尋克郎 (2018) 滋賀県におけるアカマダラハナムグリの記録. *Came虫*, 194 : 14.
- 八尋克郎 (2018) 滋賀県におけるウスバカマキリの記録. *Came虫*, 194 : 18.
- 中井克樹 (2018) 国外外来魚. 日本魚類学会 (編), *魚類学の百科事典*. 丸善, 東京, 522-523.
- 金尾滋史 (2018) 魚類にとっての水田・水路・ため池の役割とその保全. *第4回ミュージアム連携ワークショップ in 大阪 公開講座:「農地がもつ自然環境機能の活かし方を考える」資料集*, 応用生態工学大阪, 45-50.
- 金尾滋史 (2018) 図書紹介『はじめての魚類学』. *日本動物園水族館教育研究会誌*, 25 : 135-136.
- 阿部勇治・河瀬直幹・小西省吾・澤邊久美子 (2018) 甲賀市のほ乳類. *甲賀市レッドリスト2017*, 甲賀市レッドリスト2017 策定委員会, 甲賀, <http://www.city.koka.lg.jp/secure/19187/>◆甲賀市レッドリスト2017 哺乳類の概要.pdf
- 畠 佐代子・新野 聡・富樫悦夫・上野山雅子・澤邊久美子 (2018) カヤネズミの新北限産地. *伊豆沼・内沼研究報告*, 12 : 53-62.
- 佐々木 梢・松岡由子・浅川満彦 (2019) 琵琶湖における地域漁業対象魚類等の寄生虫保有状況 (予報). *酪農学園大学紀要*, 2 (43) : 111-115.

(2) 新琵琶湖学セミナー

琵琶湖博物館では、「湖と人間」をテーマに、過去から現在にかけて湖と人間との関係を明らかにし、未来に向けてよりよい関係を考えていくために、研究調査を進めている。その研究成果発信の一環として、昨年度から引き続き「新琵琶湖学セミナー」を開催した。

2018年度は、琵琶湖地域の自然と人との関わりの歴史について、総合研究の成果を中心に紹介する機会とした。また、この成果は、博物館が現在準備を進めている第3期展示リニューアル (B展示室) にも反映させていくものであり、その内容や研究の裏話などについてより深く学べるセミナーとした。

具体的な内容は下記の通りである。各回、当館学芸員1人と館外の研究者1人による2講演とし、講演時間は50分ずつで、テーマごとに深く掘り下げた講演内容を組み合わせた。一般参加者数はのべ199人で、熱心な参加者が多く、質疑も活発に行われた。

開講日 : 1月26日(土)・2月23日(土)・3月23日(土)

開講時間 : 13:20~15:40

会場 : 琵琶湖博物館セミナー室

第1回 1月26日(土) 13:20~15:40

■「自然と自然観」

- ・「地域環境史」でみた琵琶湖地域
- ・繰り返された平安時代の近江地震

参加者 70 名
橋本道範 (琵琶湖博物館)
保立道久 (東京大学 名誉教授)

第2回 2月23日(土) 13:20~15:40

■「遠い昔の森と人」

- ・花粉の化石からみる琵琶湖の森の一万年
- ・出土遺物からみた木材利用の変化

参加者 63 名
林 竜馬 (琵琶湖博物館)
村上由美子 (京都大学総合博物館)

第3回 3月24日(土) 13:30~16:00

■「教科書に出てくるムラ 今堀」

- ・惣村の環境デザイン ムラのなかの森づくり
- ・ムラの祭りの現在

参加者 66 名
春田直紀 (熊本大学)
渡部圭一 (琵琶湖博物館)

なお、障害者差別解消法に従い、本新琵琶湖学セミナーでは聴覚障害者へ対応するために手話通訳、要約筆記(ノートテイク)の支援を滋賀県立聴覚障害者センターへ依頼できる仕組みを整備している。今年度の本セミナーは聴覚障害者の参加申込はなかったが、今後もこの対応を継続していく予定である。

(3) 研究セミナー・特別研究セミナー

1) 研究セミナー

毎月第3金曜日 13:15~15:15 に琵琶湖博物館セミナー室において、以下の研究セミナーを開催した。なお、特別研究員の発表の機会として、12月8日(土)10時からセミナー室にて、臨時の研究セミナーを開催した。

第1回 4月20日 32人

橋本道範「地域環境史からみた琵琶湖—総合研究「前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然及び自然観の通時的変遷に関する研究」のまとめに向けて」

亀田佳代子「過去150年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明に向けて：カワウによる物質輸送と森林変遷を例に」

芦谷美奈子「雌雄異株の沈水植物イバラモ *Najas marina* L. の繁殖生態～雌雄の分布とフェノロジー～」

第2回 5月18日 31人

八尋克郎・林 成多「最終氷期の堆積物から産出した山門湿原の昆虫化石」

妹尾裕介「使用痕跡から復元する古代日本の米調理の方法」

田畑諒一「次世代シーケンスデータに基づく淡水魚類の遺伝的集団構造の推定」

第3回 6月15日 35人

戸田 孝 「「自然史系博物館」で「抽象的科学概念」を伝えるには」

里口保文「古琵琶湖堆積盆を中心とした古水系の変化とその検討」

渡部圭一「琵琶湖漁撈史における「近代」：漁具からのアプローチ」

第4回 7月20日 33人

桑原雅之「ビワマスの保全遺伝学的研究—琵琶湖水系に於けるビワマスとアマゴ共存の可能性—」

大塚泰介・北野大輔・中井大介「はしかけさんが琵琶湖から見つけた珪藻が新種記載されるまで」

今井一郎(特別研究員)「海のアマモと湖の水草：有害有毒藻類ブルームの発生予防の立役者」

- 第5回 8月17日 27人
 大槻達郎「琵琶湖湖岸に生育する海浜植物の塩ストレスに対する生理応答」
 鈴木隆仁「湿地帯のイタチムシ」
 鈴木真裕（特別研究員）「止水性水生昆虫群集の形成過程～水を溜めると起こること～」
- 第6回 9月21日 32人
 根来 健（特別研究員）「琵琶湖のプランクトンと水処理」
 金尾滋史「滋賀県東部のため池群における魚類相とその特徴」
 黒岩啓子（特別研究員）「展示開発と評価」
- 第7回 10月19日 26人
 Claude MEISCH・Robin SMITH・Koen MARTENS「世界の現存している淡水カイミジンコ（甲殻類）のチェックリスト」
 松田征也「希少淡水魚の生息域外保全」
 片岡佳孝「琵琶湖におけるアユの耳石を用いた成長解析」
- 第8回 11月16日 26人
 芳賀裕樹・酒井陽一郎・佐藤祐一・石川可奈子・久野実乃里・井出慎司「琵琶湖南湖において沈水植物の量を適正化するための条件の探索－中間報告－」
 楊 平「自然資源を活かす地域づくりのありかた」
- 第9回 12月8日 20人
 中野正俊（特別研究員）「児童の活用型学力と学びの有用感を高める理科・環境学習：「主体的・対話的で深い学び」を理科・環境学習にどう生かす」
 中井克樹・西野麻知子・滝川祐子「19世紀に海を渡った琵琶湖の貝：フランスとスウェーデンの博物館調査」
 池田 勝（特別研究員）「幼児期における自然体験型教育の実践研究」
 高梨純次（特別研究員）「日本の仏像の素材－木彫の技法を中心として－」
- 第10回 12月21日 32人
 下松孝秀「クリーク状の湖岸水田の発達過程について」
 山川千代美・神谷悦子「滋賀県多賀町四手産大型植物化石群集に基づく更新世の水辺復元の試み」
 山本綾美「森林環境学習「やまのこ」事業における学習プログラムの検討」
- 第11回 1月18日 36人
 小林偉真「学校と博物館のそれぞれの特色を活かした利用法」
 中村久美子・池田 勝・金尾滋史・大野朋子・水谷早彩香「幼児の博物館体験と野外体験の効果（中間報告その2）」
 瀬口眞司（特別研究員）「人口の歴史的推移を復元する－縄文時代～古墳時代前期の近江－」
- 第12回 2月15日 30人
 奥野知之「学習内容に合わせた博物館の活用Ⅱ～今年度の取り組み～」
 榊永一宏「南アフリカの岩礁海岸に生息するアシナガバエ科 *Cemocar* 属について」
 矢田直樹（特別研究員）「祖霊祭祀と盆行事」
- 第13回 3月15日 24人
 松岡由子「バイカルアザラシの研究－餌料分析－」
 北井 剛・水野敏明・東 善広・小倉拓郎・浅野悟史「愛知川における総合土砂管理に向けた検討」
 林 竜馬「植生－気候変動の関係性解明に向けた因果推論とモデルシミュレーションの古生態学的応用」

なお、2018年度は特別研究セミナーの開催がなかった。

(4) 琵琶湖博物館サイエンスセミナー

2020年夏のグランドオープンに向けた期待感の醸成と琵琶湖博物館の魅力を、首都圏から全国に向けて発信するため、東京・日本橋の滋賀県アンテナショップ「ここ滋賀」においてサイエンスセミナーを実施した。

■第1回 「琵琶湖はいつできたー地層が伝える過去の環境ー」

講演者：里口保文

開催日時：3月2日(土) 開催時間：15:00～16:30

会場：滋賀県情報発信拠点「ここ滋賀」2階「日本橋 滋乃味」(東京都中央区日本橋)

参加者：30名

(5) 琵琶湖博物館ブックレット

新琵琶湖博物館創造基本計画および行動計画に従い、研究成果をわかりやすく伝えていくため、新たに琵琶湖博物館ブックレットシリーズを刊行した。琵琶湖や近江の自然や文化を題材として、その面白さ、不思議さなどを語りながら、それらが全国的にあるいは世界的に見ても興味深いものであることを、県内外の人に発信することを目的としている。内容は、初めてそれを読む人にもわかりやすい書き方をするとともに、図や写真を豊富に使用して見て楽しめる本をめざしている。2016年度に刊行して以来、今年度は次の第7、8、9号を発行した。

第7号「琵琶湖はいつできたー地層が伝える過去の環境ー」 里口 保文 (琵琶湖博物館)

第8号「古琵琶湖の足跡化石を探る」 岡村 喜明 (湖国もぐらの会)

第9号「ビワコオオナマズの秘密を探る」 前畑 政善 (琵琶湖博物館名誉学芸員)

研究交流

(1) 協力協定 (MOU: Memorandum of Understanding) に基づく連携

琵琶湖博物館では、地域に根ざしながら広く世界を視野に入れ、研究活動および展示の国際化を推進するため、協力協定 (MOU: Memorandum of Understanding) の締結に基づく研究・交流のネットワークを確立し、国内外の関係機関との連携を強化している。これまでの主として海外博物館との関係を維持するとともに、必要に応じて新たな関係を構築している。協定の締結内容としては、次の5項目である。そのほか、研究および資料、展示についての協力内容が特定される場合は、別途協議して協定を結ぶものとしている。

- ①研究者等博物館職員の交流
- ②共同研究プロジェクト、シンポジウム、展示等に関する交流
- ③専門技術や方法論に関する情報交換
- ④出版物、資料、標本等の交換 (生きた生物を含む)
- ⑤両館で合意を得た博物館活動に関する他の事柄の交流

2018年度までに、フランスのパリ国立自然史博物館、ロシアのバイカル博物館、北マケドニアの国立オフリド水生生物研究所、中国の中国科学院水生生物研究所と湖南省博物館、韓国の国立洛東江生物資源館、京都大学野生動物研究センターの7つの博物館・研究機関とMOUを締結している。また、新琵琶湖博物館創造基本計画の研究活動方針として、

- ・古代湖や固有種の成立や人の暮らしと生物の営みなど、「古代湖」としての琵琶湖の価値を探る比較研究
- ・琵琶湖淀川水系の文化や固有種を含む生物多様性とその形成過程など東アジア水系の特徴を明らかにする研究

を推進することとしている。

これらを踏まえ、2018年度は次のような活動を展開した。

1) 韓国国立洛東江生物資源館（韓国慶尚北道尚州市）

韓国国立洛東江生物資源館は、韓国の淡水生物を研究する専門機関で、淡水生物の発掘、培養、遺伝的特性、生理活性、産業化などの研究を行っている。また、これらの内容に関連した様々な動物、植物、微生物の展示や教育プログラムの開発を、韓国国民を対象に行っている機関でもある。2017年4月21日に協力協定(MOU)を締結し、年1回、交互に、合同セミナーやワークショップなどを開催して情報交換を行い、共同研究や事業を進展させていくこととしている。

今年度は、7月に淡水エビ類の共同研究を進めるため、洛東江生物資源館から3名の研究者が来日し、琵琶湖および近畿での試料サンプリングに同行した。また、9月には洛東江生物資源館で、12月4日から7日にかけては琵琶湖博物館において、合同セミナーとエクスカージョンを実施した。なお、今回のセミナーを実施するにあたり、日本学術振興会二国間交流事業 共同研究・セミナー「日本と韓国における淡水生物の多様性と変遷」の助成を受けた。

期 間： 12月4日（火）～7日（金）

メンバー： Lee Wook Jae（李 旭宰）氏（洛東江生物資源館 研究本部長）
Oh Jeong Su（オ・ジョンズ）氏（同資源館 生物資源情報研究部門）
Kim San-Ki（キム・サンギ）氏（同資源館 動植物資源研究部門）
Kim Ji Yeon（キム・ジヨン）氏（同資源館 生物多様性・変遷研究部門）

日 程： 12月4日（火）館長あいさつ・合同セミナーの通訳打合せ

研究施設等見学（液浸収蔵庫、人口環境室、資料データベースの紹介）

12月5日（水）合同セミナー

12月6日（木）エクスカージョン（県水産試験場の視察、沖島（漁業）の見学など）

12月7日（金）合同会議 今後の研究協力・企画展示への協力打合せ

展示見学

今回のセミナーは、日本と韓国における淡水生物の多様性の起源（系統進化・種分化・生物地理）、多様性の現状と変遷（遺伝的多様性、分布と生物量の動態）、人による淡水生物資源の利用と保全（伝統的利用、生物多様性情報の管理、保全手法）について、古代湖である日本の琵琶湖と韓国一長い河川である洛東江を中心とした最新の知見を持ち寄り、東アジアの淡水生物相の成り立ちと生物多様性の持続的利用のあり方について議論を深めることを目的とした。1. 淡水生物の多様性の起源、2. 淡水生物の現状と変遷、3. 淡水生物資源の利用と保全、の3つのセッションを設けてそれぞれ2～3件の研究を韓国（洛東江）と日本（琵琶湖）から発表し、最後に総合討論を行った。総合討論では、4名のコメンテーターから、韓国と日本の関わりから見る東アジア淡水生物相の成立（渡辺勝敏氏）、微生物の多様性と水田環境の多様性（大塚泰介）、東アジアにおける生物多様性情報データベースやプラットフォームへの期待（鹿野雄一氏）、東アジア全体を理解するための韓国と日本の遺伝研究とその課題（キム・サンギ氏）についてコメントをいただき、議論を深めた。

合同セミナーやエクスカージョンでの情報交換を受けて、協力連携会議を行い、セミナーの成果の確認と、今後の共同研究、相互連携の方向性について議論を行った。また、淡水魚類の共同研究に関連して、双方の機関または研究者が所有する魚類標本の交換を行った。具体的には、韓国側からコウライニゴイ5個体、日本側からオイカワ8個体、カワムツ6個体、ヌマムツ4個体を、相手側の研究機関に提供した。今後も標本の交換を予定しており、双方の淡水魚類研究に活用していく。また両機関は、資料整備や展示、地域との交流といった博物館機能を持つが、研究成果公開の場としての展示についても協力を行うことが確認された。具体的には、2019年度に琵琶湖博物館で開催する企画展示「海を忘れたサケビワマスの謎に迫る」において、韓国のサクラマスに関する情報・資料や研究成果を韓国側から提供してもらい、展示に活用することとなった。

2) オフリド水生生物研究所

琵琶湖博物館とオフリド水生生物研究所（北マケドニア共和国）は、2017年1月17日にオフリド水生生物研究所において、相互協力協定の締結を行い、今後の共同研究および共同事業の策定に向けての協議を進めるために、2018年1月25日～30日にオフリド水生生物研究所の所長および研究員を日本へ招聘し相互交流を行った。その際、2018年10月に日本で開催された世界湖沼会議に合わせて、来日してもらう予定であったが、都合が合わず、その後の打ち合わせができなかった。その一方で、当館のホームページ（英語版）でのオフリド水生生物研究所を紹介するページを設け、互いに情報共有できるよう努めた。

(2) 研究機関との連絡活動

1) 県内試験研究機関

県立の8つの試験研究機関が琵琶湖や滋賀県の環境に関する相互の試験研究の円滑な推進や情報の発信を図ることを目的として、琵琶湖と滋賀県の環境に関する試験研究機関連絡会議（事務局：滋賀県琵琶湖環境科学研究センター）が設置運営されている。その後、目的を環境に限らず滋賀県立の試験研究機関相互間の連絡調整を行い、その試験研究の円滑な推進や広く情報の発信を図ることとなった（2018年1月25日本会議）。

各機関が行っている研究やその成果について、広く一般に知ってもらうために、発表会を毎年開催している。今年度は、琵琶湖環境ビジネスメッセ共催セミナーとして、2018年10月19日（金）に長浜ドームで研究発表会を開催し、各機関1題ずつの口頭発表を行った。2019年2月20日（水）に行われた本会議では、複数の機関に共通したテーマで勉強会を開催していくこと、研究倫理研修の相互参加や設備機器の相互利用やなどにより研究協力を進めていくことなどが確認された。

(3) 海外活動

1) 研究に関する国際用務

楊 平

- ・8月28日～9月4日、中国、科学研究費助成事業「東アジアの古代湖「琵琶湖」の固有種成立過程の解明のための総合研究」に関連する資料の収集
- ・12月2日～12月12日、中国、科学研究費助成事業「稲作文明」に関わる現地調査

林 竜馬

- ・8月28日～9月9日、カナダ、科学研究費助成事業「周極域亜寒帯林の構造変化と気候変動：林分復元法と花粉分析的景観復元法による解析」に関わるウッドバッファロー国立公園での現地調査および湖底試料採取作業

亀田佳代子

- ・11月25日～29日、国立台湾博物館、シンポジウムでの講演およびワークショップの講師・指導

研究部活動

(1) 研修

琵琶湖博物館は、湖と人間との関係を過去から現在まで研究調査し、資料を収集・整理し、その成果をもとに県民・地域の人々とともに考え、今後の望ましいあり方を探求することを使命としている。博物館は県民や社会の期待を担い成長発展していく博物館であり、信頼される研究調査を行わなければならない。博物館は、日本学術会議声明「科学者の行動規範」改訂版（平成25年1月25日）および「博物館関係者の行動規範」（日本博物館協会平成23年3月）に準拠した「滋賀県立琵琶湖博物館における研究活動に係る行動規範」（2016年7月）を定め、公正な博物館活動を推進している。

なお、研究活動に関する規定の一部を改定した。

- 滋賀県立琵琶湖博物館における研究活動上の不正行為の防止等に関する規程（平成 28 年 7 月 1 日）
- 滋賀県立琵琶湖博物館における研究活動に係る行動規範（平成 28 年 7 月 1 日）
- 滋賀県立琵琶湖博物館調査研究活動における不正行為防止計画（平成 28 年 7 月 1 日）
- 滋賀県立琵琶湖博物館の研究活動における不正行為に係る調査等に関する要綱（平成 28 年 7 月 1 日，平成 29 年 3 月 27 日改正）
- 滋賀県立琵琶湖博物館公的研究費取扱要領（平成 28 年 7 月 1 日）

また、研究活動の不正行為を防止する一環として、次のような研修を実施した。

- 1) **第 1 回研究部研修「研究倫理に関するセミナー」** 参加者：40 名
 日時：9 月 20 日（木）13：30～15：30
 場所：琵琶湖博物館セミナー室
 内容：「研究不正を作り出す日本の土壌を考える」
 講師：小波 秀雄 氏（京都女子大学名誉教授）

- 2) **第 2 回研究部研修「著作権に関する研修」**
 日時：10 月 20 日（木）16：30～17：00
 場所：琵琶湖博物館会議室
 内容：事業セミナー「著作権法について」

3) 日本学術振興会 研究倫理 e ラーニングコース(e-Learning Course on Research Ethics)の受講

この研修では、人文・社会・自然科学の研究を進め、科学者コミュニティや社会に対して成果を発信していくために、研究者として心得ておかなければならない倫理や行動規範、成果の発表方法、研究費の適切使用について、学芸職員および特別研究員を対象に Web 上での e ラーニングを実施した。終了したものには修了証明書が発行された。

実施期間：2 月 8 日～3 月 1 日まで

受講時間：約 1 時間半

(2) 薬品類の管理

薬品の管理については、滋賀県立琵琶湖博物館化学薬品安全管理規程を定め、2017 年 4 月 1 日から施行している。この管理規程に従って、毒物、劇物の保管や使用状況について、9 月 10 日から 30 日までの期間で、薬品の棚卸し作業を行った。今年度から新たに棚卸しに加わる「第一種」「有害」「指定」薬品についてすべて使用簿の整備を行い、薬品の購入から使用後の廃液や容器類の処理までの一連の流れを整理し、管理運用できる仕組みを整えた。10 月に不要となった薬品や廃液の廃棄を行い、12 月には毒物・劇物について保管場所の帳簿（薬品使用簿）が整備されているか確認した。12 月 14 日に、棚卸しの結果を化学薬品安全管理報告書にまとめ、化学薬品管理委員会の委員長に報告した。

(3) 研究備品の管理

研究備品の適切な管理のため、博物館全体の研究備品を計画的に確認することとしている。今年度は、50 万円以上 100 万円以下の研究備品について所在、管理者、使用状況などの確認を 3 月に行った。開館から 20 年以上が経過し、使用不可能な研究機器が増加しており、その処分についても現状を把握し、予算や方法等の仕組みを整備する必要がある。

3 新たな参加と発見ができる博物館

展示活動

(1) 常設展示の主な更新

1) A 展示室

- ・地域の人々による展示コーナー（コレクションギャラリー内）

『琵琶湖の生い立ち』展示室にあり、「琵琶湖の生い立ち」や「地盤の成り立ち」に関する事柄で、地域の人々が自ら調査や採集をした資料や情報をもとに、琵琶湖地域のおもしろさや、展示する人の想いや興味が伝わるような展示を目指している。展示関係者による展示室での解説や交流を不定期に開催している。

1. 『近江の平成雲根志－鉱山・鉱物・奇石－』の石達

展示した人：福井龍幸さん

期間：2018年2月1日～9月30日

2. 2億5千万年前の近江・美濃の化石

展示した人：中川直弘さん

期間：2018年10月2日～2019年9月8日（終了日は予定）

- ・最近寄贈された標本

コレクションギャラリーのコーナーの一角にある展示で、寄贈いただいた標本を紹介するコーナーとして行っている。

2018年9月30日：県内（東近江市）産鉱石標本 9点

2) B 展示室

- ・収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう！」

博物館の収蔵庫で大切に保管している琵琶湖地域関連の古い文書や絵図などを、B 展示室奥の壁面展示ケースで順番に紹介している。2018年度の展示は次の通り。

期間	展示資料名
3月20日（火）～ 5月27日（日）	《明治150年記念関連事業 トピック展示『近江水産図譜』の世界－明治期の琵琶湖漁撈》「近江水産図譜」2冊（滋賀県水産試験場所蔵）、「滋賀県管下近江国六郡物産図説」1冊、タツベ2点
5月29日（火）～ 7月22日（日）	《汽船と鉄道》「京都府滋賀県両管内交通地図」、「滋賀県近江国農商工便覧」、「湖南汽船発船時間並ニ賃金表」、「近江八景湖水名所絵図」、「琵琶湖汽船二番丸」、「琵琶湖汽船金亀丸」、「汽船乗船切符」
7月24日（火）～ 9月30日（日）	《琵琶湖疏水》「京都大津間疏水線路之図」、「琵琶湖疏水要史 卷三」、「疏水閘門古写真」（『滋賀県写真帖』より）、「琵琶湖疏水古写真」「蹴上インクライン古写真」（『明治期手彩写真帖』より）、「琵琶湖疏水建設予算書 全12冊」、「五十三次名所図会 大津 歌川広重画」
10月2日（火）～ 11月25日（日）	《江戸の本》『淡海録 卷一・十』、『西国三十三所名所図会 卷一・十』、『近江名所図会 卷四』、『淡海志 卷十』、『近江縣物語 卷四』
11月27日（火）～ 12月24日（月）	《台風に負けるな衣掛け柳》「川並村絵図（パネル）」、「近江国伊香郡川並村絵図（パネル）」（滋賀県立図書館蔵）、「川並村申伝へ書記（パネル）」、「神社明細帳 余呉村大字川並北野神社」（県政史料室蔵）、「村社移転願書」（県政史料室蔵）、「北野神社絵図」（県政史料室蔵）、『淡海録 卷一・七・十二』
2019年1月2日（水） ～2月24日（日）	《描かれた湖魚》「琵琶湖棲息川魚図」、「近江国琵琶湖淡水魚絵巻」

期間	展示資料名
2月26日(火)～ 3月24日(日)	《いっちょもんさん物語 江戸時代を生きた市右衛門の生涯》「津田道仙(市右衛門)書置」、「屋敷売渡証文」、「奉公人請証文」、「田畑地売渡証文」、「氏神大宮御輿新造証文」、「野洲川堤修繕銀下置願下書」、全個人蔵

3) C展示室

① 「川から森へ」コーナー

川を守る人びとのパネル展示を更新した。また、交流スポットにおいて、パネル展示を行っている団体によるワークショップを開催した。

【パネル展示の更新】

4月1日～ 家棟川・童子川・中ノ池川にビワマスを戻すプロジェクト、立命館守山中学校 Sci-Tech

6月1日～ 玉一アクアリウム

8月1日～ 大津市北部橋板文化を再生する会、地球研栄養循環プロジェクト小佐治環境保全部会

10月1日～ 京筏組、TANAKAMI こども環境クラブ

11月18日～ 山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会

12月1日～ 淡海を守る釣り人の会、大川活用プロジェクト支援団体 haconiwa

2月1日～ いきものみつけ寺子屋、NPO 法人国際ボランティア学生協会

【ワークショップ】

7月21日 玉一アクアリウム「明石川を食べる」

8月18日 大津市北部橋板文化を再生する会「次世代につなごう「橋板文化」～遠い水を近い水に～」
(※)

12月8日 淡海を守る釣り人の会「親水活動における安全啓発と推進」(※)
(※) 研究スタジアムでの開催

② 「生きものコレクション」コーナー

「生きものちがいと変化」の「移り変わり」の展示を更新した。

1月30日～ レッドデータブック4冊更新

移り変わり紹介パネル 4点更新(オオバン・ホンモロコ・ニゴロブナ・セタシジミ)

③ 「これからの琵琶湖」コーナー

毎年更新する「これからの琵琶湖コーナー」にある研究スタジアムは、7月9日に第3期に更新された。各ブースの展示担当は、芳賀、橋本、中井、亀田、芦谷である。

4) 水族展示室

季節ごとに常設展示の展示替えを行った。また、展示パネルの新規設置および内容更新を行った。

4月1日～ マイクロアクアリウム アカヒレタビラの仔魚

6月5日～ マイクロアクアリウム ニッポンバラタナゴの仔魚展示開始

6月12日～ 下流域の魚たち水槽 ウグイからハス・アユへ展示替え

7月6日頃 マイクロアクアリウム 田んぼのエビ展示終了

8月3日～ マイクロアクアリウム イタチムシの生体展示開始

9月8日～ カットリヤナ水槽 アユに展示替え

9月8日～ マイクロアクアリウム タイリクバラタナゴの仔魚展示開始

10月17日～ マイクロアクアリウム エビノコバンの展示開始

8月10日～ マイクロアクアリウム マミズクラゲの展示開始

12月9日～ マイクロアクアリウム アカリコケムシの展示開始

- 12月 15, 16, 22～24日 トンネル水槽でサンタ潜水
 1月 7日～ マイクロアクアリウム アオミドロの展示開始
 3月 11・18日 展示パネル更新・新規設置（下流域の水槽・ビワコオオナマズなど）
 3月 12日～ 下流域の魚たち水槽 ウグイへ展示替え

5) D展示室 ディスカバリールーム

「子どもと大人が一緒に楽しむ体験と発見」をテーマに、7月6日リニューアルして新しい展示構成となった。リニューアルでは、「琵琶湖博物館の入口」となる展示室という方針は継承し、新たに五感や実物標本を使った体験型展示により学び発見する喜びを知ってもらえる場とした。具体的には、五感を使う展示、親子で楽しめる展示、本物を体験する展示、身近なものをテーマにした更新展示を軸に構成し、小さなころから博物館に親しむことでミュージアムマナーも身につけられるような場を目指す。リニューアル前の来館者アンケートによる人気展示は継続して残し、新たな要望も取り入れて新展示を構成した。以下に、新展示項目を示す（9～13、15～17は旧展示を継続）。

	コーナータイトル	内容	概要
1	さわってみよう	化石・レプリカ・石	触覚を使い、材質による手触りの違いを知る
2	聞いてみよう	コオロギ、アマガエル、コウモリの模型	聴覚を使い、生き物が音を出す仕組みを知る
3	におってみよう	季節の植物の匂い抽出液、オオサンショウウオの匂い（人工）	嗅覚を使い、生き物が出す匂いや意味を知る
4	大きくしてみよう	昆虫類、植物、鳥のハネ、アザラシのひげなど	視覚を使い、普段と違う視点で拡大して見る
5	さがしてみよう	カラス・フクロウ・スズメ・カワセミを双眼鏡で探す	発見する楽しみを知る導入として、室内の生き物を探す
6	見つけてみよう ー生き物のすみかー	キツネ、タヌキ、ネズミ、モグラの剥製など	空間的に配置した剥製を体感しながら生き物のすみかを知る
7	見つけてみよう ー生き物のかたちー	タヌキの剥製、骨格標本、信楽焼きのタヌキ	目線近くに配置した剥製をじっくり観察し、頭の中のイメージとの違いに気づく
8	のぞいてみよう ー魚の世界ー	ナマズ、コイ、ニゴロブナ	間近でじっくり観察し、さらに人それぞれの見え方の違いに気づく
9	人形げきじょう	季節ごとのパペット	新しいびわこの仲間のパペットを加えた
10	おばあちゃんの台所	井戸、いろり、かまどなど	昭和の古民家を再現
11	ザリガニになろう	ザリガニ大型模型	ザリガニになった気持ちでエサを獲る
12	ディスカバリーコーナー	季節ごとのディスカバリーボックス	館内の多様なテーマごとに詰め込んだボックス
13	イノシシの歯、コウモリの歯	2種のアゴの動き方模型	歯の役割、仕組みを知る
14	みんなのたからもの	来館者が見つけた宝物	参加型の展示コーナー
15	ブックコーナー	図鑑類	学芸員が子どもの頃読んでいた本の紹介
16	糸描きコーナー	毛糸で絵を描くボード	
17	かげえボックス	影絵用のライトとスクリーン	

オープン後から、各コーナーで季節に合わせた展示物の入れ替えを下記の予定で行った。また人形げきじょうでは今年度2種（コハクチョウ、ムカデ）を新規製作した。ディスカバリーボックスはリニューアルにあわせて17種類を新規製作・更新した。

【季節展示】

展示場所	展示内容	展示期間
おばあちゃんの台所	夏 version	7月6日～9月6日
	秋 version	9月7日～1月26日
	お月見	9月17日～9月25日
	冬 version	1月26日～3月3日
	冬至	12月15日～12月22日
	お正月	1月2日～1月4日
	七草	1月5日～1月6日
	節分	1月26日～2月3日
	ひな祭り	2月19日～3月3日
	春 version	3月4日～継続
	ブックコーナー	夏 version
秋 version		9月3日～1月2日
冬 version		1月3日～継続
にんぎょう劇場	夏 version①	7月6日～9月2日
	夏 version②	9月2日～10月25日
	秋 version	10月26日～12月24日
	冬 version	1月2日～継続
生きものの展示	ナマズ	常設
	コイ	常設
	フナ	常設
	カイコ	7月10日～8月31日
ディスカバリーボックス	夏 version	7月6日～9月6日
	秋 version	9月7日～1月20日
	冬 version	1月26日～継続
におってみよう	オオサンショウウオ	常設
	夏（どくだみ）	7月6日～7月27日
	夏（よもぎ）	7月6日～9月20日
	秋（ヘクソカズラ）	9月21日～11月29日
	秋（ふう）	7月28日～2月12日
	冬（カツラ）	11月30日～1月8日
	冬（もみ）	1月9日～継続
	冬（シノブヒバ）	2月13日～継続

【常設展示】

- ・「人形げきじょう」：新規（ムカデ2、コハクチョウ2）4体を製作。既存4体（カメ、ホタル幼虫）を修繕。
- ・「ディスカバリーコーナー」：ディスカバリーボックスの新規製作、更新。
- ・新規：「ねずみくらべ」「ザリガニすごろく」「びわこのピラミッド」「いろいろな歯と食べ物」「ゆりかご水田」「土器パズル3種」「花粉パズル」「レントゲン」「ならしてみよう」
- ・更新：「つみきパズル」「とんぼトンボ」「漁師すごろく」「木の皮あわせ」「種と木の実」「種あかし」「おばあちゃんのふろしき」「骨格をくみたてよう」



新規パペット(コハクチョウ)



新規ディスカバリーボックス

【その他】

・新任研修

日時：4月25日

対象：新任職員、新規展示交流員

内容：ディスカバリールームの主旨とリニューアル後の展示室における展示交流員の業務内容を中心に研修を行った

・モーニングレクチャー

日時：7月17日～20日

対象：展示交流員

内容：リニューアル後の展示内容とディスカバリールームでの展示交流の在り方について研修を行った

6) E展示室 おとなのディスカバリー

おとなの好奇心を刺激して、おとなが心から楽しめる展示室で、第2期リニューアルにより2018年7月6日に新しく誕生した。より体験的な展示と、博物館で活動している人たちの出会い・集いの場、そしてフィールドへ出たくなるような空間で、繰り返し利用されることを目指した部屋で、しらべるゾーン、質問コーナー、オープンラボ、交流コーナー、滋賀県本コーナーの5つのゾーンから構成されている。

「しらべるゾーン」

昆虫、鳥類、哺乳類、魚類、貝類、両生類・爬虫類、民俗、考古、文書、植物、岩石・鉱物・化石の11分野があり、たくさんの標本や剥製が並べられている。操作が簡単な顕微鏡が置かれており、好きな標本箱を持ってきて、モニターに拡大させてじっくり観察できる。剥製や標本は棚からテーブルに運んで色々な方向から見たり、スケッチできる。動物の毛皮も手で触れることができ、種類により毛並みの違いが感じられ、博物館の資料を間近で観察でき、物の質感が感じられるようになっている。しらべるゾーンの展示更新は以下の通りである

【昆虫】

・展示更新

1月7日 昆虫標本の追加30点

【鳥類】

・展示交流活動 フロアトーク

7月19日 「おとなのディスカバリーの鳥コーナー」

8月10日 「キジバトの子育て」

9月19日 「キジバトの子育て」

10月16日 「キジバトの子育て」

12月12日 「キジバトの子育て」

1月13日 「キジバトの子育て」

【魚類】

- ・展示交流活動 フロアトーク

7月12日 「魚類透明骨格標本」

- ・展示更新

コーナー配架図書2冊(「魚類学の百科事典」・ブックレット「ビワコオオナマズの秘密を探る」)追加

【植物】

- ・展示更新

〈植物標本〉

10月 アカモノ (*Gaultheria adenostrix*) 「一標本整理をしている人しか知らない裏話1ー」

1月 ヒサカキ (*Eurya japonica*) 「一標本整理をしている人しか知らない裏話2ー」

〈植物細密画〉

12月 はしかけ「森人」 矢原功さん作 晩秋の植物ノブドウ, サネカズラ
植物細密画の世界 イチョウ他 17 作品

3月 はしかけ「湖(こ)をつなぐ会」 杉野由佳さん カタクリ *Erythronium japonicum*,
フジ *Wisteria floribunda* 植物細密画の世界 ホトケノザ他 16 作品

〈植物写真 (大型) 〉

10月 紅葉初旬

11月 紅葉終盤

12月 冬の太古の森

2月 琵琶湖の雪景色 (ケヤキ)

3月 桜とヒヨドリ

〈植物 (映像) 〉

9月 秋の植物 24点 はしかけ「森人」 福岡敏雄さん, はしかけ「温故写真」 村山和夫さん

12月 冬の植物 39点 はしかけ「森人」 福岡敏雄さん, はしかけ「温故写真」 村山和夫さん

3月 春の植物 37点 はしかけ「森人」 福岡敏雄さん, はしかけ「温故写真」 村山和夫さん

〈ハンズオン〉

10月 キンミズヒキ, ハウチワカエデ, カツラ, イチイガシ, ツユクサ

1月 ヤツデ, サザンカ, ロウバイ, ナンキンハゼ, オニグルミ, クズ, ヌルデ

〈正面展示〉

10月 イブキコアザミ, ベニテングタケ, ツキヨタケ (レプリカ)

11月 バカマツタケ

1月 羽子板と羽根 (ムクロジ)

2月 わら細工

2月 セイヨウタンポポとカンサイタンポポ (レプリカ)

〈正面展示周辺〉

11月 「この中にどんぐりは何種類ありますか？」

12月 クリスマスリース はしかけ「緑のくすり箱」吉野千栄子さん

12月 ハーバリウム はしかけ「緑のくすり箱」吉野まゆみさん

1月 「干支の植物 2019 イノシシ(猪、亥)がつく植物」

1月 「駒の名前の彫り方」 坂手久郎 さん

〈棚展示〉

季節の植物：博物館に生える植物

9月 ヘクソカズラ他 8点

10月 アレチヌスビトハギ他8点

11月 紅葉ハウチワカエデ等3点

1月 ナンテン, マンリョウ

〈フィールドレポーター通信〉

2月 集まれ!モミジ(カエデ)の仲間たち フィールドレポーター 中野敬二さん

3月 「タンポポ調査西日本2020」あなたも参加しませんか」

【スケッチテーブル】

9月6日 スケッチテーブルの天板を白色から茶色に変更

「質問コーナー」

7月12日～8月10日 質問コーナーのカウンターで「雌雄モザイクのカブトムシ」を展示

「オープンラボ」

標本製作や資料整理など、ふだんは研究室や収蔵庫で行われている作業の実演が行われる。マイクがあり、来館者はガラス越しに学芸員と会話ができる仕掛けになっている。さらにオープンラボでは、博物館で活動している「はしかけ」も作業を行っており、来館者との新たな交流が始まっている。オープンラボでの実演等の使用実績は89件あり、詳細は以下の通りである。

日付	内容	担当
7月8日	昆虫標本の整理実演	八尋
7月13日～毎金曜日(35回)	展示係ミーティング	展示係
7月18日	ビワコオオナマズ稚魚の観察	金尾
7月22日	花粉化石の観察	林
7月22日	剥製のスケッチ	淡海スケッチの会
7月28日	花粉化石の観察	林
8月1日	昆虫標本作成の実演	榊永
8月1日	運営方針ミーティング	大津の岩石調査隊
8月2日	植物化石選別作業	古琵琶湖発掘調査隊
8月5日	植物サンプルの観察と打合せ	植物観察の会
8月9日	植物化石同定作業	山川
8月9日	植物化石選別作業	古琵琶湖発掘調査隊
8月11日	縄文土器種子圧痕の観察	妹尾
8月11日	植物化石選別作業	古琵琶湖発掘調査隊
8月18日	剥製のスケッチ	淡海スケッチの会
8月21日	淡水貝類の同定作業	金尾
8月25日	昆虫標本作成の実演	榊永
8月25日	ミーティング	田んぼの生きもの調査グループ
9月8日	植物化石選別作業	古琵琶湖発掘調査隊
9月12日	洛東江合同セミナー打合せ	研究部
9月13日	B展会議	林
9月26日	ミーティング	チーム一滴
10月7日	海浜植物保全ミーティング	大槻
10月8日	縄文土器胎土の観察	妹尾
10月13日	研究打ち合わせ	大槻
10月14日	昆虫標本作成の実演	榊永

日付	内容	担当
10月23日	昆虫標本作成の実演	榊永
10月28日	びわ博フェスのポスター作り	淡海スケッチの会
11月1日	昆虫標本作成の実演	榊永
11月7日	昆虫標本作成の実演	榊永
11月7日	研究部代表者会議	研究部
11月11日	海浜植物保全ミーティング	大槻
11月17・18日	びわ博フェス	交流係
11月22日	研究打ち合わせ	田畑
11月24日	植物標本の観察と打合せ	植物観察の会
12月2日	植物標本の観察と打合せ	植物観察の会
12月9日	JICA 見学	芦谷
12月14日	交流係ミーティング	交流係
12月22日	活動の打ち合わせ	ザ!ディスカバはしかけ
1月8日	昆虫標本作成の実演	榊永
1月12日	微小化石選別同定作業	古琵琶湖発掘調査隊
1月14日	昆虫標本作成の実演	榊永
1月27日	剥製のスケッチ	淡海スケッチの会
1月30日	海浜植物保全ミーティング	大槻
2月11日	微小化石選別同定作業	古琵琶湖発掘調査隊
2月12日	魚から寄生虫を取り出す実演	金尾
2月13日	昆虫標本作成の実演	榊永
2月24日	剥製のスケッチ	淡海スケッチの会
2月28日	新はしかけ発足について相談	大槻
2月28日	魚から寄生虫を取り出す実演	金尾
3月2日	魚の耳石摘出実演	金尾
3月9日	打ち合わせ	森人
3月21日	学生レクチャー	中井
3月23日	ほ乳類標本作成の実演	中村

「交流コーナー」

ワークショップや展示ができる棚やモニター、机があり、今後、市民の利用が期待されている。交流コーナーでの使用実績は2件あり、詳細は以下の通りである。

日付	内容	担当
7月28日	打ち合わせ	森人
12月2日	科学館的実験の試行実践	サロン de 湖流



おとなのディスカバリー入口



オープンラボ



しらべるゾーン (右奥は質問コーナー)



しらべるゾーン (動物)



スケッチテーブル



交流コーナー

7) 屋外展示

- ・第2期リニューアルにより、樹冠トレイルが2018年11月3日にオープンした。



(2) 企画展示・水族企画展示

1) 第26回企画展示「化石林—ねむる太古の森」

Fossil Forests - The buried ancient woodlands

① 主旨

古琵琶湖が誕生してから現在の琵琶湖が形成された時代は、地球規模で起きた寒冷化現象の影響を受けながら、日本の動・植物相が移り変わる時期である。当時の植生や古生態を捉える上で、原地性である埋没林、化石林は有効な証拠となる。これらは森林の一部がそのままの状態に地層中に保存されたものであり、いわば当時の生態系を示すタイムカプセルと言える。琵琶湖地域では古琵琶湖層の化石林をはじめ、有史時代にも埋没林が発見されており、琵琶湖の周囲に分布する当時の森林植生や古生態を知ることができる。

今回の企画展示では、地層にねむる化石林・埋没林を通して、太古の森に生息した動物も含めて豊かな生態系を再現し、古琵琶湖から琵琶湖に至るまで、湖を取り巻いてきた森の様子や移り変わりを紹介する。また、最終氷期の植生や当時の気候を体感することで森が変化する要因を示し、縄文時代の温暖な森を利用した人の営みも伝える。

② 概要

主 催：滋賀県立琵琶湖博物館

期 間：7月21日（土）～11月25日（日） *実質開催日数 113日

場 所：琵琶湖博物館 企画展示室

観覧料金：小中学生 150円（120円）、高・大学生 240円（190円）、大人 300円（240円）

（）内は20名以上の団体、団体会員、キャンパスメンバーズ、水槽サポーター料金）

観覧者数：42,918人

展示企画・制作：山川千代美（主担当）、大槻達郎（副担当）、妹尾裕介（副担当）、林 竜馬（副担当）、
里口保文（副担当）、木村 愛（トータルデザイン）、出口武洋（パネルデザイン）

展示施工：株式会社 本庄

展示協力：秋山廣光、雨森 清、荒川忠彦、Brian Williams、大喜のぞみ、出口武洋、Edoardo Martinetto、Elena Vassio、Eun Kyoung Jeong、藤本秀弘、福西貴彦、橋田俊彦、平山貴美子、飯村 強、石須秀知、寿福 滋、神谷悦子、其道和也、木村 愛、北川博道、北川淳子、北田 稔、小早川 隆、小林真生子、小島秀彰、小嶋 智、小竹志織、松本みどり、南澤 修、百原 新、村上宣雄、村上由美子、村越あやか、中村琢磨、楡井 尊、西村有巧、布谷知夫、大口隆之、岡村喜明、斎藤 毅、佐々木由香、杉山國雄、鈴木三男、多賀 優、但馬達雄、高原 光、田村幹夫、寺田和雄、辻 誠一郎、塚腰 実、打越山詩子、植田弥生、浦 蓉子、渡部俊太郎、矢部 淳、安井こぬい、矢田直樹、用田政晴、吉川純子、吉川昌伸、吉川周作、愛知川産化石林調査団、琵琶湖博物館はしかけグループ古琵琶湖発掘調査隊、福井県立恐竜博物館、伊賀市教育委員会、福井県里山里湖海研究所、株式会社パレオ・ラボ、九州大学北海道演習林、長浜市歴史遺産課、大阪市立自然史博物館、埼玉県立自然の博物館、滋賀県文化財保護協会、滋賀県教育委員会、滋賀県立安土城考古博物館、滋賀県立米原高校地学部、滋賀県埋蔵文化財センター、多賀町立博物館、魚津埋没林博物館、若狭三方縄文博物館

③ 展示内容

【概要】

古琵琶湖が誕生した約400万年前から現在の琵琶湖が形成され、そして最終氷期を経て、人の活動が活発になる縄文時代まで、それぞれ当時の森林植生や古生態について、化石林・埋没林、大型植物化石や花粉化石、当時生息していた動物の化石を展示し、森の様子や移り変わりを紹介した。

展示では、森林を構成していた直立した樹幹・樹根化石、材化石、大型植物化石、花粉化石のほか、森林に生息していた動物化石（足跡化石）、小型動物の食痕化石、昆虫化石を展示し、当時の森林の様子やその移り変わりを示した。また、最終氷期の気候を体感できる展示や縄文時代の温暖な森を利用した木製品を展示し、人の暮らしを紹介した。

【各コーナー】

[第一展示室]

プロローグ 地底の埋没林

1. 化石林はねむるタイムカプセル
 - 1-1 化石林を調べる
 - 1-2 化石林の記憶
 - 1-3 琵琶湖地域の化石林・埋没林
2. 移り変わる森（400 万年前から 80 万年前）
 - 2-1 古琵琶湖誕生時代の森
 - 2-2 古琵琶湖が変化する時代の森
 - 2-3 古琵琶湖から琵琶湖への時代の森
3. 変動する気候と森
 - 3-1 『氷期の森』（3 万前から 1 万 6000 年前）
 - 3-2 気候と森の変動をさぐる
4. 人が暮らしてきた森
 - 4-1 『縄文の森』（1 万 6000 年前から 3000 年前）
 - 4-2 森と人の暮らし

[第二展示室]

5. 世界の・日本の化石林・埋没林
 - 5-1 世界のメタセコイア・スイショウの化石林
 - 5-2 全国各地の化石林・埋没林

・お絵描きコーナー・縄文時代の暮らしを知ろう（木の実）コーナー
エピローグ 化石林・埋没林からのメッセージ

④ 印刷物

展示解説書

編集責任者：山川千代美

著者：大槻達郎、妹尾裕介、林 竜馬、里口保文、高橋啓一、八尋克郎、中村久美子、山川千代美

デザイン・イラスト・編集：木村 愛、出口武洋

仕様：B5 サイズ 64 ページ 総カラーページ 800 部 7 月 19 日発行 販売価格 430 円

印刷：(株) 大津紙業

企画展示ポスター A1 サイズ 表カラー 1,000 枚 6 月 28 日発行

デザイン：木村 愛

印刷：滋賀デジ・プリント

企画展示チラシ A4 サイズ 表カラー・裏単色 30,000 枚 6 月 28 日発行

デザイン：木村 愛

印刷：滋賀デジ・プリント

⑤ 関連事業

○オープニングセレモニー

7月21日(土)9時30分から企画展示室前にて開催。展示に協力いただいた方(小早川 隆・多賀町立博物館長、北田 稔・伊賀市教育委員会の文化財調査審員、杉山國雄・植物化石出展者、木村 愛・デザイナーを招いて、館長挨拶、来賓の挨拶、担当学芸員による紹介、テープカットを行った。その後、担当学芸員による展示の案内を実施した。

○関連イベント

・実習「植物の化石を調べてみよう」

8月26日(日)13:30~15:30 実習室1

小学5年生以上(小学生は保護者同伴) 企画展示観覧料が必要

定員15名

内容:古い琵琶湖やその周辺の河川でたまった地層から植物化石を取り出し、顕微鏡で観察して種類を調べる実習を行った。

・紙芝居 はしかけグループ湖をつなぐ会

8月25日・11月17日 14:00・15:00 2回/日

企画展示室前アトリウム

どなたでも参加可能

内容:紙芝居を使って、昔、琵琶湖やその周りにすんでいた生き物や琵琶湖にしかない固有の生き物を紹介し、貴重な琵琶湖の自然の大切さを伝えた。

・公開シンポジウム

テーマ「時空を超えた埋没林・化石林研究の進展に向けて」

11月10日 13:00~15:40

オーガナイザー:山川千代美・林 竜馬(琵琶湖博物館)・辻 誠一郎(東京大学名誉教授)

4講演「日本の埋没林・化石林研究の進展と意義」 辻 誠一郎(東京大学名誉教授)

「古琵琶湖層群における鮮新-更新世の化石林研究」 山川千代美(琵琶湖博物館)

「若狭地域における完新世の埋没木と考古学研究」 小島秀彰(三方縄文博物館)

「年輪年代学研究の最前線」 箱崎真隆(国立歴史博物館)

日本植生史学会と共催

参加者86人

内容:原地性である埋没林・化石林は当時の森林環境を示すタイムカプセルであり、これまでの研究を見直しながら、時代や空間を超えての研究の進展を考える機会とした。

・企画展示での展示交流

ミエゾウ・ワニ類の足跡化石レプリカ標本付近で、北田 稔 伊賀市教育委員会の文化財調査審議員による、また、入り口付近で、野洲川化石林の包含層産植物化石の杉山國雄出展者による化石産出状況の説明や展示交流が不定期に開催された。

○コラム

7月14日、中日新聞、湖岸より 化石林-ねむる太古の森、山川千代美

○来場者3万人達成式典

10月6日に来場された方が3万人目となり、高木副館長の挨拶、展示解説書および琵琶湖博物館ブックレット、博物館招待券の贈呈などの式典を行った。



企画展示室入口



図録表紙



埋没林



展示室の様子

2) 第30回水族企画展示「琵琶湖に固有な魚たちの歴史」

期 間：7月21日（土）～9月2日（日）

主 催：滋賀県立琵琶湖博物館

場 所：琵琶湖博物館 水族企画展示室

展示担当：田畑諒一（主担当）、金尾滋史（副担当）

内 容：琵琶湖に生息する固有種16種を生体展示し、パネル・標本と合わせて、最新の研究成果からわかった、琵琶湖の固有種の長く、複雑な歴史、進化について紹介した。併せて、固有種の近縁種8種についても紹介した。



水族企画展入口正面



展示パネルと展示水槽

(3) ギャラリー展示・トピック展示等

1) ギャラリー展示

① 描かれた湖国の生き物と風景

期間：4月28日（土）～6月3日（日）

主催：滋賀県立近代美術館・滋賀県立琵琶湖博物館

場所：琵琶湖博物館 企画展示室

内容：滋賀県立近代美術館の収蔵品を中心に、滋賀の生き物や風景を描いた絵画・版画作品約40点をセレクトし、琵琶湖博物館の絵画資料とともに生態学や歴史学の視点からも紹介した。また、講演会や子供向けワークショップも併せて開催した。

② 伊藤園 俳句フォトコンテスト作品展

期間：2018年3月27日（火）～4月22日（日）

主催：伊藤園・滋賀県琵琶湖政策課・琵琶湖博物館

場所：琵琶湖博物館 企画展示室

内容：伊藤園が行っているさまざまな琵琶湖環境保全に関わる活動の一つである「お茶で琵琶湖を美しく。」キャンペーンで実施されたフォトコンテストの応募作品の中から、琵琶湖や身近な自然に関係した入選作品を展示。伊藤園が行っているCSR活動の紹介をするパネル等もあわせて展示した。

③ トンボ100大作戦 ～滋賀のトンボを救え～

期間：1月16日（水）～2月17日（日）

主催：生物多様性びわ湖ネットワーク（旭化成株、旭化成住工株、オムロン株、積水樹脂株、ダイハツ工業株、株ダイフク、ヤンマー株）・滋賀県立琵琶湖博物館

場所：琵琶湖博物館 企画展示室

内容：滋賀県内に所在する企業がトンボを保全するために結成した「生物多様性びわ湖ネットワーク」の活動の成果を展示した。生息数が減少しているトンボを工場敷地内のビオトープで保全するとともに、滋賀県内に生息する100種全種のトンボの確認を目指した調査を実施したことなどを紹介した。

④ 琵琶湖 漁具図鑑―魚つかみの道具のヒミツ

期間：3月23日（土）～2019年5月6日（月）

主催：滋賀県立琵琶湖博物館 企画展示室

内容：2018年3月に国の登録有形民俗文化財となった琵琶湖博物館所蔵の「琵琶湖の漁撈用具及び船大工用具」のなかから、えりすぐりの伝統漁具を展示。豊富な実物資料に加えて、道具を眺めるだけではわからない、道具を使いこなす人々の戦略や、人と生きものとの駆け引きなどをパネルで解説した。

2) トピック展示等

① 明治150年記念関連事業 『近江水産図譜』の世界―明治期の琵琶湖漁撈―

期間：2018年3月20日（火）～5月27日（日）

主催：琵琶湖博物館

場所：琵琶湖博物館 B展示室

内容：滋賀県水産試験場が所蔵している『近江水産図譜』を関連資料とともに紹介した。

② 淡海こどもエコクラブ 活動成果ポスター展示

期間：12月11日（火）～1月3日（木）

主催：滋賀県立琵琶湖博物館

場所：琵琶湖博物館 アトリウム

内容：滋賀県で活動するこどもエコクラブに登録するクラブの活動成果ポスターの展示。12月9日(日)には、淡海こどもエコクラブ活動交流会において口頭発表を行った。

③ 第2回びわく学生ミーティング 研究発表ポスター展示

期間：3月19日(火)～3月24日(日)

主催：滋賀県立琵琶湖博物館

場所：琵琶湖博物館 アトリウム

内容：滋賀県内の地域で環境に関わる調査研究活動を実施している、中学生・高校生の活動成果のポスター展示。3月17日(日)には、口頭での発表会を開催した。

④ JA 滋賀中央会第43回「ごはん・お米とわたし」作文図画コンクールの作品展(図画部門)

期間：2019年3月26日(火)～4月7日(日)

主催：滋賀県農業協同組合中央会

場所：琵琶湖博物館 アトリウム

内容：滋賀県内の小・中学校から応募された図画部門の作品、1,010点の中から選ばれた入賞作品41点を紹介した。

3) 水族展示

水族トピック展示

① 57年ぶりの新種発見！～タニガワナマズ *Silurus tomodai* ～

期間：9月8日(土)～11月25日(日)

主催：滋賀県立琵琶湖博物館

場所：水族企画展示室

内容：2018年8月に日本に生息する4番目のナマズ属魚類として、新種となる「タニガワナマズ(*Silurus tomodai*)」の記載論文が公開された。来館者に改めて琵琶湖の魚類相の成り立ちに思いを馳せていただくために、琵琶湖水系に生息するナマズ類、館収蔵の液浸標本と併せて、このタニガワナマズをトピック展示として紹介した。

展示交流

(1) フロアートーク

開館以来、展示室内での交流活動の1つとして、学芸職員による展示解説「フロアートーク」を行っている。学芸職員が日替わりで担当する「質問コーナー」の当日担当学芸職員がフロアートークを行う。学芸職員は、基本的には月1回の学芸会議が行われる第3金曜日を除く開館日に、1日1回、午前11時から展示を使ってレクチャーを実施する。フロアートークの場所や内容は当日担当の学芸職員が決定し、場合によっては実施時間の変更されることがあり、玄関入口にある催し物ボードにも、当日のフロアートークの案内を掲示している。

(2) ディスカバリールームのイベント

7月6日にリニューアルオープンしたディスカバリールームは、季節展示にあわせた参加型のイベントを例年通り実施した。今年度は、リニューアル工事中の間は、滋賀県立美術館と共催で「びわこいのぼりを作

ろう！」を実施した。またオープン後は、夏休み恒例の「カイコ絵日記」から始まり、「はたきをつくろう」は年末恒例のイベントになっている。「オニのおめん」は100名、「おひなさまをつくろう」は300名を超える参加があった。加えて、樹冠トレイルを使ったムクノキの葉っぱ観察や、近江野菜をテーマにしたかぼちゃさがし、新展示コーナーを利用したイノシシ干支めぐりなどのイベントも新しく企画、実施した。ザ!ディスカバはしかけ主催で、リニューアル後初めて展示室で「お手玉をつくろう」が実施された。また、昨年度約350名に参加いただいたイベント「人文字で「デ・ィ・ス・カ・バ」を書こう！」の成果物である DISCOVERY ROOM の人文字もリニューアルした展示室入口に表示され、自分の姿を探すリピーターも見られた。新展示「みんなのたからもの」コーナーでは、昨年度イベント「森の宝物探し」で収集された参加者の展示物がオープンから展示され、今年度11月のイベントで展示物が更新された。今後も来館者に参加してもらえる展示をイベント型で継続的に実施していく。

さらに今年度は、リニューアルの広報も兼ねて館外でのイベント「ひかりプロジェクト」に参加し、リニューアルする新しいディスカバリーボックスを中心に展示した。



森の宝物さがし



おひなさまをつくろう



ムクノキの葉っぱ観察



イノシシ干支めぐり



人文字で書かれたディスカバリールーム



ひかりプロジェクト

イベント開催日	イベント名	参加者
4月21日(土)	琵琶博×近美たいけんびじゅつかん 虹色びわこいのぼりをつくろう！ (5月6日まで展示) (近美共催)	49名
7月10日(火)～8月31日(金)	みんなで「かいこ絵日記」をつくろう！	100名
10月23日(火)～10月31日(水)	かぼちゃを探そう！	36名

イベント開催日	イベント名	参加者
11月24日(土)	森の宝物さがし	26名
12月18日(火)～22日(土)	ムクの葉っぱを観察しよう!	69名
12月22日(土)	はたきを作ろう!	9組
2019年1月2日(水)～1月14日(月祝)	2019年展示で干支めぐり	219名
1月6日(土)	ジュズダマでお手玉をつくろう (ザ!ディスカバはしかけ主催)	14名
1月26日(土)～2月3日(日)	節分☆オニのお面をつくろう!	113名
2月11日(月祝)	ふろしきであそぼう (ザ!ディスカバはしかけ主催)	13名
2月19日(火)～3月3日(日)	おひなさまをつくろう!	302名

(3) 展示交流員と話そう

展示交流員は、展示室における 1) 安全確保、2) 快適な環境の提供、3) 展示室での発見のサポート(展示交流)といった3つの働きをしている。特に「展示交流」は、展示室におけるコミュニケーションを通じて来館者に身近な自然や暮らしについて関心を持っていただくためには重要な要素である。そのいっそうの充実をはかるために「展示交流員と話そう」を実施した。

展示交流員が普段の展示交流にある「きっかけ」を生かし、できるだけ自然なスタイルで行った。実施前に各自がテーマを設定し、担当学芸員のアドバイスを受け、知識の習得、交流方法の検討、資料作成等の準備をした。実施の方法は、用意した資料を触っていただく、自作の資料を見ていただく、複数の実施コーナーを柔軟に活用する等、テーマに即して来館者の興味を引き出す様々な工夫をした。

実施期間：12月1日～3月31日

実施人数：展示交流員 23名

実施回数：展示室での来館者の状況により随時実施

【実施内容】

展示室	名前	実施テーマ	実施場所
A 展示室	柳原 徳子	地球 46 億年の長さ	コレクションギャラリー
B 展示室	木下 睦司	瀬田唐橋図会「ナンバ歩き」	湖と古代の交通
	福本 嘉子	びわ湖疏水	びわ湖疏水展示前
	奥村 千尋	びわ湖の遊覧船の歴史	旧長浜駅舎
C 展示室	奥村 恵子	おばちゃんビワイチに挑戦	空びわ
	林 克子	カワウ	カワウのコーナー
	木村 寿枝	カヤネズミ	カヤネズミ前
	坂井 麻紀	ヨシズを編んでみよう	ヨシズのコーナー
	吉田 史子	カメ	カメ水槽
	片岡 典子	アサギマダラ	生き物コレクション
	岡 知世	カメ	カメ水槽
	梶本 千勢	カヤネズミ	カヤネズミ前
水族展示	今泉 美保	我が家の味	魚滋コーナー
	坂上 麻理	古代魚と魚の進化	チョウザメ水槽前
	板垣 真由美	プランクトンを見てみよう	マイクロバー
	阪路 美津子	チョウザメ	チョウザメ水槽前
	関谷 栄子	バイカルアザラシ	バイカルアザラシ水槽前
	西村 典子	ザリガニ・ニゴロブナ	ふれあいタッチングプール
	満田 千秋	バイカルアザラシ	バイカルアザラシ水槽前

展示室	名前	実施テーマ	実施場所
ディスカバリールーム	北田 昌子	アブラコウモリの紙工作を楽しもう	ディスカバリールーム
おとなのディスカバリー	芦田 弘美	おとなのディスカバリー	おとなのディスカバリー
	斉藤 文子	石ころの秘密	岩石・鉱物・化石コーナー
	川口 千佳	自然物・先史・有史に見られる螺旋と渦巻き	おとなのディスカバリー

(4) デジタルサイネージ

2017年2月に可搬型のデジタルサイネージ装置1台の寄贈を受けて運用していたが、2018年8月には広告料収入確保のために設置した固定型大型デジタルサイネージ装置1台の一部を利用して館の案内情報を放映できるようになり、また第2期リニューアルに合わせて2018年7月から券売の方式を変えたことに伴い券売カウンターに固定型小型デジタルサイネージ装置3台を導入した。さらに、第3期リニューアルでも複数台のデジタルサイネージ装置の導入が予定されている。この状況を踏まえて、デジタルサイネージを利用した利用案内の方法について、様々な形での運用を試しながら検討を進めている。2018年度の運用状況は以下の通りであった。

① 可搬型装置

年度当初

前年度に引き続き、エスカレーター前において、各展示室の様子・水族館やり時刻・展示室で行われているギャラリー展示やトピック展示の案内を行った。また、映写内容を適切なタイミングで変更する操作が可能な状況であれば、1日限りのイベントの案内も行った。

5月

来館者行動の定性的目視観察でデジタルサイネージを時間をかけて見続けている人は少ないことが明らかになったため、「各展示室の様子」の案内を取りやめ、それに代えて企画展示・ギャラリー展示・トピック展示などの期間限定展示の案内を体系的かつ計画的に行って充実させることとした。また、エスカレーター前では来館者がデジタルサイネージの内容を落ち着いて見ることが困難なので、屋外展示への出口の前へ移動した。なお、これは樹冠トレイル工事中で屋外展示が利用できないという状況を利用した暫定的な処置である。

8月7日

設置位置付近の電源状況を改善し、装置を屋外展示への通路を阻害せず、かつアトリウムで休息中の来館者から見易い位置へ移動した。

10月6日

樹冠トレイル公開に伴ってエスカレーター前の展示交流員配置が廃止される見込みとなったため、可搬型装置をエスカレーター前に移動して、エスカレーター・エレベーター・階段の利用について案内する目的に転用することとし、展示内容の案内は終了した。

なお、年度当初から10月5日までに実施した期間限定展示の案内は10件、1日限りのイベントの案内は2件である。

② 固定型大型装置

左右に並んだ2面からなる装置であり、向かって左側の面は広告料収入確保のための企業広告用で、向かって右側の面を博物館から来館者への案内に利用できる。時計とカレンダーを内蔵しており、イベント情報を事前に設定しておいて該当する日に放映することが可能である。

8月28日

試験運用を開始した。質問コーナー担当者・水族館やり時刻・企画展示および水族企画展示・館内展示室

でのイベント情報を案内した。その後、樹冠トレイルへのクラウドファンディングの案内や樹冠トレイル公開予告を追加した。なお、質問コーナー担当者の案内は、変更を速やかに反映させる態勢が構築できず、10月ごろに中止した。

12月7日

試験運用の結果を踏まえて、下記の方針で運用していくこととした。

- ・恒久的コンテンツとして屋外展示（樹冠トレイル etc.）と水族館やり時刻の案内を行う。
- ・展示室での期間限定展示の案内を行う。
- ・下記に該当するイベント情報の案内を行う。

事前申込が不要なもの

来館者が直ちに参加できるもの（原則として館内開催）

対象者を限定しないもの

（主催事業か共催事業かは問わない）

なお、試験運用を含めて案内した期間限定展示は13件、イベント情報は40件である。

③ 券売カウンターの固定型装置

3ヶ所ある券売カウンターの各々に1画面、計3画面からなる。運用中カウンターと休止中カウンターを想定した2種類の番組から選択して、各々同時放映する形になっている。

7月6日

券売方式変更と同時に運用を開始した。常設展示観覧料の案内・企画展示内容および観覧料の案内・7月公開の新展示（ディスカバリールーム・おとなのディスカバリー）の簡単な案内・利用上の注意（喫煙禁止・飲食禁止・ペット禁止）を放映した。

12月14日

画面切り替え時間の調整や企画展示関連情報除去などの放映内容変更を行った。

2月9日

常設展示観覧料の情報がエントランスに到着した来館者の目に入りやすいよう放映内容を変更した。

2月24日

観覧料案内を天皇陛下御在位三十年慶祝行事に伴う無料開放の案内に差し替え、閉館後、元に復した。

2月26日

7月公開の新展示の案内を取りやめ、個人券売カウンターであることを案内する表示に差し替えた。

④ エントランスにおける券売方式変更に伴う掲示等調整

第2期リニューアルに伴って、従来無料空間として運営していたアトリウムおよび周辺展示室を2018年7月6日から有料空間に変更することになったのに伴い、エントランスからアトリウムへの通路に新たに券売カウンターを設置した。そして、混雑時対応などの例外を除いて従来のカウンターは団体対応や年間観覧券対応などに特化することとした。しかし、従来通りの仕様での観覧料金一覧表を従来のカウンターの背面に設置していたところ、この一覧表に引き寄せられて従来のカウンターへ来てしまう来館者が多数あり、動線を混乱させる元にもなった。そこで2019年頭より観覧料金一覧表を外して団体対応や年間観覧券対応などを行っていることを案内する掲示に差し替え、券売カウンターのデジタルサイネージの改善（次項）と併せて、来館者の動線を混乱させない対策とした。



チケットブース



アトリウムに設置された館内案内サイン

博物館連携

(1) 滋賀県博物館協議会

滋賀県博物館協議会は県内の70館（2018年9月末現在）で構成する団体である。広報、研修、記念事業の3つの委員会を持ち、ウェブによる加盟館紹介や新聞連載、年3回の研修・情報交換事業、5年に1度の記念事業などを実施している。当館は広報委員会と記念事業委員会に各1名が参画し、活動の一翼を担っている。

(2) 烏丸半島活性化連携事業

琵琶湖博物館をはじめ、烏丸半島に関連する施設、企業、団体等で構成する琵琶湖・烏丸半島魅力向上活性化協議会の事業として、各構成団体が連携・協力し烏丸半島への誘客を促進する取組を行った。

1) からすまいちばんカレンダー 夏のスタンプラリーの実施

各構成団体が関わる7月から9月までのイベントを紹介するチラシを作成し、併せてスタンプラリーも実施した。

実施期間：7月1日（日）～9月30日（日）

チラシ作成：12,000枚

配布先：各構成団体の施設、周辺の施設、周辺の幼稚園・保育園等の施設、他

商品提供：琵琶湖汽船、ホテルポストプラザ草津、草津市観光物産協会、道の駅草津グリーンプラザからすま、ミュージアムショップおいでや、草津北部まちづくり協議会

応募数：253人

当選者数：65人

2) からすまいちばんスタンプラリー2018の実施

構成団体の施設等をポイントとするスタンプラリーを実施した。

実施期間：12月1日（金）～1月14日（日祝）

チラシ作成：7,000枚

配布先：各構成団体の施設、周辺の幼稚園・保育園等の施設 学童施設、他

商品提供：琵琶湖汽船、ホテルポストプラザ草津、草津市観光物産協会、道の駅草津グリーンプラザからすま、ミュージアムショップおいでや、草津北部まちづくり協議会

応募数：106人

当選者数：34人

3) 各種広報媒体の活用による情報発信

各構成団体が発行する広報やリーフレットをはじめ、パブリシティ・Facebook の活用により烏丸半島の情報を発信した。

4) その他

- ① 「びわ博フェス 2018」への物産等販売出店（道の駅草津、草津北部まちづくり協議会）
- ② 夏休み期間におけるバスの増便（近江鉄道）
- ③ ゴールデンウィーク、お盆期間における「草津烏丸半島湖上遊覧クルーズ」の運航（琵琶湖汽船）

4 体験と交流を促す博物館

一般利用者へのサービス

(1) 観察会・見学会等

2018年度は博物館や県内各地で観察会等10件の事業を実施し、うち3件は館外で開催した。10件のうち7件は事前参加申込によるもので、ほかの3件は当日受付による運営を実施した。参加申込手続きには「しがネット受付システム」及び往復はがきによって運営している。

屋外実施の事業で台風のため、やむを得ず中止となった事業が1件である。「ビワマスの採卵現場見学会」の中止は、全国的にも例年になく強い台風により、採卵現場に深刻な被害があったことによるものである。

開催日	事業名	定員	参加者数	共催・協力等
4月29日(日)	木目ハンコでポストカードを作ろう	なし	561	滋賀県立近代美術館
5月26日(土)	銅版画で水の中の世界を描こう	20	28	滋賀県立近代美術館
6月10日(日)	みんなで湖魚料理をつくろう！(コアユ・シジミ編)	20	18	滋賀県漁業協同組合連合会青年会
6月23日(土)	里山探検 田んぼの生き物見つけ隊	20	47	カワセミ自然の会
7月28日(土)	初心者のためのふなずし作り体験	20	20	
8月19日(日)	ヨシ灯りを作ろう！	30	51	西の湖ヨシ灯り実行委員会
8月25日(土)	マイナス80度から生還した微小生物	15	20	
9月29日(土)	顕微鏡で観察しよう プラクトンでビンゴ	15	23	
10月27日(土)	ビワマスの採卵現場を見学してみませんか！(中止)	20	—	百瀬漁協、高島事業場
11月4日(日)	みんなで湖魚料理をつくろう！(秋のプレミアム編)	20	9	滋賀県水産課、滋賀県漁協組合連合会青年会

(2) 講座

2018年度は、以下に示した講座を実施した。

	内容	開催日	曜日	募集数	参加者数	講師
1	はしかけ登録講座(全3回)	5月13日 9月23日 3月10日	日 日 日		11(新規) 31(新規) 42(新規)	下松孝秀
2	琵琶湖地域の水田生物研究会 共催：近江地域学会	12月16日	日	200	155	一般発表 13件 ポスター発表 10件 講演 3件
3	新琵琶湖学セミナー(全3回)	1月26日 2月23日 3月23日	土 土 土	各回 70	70 63 68	橋本道範・保立道久 林 竜馬・村上由美子 渡部圭一・春田直紀
4	生きる、描く、湖国の風景 共催：滋賀県立近代美術館	5月20日	日	なし	25	小椋純一・山口真有香 田畑諒一

(3) 体験教室

1) 里山体験教室（担当：山本綾美・草加伸吾）

「里山」という言葉は知っているが、行ったことがない、子どもの頃は野山で遊んだが久しく行ってない。このような里山ビギナーの方々に、里山へ訪れるきっかけとして、里山体験教室を「はしかけ里山の会」との共催により開催している。

人里の外側に広がる田畑、草原、河辺林といった里山の空間的広がりを感じてもらうために、借地している林に留まらず、各回周辺を歩いて、季節による変化や時間の連続性を感じ、四季折々の里山の表情を楽しむため年4回実施している。

春は里山を歩き、春を感じるような植物を中心に観察を午前中に行い、午後は、里山整備、ネイチャークラフトをおこなった。参加者が多かったため活動運営に混乱が発生しないか心配したが、はしかけ里山の会スタッフの経験値の高さが生かされ、事故なく実施しただけでなく、参加者に十分楽しんでもらった。

夏は、昆虫を専門とする学芸員の指導を得て、野原の昆虫と森の昆虫の観察会を行った。午後は、ロープと布を使った簡易ハンモックの設置方法を体験した。猛暑による熱中症注意報が出ていたので、早めの終了とした。

秋は、里山を散策して木の実や紅葉などの「里山の秋色さがし」は収穫も多く喜んでもらった。午後からは冬の薪づくりを意識した森林整備とネイチャークラフトを行った。

冬は、雨天により中止とした。

回	開催日	内容	参加人数	担当者
1	4月22日	里山の春をみつけよう	68	山本、草加
2	7月16日	里山の夏を楽しもう	53	山本、草加
3	10月14日	里山の秋さがし	55	山本、草加
4	1月20日	冬の里山を楽しもう	雨天中止	—



春：春の山菜摘み



夏：森のハンモック体験

2) 生活実験工房 田んぼ体験

生活実験工房では年間を通して、一般の参加者とはしかけ会員を対象に、暮らしと田んぼの体験教室を実施し、4月から10月初旬までは、主に水稻栽培に関する体験を行い、12月初旬から翌年3月までは、わらなど収穫した材料や工房周辺にある材料を使った体験活動を実施している。水稻栽培では、昔ながらの苗代づくりから手作業による田植えや稲刈りまでを昔の農具を使いながら体験を行ってきた。12月の収穫祭では、収穫したモチ米を利用したもちつきを行い農の恵みを体験することができた。

また、農閑期となる冬季には、工房内でしめ縄やわら細工など、わらを有効活用した手作業による体験活動を行い、農具や道具などの使い方を学び、参加者同士が協力し交流を深めながら、昔暮らしの作業体験に取り組んだ。参加者の中には、家族で継続した参加もあり、子どもたちの成長を見ながら親と子の絆を深める良い機会として頂いた。

「生活実験工房 田んぼ体験」のおもな活動

活動日	内 容	参加者数
4 月	種まき、苗代づくり	職員対応
5 月 13 日	田植え	35 名
9 月 9 日	稲刈り（早稲品種：みずかがみ）はさ掛け	22 名
10 月 7 日	稲刈り（晩稲品種：滋賀羽二重糯）はさ掛け	32 名
12 月 2 日	収穫祭	37 名
12 月 23 日	しめ縄づくり	68 名
1 月 15 日	どんど焼き	職員対応
2 月 10 日	わら細工	23 名
3 月 16 日	一年間のふりかえり	4 名



5 月 田植え風景



9 月 稲刈り、ハサ掛け

(4) 体験学習

1) 「琵琶湖博物館わくわく探検隊（体験学習の日）」の活動

（担当：奥野知之、小林偉真）

当館を訪れる小・中学生を対象に、博物館の展示室への興味や関心を高めるための体験活動を「琵琶湖博物館わくわく探検隊」として実施した。子ども向けイベントではあるが、広く来館者に体験学習を楽しんでもらえるよう保護者の付き添いのある幼児や大人のみでも参加可能とした。基本的には、第2土曜日の午後1時より受付を開始し、プログラム実施は午後1時半～3時までとした。今年度も、はしかけグループの「びわたん」を中心に企画と運営を行った。今年度は、年間10回、計394名の参加者に楽しんでもらうことができた。

回	月 日	館内の事業	参加者数
1	5 月 12 日	春の草花でしおりをつくろう！	22
2	6 月 9 日	プランクトンを見よう！	47
3	7 月 14 日	骨にふれてみよう！	53
4	9 月 8 日	古代生物をうつし取ろう！	64
5	10 月 13 日	ドキ土器！おしゃれもようを楽しもう！	27
6	11 月 10 日	秋の色探しをしよう！	16
7	12 月 8 日	綿にふれてみよう！	35
8	1 月 12 日	お魚モビールを作ろう！	41
9	2 月 9 日	樹冠トレイルを歩こう！	36
10	3 月 9 日	火起こしを体験しよう！	53
		合 計	394

■わくわく探検隊のようす



2) 一般団体向け (担当：奥野知之、小林偉真、草加伸吾、植村隆司、塩谷えみ子)

子どもたちの自然や文化への興味関心を高めるとともに、地域の環境保全に対する意識向上に向けた取り組みに協力することができた。

実施数	内 容
1 団体 (22 名)	シジミストラップづくり

学校連携

(1) 学校団体

団体扱いで入館した学校数・児童生徒数を以下にあげる。

第Ⅰ期・Ⅱ期リニューアル後、学校団体による来館者数の回復が見られた。特に県内では、高等学校や特別支援学校での増加がみられた。県外では、すべての校種において来館者数の増加がみられた。第Ⅱ期リニューアルでオープンしたおとなのディスカバリー・樹冠トレイル・別館も来館者数が増加した要因ではないかと考える。今後も、学校団体の高度利用についてや校種・学年に応じた博物館の具体的活用についても呼びかけていきたい。

1) 学校団体の受け入れ (担当：奥野知之、小林偉真、草加伸吾、植村隆司、塩谷えみ子)

地域	校 種	入館学校団体数			入館児童生徒数		
		H29 年度	今年度	増減	H29 年度	今年度	増減
県内	小学校	167	168	1	11,607	11,497	-110
	中学校	19	15	-4	1,552	1,546	-6
	高等学校	20	13	-7	721	946	225
	特別支援学校	14	21	7	208	346	138
	大学など	11	9	-2	827	743	-84
	合 計	231	226	-5	14,915	15,078	163
県外	小学校	165	174	9	14,400	15,250	850
	中学校	60	60	0	7,670	7,697	27
	高等学校	23	33	10	1,950	2,831	881
	特別支援学校	13	14	1	440	559	119
	大学など	35	43	8	1,077	1,922	845
	合 計	296	324	28	25,537	28,259	2,722
総合計		527	550	23	40,452	43,337	2,885

2) 学校団体向け体験学習（担当：奥野知之、小林偉真、草加伸吾、植村隆司、塩谷えみ子）

学校団体向け体験学習は、展示室見学をより深く学ぶための手助けとなるよう考えて行った。しかし、短時間の来館で体験を中心に考えておられる学校団体もあり、今後見学の目的に合わせた体験学習の実施に努めていきたい。今年度からは、別館の運営業務との兼ね合いで、1日に複数の体験学習を受けることができなくなった。今後、体験学習の実施数を増やすことよりもいかに学習に活かしていただけるかについてこだわってみてもよいのではないかと考える。

校種	主な活動内容
小学校	講義（琵琶湖と環境、琵琶湖の生き物、昔の暮らし、博物館の展示についてなど）、化石のレプリカづくり、ヨシ笛づくり、シジミストラップ作り、プランクトンの採集と観察、外来魚の解剖、昔暮らし体験（足踏み脱穀、石臼、手押しポンプ）、生活実験工房の施設見学、質問対応
中学校	講義（琵琶湖と環境、琵琶湖条例ができるまで、琵琶湖総合開発、博物館の展示についてなど）、プランクトン採集と観察、ヨシ笛づくり、外来魚の解剖、化石のレプリカづくり、質問対応
高等学校	講義（琵琶湖と環境、博物館の展示についてなど）、プランクトンの採集と観察、外来魚の解剖、課題研究、質問対応
特別支援学校	化石のレプリカづくり、よし笛づくり

■体験学習実施数

校種	県内		県外		合計	
	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数
小学校	37	2,086	33	2,768	70	4,854
中学校	11	1,754	10	1,486	21	3,240
高等学校	5	169	3	102	8	271
特別支援学校	2	5	3	59	5	64
大学など	2	377	2	144	4	521
合計	57	4,391	51	4,559	108	8,950

■体験学習のようす



3) ミュージアムスクールの運営（担当：小林偉真、奥野知之）

2018年度は立命館守山中学校を受け入れた。

立命館守山中学校「琵琶湖学習」の取り組み

1年生150名が参加し、3回の展示見学と学芸員等の講義を通して、琵琶湖や滋賀のことについて学習を

深めた。特に、課題解決型学習を進めるにあたってのポイントを学芸員から直接指導を受け、データやグラフの読み取りや分析など研究手法を学ぶ機会となった。

① 7月17日（火）琵琶湖博物館

- ・9:40～10:40 講義「琵琶湖の概要、琵琶湖博物館の概要」（小林）：ホール

② 10月13日（土）琵琶湖博物館

- ・9:40～10:30 講義「問題解決へのアプローチの方法」（八尋）：ホール
- ・10:40～11:50 常設展示見学

■夏休み…展示見学と講義から琵琶湖について特に興味を持ったことがらについて、各自が夏休みに実践的研究や調査を行う。

③ 11月24日（土）立命館守山中学校

- ・学習発表会
- ・琵琶湖博物館やフィールドで調べたことを仕上げ、在校生（中学生）向けに発表
- ・琵琶湖学習発表会（立命館守山中学校メディアホール）審査・講評

■ミュージアムスクールのようす



4) 自然調査ゼミナール（担当：小林偉真、奥野知之）

自然調査ゼミナールは、滋賀県中学校教育研究会理科部会環境教育研究委員会に所属する教員が中心となり、中学生が自然調査を通して複雑な自然を知り深く理解することを目的として、1977年より開催されている自然観察研修会である。1997年からは琵琶湖博物館を会場として開催してきた。昨年度と同様に主催：琵琶湖博物館、共催：滋賀県中学校教育研究会理科部会、後援：滋賀県教育委員会で行った。今年度は、猛暑のため参加を見合わせる学校が多く、中学生12名、教員10名が参加した。中学生たちは学芸員のアドバイスを受け、地域の自然を調査し、ホールにて結果をグループごとに発表した。

① 期日 7月31日（火）

② 内容

午前の部		午後の部	
9:00～9:30	受付	12:45～15:00	班別調査活動Ⅱ （各活動場所）
9:30～10:00	開講式・オリエンテーション	15:00～15:50	
10:00～12:00	班別調査活動Ⅰ （各活動場所）	16:00～16:55	調査報告会（ホール）
12:00～12:45	昼食および休憩 展示室見学	16:55～17:00	閉講式

■ 昼の部班別テーマ

調査班	テーマ	講師	生徒数	教員数
昆虫班	採集や標本づくりを通して昆虫について学ぼう	八尋克郎 (学芸員)	1	2
植物班	身の回りの植物について、ミクロの視点で見よう	大槻達郎 (学芸員)	1	2
ほ乳類班	巢の調査や映像資料からほ乳類の生態を調べよう	中村久美子 (学芸員)	2	1
プランクトン班	琵琶湖のプランクトンについて、分類方法と特徴について調べよう	鈴木隆仁 (学芸員)	2	3
魚類班	琵琶湖にいる魚の解剖を通して、魚の生態を調べよう	中澤 浩 (教員)	6	2
貝類班	参加者が無かったため開校しなかった		—	—

■ 自然調査ゼミナールのようす



(2) 教育指導者等研修 (担当：小林偉真、奥野知之)

1) 教職員研修

本年度も学校などへの出張講座、滋賀県教育委員会や県総合教育センターなどと連携した研修、各地の理科教育研究会からの依頼を受けた研修など多岐にわたり、550名の受講があった。県内外の学校の先生方に琵琶湖博物館を知っていただくよい機会となった。博物館を有効に活用いただくきっかけになればと考えている。

実施日	曜日	講座名	受講者数	共催・後援
6月16日	土	科学へジャンプ・イン・滋賀2018 準備研修会	5	近畿盲学校教育研究会 滋賀県立盲学校
7月10日	木	高島市立湖西中学校「水環境学習」	6	高島市立湖西中学校
7月13日	木	高島市立湖西中学校	6	高島市立湖西中学校
7月25日	水	大阪府立交野支援学校事前研修会	8	交野支援学校
8月3日	金	H30しが環境教育研究協議会	120	滋賀県教育委員会
8月8日	水	滋賀県小学校環境教育部会研修会	28	滋賀県小学校環境教育部会
8月9日	木	近畿小学校理科部会研修会	10	近畿小学校理科部会
8月10日	金	甲賀市中学校理科部会研修会	12	甲賀市中学校理科部会
8月28日	木	滋賀県中学校教育研究会理科部会環境 教育委員会研修会	16	滋賀県中学校教育研究会理科部 会環境教育委員会
10月15日	水	高島市立青柳小学校「琵琶湖学習」	3	高島市立青柳小学校
10月21日	日	滋賀県中学校理科部会環境教育委員会 「第2回実技講習会」	7	滋賀県中学校理科部会

実施日	曜日	講座名	受講者数	共催・後援
11月 7日	火	初任者研修	35	滋賀県総合教育センター
11月 9日	木	初任者研修	33	滋賀県総合教育センター
11月 14日	火	初任者研修	40	滋賀県総合教育センター
11月 16日	木	初任者研修	44	滋賀県総合教育センター
11月 17日	金	安曇っ子博物館	3	高島市立安曇小学校
12月 1日	土	滋賀の教師塾	144	滋賀県教育委員会
2月 23日	土	滋賀大学教育学部化学教室研修会	30	滋賀大学教育学部化学教室
合 計			550	

■教員研修の様子（初任者研修・第2回実技講習会）



2) その他の視察研修（担当：小林偉真、奥野知之）

2018年度に受け入れた学校連携・教育普及活動に関する視察は、合計2件17名であった。

月日	来館団体名（目的）等	人数
9月 8日	宍道湖グリーンパーク（視察）	16
12月 21日	山口県立山口博物館（視察）	1

企業連携

当館のリニューアル展示をはじめ、今後の博物館の運営を継続させていくためには、企業との連携は欠かせないものの1つである。博物館は企業が行う研修や社会貢献活動を通じて、参加者に博物館の理念である湖・自然と人間のよりよい関係を考える機会を提供し、また学術的な観点から正しい認識を伝えていく必要がある。また、外部資金を獲得する方法のひとつと位置づけ、企業連携の強化を図った。

今年度は、次のような連携事業を展開した。

6月1日：日本ビオトープ協会 ビオトープフォーラム滋賀2018

7月20日：滋賀銀行 関西エコファースト企業研修会

1月2日～1月31日：ローム株式会社 環境CSR活動パネル展示

1月16日～2月17日：生物多様性湖東地域ネットワーク

「トンボ100大作戦！～滋賀のトンボを救え～」展示

研修・実習

(1) 国際交流

1) 滋賀県招聘海外技術研修員の受け入れ

滋賀県では毎年、海外技術研修員を招聘しており、2018年度も2名が招聘された。琵琶湖博物館では、このうち環境教育、環境行政に関する研修を行う中華人民共和国湖南省の樊晶晶氏（長沙環境保護職業技術学院教員）を8月30日から12月22日まで受け入れた（受入主担当：中井克樹）。期間中の、館内外での主な研修内容は以下のとおりであった。

月 日	内 容
9月2日	湖南省副省長一行視察対応（琵琶湖博物館）
9月4日	滋賀県国際協会月例研修（滋賀県国際協会）
9月5日	台風影響調査（琵琶湖南湖湖岸）
9月6日	総務省滋賀県視察同行（矢橋中間水路、堺川内湖排水施設）
9月7日～9日	国際ボランティア学生協会（IVUSA）「琵琶湖外来植物除去大作戦2018」（サンシャインビーチ、湖岸緑地志那）
9月7日	琵琶湖保全再生検討会の琵琶湖視察（矢橋中間水路、北山田漁港、琵琶湖博物館）
9月8日	バングラデシュ民間招待団一行学習（琵琶湖博物館）
9月8日	希少野生植物生育調査（高島市）
9月9日	琵琶湖博物館田んぼ体験（生活実験工房）
9月9日	琵琶湖を戻す会外来魚釣り大会（湖南緑地津田江）
9月12日	滋賀県自然環境保全課および国際湖沼環境委員会訪問
9月13日	琵琶湖外来水生植物対策協議会外来水生植物生育調査（南湖西岸）
9月14日	滋賀県自然環境保全課「生物多様性取組認証キックオフミーティング」（フェリエ南草津）
9月15日	フィールドレポーター定例会議（琵琶湖博物館交流室2）
9月16日	滋賀県びわっ子大使家棟川体験活動（家棟川、あやめ荘、琵琶湖博物館、ILEC）
9月17日	外来水生植物緊急調査（高島市浜分沼）
9月20日	収蔵庫見学（琵琶湖博物館）
9月21日	琵琶湖博物館研究セミナー・学芸会議
9月23日	はしかけ登録講座（琵琶湖博物館セミナー室）
9月26日	滋賀県立大学外来水生植物処理用試料提供（新浜ビオトープ、北山田漁港）
9月27日	インドネシア環境教育団共同ワークショップ（琵琶湖博物館）
9月28日	インドネシア環境教育団共同ワークショップ（草津市立渋川小学校）
10月4日	滋賀県国際協会月例研修（滋賀県国際協会）
10月9日	外来水生植物駆除作業準備（新浜ビオトープ）
10月10日	外来水生植物駆除作業見学会（新浜ビオトープ）
10月12日	水陸両用作業船業者現地視察（高島市安曇川河口、浜分沼）
10月14日～19日	第17回世界湖沼会議・霞ヶ浦（つくばコンベンションセンター）
10月19日	東京大学総合研究博物館・環境省皇居外苑外来魚駆除事業
10月20日	南笠東秋フェスタ（草津市南笠東公民館）
10月21日	国際湖沼環境委員会「湖沼環境保全国際ミーティング」（フェリエ南草津）
10月22日	環境教育学セミナー（京都大学大学院）
10月23日～24日	関西広域連合「関西の残したい自然エリア（和歌山県・徳島県）エコツアー体験学習」（和歌山県立自然博物館、和歌浦、吉野川河口干潟、第十堰等）
10月27日	JAF 滋賀外来魚釣り大会（湖岸緑地志那）
10月28日	水資源機構「お魚里帰り大作戦」（新浜ビオトープ）

月 日	内 容
10月28日	近江米普及イベント（アル・プラザ堅田）
11月1日	琵琶湖博物館モーニングレクチャー・JICA 研修講義
11月3日	琵琶湖博物館樹冠トレイルオープニングセレモニー
11月5日	滋賀県国際協会月例研修（びわ湖フローティングスクール）
11月7日	希少淡水貝生息確認（野洲市）
11月11日	淡海湖水抜き補修現場・山門湿原保護区視察（高島市・長浜市）
11月14日	須原魚のゆりかご水田世界農業遺産視察（野洲市）
11月15日	外来水生植物新規機械駆除作業見学（南湖西岸）
11月18日	瀬田川流域クリーン作戦・大阪自然史フェスティバル参加
11月19日	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター「里湖づくり」湖底耕耘参加
11月19日	環境教育学セミナー参加（京都大学大学院）
11月22日	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター琵琶湖定期観測同行
11月23日	嘉田由紀子前滋賀県知事宅訪問
11月30日	南部下水処理センター・淡海環境プラザ・滋賀県立大学
12月1日	守山漁協アユ漁解禁日出漁（琵琶湖北湖）
12月3日	外来水生植物駆除新技術実演（米原市）
12月8日	草津市クリーンセンター
12月10日	環境技術関連企業（(株)日吉・(株)オプテックス）訪問
12月17日	研修成果発表会・修業式（滋賀県公館）
12月21日	針江生水の郷見学（高島市）

2) 海外からの視察・研修

2018年度は、海外からのさまざまな団体による視察や研修、計33件に対応した。

* JICA ; (独法)国際協力機構

月	日	視察者	依頼者	人数	対応者
4	3	台湾・台北動物園一行	台北動物園	2	中井
4	27	ベトナム・ホーチミン市関係者	県商工政策課	6	中井
4	27	在大阪ベトナム総領事一行	県観光交流局国際室	2	篠原・高橋・中井
4	2	中国・湖南師範大学研究者代表団	県観光交流局国際室	8	芳賀
5	9	中国・浙江省地域開発発展研究会一行	県観光交流局国際室・滋賀県立大学環境科学部	20	芳賀
5	10	中国・湖南省政府代表団	県観光交流局国際室	7	中井
5	11	アメリカ・ミシガン州立大学	県観光交流局国際室	25	中井
5	17	世界農業遺産視察団	県農政課	5	中井
5	19	同志社大学大学院グローバル・リソース・マネジメント・プログラム	同志社大学大学院理工学研究科	12	スミス
5	29	中国・湖南師範大学研究者代表団	滋賀県立大学環境科学部	8	芳賀
7	11	JICA 研修「湖南省洞庭湖流域農村水環境改善プロジェクト」	(公財)淡海環境保全財団	11	中井
7	26	近江ふるさと会（中国湖南省：湖南女子学院）	県観光交流局国際室	12	中井
8	15	近江ふるさと会（中国湖南省：吉首大学・湖南女子学院・慈済科技大学）	県観光交流局国際室	29	中井

月	日	視察者	依頼者	人数	対応者
8	15	中国雲南省・“滇池学生河長”赴日本学習交流訪問団	雲南大象教育發展有限公司	13	大塚・中井
9	1	JICA 研修「ベトナム・クアンニン省ハロン湾グリーン成長プロジェクト」	(公財)国際湖沼環境委員会	10	芳賀
9	2	中国・湖南省政府代表団	県観光交流局国際室	10	中井
9	8	バングラデシュ・アメリカ国際大学訪問団(岩城良夫氏招待)	県議会事務局・岩城良夫氏	14	中井
9	15	中国科学院水利部發展研究センター視察団	中国・温州大学	5	芳賀・中井・楊
9	27	インドネシア・ディニヤプトリパダンパンジャン環境教育研修	NPO 法人平和環境もやいネット国際学びあい部	15	大塚・中井
10	8	インドネシアライオンズクラブ訪問団	(公社)びわこビジターズビューロー	44	中井・金尾
10	18	中国・湖南省商務庁代表団	県観光交流局国際室	20	高木
11	1	JICA 研修「水資源の持続可能な利用と保全のための統合的流域管理」	(公財)国際湖沼環境委員会	10	スミス
11	2	タイ・ルンア alun 学園(近江学園姉妹校)フィールドワーク	近江兄弟社学園高等学校	27	松田
11	2	JGP 京都大学ジャパングートウェイ(環境学分野)学習プログラム	京都大学大学院地球環境学学	13	スミス
11	3	JICA 研修「マレーシア LEP2.0 河川における水質浄化オペレーション管理」	クリアウォーターOSAKA(株)	12	芳賀
11	9	台湾・国立歴史博物館一行	台湾国立歴史博物館	4	松田・大塚
12	9	国立民族学博物館 JICA 博物館学コース研修員一行	国立民族学博物館	11	芦谷・スミス 中井
1	26	さくらサイエンスプラン交流事業招聘(湖南省学校教員)	(公財)国際湖沼環境委員会	11	鈴木・中井
1	29	韓国・嶺南大学産学協力団	韓国・嶺南大学	8	八尋・芳賀
1	30	近江ふるさと会(中国・湖南省福祉現場研修学生団)	県観光交流局国際室	10	芳賀
2	27	国際交流基金「中東・北アフリカグループ招聘プログラム」	(独法)国際交流基金	12	中井
3	20	国立民族学博物館研修員一行	国立民族学博物館	15	中井
3	29	世界農業遺産視察一行(国連大学研究員等)	県農政課	3	下松・中井

(2) 視察対応(国内)

月	日	視察者	人数	対応者
4	2	鰐淵衆議院議員一行(草津市矢橋中間水路)	2	中井
4	3	中華民国台北動物園	2	中井
4	18	企業連携感謝状贈呈式および意見交換会参加者	23	高橋
4	20	日本ソフト開発新入社員研修		高橋
5	17	世界農業遺産視察団(滋賀県農政水産部農政課随員)	5	大塚・中井
5	20	大阪市立大学理学部	2	中井
6	1	近畿管内信用保証協会定例会議	21	高橋
6	1	株式会社修成建設コンサルタント	2	北井
6	23	株式会社日立建機ティエラ	42	高橋

月	日	視察者	人数	対応者
7	12	三菱電機ビルテクノサービス株式会社	10	高橋
7	24	環境省近畿地方環境事務所長	3	篠原・中井
8	4	ダイハツ工業株式会社 学習会	45	高橋
8	4	株式会社日吉 学習会	60	高橋
8	20	滋賀県庁インターンシップ実習生（滋賀県流域政策局）	4	北井
8	21	笹川博義・環境大臣政務官一行	3	篠原・高橋・中井
8	22	滋賀県庁インターンシップ実習生（滋賀県南部土木事務所）	4	北井
8	23	環境省生物多様性センター職員	2	中井
8	31	リトルワールド	3	芳賀
9	3	農業・食品産業技術総合研究機構研究員現地視察団	2	中井
9	6	総務省職員による補助金実施箇所の現地確認	2	中井
9	7	琵琶湖保全再生推進協議会幹事会	25	篠原・高橋・中井
9	8	公益財団法人ホシザキグリーン財団	16	奥野・小林
9	12	公益財団法人とうきゅう環境財団		松田
9	13	みのり保育園	30	北井
9	16	エデュネット	20	榊永
9	28	立教大 ESD 研究所一行	4	松田
10	3	滋賀県建設技術センター	2	北井
10	9	奈良中央卸市場	3	金尾
10	12	観樹教育基金会（フジトラベルサービス）	29	亀田
10	16	彦根市多景地区社会福祉協議会	45	高橋
10	17	茨城県立歴史館	4	篠原・榊永
10	18	衆議院事務局決算行政監視調査室		高橋
11	14	第78回近畿府県監査委員協議会参加委員		高橋
11	16	滋賀県議会環境・農水常任委員会県内行政調査	25	篠原・高橋
11	23	自然環境保全京都府ネットワーク	40	大塚・中井
11	29	滋賀県住環境デベロッパー協会	10	金尾
12	11	島根県立三瓶自然館	3	中村
12	13	（独）国立科学博物館（運営・施設整備調査）	5	梅村・中井
12	21	山口県立山口博物館		小林
1	18	大淀川学習館		芳賀
1	24	環境省水・大気環境局長	8	高橋
2	8	滋賀県建設技術センター	20	林
2	12	滋賀県議会議員（津田江内湖）	2	中井
2	18	参議院環境委員会議員視察団	20	高橋・中井
2	22	大阪府島本町立第二中学校		小林
2	27	環境省自然環境局生物多様性主流化室（南湖東岸）	2	中井
3	3	橿原考古学研究所	10	林
3	12	薩摩川内市甕ミュージアム恐竜化石等準備室	2	八尋・中井・鈴木
3	13	企業連携感謝状贈呈式および意見交換会参加者	22	高橋
3	15	千葉県立中央博物館	1	亀田
3	27	企業連携感謝状贈呈式参加者	5	高橋

(3) 博物館実習

・期間：8月27日（月）～8月31日（金）までの5日間

大学生が学芸員の資格を取得するための実習を開催した。国内11大学、14名の大学生を対象に、琵琶湖博物館の基本理念・活動方針と、それに基づく資料整備、交流、展示などの活動について、講義および実習を行った。最終日には課題の発表会を行い、博物館職員との意見交換も行われた。

・実習日程と内容

月日	内容（午前）	内容（午後）
8月27日（月）	<ul style="list-style-type: none"> 全体オリエンテーション 講義「琵琶湖博物館の概要」 講義「琵琶湖博物館の研究活動」 	<ul style="list-style-type: none"> 講義「博物館での展示」 見学「常設展示室の見学」
8月28日（火）	<ul style="list-style-type: none"> 講義「博物館資料とその整理について」 講義「IPMについて」 見学「収蔵庫の見学」 	<ul style="list-style-type: none"> 実習「各資料分野での実習」
8月29日（水）	<ul style="list-style-type: none"> 講義「展示リニューアルと広報・営業」 講義「ユニバーサルデザインと博物館」 講義「企画展示について」 	<ul style="list-style-type: none"> 実習「発表課題内容の検討」
8月30日（木）	<ul style="list-style-type: none"> 講義「環境学習と博物館」 	<ul style="list-style-type: none"> 実習「発表課題の準備とまとめ」
8月31日（金）	<ul style="list-style-type: none"> 講義「琵琶湖博物館における交流事業」 講義、実習「学校連携および体験学習プログラム」 	<ul style="list-style-type: none"> 実習成果発表会 修了式

・実習生の大学と人数：9大学、15名（内訳）

所 属	人 数	所 属	人 数
京都精華大学	1	名城大学	1
近畿大学	3	京都造形芸術大学	1
北海道大学	1	京都橘大学	1
東京農業大学	1	中部大学	1
龍谷大学	2	成安造形大学	1
宮崎大学	1	合 計	14

5 対話と応援ができる博物館

利用者主体の事業

(1) フィールドレポーター

フィールドレポーター制度とは、滋賀県内の自然とくらし・文化について、地域の方々に身の回りの調査をしていただき、得られた情報を博物館の展示、交流、研究活動に活かす「地域学芸員」のような制度である。博物館に登録票を提出すれば誰でも参加できる。任期は1年で、更新すれば何年でも引き続き行うことができる。2018年度の登録者数は218名（2017年度登録更新者204名）である。

フィールドレポーターの主な活動は、月2回（原則第1・3土曜日）の定例会の開催、1年に2回程度のアンケート型調査の企画・実施とその結果をまとめた報告書「フィールドレポーターだより」の編集・印刷・発行、館内の展示および更新、自由交流型調査のまとめと掲示板発行、館内外で開催される交流会・イベントなどの実施・参加がある。これらの活動は、フィールドレポーターの有志からなる「フィールドレポータースタッフ」によって支えられている。2018年度は、フィールドレポータースタッフを中心に、毎月第1・3土曜日（原則）の『定例会』等の会合・行事を計27回開催した。

2018年度のアンケート型調査として、4月から7月にかけて「オオキンケイギクを調べよう」調査、10月から12月にかけて「生まれ！モミジ（カエデ）の仲間たち」調査を実施した。調査票の作成や報告書執筆に関しては、オオキンケイギク調査はフィールドレポータースタッフの柁島昭紘氏、カエデ調査は同スタッフの前田雅子氏が中心になって行った。2017年度の「橋の名前を調べましょう」調査、2018年度の「オオキンケイギクを調べよう」調査について、報告書として「フィールドレポーターだより」計2号（通巻50, 51号）を発行し、琵琶湖博物館ウェブサイトで公開した。

自由な内容で身近な情報を随時報告する「自由交流型調査」については、「フィールドレポーター掲示板」計4号（通巻91-94号）を発行し、琵琶湖博物館ウェブサイトで公開した。フィールドレポーター掲示板の編集長は、フィールドレポータースタッフの中野敬二氏が務めた。

フィールドでの観察会や調査会としては、2008年から継続している「アキアカネふるさと探し」調査として、びわこバレイ蓬萊山頂付近でのアキアカネのマーキング調査（8月4日）と、大津市伊香立での追跡調査（10月13日）を実施した。

琵琶湖博物館の事業では、企画展示と「びわ博フェス2018」に参加し、ワークショップ「カエデを知って、カエデを楽しもう -カエデの仲間クイズとしおり 作り-」を実施した。紅葉の時期かつ、レポーター調査で扱っている話題ということで、紅葉した葉を用いて「しおり」づくりをしたり、カエデに関するクイズを参加者に答えてもらうというもので、受付をせずに参加した人も含めると、95名以上の参加があり好評だった。また、11月26-28日には台湾にて開催された「新エコミュージアム」台日フォーラムに同スタッフの前田雅子氏が講師として招かれ、カイツブリ調査についてワークショップを行った。今年度は調査を軸とした活動の中に、交流や調査報告を織り交ぜた多彩な活動を展開した年となった。

	月日	出席数	内 容	
1	4月7日	10	定例会	橋の名前調査の現状報告、オオキンケイギク調査内容の検討
2	4月21日	10	定例会	橋の名前調査の分担作業、オオキンケイギク調査資料発送
3	5月5日	12	定例会	交流会の準備、発表内容の確認（担当学芸員参加）
4	5月12日	12	臨時会	交流会の最終調整
5	5月19日	8	交流会	フィールドレポーター交流会、掲示板91号の原稿分担
6	6月2日	22	定例会	掲示板91号の最終調整、アキアカネ調査起案

	月日	出席数	内 容	
7	6月16日	10	定例会	掲示板91号発送
8	7月7日	10	定例会	橋の名前調査の現状報告、オオキンケイギク調査内容の検討
9	7月21日	8	定例会	アキアカネ調査の詳細確認、オオキンケイギク調査中間報告
10	8月4日	17	調査	びわ湖バレイにてアキアカネ調査
11	8月18日	11	定例会	掲示板92号の内容調整、アキアカネ調査報告
12	9月1日	10	定例会	掲示板92号の最終調整、びわはくフェス参加確認
13	9月15日	12	定例会	掲示板92号の発送、海外の研修生と交流
14	10月6日	10	定例会	カエデ調査資料発送、びわはくフェスのワークショップ内容
15	10月13日	9	調査	融神社にて、アキアカネ調査
16	10月20日	12	定例会	カエデ調査の勉強会、びわはくフェスのワークショップ準備
17	11月3日	6	定例会	びわはくフェスのワークショップの役割分担
18	11月17日	11	定例会	びわはくフェスのワークショップの準備
19	11月18日	12		びわはくフェス（参加者95名）
20	12月1日	12	定例会	オオキンケイギク調査のまとめ
21	12月15日	14	定例会	オオキンケイギク調査のまとめ
22	1月12日	9	定例会	橋の名前調査のまとめ、掲示板93号の内容調整
23	1月19日	10	定例会	オオキンケイギク調査（たより51号）と掲示板93号発送
24	2月2日	8	定例会	カエデ調査進捗報告、橋の名前調査原稿内容最終詰め
25	2月16日	12	定例会	橋の名前調査（たより51号）発送、交流会日程内容の決定
26	3月2日	7	定例会	掲示板94号の内容確認、次年度調査内容の討議
27	3月16日	9	定例会	掲示板94号・交流会のチラシの発送

(2) はしかけ制度

「はしかけ制度」は、琵琶湖博物館の理念に共感し、博物館活動をともに創っていこうとする利用者のための登録制度として、2000年8月に発足した。「はしかけ」という名称は、様々な活動を通して博物館と地域との橋渡し役となってもらうことを希望してつけられた。この制度に登録すると、博物館の様々な事業・研究にかかわることができ、さらに新しい活動を提案して自ら展開することも可能である。活動に参加するためには、最初に琵琶湖博物館の理念とはしかけ制度の概要を理解するための登録講座を受講し、加えてボランティア保険に加入する必要がある。また、活動は原則としてグループで行うこととしている。登録更新票の提出とボランティア保険への加入により、1年毎に何回でも更新できる。

2018年度は登録講座を、5月13日（日）、9月23日（日）、3月10日（日）の3回実施し、それぞれ11名、31名、42名の新規登録者があり、2018年度末の会員数は387人となった。

はしかけの各グループは、それぞれのテーマをもって多岐にわたる活動を行い、琵琶湖博物館の設置理念と、中長期基本計画の核心である「地域だれでも・どこでも博物館」の実現への推進力となってきた。2018年度には3グループ増加し25グループでの活動展開となり、1グループが翌年度の新設に向けて準備中である。

各グループの活動

〇うおの会

会長：中尾博行 担当学芸員：松田征也 会員数：64名

〔設立の趣旨〕「魚を愛し、魚採りを楽しもう。魚とその棲息環境を将来に残そう。魚とその棲息環境の現状

を調査し、その姿を証拠として記録しておこう」という目標のもと、お魚採りが大好きな人々が集まって結成されたうおの会。魚つかみを楽しみながら調査結果を記録として残し、身近な環境を見つめなおすことを目的としている。2000年の発足以来、お魚採りが大好きな会員が結集し、博物館を活動の拠点としながら、調査によって得られた成果を活用し、身近な環境に棲息している魚たちの情報を21世紀初頭の記録として貴重な博物館資料とすることを目指している。

[活動の概要] 原則として月1回の定例調査を琵琶湖流域の各地で開催するとともに、各会員が日常的に調査活動を実施している。定例調査は原則として河川単位で実施しており、今年度は比較的小規模な河川、水路を対象とした。その結果、49種、3469尾の採集記録を残すことができた。また、会員の研鑽の場として、冬季には京都水族館の見学会と勉強会を実施した。調査活動のほかに、琵琶湖博物館行事「びわ博フェス2018」への参加をはじめとして、琵琶湖を戻す会、早崎内湖再生保全協議会、水資源機構、草津市不動産自治会等の各種団体による自然観察会や環境学習等への協力を行った。12月には長年の活動が評価され、水環境学会関西支部の「第13回社会・文化賞」を受賞することができた。活動計画の立案や他団体への協力、調査活動の運営、活動上の諸課題の解決等は、13名の運営委員が中心となって行った。

「うおの会」のおもな活動

・定例調査などの活動一覧

活動日	内 容	参加者数
4月15日	第133回定例調査 和邇川	雨天中止
5月20日	第134回定例調査 旧高島町・安曇川町の小河川（金丸川等）	23名
6月17日	第135回定例調査 塩津大川、岩熊川	18名
7月15日	第136回定例調査 旧石部町～水口町周辺野洲川支川、水路	22名
7月29日	エリ漁体験と湖魚料理（エリ漁体験は台風接近のため中止）	21名
9月16日	第137回定例調査 旧近江町周辺小河川（土川等）	15名
10月21日	第138回定例調査 宇曾川～愛知川間の小河川（不飲川等）	18名
11月17日	びわ博フェス2018 出展（スタッフ14名、来場者約100名）	
11月18日	第139回定例調査 中の井川	11名
12月16日	第140回定例調査 下物周辺小河川（琵琶博周辺）	26名
1月20日	京都水族館見学会	30名
2月17日	勉強会（環境DNA調査とうおの会の調査） データまとめ会（兼はしかけ更新受付）	28名
3月31日	総会	

（上記の他に運営会議を3回開催）

・各種行事・団体への参加・協力一覧

活動日	内 容	参加者数
7月22日	ウォーターステーション琵琶「水辺の匠」にて講演	1名
8月4日	早崎ビオトープ観察会にて観察会講師	4名
8月18日	滋賀県「烏丸ビオトープ観察会」にて観察会講師	1名
10月10・24日	宇治市生涯学習センター「環境講座」講師	2名
10月28日	水資源機構「お魚里帰り大作戦2018（新浜ビオトープ）観察会講師	1名
11月10日	草津市不動産自治会「ふるさと環境を守る会」にて観察会講師、講演	1名
12月11日	水環境学会関西支部 第13回社会・文化賞受賞講演・表彰式	2名

（その他の事業に協力：琵琶湖を戻す会各活動（「第17回琵琶湖外来魚駆除の日」等）、琵琶湖お魚探検隊体験学習会）

○近江 巡礼の歴史勉強会

世話役：福野憲二、吉井 隆、関谷和久 担当学芸員：橋本道範、渡部圭一 会員数：4名

[設立の趣旨] 近江の巡礼について、歴史的背景や現状確認を視野に入れ調査を行い、宗教関係者、郷土史家、教育関係者、行政関係者など各種専門分野と勉強会、見学会などを行うことを目的として「近江 巡礼の歴史勉強会」を設立。“近江の祈り”研究の一つとして、甲賀市で発見された福野家古文書「甲賀准四国設立由来」と「朱印帳」をもとに写し四国八十八ヶ所(注)の調査活動に着手する。

(注)甲賀准四国八十八ヶ所は、滋賀県の四国巡礼として明治 45 年に設立された唯一の「写し四国八十八ヶ所」である。真言宗の寺院だけでなく宗派を超えた組織を構成していることは特筆すべきことであるが、現在は残念ながら霊場巡礼の慣習が薄れ、その存在も忘れられかけている。しかし、今も多くの寺院には掛額や弘法大師像、札所の石碑などが残されており、その現状を調査し記録することに意義があると考えられる。

[活動の概要]

- ・「甲賀准四国設立由来」に基づき 8 名の発起人を訪ね甲賀准四国に関する資料等の発掘を行い設立の経緯と巡礼の広がりを探る。
- ・各寺院を訪問し住職と面談することで、甲賀准四国の現在の状態を把握し、あわせて新たな資料を発掘する。
- ・朱印帳などを手掛かりに広がり具合を調査し人々を巡礼に駆り立てる要因を探る。
- ・西国三十三所や近江西国三十三所の観音信仰との関連について調査し巡礼の実態を探る。

[2018 年度活動結果報告]

- ・甲賀准四国の調査活動として一ヶ寺ごとの二次調査を行いデータ集積をした。
- ・西国札所寺院や大峰山寺、飯道寺などの訪問で巡礼の広がりを調査した。
- ・甲賀市岩上地区文化祭でパネル展示を実施して調査結果を発表した。
- ・地元の歴史講座や郷土史会の講演、県職員の近江地元学研修で成果を報告した。

「近江 巡礼の歴史勉強会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
4 月 10 日	水口町宇川の永昌寺を再訪	甲賀市水口町
5 月 13 日	はしかけ登録講座	琵琶湖博物館
7 月 9 日	竹生島宝巖寺（西国霊場）の訪問	長浜市竹生島
7 月 20 日	岩根不動寺設立者への連絡	湖南市岩根
8 月 3 日	大峰山登山と龍泉寺を訪問	奈良県吉野郡
8 月 4 日	松尾寺、矢田寺を訪問	奈良県大和郡山市
8 月 18 日	いわがみ歴史探訪（甲賀准四国について）	甲賀市水口町
9 月 26 日	県職員の近江地元学研修で千光寺を訪問	甲賀市水口町
10 月 16 日	葛木安楽寺と寺庄慈音院を訪問	甲賀市甲南町
10 月 20 日	いわがみ歴史探訪（千光寺と八坂神社）	甲賀市水口町
11 月 11 日	岩上地区文化祭でパネル展示（巡礼の歴史）	甲賀市水口町
11 月 17 日	いわがみ歴史探訪（飯道寺）	甲賀市水口町
12 月 15 日	いわがみ歴史探訪（新城観音堂と行者堂）	甲賀市水口町
12 月 22 日	浄土寺石碑の拓本採集 1 回目	甲賀市水口町
12 月 25 日	浄土寺石碑の拓本採集 2 回目	甲賀市水口町
1 月 10 日	野尻七ツ池地藏堂を再訪	甲賀市甲南町
1 月 24 日	水口町郷土史会で活動報告	甲賀市水口町

活動日	内 容	場 所
2月 18日	飯道山登山	甲賀市水口町
3月 18日	江州岩上講春の大祭に参加	甲賀市水口町
3月 21日	近江 巡礼の歴史勉強会の報告会実施	琵琶湖博物館

*上記活動を通じた住職との面談実績について

甲賀准四国対象寺院 98ヶ寺のうち、調査可能な寺院数は兼帯の寺院も合わせて 92ヶ寺、廃寺・老朽化で調査不可能な寺院数は 6ヶ寺である。その中で現在までに住職との面談が実施できた寺院数は 18ヶ寺（進捗率 19.5%）である。

○淡海スケッチの会

担当学芸員：篠原 徹、榊永一宏 会員数：6名

[設立趣旨] 滋賀県内の現場へ赴き、絵画や俳句等により、風景やものを写生することを目的とする。

[活動概要] 月 1回（基本的に第 4日曜日）、滋賀県内各地でスケッチ会等を開催。2015 年秋に設立。

風景に限らず、植物や博物館内の魚などをスケッチしたり、専門家の話を伺う機会も設けている。

「淡海スケッチの会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者数
4月 22日	写生会・吟行	葛川、朽木	5名
5月 27日	写生会・吟行	針江、生水の郷（近江八幡）	6名
6月 24日	写生会	あじさい園（守山市）	5名
7月 22日	写生会	琵琶湖博物館	4名
8月 18日	写生会	琵琶湖博物館	3名
9月 23日	写生会	平湖（草津市）	2名
10月 28日	ポスター作り	琵琶湖博物館	
11月 25日	写生会	水が浜（近江八幡市）	2名
12月 23日	ミーティング	琵琶湖博物館	5名
1月 27日	写生会	琵琶湖博物館	5名
2月 24日	写生会	琵琶湖博物館	6名
3月 24日	写生会	水口	

○近江はたおり探検隊

運営・ホームページ担当：辻川智代 担当学芸員：渡部圭一 会員数：10名

[設立の趣旨] 2004 年度、民俗資料展「糸を紡いで布を織る」での機織り体験講座がきっかけとなり、展示終了後、結成。「地域に残された人とモノから近江の機織り文化を探究し、現在、失われてしまった近江の良さを再発見し、地域の人々とともにその良さを伝えていく」ことを目的に活動している。

[活動の概要] 博物館に収蔵される機織り用具の調査を通じ、地域に残る機織りの技を再現することを目標とし、織姫の会、研究会、はたおり探検などの活動を行っている。平成 18 年度から「野良着部会」で琵琶湖南部特有の縞柄の藍染木綿の復元を進めている。

「近江はたおり探検隊」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	担当者・参加者
4月 11日	織姫の会	生活実験工房	参加者：4名
4月 28日	織姫の会	生活実験工房	参加者：3名
5月 9日	織姫の会	生活実験工房	参加者：3名
5月 26日	織姫の会	生活実験工房	参加者：2名

活動日	内 容	場 所	担当者・参加者
6月 6日	織姫の会	生活実験工房	参加者：4名
6月 30日	織姫の会	生活実験工房	参加者：4名
7月 11日	織姫の会	生活実験工房	参加者：2名
7月 28日	織姫の会	生活実験工房	参加者：3名
9月 15日	織姫の会	生活実験工房	参加者：5名
9月 30日	織姫の会	生活実験工房	参加者：5名
10月 10日	織姫の会	生活実験工房	参加者：3名
10月 27日	織姫の会	生活実験工房	参加者：2名
11月 17日	びわ博フェス「自然素材でヒンメリ風オーナメントをつくろう」	生活実験工房	参加者：5名 体験者：23名
11月 28日	織姫の会	生活実験工房	参加者：4名
12月 8日	わくわく探検隊「綿に触れてみよう」に協力	生活実験工房	参加者：4名
12月 23日	織姫の会	生活実験工房	参加者：3名
1月 9日	織姫の会	生活実験工房	参加者：4名
1月 26日	織姫の会	生活実験工房	参加者：3名
2月 6日	織姫の会	生活実験工房	参加者：3名
2月 28日	織姫の会	生活実験工房	参加者：3名
3月 6日	織姫の会	生活実験工房	参加者：3名
3月 23日	織姫の会	生活実験工房	参加者：3名

○大津の岩石調査隊

代表者：梅澤正夫 担当学芸員：里口保文 会員数：21名

[設立の趣旨] 市街地から近い音羽山の地域を中心に歩いて、ハイキングするような心持ちで、地域の岩石など地質の勉強をしながら調査を行なっていきたい。

[活動の概要] 大津市周辺地域を中心に、この地域で見られる岩石やそれに伴う地質事象（断層など）の観察と調査を行った。また、岩石薄片作成の実習を行うとともに、岩石の種類を考えるための基礎的な勉強会をおこなった。びわ博フェスでは活動紹介のポスターを掲示し、1日目には大人のディスカバリーの岩石コーナーにて、各隊員が興味をもった岩石についての発表を行った。ただし、主な参加者は隊員であった。11名の報告者に本行事へのアンケートをとった。皆さん、来年度も実施したいとのことで、意識の向上に寄与した。

「大津の岩石調査隊はしかけ」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者
4月 21日（土）	岩石薄片の作成と観察	琵琶湖博物館	9名
5月 27日（日）	大津市の吾妻川周辺の断層や断層粘土の調査 （案内者：梅澤）	大津市・吾妻川 周辺の山歩き	11名
6月 16日（土）	大津市上田上～桐生付近の岩石と鉱物の調査 （案内者：山野井・斎藤）	金勝山付近	9名
7月 16日（日）	新展示室「大人のディスカバリー」の岩石コーナーの紹介 相模川周辺の調査報告（梅澤）、勉強会（講演者：中野） 薄片作成と顕微鏡観察	琵琶湖博物館	11名
8月 22日（水）	岩石と薄片観察ための勉強会（発表者：中野）	琵琶湖博物館	11名
9月 15日（土）	岩石薄片作成	琵琶湖博物館	10名
9月 16日（日）	岩石薄片作成	琵琶湖博物館	7名
10月 13日（土）	びわ博フェスで行うワークショップの相談、岩石薄片作成	琵琶湖博物館	7名

活動日	内 容	場 所	参加者
10月 14日 (日)	岩石薄片作成	琵琶湖博物館	4名
11月 7日 (水)	岩石薄片作成、岩石の同定勉強会、びわ博フェスのワークショップ準備	琵琶湖博物館	6名
11月 17日 (土)	びわ博フェスへの参加とワークショップの開催	琵琶湖博物館	11名
12月 9日 (土)	野洲川に露出する古琵琶湖層群の調査と河原の石の観察 (案内者：里口)	湖南市・野洲川	16名
1月 20日 (日)	大人のディスカバリーの顕微鏡を使った各人の発表による勉強会（それぞれが発表）、琵琶湖形成の勉強会 (発表者：里口)	琵琶湖博物館	13名
2月 24日 (日)	琵琶湖形成の勉強会（発表者：里口）	琵琶湖博物館	10名
3月 23日 (土)	京都市・鞍馬山の岩石観察（案内者：三上）	京都市（鞍馬山）	9名

○温故写新

連絡係：谷口雅之 担当学芸員：金尾滋史 会員数：25名

[設立の趣旨] 写真とカメラを愛し、撮影を楽しむ人たちのはしかけグループ。主に滋賀県内における感動的な美しい生命の活動、人の生活や自然の移りゆく様子を記録に残し、写真を通じて博物館活動に貢献することを主旨とする。

[活動の概要] 今年度は「ふと気付く、滋賀の自然」をテーマとして、博物館周辺や身近な自然や生き物の撮影を行った。また、びわ博フェスではこのテーマに関連した写真の展示を行ったほか、館内の写真記録係として、それぞれのイベントの様子を撮影した。このほか、大橋コレクションの活用に向けた資料整理や博物館展示に必要な写真素材の提供を行った。

「温故写新」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者数
4月 21日(日)	おでかけ撮影会～からすま半島周辺～	博物館周辺、からすま半島	9名
5月 12日(土)	おでかけ撮影会～からすま半島周辺～	博物館周辺、からすま半島	9名
6月 24日(日)	おでかけ撮影会～守山・芦刈園～	芦刈園（守山市）	8名
7月 28日(土)	おでかけ撮影会～伊吹山～	伊吹山山頂	中止
8月 18日(土)	びわ博フェス出展内容の検討	博物館会議室	6名
9月 29日(日)	おでかけ撮影会～からすま半島周辺～	博物館周辺、からすま半島	中止
10月 27日(土)	びわ博フェスの準備	博物館会議室	8名
11月 17日(土) ・18日(日)	びわ博フェスでの写真展、写真撮影	博物館	のべ16名
12月 15日	おでかけ撮影会～からすま半島周辺～	博物館周辺、からすま半島	9名
1月 19日	大橋コレクション整理作業	博物館会議室	6名
2月 3日	おでかけ撮影会～からすま半島周辺～	博物館周辺、からすま半島	9名
3月 13日	2018年度総会	博物館会議室	12名

その他の活動

- ・博物館行事や他はしかけグループの活動における写真記録
- ・博物館の行事チラシ、展示などへの写真提供

○暮らしをつづる会

代表：中尾京子 担当学芸員：渡部圭一 会員数：1名

[設立の趣旨] 地域の生活のあり方を考えながら地域の生活話を記録に残し、伝えていくことを目指している。

[活動の概要] 2018年度は活動休止

○古琵琶湖発掘調査隊

会長：堀田博美 事務局長：安原 輝 担当学芸員：山川千代美 会員数：32名

〔設立の趣旨〕 多賀町四手で計画された 180 万年前の古琵琶湖層群調査(多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト)において、市民参加の方々を指導し、自らも研究できるような人材になることを活動の目的としている。

〔活動の概要〕 本年度は、昨年度の活動で見えてきた『今後の活動に必要なことは何か・学ばなければならないことは何か』という課題を発展させる形で活動をおこなった。

勉強会では、今後の野外での調査活動に役立つと思われる、化石の探し方や楽しみ方、屋外活動時の注意点などについて学んだ。また、地層や堆積環境の勉強会では、地層についての基礎的な解説と共に、新たな視点からの学習として、最新の研究内容に基づいた琵琶湖の生い立ちや琵琶湖が存在し続けている理由などについての講義を聴講した。足跡化石・生痕化石の勉強会では、凸型剥ぎ取り標本や産出状況のトレースからどのようなことが読み取れるかを、ディスカッション形式で学んだ。いずれの勉強会も、第一線で活躍しておられる方を講師に、多彩で充実した内容の講義だった。

室内の活動では、昨年度より継続しておこなっている『多賀の発掘現場の土から微小な化石を探す作業』を中心に、古琵琶湖発掘調査隊独自の調査・研究にも取り組んだ。また、その作業で採取した標本を、琵琶湖博物館・おとなのディスカバリー内のオープンラボで同定・スケッチ・整理作業をおこなうなど、新たな施設や設備も活用し、会員同士で協力、工夫をしながら教えあい、積極的に議論するなど、自主的に学ぶ活動をおこなった。

『びわ博フェス』では、ポスター展示に加え、ポスター前で来館者の方々に古琵琶湖発掘調査隊の活動について説明した。また、4月に実施された『多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第六次発掘調査』では、親子化石発掘体験のお手伝いをして、一般の方々との交流活動もおこなった。

本年度は、これまでの当はしかけグループの活動に対して、多賀町教育委員会から表彰を受けることとなった。これは、あけぼのパーク開館 20 周年記念事業として、図書館、博物館、文化財センターに継続的に協力をしているいくつかの団体に対し感謝状が贈呈されたもので、2018年11月3日、会員数名が記念式典に出席し、感謝状と記念品をいただいた。

「古琵琶湖発掘調査隊」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
4月 21日～ 30日	多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第六次発掘調査に参加	滋賀県犬上郡多賀町
6月 1日	6月3日の活動に向けての準備	琵琶湖博物館
6月 3日	多賀の発掘現場の土から微小な化石を探す作業	琵琶湖博物館
7月 12日	7月14日の活動に向けての準備	琵琶湖博物館
7月 14日	多賀の発掘現場の土から微小な化石を探す作業	琵琶湖博物館
8月 11日	化石の探し方・楽しみ方についての勉強会	琵琶湖博物館
9月 16日	地層や堆積環境についての勉強会	琵琶湖博物館
11月 3日	あけぼのパーク多賀 開館 20 周年記念式典への出席・記念講演会の聴講	あけぼのパーク多賀
11月 17日～ 18日	びわ博フェスでのポスター展示	琵琶湖博物館
11月 29日	12月1日の活動に向けての準備	琵琶湖博物館
12月 1日	足跡化石と生痕化石についての勉強会・多賀の発掘現場の土から微小な化石を探す作業	琵琶湖博物館
1月 12日	多賀の発掘現場の土から微小な化石を探す作業で採取した標本の同定・整理作業	琵琶湖博物館・オープンラボ
2月 9日	第34回 地学研究発表会にて会員2名が研究発表	滋賀大学大津サテライトプラザ

活動日	内 容	場 所
2月 11日	多賀の発掘現場の土から微小な化石を探す作業で採取した標本の同定・整理作業	琵琶湖博物館・オープンラボ
3月 17日	総会	琵琶湖博物館

○湖（こ）をつなぐ会

代表：中山法子 担当学芸員：林 竜馬 会員数：5名

[設立の趣旨] 「うた」を通じて、琵琶湖の文化的・社会的価値を再発見することをめざす。

[活動の概要] 子ども達に歌ってほしい琵琶湖の歌として生まれた「生きている琵琶湖」を広く知ってもらう活動をしている。琵琶湖博物館に来館した小さな子ども達に「びわこの旅」の紙芝居を使いながら、琵琶湖といきもの達との関わりを少しでも理解してもらえるように伝え、「生きている琵琶湖」がどこかで聞いたことがある歌だなと思ってもらえるようになればと活動を続けている。

「湖（こ）をつなぐ会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
4月 21日(土)	紙芝居「びわこの旅」上演 「生きている琵琶湖」合唱 紙芝居「ウンチくんのぼうけん」上演	琵琶湖博物館アトリウム
6月 30日(土)	紙芝居「びわこの旅」 「生きている琵琶湖」合唱 紙芝居「かやねずみのおかあさん」上演	琵琶湖博物館アトリウム
8月 25日(土)	紙芝居「びわこの旅」 「生きている琵琶湖」合唱 紙芝居「かやねずみのおかあさん」上演	琵琶湖博物館会議室
10月 13日(土)	紙芝居「びわこの旅」 「生きている琵琶湖」合唱 紙芝居「かやねずみのおかあさん」	琵琶湖博物館アトリウム
11月 18日(日)	びわ博フェス 2018 紙芝居「びわこの旅」上演 「生きている琵琶湖」合唱 ビービー笛演奏「かえるのうた」	琵琶湖博物館会議室
1月 27日(日)	紙芝居「びわこの旅」 「生きている琵琶湖」合唱 紙芝居「かやねずみのおかあさん」	琵琶湖博物館アトリウム
3月 10日(日)	紙芝居「びわこの旅」 「生きている琵琶湖」合唱 紙芝居「かやねずみのおかあさん」 はしかけ登録講座	琵琶湖博物館アトリウム

○ザ！ ディスカバはしかけ

担当：中村久美子、妹尾裕介 会員数：8名

[設立の趣旨] 子どもからお年寄りまでディスカバリールームを訪れる方々に展示のメッセージがよりよく伝わるように分かりやすく楽しい空間を創ることをめざしている。

[活動の概要] 2005年度にイラストや裁縫・人形劇など展示物の作成および補修など個人から始まった活動。ディスカバリールームのリニューアルの最中もプログラムを実施した。メンバーのアイデアを持ち寄り、参加者にも楽しんでもらえた。

「ザ！ ディスカバはしかけ」のおもな活動

実施日	タイトル	内 容
5月 13日(日)	はしかけ登録講座	グループ紹介をしました。はしかけ1名
5月 20日(日)	虹色傘づくりの準備	イベント準備 はしかけ1名
6月 23日(土) ① 13:30- ②14:30-	虹色傘づくり	雨の日に、折り紙でカラフルなミニチュアの傘を作りました。参加者17名

実施日	タイトル	内 容
11月18日(日)	(びわ博フェス)精油の蒸留見学と蒸留水を使ったルームスプレー作り (共同開催：緑のくすりばこ)	屋外展示の植物から抽出液をとり、お好みのアロマを作りました。
12月22日(土)	「はたきを作ろう！」のサポート	毎年恒例はたき作りをリニューアル後初めて実施しました。はしかけ4名
	お手玉イベントの準備	次回以降の打ち合わせと準備
1月6日(日) ①13:30- ②14:30-	お手玉をつくろう	リニューアル後初めての展示室でのイベント。お手玉を作りました。参加者13名
2月11日(月祝) ①13:30- ②14:30-	ふろしきで遊ぼう	初めてのイベント ふろしきを使ったワークショップをしました。参加者13名
3月10日(日)	はしかけ登録講座	活動紹介をしました。

○里山の会

担当職員：山本綾美 草加伸吾 会員数：38名

[設立の趣旨] 交流事業「里山体験教室」の卒業生が中心となり、2001年から活動している。里山体験教室のホスト役を通して、一般市民への里山理解を深める活動や現代における里山利用を実践している。

[活動の概要] 里山の会の主な活動である里山体験教室は、2006年度より野洲市大篠原の里山林を拠点として開催している。当初このフィールドは、林縁部がマント群落に覆われ、枯アカマツが点在し、亜高木のソヨゴやヒサカキに埋め尽くされた暗い林であったが、数年にわたり、小径木、灌木を伐採し、落ち葉をかくことで、少しずつ明るさを取り戻し、林床には芽生えが確認されるようになった。このような雑木林と周辺の自然環境の中で、春の山菜料理、夏の昆虫・生物観察、秋色探し、冬の焚き火(伐採した木々を使い、火おこし術、花炭、焼き芋など里山の燃料を使った遊び)など四季いろいろの里山の恵みや利用を通して里山の価値を感じている。このフィールドを共に利用している他の団体から「はしかけの森」と呼ばれるようになり、活動地域での認知度も高まっている。また、琵琶湖博物館内でそば、きのこ栽培など里山関係の企画を提案し博物館活動に参加している。

「里山の会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
4月15日	里山体験教室(春)下見	野洲市大篠原 はしかけの森
4月22日	里山体験教室(春)本番「里山の春をみつけよう」	野洲市大篠原 はしかけの森
4月30日	山菜パーティ	野洲市市三宅 地先
6月15日	潮干狩り	三重県津市 御殿場浜
7月7日	里山体験教室(夏)下見	台風のため中止
7月16日	里山体験教室(夏)本番「里山の夏を楽しもう」琵琶博フェス準備	琵琶湖博物館
8月19日	そうめん流し、道具類虫干し	琵琶湖博物館
10月6日	里山体験教室(秋)下見 琵琶フェス準備	野洲市大篠原 はしかけの森 琵琶湖博物館
10月14日	里山体験教室(秋)本番「里山の秋さがし」	野洲市大篠原 はしかけの森
11月18日	琵琶博フェス	琵琶湖博物館
1月12日	里山体験教室(冬)下見	琵琶湖博物館
1月20日	焚火を楽しむ会 ※里山体験教室は雨天のため中止	野洲市大篠原 はしかけの森
3月2日	里山の会総会、キノコ菌打ち、木工、山菜試食会	野洲市大篠原 はしかけの森

○植物観察の会

代表者：辻いずみ 担当学芸員：芦谷美奈子 講師：布谷知夫 会員数：18名

[設立の趣旨] 2004年に開催した企画展示「～植物がうごくとき～のびる・ひろく・ひろがる」の準備期間中に、企画展の趣旨に沿って、植物の情報を収集し植物を好きになる人を増やすのを目標に設立した。長年にわたり年に数回の外部観察会のみを行ってきたが、「はしかけ」本来の自主的活動とするため、2017年からメンバー登録し、月に1度「定例会」、年に数回「お出かけ観察会」を行う形とした。

[活動の概要] 2017年4月から登録制とし、月に1回定例会を行った。定例会では、博物館の周りの観察、持ち寄ったものの観察、芦谷先生に水草について教えて頂く会など、季節や天候によって変えながら行った。「お出かけ観察会」は、5月にみずの森、11月に琵琶湖博物館（樹冠トレイルオープン）屋外で布谷先生に講師をお願いして行った。11月の観察会は、はしかけ全体にも呼びかけ、参加を募る形とした。

[活動の振り返り]

- ・今までの知識・経験を含め、分かったことを仲間と共有できる活動となり、楽しむことができた。
- ・独りではできないこともメンバーが集まれば何とかできる！を実感する時間になっている。
- ・以前からの「葉1枚でどこまで分かるか」「種名が全てではないが、図鑑で調べて詳しく知ろうとすると、種名が手かかりとなる」「今まで知らなかったものを見たい、分解して調べたい、見つけたい」をこれからも課題の1つとしていく。
- ・1つのテーマや興味を持つことで、見たいもの、行きたい場所が次々と出てくるので、自分たちメンバーだけのお出かけ観察会も、今年度のように行っていく。
- ・芦谷先生に教えていただく「水草観察（お出かけを含む）」を引き続き、年に1～2回行い、琵琶湖周辺の水草を覚えたい。
- ・これからも年に数回、はしかけの皆さんにも参加してもらえる外部観察会を行っていく。案内として、ニューズレター掲載だけでなく、依頼してはしかけ用メールで流してもらおうと確実に伝わることも分かった。
- ・定例会でなくても、植物観察するために大人のディスカバへ個人的に集まることもできるだろう。大人のディスカバやラボを活用し、個人的にも会としてもそれぞれの活動を充実させ、楽しみを増やしていきたい。

「植物観察の会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者
4月 8日(日)	博物館の周りの観察	琵琶湖博物館 実習室1	9名
5月 20日(日)	お出かけ観察会「みずの森へ行こう」 (メンバーのみ)	草津市、みずの森	9名
6月 3日(日)	カエデをみよう	琵琶湖博物館 実習室1	10名
7月 1日(日)	持ち寄り観察	琵琶湖博物館 実習室1	8名
8月 5日(日)	持ち寄り観察、後期の計画	琵琶湖博物館 ディスカバ内ラボ	8名
9月 9日(日)	お出かけ観察会「水草をみよう」(メンバーのみ)	近江八幡、宮ヶ浜他	10名
10月 7日(日)	持ち寄り観察	琵琶湖博物館 実習室1	5名
11月 24日(土)	博物館の周りの観察 (はしかけ全体へ呼びかけ)	琵琶湖博物館 (樹冠トレイル含む) 屋外、午後 ディスカバ内ラボ	12名
12月 2日(日)	くつつきむし(植物の種子)をみよう	琵琶湖博物館 ディスカバ内ラボ	4名
1月 13日(日)	持ち寄り観察、1～3月の計画	琵琶湖博物館 実習室1	6名
2月	お休み		
3月 3日(日)	持ち寄り観察、来年度の計画	琵琶湖博物館 実習室1	3名

○たんさいぼうの会

会長：津田久美子 担当学芸員：大塚泰介 会員数：21名

[設立の趣旨] 珪藻を中心に、微小生物のハイ・アマチュア研究者の育成を目指す。

[活動の概要] 2002年5月に「珪藻の会」として発足し、研究対象の拡大をねらって「たんさいぼう（単細胞）の会」と改名した。発足以来、珪藻など微小生物の調査・観察・研究を行い、学会発表や研究論文として成果を公表してきた。活動によって得られた標本および成果物は、琵琶湖博物館に提供される。

今年度は、影の会長が会員の協力により、1本の論文（短報）を出版した。また、少なくとも部分的には会の活動成果による学会等での発表が、計7件行われた（下線はたんさいぼうの会会員、二重下線はたんさいぼうの会名義での発表）。ただし今年度は、たんさいぼうの会名義での筆頭著者としての論文、あるいは筆頭発表者としての学会発表は行われなかった。

大塚泰介・芝崎美世子・富小由紀・小滝篤夫・高原 光・林 竜馬・安野敏勝（2019）京都市京丹後市の更新統の堆積環境の推定および日本海側更新統からの珪藻種 *Pseudopodosira kosugii* の初産出. *第四紀研究* (*The Quaternary Research*), 58 : 57-63

山本真里子・大塚泰介（2018年5月20日）干潟堆積物に生息する珪藻の植生—染色法と常法を用いて. 日本珪藻学会第39回大会, 日本珪藻学会, 日本歯科大学新潟歯学部（新潟県新潟市） [口頭発表]

辻 彰洋・服部圭治・大塚泰介（2018年5月20日）固有種は世界汎布種の起源か？—スズキケイソウの起源. 日本珪藻学会第39回大会, 日本珪藻学会, 日本歯科大学新潟歯学部（新潟県新潟市） [口頭発表].

大塚泰介・芝崎美世子・富小由紀・小滝篤夫・高原 光・安野敏勝（2018年5月20日）本州日本海側の更新統から *Pseudopodosira kosugii* の初産出. 日本珪藻学会第39回大会, 日本珪藻学会, 日本歯科大学新潟歯学部（新潟県新潟市） [ポスター発表].

根来 健・大塚泰介（2018年10月27日）琵琶湖産 *Fragilaria crotonensis* の群体のねじれについて. 日本珪藻学会第38回研究集会, 日本珪藻学会, 近畿大学医学部（大阪府大阪狭山市）, [口頭発表].

辻 彰洋・服部圭治・大塚泰介（2018年10月28日）琵琶湖の固有種の紹介と分子系統解析から見た分岐年代. 日本珪藻学会第38回研究集会シンポジウム, 日本珪藻学会, 近畿大学医学部（大阪府大阪狭山市）, [口頭発表].

大塚泰介・服部圭治・富小由紀（2018年10月28日）古琵琶湖層群と東海層群の珪藻化石. 日本珪藻学会第38回研究集会シンポジウム, 日本珪藻学会, 近畿大学医学部（大阪府大阪狭山市）, [口頭発表].

根来 健・大塚泰介（2018年11月3日）ろ過閉塞原因生物 *Synedra* の再検討. 日本水処理生物学会第55回大会, 日本水処理生物学会, 日本大学工学部（福島県郡山市）, [口頭発表].

また、琵琶湖博物館情報誌「びわはく」第2号に、津田会長が会の活動紹介を書いた。

津田久美子（2018）はしかけ探訪 たんさいぼうの会. *びわはく*, 2 : 8.

現在、滋賀県犬上郡多賀町の蒲生層（前期更新世）から産出した化石珪藻の論文が印刷中である。また、愛知県の鉾質土壌湿地群、藤前干潟（愛知県名古屋市）、瀬田公園（滋賀県大津市）、藤ヶ鳴湿原（岡山県岡山市）などの現生珪藻植生の研究を進めている。

「たんさいぼうの会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	担当者・参加者
4月7日	たんさいぼうの会第56回総会・花見	草津市まちづくりセンター	担当：片山慈敏 参加者：10名
5月19・20日	日本珪藻学会第39回大会	日本歯科大学新潟歯学部	参加者：3名
7月22日	たんさいぼうの会第57回総会	琵琶湖博物館	担当：石井千津 参加者：8名
8月23・24日	第35回 水処理生物基礎講座	琵琶湖博物館	講師：根来健・大塚泰介 受講者：3名
9月24日	たんさいぼうの小さな旅XXI 平池	高島市	参加者：5名
10月27・28日	日本珪藻学会第38回研究集会	近畿大学医学部	参加者：5名

活動日	内 容	場 所	担当者・参加者
11月17・18日	びわはくフェスティバルでマイクロアクアリウムを活用したワークショップ	琵琶湖博物館	琵琶湖の小さな生き物を観察する会と共催 参加会員：5名
1月13日	たんさいぼうの会第58回総会・新年会	大津市公民館	担当：山本真里子 参加者：12名

○田んぼの生きもの調査グループ

主担当学芸員：鈴木隆仁 会員数：約10名

[設立の趣旨] 滋賀県に住む人にとって最も身近な水環境である水田に目を向けて、その生物の分布や生態を調査する。

[活動の概要] 5月、6月に滋賀県各地の水田においてカブトエビ・ホウネンエビ・カイエビ類の分布調査を行い、秋までに標本の同定、採集データ登録、分布図作成などを行う。本年度は分布の経年変化を観察するための広域調査をおこなった。また、研究会等での発表により、調査結果の公開も行った。2018年度は、広域の調査を行うため、2～3人でチームに分かれ、滋賀県各地でエビ類を観察する調査を13回、個人による調査を24回、山川による土壌調査3回を行った。調査はグループに分かれて車に分乗し、調査地を回りながら行った。また、共同調査および個人調査で得られたサンプルの同定会を3回、びわ博フェスの打ち合わせを兼ねた結果報告会を2回、びわ博フェスでのワークショップ1回、総会を1回行った。琵琶湖地域の水田生物研究会では山川が口頭発表を行った。

2018年度の調査結果

・2018年広域調査の結果

全体で3352筆を調査し、大型鯰脚類の生息率、生息密度の調査を行った。とくに、今年度は種間の共存関係を検討し、トゲカイエビとホウネンエビに関して、他の多くの種と同時に見られる傾向があることがわかった。また、生息率と生息密度の関係を調べたところ、カイエビ、トゲカイエビに関しては、生息率、生息密度ともに高い場合があり、生息が確認された地域では複数の水田に多数の個体が見られる傾向があった。一方、タマカイエビ、ホウネンエビに関しては、生息率は低いが生息密度は高い場合があり、ある地域において少数の限られた水田に多数出現するという傾向があることが示唆された。

・循環灌漑による影響の調査

循環灌漑を実施する守山市木浜町の129筆、および、蒲生郡竜王町鶴川・薬師の112筆において、大型鯰脚類の出現状況の調査を行った。比較対象には、環境条件は類似するが循環灌漑を実施していない甲賀市などの水田48筆、および、大津市、甲賀市の水田114筆を用いた。その結果、循環灌漑を実施するどちらの地域においても、トゲカイエビの出現率が有意に高くなっており、とくに、トゲカイエビに関して、循環灌漑の影響による分布拡大の可能性が示唆された。

・2019年度の計画

2019年度は、大型鯰脚類の出現条件をより詳細に考察するために、正確な孵化条件、産卵条件、成長状態を観察することを主体として活動を行う予定である。

2018年度業績

2018年12月16日 第9回琵琶湖地域の水田生物研究会 「循環灌漑を実施する水田地域における大型鯰脚類の生息状況の特徴」口頭発表

「田んぼの生きもの調査グループ」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者
5月13日	調査の準備：広域調査の日程確認、調査で使用する瓶などの準備を行った	琵琶湖博物館	8名
5月22日	大津市、近江八幡市、東近江市において2班に分かれ調査を行った	近江八幡・大津・東近江市	3名

活動日	内 容	場 所	参加者
5月23日	大津市南小松、荒川、真野、皇子山～南志賀にかけての調査を行った	大津市	2名
5月26日	3班に分かれ、高島市、甲賀市、大津市南小松の調査を行った	高島・甲賀・大津市	5名
5月29日	2班に分かれ、近江八幡および東近江市の調査を行った	近江八幡・東近江市	4名
6月2日	米原市周辺、および蒲生郡、愛知郡周辺の調査を行った	米原市・蒲生・愛知郡	2名
6月3日	2班に分かれ、蒲生郡、東近江市、守山市周辺の調査を行った	蒲生郡・東近江・守山市	3名
6月4日	長浜市、米原市の調査を行った	長浜・米原市	3名
6月10日	大津市大江周辺の調査を行った	大津市	3名
6月13日	2班で大津市、長浜市の調査を行った	大津・長浜市	3名
7月10日	標本同定会：グライガー氏の手も借り、採集したサンプルの同定を行った	琵琶湖博物館	6名
7月22日	標本同定会：採集したサンプルの同定を行った	琵琶湖博物館	7名
8月25日	標本同定会：採集したサンプルの同定を行った	琵琶湖博物館(オープンラボ)	8名
9月23日	結果報告会：採集したサンプルの同定結果などを報告した	琵琶湖博物館	6名
11月4日	結果報告会：調査報告および、17日のびわ博フェスに向けてのワークショップの打ち合わせを行った	琵琶湖博物館	6名
11月17日	びわ博フェス：作業の一部を体験してもらうべく、サンプル同定体験を行った	琵琶湖博物館	6名
12月16日	水田研究会：琵琶湖地域の水田生物研究会において、研究結果の口頭発表を行った	琵琶湖博物館	7名
3月10日	総会：本年度の調査結果の報告、および来年度の調査の実施予定を決定した	琵琶湖博物館	8名

※調査に関しては上記合同調査以外にも、石井、岡田、前田、山川による個人調査、山川による土壌調査など、合計40回の調査が行われた。

○タンポポ調査はしかけ

代表者：不在 担当学芸員：芦谷美奈子 会員数：8名

[設立の趣旨] 「タンポポ調査・西日本2015」の実施に合わせて、2013年度に設立された。当初は、2年間の期間限定で設立されたグループであったが、タンポポについて深く探求するために、2016年度以降もグループを継続することとした。

[活動の概要] 2018年度は、2018年度は、「タンポポ調査・西日本2020」の準備の年度として、調査全体の実行委員会や調査説明会に参加した。それ以外、グループとしての活動はなかった。

「タンポポ調査はしかけ」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者
3月2日(土)	タンポポ調査説明会 実行委員会・講習	大阪市立自然史博物館	2名

○ちっちゃなこどもの自然あそび「ちこあそ」

担当学芸員：中村久美子 会員数：4名

[設立の趣旨] 幼児期の子どもと保護者が琵琶湖博物館生活実験工房周辺の田んぼ、畑、森などをはじめとする自然環境内で、五感を使って自然に触れ、その楽しさ、面白さを感じ、原体験となるような感動を伝えることを目指しています。

〔活動の概要〕 2012年環境学習センターの「環境ほっとカフェ」イベントとして始まり、2015年度には「親子自然遊びの広場」として開催し、2016年9月からはしかけ活動として立ち上げました。毎月おおよそ第3水曜日に、約10組弱の親子が集い、ルーペを使って様々な自然を見たり、ドングリを拾ったり、畑の作物を調理して頂いたり、五感を使って親子が自然に触れて、楽しめるように実施しています。おおよそ2歳～4歳の幼児と保護者が楽しんでいます。時には0歳児や小学生、おじいちゃんおばあちゃんもおられ、年齢幅広く、自然で遊んでいます。

また、びわ博フェスでは、休日ならではの参加と、初めて生活実験工房前の広場で野点を行うことができました。自然の遊びと自然を活かすお茶の世界をちこあそに参加する皆さんに提供することができました。野点は会員メンバー発案の企画で、会員の個性を活かす機会となりました。本年度も継続して神戸大学との共同研究を実施することができました。子どもや保護者の声を録音し、自然物や展示物と子どもの成長を比較調査しました。結果、ディスカバリールームのリニューアル前後による展示物の違いや、屋外とディスカバリールームでの違いなどを調査研究することができ、幼児期の子どもの自然体験活動の意義や博物館の展示更新の結果などを明らかにすることとなりました。

「ちこあそ」のおもな活動

実施日	タイトル	内 容
4月18日(水) 10:00-14:00	あたたかくなりました。春 を感じて遊ぼう！ ちこあそ4月	ルーペでの自然観察、森の探検、工房の食体験など 参加者：メンバー4人、子ども3人、保護者3人、学生1名
5月16日(水) 10:00-14:00	田んぼに水が入って、カエル も喜んでます！ ちこあそ5月	ルーペでの自然観察、森の探検、工房の食体験など 参加者：メンバー4人、子ども9人、保護者7人、学生1名
6月20日(水) 10:00-14:00	梅雨の雨を感じよう ちこあそ6月	ルーペでの自然観察、森の探検、工房の食体験など 参加者：メンバー4人、子ども2人、保護者2人、学生1名
7月18日(水) 10:00-14:00	暑さに負けず自然と遊ぼう ちこあそ7月	ルーペでの自然観察、森の探検、工房の食体験など 参加者：メンバー4人、子ども9人、保護者6人、学生1名
7月19日(水) 10:00-14:00	夏をいっぱい感じよう ちこあそ7月	ルーペでの自然観察、森の探検、工房の食体験など 参加者：メンバー4人、子ども10人、保護者7人、学生1名
9月19日(水) 10:00-14:00	少し涼しくなり、森遊びが 楽しいよ ちこあそ9月	ルーペでの自然観察、森の探検、工房の食体験など 参加者：メンバー3人、子ども5人、保護者4人、学生1名
10月17日(水) 10:00-14:00	いよいよ秋、森遊びの季節 です ちこあそ10月	ルーペでの自然観察、森の探検、工房の食体験など 参加者：メンバー4人、子ども9人、保護者7人、学生1名
11月17日(土) 10:00-14:00	びわ博フェス ちこあそ拡大版	ルーペでの自然観察、森の探検、工房の食体験など 参加者：メンバー4人、子どもと保護者26人、通りがかりの 参加者20人
11月21日(水) 10:00-14:00	樹冠トレイルもオープンし ました。森を眺めてみま しょう ちこあそ11月	ルーペでの自然観察、森の探検、工房の食体験など 参加者：メンバー4人、子ども9人、保護者8人、学生1名
12月19日(水) 10:00-14:00	寒い冬、だけど森や畑には 遊びと発見がいっぱい ちこあそ12月	ルーペでの自然観察、森の探検、工房の食体験など 参加者：メンバー4人、子ども7人、保護者5人、学生1名
1月16日(水) 10:00-14:00	2019年、今年も博物館の森 や自然の中で楽しみま しょう ちこあそ1月	ルーペでの自然観察、森の探検、工房の食体験など 参加者：メンバー4人、子ども8人、保護者7人、学生1名
2月20日(水) 10:00-14:00	冬から春に向かう自然を見 つけよう！ ちこあそ2月	ルーペでの自然観察、森の探検、工房の食体験など 参加者：メンバー4人、子ども5人、保護者4人、学生1名
3月20日(水) 10:00-14:00	もう春ですね。草や花も、木 も虫も元気いっぱい ちこあそ3月	ルーペでの自然観察、森の探検、工房の食体験など 参加者：メンバー3人、子ども14人、保護者7人

○琵琶湖の小さな生き物を観察する会

会長：渡辺圭一郎 担当学芸員：大塚泰介 会員数：20名

[設立の趣旨] 私たちの身近に住んでいるが普段見ることの出来ない、琵琶湖などの小さな水生生物を観察・記録する。

[活動の概要] 琵琶湖とその周辺水域の小さな水生生物を調査して観察・記録することを目的としている。調査対象は特定の生物群に限定せず、単細胞・多細胞、動物・植物・原生生物、浮遊性・付着性を問わない。今のところ月に1回集まって、琵琶湖沿岸の小さな生き物を採集し、琵琶湖博物館で顕微鏡観察している。

「琵琶湖の小さな生き物を観察する会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者
4月 8日	講習会（水田微小生物の採集法）	琵琶湖博物館	13名
5月 13日	観察会	琵琶湖博物館	11名
5月 26日	観察会	琵琶湖博物館	3名
6月 3日	観察会	琵琶湖博物館	1名
6月 10日	観察会	琵琶湖博物館	7名
7月 26日	観察会	琵琶湖博物館	10名
8月 26日	観察会	琵琶湖博物館	9名
9月 16日	調査・採集	田上山	4名
10月 26日	採集・観察会	琵琶湖博物館	7名
11月 8・9日	琵琶湖フェスでのワークショップ	琵琶湖博物館	8名
12月 9日	採集・観察会	琵琶湖博物館	7名
1月 13日	採集・観察会	琵琶湖博物館	2名
2月 17日	採集・観察会	琵琶湖博物館	2名

○びわたん

担当学芸員：奥野知之・小林偉真 会員数：27名

[設立の趣旨] 「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業を博物館職員とともに運営する。博物館の設置理念である「フィールドへの誘い」をめざし、利用者の視点から「展示室のより深い理解」を参加者に届ける。

[活動の概要] 「琵琶湖博物館わくわく探検隊（通称：わくたん）」事業は、第2土曜日の午後に行われており、来館者に滋賀の人々の暮らしや身のまわりの自然に対する興味・関心を深めてもらうことをねらいとしている。「びわたん」のメンバーは、この事業におけるプログラムの開発や事業当日の参加者との交流などに主体的に関わっている。今年度は、他のイベントから学ぶ目的で、7月には、はしかけグループ「ほねほねクラブ」と「骨にふれてみよう！」を行い、9月には、滋賀県立近代美術館に来て頂き「古代生物をうつし取ろう！」を実施した。他のグループとイベントを行うことで、新たな視点を学ばせていただいた。今後も新たな取り組み（イベント）を考えていくために、来年度は、他のはしかけとコラボする企画を計画している。

「びわたん」のおもな活動

「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業（館内）

活動日	内 容	一般参加者	びわたん
5月 12日	春の草花でしおりを作ろう！	13名	9名
6月 9日	プランクトンを見よう！	33名	14名
7月 14日	骨にふれてみよう！	43名	10名
9月 8日	古代生物をうつし取ろう！	51名	13名

活動日	内 容	一般参加者	びわたん
10月13日	ドキ土器！おしゃれもようを楽しもう！	17名	10名
11月10日	秋の色探しをしよう！	9名	7名
12月8日	綿にふれてみよう！	28名	7名
1月12日	お魚モビールを作ろう！	33名	8名
2月9日	樹冠トレイルを歩こう！	32名	4名
3月9日	火起こし体験をしよう！	33名	11名

〇ほねほねくらぶ

会長：西村有巧 副会長：榎本真司、納屋内高史 広報担当：宇野翔 担当学芸員：高橋啓一、松岡由子
 会員数：大人22名 子ども2名 計24名

[設立の趣旨] 現生あるいは化石の骨に関係した活動を通じて、琵琶湖博物館の研究や交流活動の支援を行い、その楽しさを広く博物館外の人々に伝えることを目的としている。

[活動の概要] 2002年7月に発足。骨に魅せられた仲間が集まり、博物館に持ち込まれるホ乳類をはじめ鳥類や魚類などなど、さまざまな生き物の骨格標本を作っている。毎月1~2回の例会が活動の中心である。2018年度は、普段の活動として標本製作を続けながら、バイカルアザラシの標本制作や7月には、はしかけグループの『びわたん』と協力して、わくわく探検隊のプログラムとして「骨にふれてみよう」を実施した。また、例年同様、琵琶湖博物館で開催された、琵琶博フェス2018に参加、バイカルアザラシのクリーニング過程の公開作業や来館者との交流活動を行った。

「ほねほねくらぶ」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
4月例会	14日 ハクビシンの除肉、標本資料の整理作業	琵琶湖博物館
	22日 ゲンゴロウブナのクリーニング、ボリビアリスザル、ハクビシンの除肉	琵琶湖博物館
5月例会	6日 バイカルアザラシの解剖	琵琶湖博物館
	13日 はしかけ登録会において活動紹介	琵琶湖博物館
	20日 バイカルアザラシの解剖	琵琶湖博物館
6月例会	10日 タヌキの骨格の組み立て作業	琵琶湖博物館
	23日 バイカルアザラシの解剖	
7月例会	7日 わくわく探検隊のための準備作業を行った	琵琶湖博物館
	14日 わくわく探検隊のプログラムとして「骨にふれてみよう！」をはしかけグループ『びわたん』と共催した	
8月例会	5日 カルガモ、イタチの除肉	琵琶湖博物館
	26日 フナの解剖、リスザル、ハクビシン、ルリビタキの骨のクリーニング	
9月例会	8日 イノシシの骨のクリーン。	琵琶湖博物館
	23日 チョウザメの骨のクリーニング はしかけ登録講座において活動紹介をした	
10月例会	14日 スズメ、フナの解剖	琵琶湖博物館
	21日 ウシガエルの解剖、イタチ、カルガモのクリーニング	琵琶湖博物館
11月例会	3日 イタチのクリーニングとハクビシンの除肉	琵琶湖博物館
	17日 ビワ博フェス2018において、バイカルアザラシの骨の洗浄作業の公開実演、合わせて来館者の方との交流活動も行った	
12月例会	1日 バイカルアザラシの骨の整理、ハス（魚）の解剖	琵琶湖博物館
	15日 テンの皮剥ぎとフナの除肉、オオバンの解剖	

活動日		内 容	場 所
1 月例会	13 日	テンの解剖とフナの除肉	琵琶湖博物館
	26 日	ノゴマの仮剥製の制作、テンの解剖	
2 月例会	10 日	ゲンゴロウブナ、テンの除肉、イタチの解剖	琵琶湖博物館
	23 日	イタチの解剖、オオバンの除肉、ハクビシンの骨の整理	
3 月例会	10 日	イタチの除肉、ゲンゴロウブナの除肉、タヌキの除肉、ハクビシンの除肉 はしかけ登録会において活動紹介をした	琵琶湖博物館
	30 日	イタチの除肉、標本資料の整理作業	

○緑のくすり箱

会長：吉野まゆみ 担当学芸員：大槻達郎 会員数：20名

[設立の趣旨] 薬用植物に興味を持ったアロマセラピスト 8 名で設立したグループである。薬用植物だけに限らず、身の回りにある植物を健康生活に生かそうと、普段の生活に使える利用法を実践しながら、研究している。

[活動の概要] 今年度の活動では、よもぎ、ドクダミ、ビワ、七草といった毎年、利用法を交流している薬草に加えて、へちま化粧水や小豆マッサージなど新しい素材を使ったものや、バスソルト、石鹸など生活の中で使用できるものに薬草を使った手作りにも挑戦しました。またびわ博フェスでは、ヒバの蒸留体験とアロマスプレー作りのワークショップを開催しました。大人も子供も楽しめるワークショップになったと思います。

「緑のくすり箱」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	担当者・参加者
4 月	へちまの種まき 各自、家でへちまの種をまく	各自	参加者：6 名
5 月 21 日	よもぎ染め よもぎベーグル作り	琵琶湖博物館 実習室 2	担当：吉野千・吉野ま 参加者：8 名
6 月 20 日	ヘッドローション作り ドクダミチンキ作り	琵琶湖博物館 実習室 2	担当：山本・大羽 参加者：10 名
8 月 22 日	ビワの葉療法 こんにやく湿布	琵琶湖博物館 生活実験工房	担当：加藤・深田 参加者：12 名
9 月 27 日	へちまとまゆ玉化粧水作り 小豆マッサージ・梅干しマッサージ	琵琶湖博物館 生活実験工房	担当：田井中・吉野ま 参加者：11 名
10 月 19 日	薬草バスソルト作り びわ博ポスター作り	琵琶湖博物館 実習室 2	担当：熊谷・吉野ま 参加者：10 名
11 月 18 日	ヒバの蒸留体験とアロマスプレー作り (びわ博フェス 2018)	琵琶湖博物館 生活実験工房	担当：全員 参加者：8 名
1 月 9 日	七草スコーン作り	琵琶湖博物館 実習室 2	担当：堀田・吉野ま 参加者：12 名
2 月 10 日	M&P ソープ作り	琵琶湖博物館 実習室 2	担当：深田・吉野ま 参加者：16 名
3 月 15 日	年度末総会	琵琶湖博物館 研究交流室	担当：全員

○虫架け

代表者：梶田 聡子 担当学芸員：八尋 克郎 会員数：11 名

[設立の趣旨] 昆虫が好きな人が集まって、滋賀県内の昆虫の分布調査を行うことを大きな目標にしている。また、採集方法等講座の開催、昆虫の分類等の講座の開催、昆虫標本の作り方教室の開催、昆虫についての基本知識の周知、博物館によるイベントの後援を行っていかうと考えている。

[活動の概要] 野外活動としては、高島や長浜など湖北方面、東近江市、大津市、琵琶湖博物館周辺の昆虫類の調査を行った。また、夜間採集の方法を学ぶほか、びわ博フェスに初参加した。博物館の収蔵庫見学で、資料保管の意義や方法を学んだ。

「虫架け」の主な活動

活動日	内 容	場 所	参加者
4月 21日	野外調査 昆虫観察、採集	高島市	11名
5月 27日	室内講座 / 野外調査 夜間採集法の学習と夜間採集セットの組み方実演。博物館周辺の昆虫の観察	琵琶湖博物館生活実験工房とその周辺	7名
7月 1日	野外調査 ゼフィルスなどの採集	東近江市	9名
7月 21日	野外調査 ゼフィルスなどの採集 気温が高すぎたのか、観察できた昆虫はやや少なめ。	東近江市	8名
8月 4日	野外調査・灯火採集 灯火採集ではガ類、甲虫類等、多くの種類を確認。	高島市朽木	10名
9月 16日	野外調査・灯火採集 灯火採集ではガ類が多く、羽アリの大群に合い、甲虫類は少なめだった。	大津市	8名
10月 8日	びわ博フェスの準備	琵琶湖博物館生活実験工房	8名
11月 17日	びわ博フェスの準備	琵琶湖博物館生活実験工房	5名
11月 18日	びわ博フェス 午前：土の中の虫を探そう。 午後：上記の虫を顕微鏡で観察しよう 大勢の参加者が楽しんでくれた。	琵琶湖博物館生活実験工房/ おとなのディスカバリー	10名
12月 15日	蝶の卵探しと採集および、越冬中の昆虫探し 卵は見つからず。オオムラサキ・ゴマダラチョウの越冬幼虫を採集できた。	長浜市	8名
1月 26日	2018年の活動の相談。 2018年の活動計画などを話し合った。	琵琶湖博物館生活実験工房	10名
2月 16日	琵琶湖博物館の収蔵庫見学	琵琶湖博物館生活実験工房/ 地下収蔵庫	10名
3月 10日	はしかけ登録講座での説明	琵琶湖博物館	7名

○森人（もりひと）

代表者：福岡敏雄 担当学芸員：林 竜馬 会員数：14名

[設立の趣旨] 2015年度に「はしかフェ」の中で屋外展示の環境整備の一環として樹木説明版の設置、屋外展示のガイドツアー、勉強会や観察会などを実施した。引き続き屋外展示の活用を進めていくために森人（もりひと）として「はしかけ」に登録し2016年度から活動を開始した。

[活動の概要] 「太古の森、縄文・弥生の森の保全と観察をもとに森人同志および来館者との交流を図る。」を目的としほぼ月2回の活動を行っている。2018年度は特に博物館の第二期リニューアルに際しおとなのディスカバリー植物コーナーへの資料提供や樹冠トレイル案内パネルや屋外展示の森ガイド冊子など交流資料の作成を行った。

「森人」のおもな活動

月日	内 容	場 所	参加
4月 14日	樹冠トレイルに設置する案内パネルの検討	生活実験工房	5名
4月 28日(土)	外部観察会（ブナ・カエデなど冷温帯の植	マキノ高原	4名
5月 12日(土)	屋外展示の観察会（成安造形大学参加）	生活実験工房、屋外展示の森	5名

月日	内容	場所	参加
5月13日(日)	はしかけ登録講座での森人の説明	セミナー室	1名
5月19日(土)	朽木の森ユリノキ祭り参加と観察会	高島市 森林公園「くつきの森」	2名
6月9日(土)	クズ、ツタの伐採	生活実験工房、屋外展示の森	5名
6月23日(土)	外部見学観察会(展示方法・種々の植物)	栗東自然観察の森	6名
7月14日(土)	おとなのディスカバリー見学	E展示室	7名
7月28日(土)	企画展示「化石林」の見学	企画展示室	5名
8月11日(土)	伊吹山の植生観察会	伊吹山9合目～山頂	4名
9月15日(土)	台風21号被害状況の確認と対策	生活実験工房、屋外展示の森	4名
9月29日(土)	樹冠トレイルのオープンに合わせての準備作業	屋外展示の森	5名
10月13日(土)	樹冠トレイルのオープンに合わせての準備作業	生活実験工房	5名
10月27日(土)	樹冠トレイルのオープンに合わせての準備作業	生活実験工房	8名
10月27日(土)	はしかけ登録講座での森人の説明	セミナー室	1名
11月3日(土)	樹冠トレイルのオープン行事に参加(樹冠トレイルのガイドツアーなど)	屋外展示の森	8名
11月17日(土)	びわ博フェスの参加(ポスター展示と屋外展示の森ガイドツアー)	生活実験工房、屋外展示の森	4名
12月8日(土)	動物観察用自動カメラ設置と屋外展示ガイド冊子の改定	研究交流室、屋外展示の森	5名
12月22日(土)	動物観察用自動カメラ設置と屋外展示ガイド冊子の改定	研究交流室、屋外展示の森	7名
1月12日(土)	動物観察用自動カメラ設置と屋外展示ガイド冊子の改定	生活実験工房、屋外展示の森	7名
1月26日(土)	動物観察用自動カメラ設置と屋外展示ガイド冊子の改定	生活実験工房、屋外展示の森	3名
2月9日(土)	「わくわく探検隊」樹冠トレイルを歩こう!のガイドなど	実習室2、屋外展示の森	4名
2月23日(土)	自動カメラの確認とメンテナンス、樹名板設置の検討など	生活実験工房、屋外展示の森	5名
3月9日(土)	樹冠トレイルの樹木の折れた枝葉の除去等	おとなのディスカバリー、屋外展示の森	6名
3月23日(土)	樹名板設置、次年度計画	研究交流室、樹冠トレイル	5名

○琵琶湖梁山泊

代表者：坂本大介 担当学芸員：大槻達郎 会員数：20名

[設立の趣旨] 地域の自然や文化を研究する中高生を中心とした新しいグループです。切磋琢磨する若者を博物館の学芸員や大人メンバーがサポートします。研究の相談や勉強会を通じて、興味関心が近い仲間や、認め合い競い合う仲間が見つかるようにと願いを込めて設立しました。

[活動の概要] 活動としては、研究の相談や勉強会をはじめ、定期的に研究発表会を開催して、研究のレベルアップと学校の枠を越えた相互交流を進めていきます。今年度は皆が集まって活動する機会は多くありませんでしたが、来年度はもう少し若者の交流を多くできればと考えています。

「琵琶湖梁山泊」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	担当者・参加者
6月24日	珪藻の顕微鏡写真撮影と同定	琵琶湖博物館交流室	担当：坂本・大塚 参加者：数名
7月21日	珪藻の顕微鏡写真撮影と同定	琵琶湖博物館交流室	担当：坂本・大塚 参加者：数名
7月26日	珪藻の顕微鏡写真撮影と同定	琵琶湖博物館交流室	担当：坂本・大塚 参加者：9名
8月4日	珪藻の顕微鏡写真撮影と同定	琵琶湖博物館交流室	担当：坂本・大塚 参加者：数名
8月20日	研鑽会	琵琶湖博物館 研究交流室・生活実験工房	担当：大槻・大塚 参加者：16名
8月22日	珪藻の顕微鏡写真撮影	琵琶湖博物館交流室	担当：坂本・大塚 参加者：：数名
9月2日	珪藻の同定	琵琶湖博物館研究交流室	担当：坂本・大塚 参加者：：数名
9月15日	珪藻の同定	琵琶湖博物館研究交流室	担当：坂本・大塚 参加者：：数名
10月7日	珪藻の同定	琵琶湖博物館研究交流室	担当：坂本・大塚 参加者：：数名
12月22日	珪藻の顕微鏡写真撮影	琵琶湖博物館交流室	担当：坂本・大塚 参加者：4名
3月14日	研究レポート「プラナリアの不思議Ⅲ」が、誠文堂新光社出版の「子供の科学」のルイ殿賞を受賞した（堀江夏妃さん）		担当：大槻・大塚 参加者：1名
3月16日	日本藻類学会第43回大会ポスター発表（米原高校地学部）	京都大学	担当：坂本・大塚 参加者：2名
3月17日	びわはく学生ミーティングへの参加（米原高校地学部）	琵琶湖博物館 セミナー室	担当：坂本 参加者：9名

○サロン de 湖流

代表者：岩木真穂 担当学芸員：戸田 孝 会員数：6名

[設立の趣旨] 琵琶湖や周辺地域の自然環境の中で起こっているさまざまな物理現象（湖流・河川流・地下水流などや気象現象など）について気軽に語り合いながら、フィールドでの観測・背景原理を確かめる実験・数学や統計などの勉強会・生物現象や化学現象あるいは人文社会事象との関連の考察・物理現象を理解するための自分なりの方法の探究などへ発展を目指す。

[活動の概要] 初年度ということで、まず各メンバーが琵琶湖地域の物理現象に対してどのような思いを持っているのかを語り合うことから始め、続いて「試しにやってみる活動」として、大学の学生実験として行われている水槽実験・環流の研究史を題材とする「琵琶湖を物理学的に見るうえでの考え方」の学習会・科学館でよく実施されている実験で琵琶湖流に関連しそうな内容の学習会を実施した。そのうえで、どのような活動を進めて行きたいかを議論したところ、メンバーの1人が趣味で行っているビワマス釣りとの関連が期待される水温の観測を、実際に釣り用の船で湖に出て実施してみたいというアイデアが出た。そこで、当面の目標の1つとして、この水温観測が実現可能かどうかの検討を進めた。

「サロン de 湖流」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者数
7月22日	初顔合わせ・今後の方針について議論	琵琶湖博物館実習室1	4名 (+3名)
9月2日	「琵琶湖の深呼吸」の水槽実験	琵琶湖博物館実習室1	6名 (+1名)
10月20日	「環流の研究史」を題材とする学習会	琵琶湖博物館実習室2	6名 (+2名)

活動日	内 容	場 所	参加者数
11月 17・18日	びわ博フェスにポスター参加	琵琶湖博物館アトリウム	
12月 2日	科学館的実験を試してみる学習会	琵琶湖博物館おとなのディスプレイ	3名 (+1名)
1月 27日	学習会の続き・今後の方針について議論	博物館会議室	4名 (+1名)
3月 12日	湖上観測の実現可能性について検討	博物館会議室	3名 (+1名)

参加者数の括弧内は学芸員および協力研究者

〇水と暮らし研究会

代表者：中場弘二 担当学芸員：楊 平 会員数：6名

[設立の趣旨] 琵琶湖は、生活用水、農業用水としての役割のみならず、さらには景観の構成要素として重要な役割を果たしている。琵琶湖の水を支えているのは直接的な降雨水に加え、集水エリアからの地表水、地下水である。特に琵琶湖周辺の山地から湖に至る間、様々なエリアにおいて、人々は湧水、山水、川水などのさまざまな地表水、地下水と密接な関係にかかわりあって暮らしてきた。そこには、そのかかわりあった風景と人とのつながり「文化」をみることができる。古くから稲作の普及で農耕生活が定着し、また農民の居住地移動が困難であった時代に土地を守り生き抜くために、各集落で各家庭の生活用水、そして各田畑等への農業用水など、湧水含め山水、川水など、水を如何に使うかが最大の関心事であったであろう。水は生活環境、自然環境において重要な役割を果たしてきたのだ。この水に育まれてきた暮らし「文化」の継承状況を調査し先人たちの水に対する「想い」を発信し記録とし、また、他地域との交流の一助とならんことを願い、研究会を立ち上げた。

[活動の概要] 湧水(沢水、山水、川水を含め)、名水と呼ばれる地域、地点を環境省HP、県下名水HP、その他各情報誌からリストを作成し独自の湧水実態調査表をもって調査日時、天気、水質測定値、場所由来、現地写真、湧水量、湧水の活用状況の記録を収集していく。また、水とのかかわりあって生きていく暮らしにも焦点を当て、その暮らしの実態を現地調査し、ヒアリングを通じて現代人の想いを記録し発信していく。原則として月二回の定期調査を琵琶湖流域の各地で展開していく。定期調査にあたっては、事前に調査先のリストを作成し、情報収集の効率アップに努め、調査終了後には各人の担当に基づく記録作成を速やかに実施する。また、関連事項に関する講座、シンポジウム等あれば、積極的に参加する。

「水と暮らし研究会」のおもな活動

活動日	調査地域	参加者
10月 27日	湖西地域 大津市北部三か所	5名
11月 7日	湖西地域 大津市北部八か所	6名
11月 28日	湖西地域 大津市朽木地周辺六か所	6名
12月 14日	湖西地域 大津市葛川周辺五か所	6名
1月 31日	湖西地域 仰木里棚田調査一か所	5名
2月 8日	湖西地域 鵜川棚田調査一か所	5名
3月 8日	湖西地域 マキノ周辺二か所	5名
3月 15日	湖東地域 守山周辺三か所	6名

地域交流活動への支援

地域や企業、大学などからの講義や観察会の講師依頼などを、地域連携事業として受けている。依頼者のニーズに応える形で講義・観察会等のテーマを絞り込み、当該分野の学芸員を講師にあてることで、学芸員

の専門性を活かし、依頼者の今後の活動に資することを目指している。琵琶湖博物館では地域連携事業を、地域の人たちとの共同活動の足掛かりとして捉えている。

2018年度は、館内では58件・参加者2,269名、館外では57件・参加者3,588名の活動実績となり、件数、参加者ともに前年度を大きく上回った。

(1) 博物館内での支援事業

活動日	参加団体(依頼者)	内容・テーマ	担当者	参加者数
4月 6日	大阪芸術大学放送学科	琵琶湖の生い立ちと変遷	里口保文	220
4月 7日	大阪芸術大学建築学科	琵琶湖博物館の理念と館内の概要	金尾滋史	90
5月 12日	龍谷大学文学部	学芸員の仕事	大槻達郎	45
5月 19日	木之本ライオンズクラブ	琵琶湖の外来生物問題と駆除活動	中井克樹	18
5月 19日	京都造形芸術大学大学院	収蔵資料の保存管理方法	渡部圭一	9
5月 20日	琵琶湖遊漁船業協会	ヨシ原の生きものについてのお話	中村久美子	45
5月 31日	滋賀県立大学環境科学部	琵琶湖の淡水魚の生態・生活史・保全	金尾滋史	5
6月 2日	京都大学大学院地球環境学舎	内湖と人のつながり・カバタなど水と人の関わり	片岡佳孝 妹尾裕介	10
6月 24日	京都文教大学総合社会学部	琵琶湖博物館の基本理念・博物館における資料保存について・琵琶湖を核とした一般市民との活動および調査方法	渡部圭一	20
6月 10日	近畿大学農学部水産学科	琵琶湖と琵琶湖博物館	松田征也	22
6月 19日	レイカ大学OBセイカ32会	アオコの生態と現状	大塚泰介	17
7月 21日	びわこ成蹊スポーツ大学	琵琶湖博物館の概要と魚のゆりかご水田について	大塚泰介	70
7月 25日	彦根市南地区公民館	琵琶湖にすむ魚についてー特に、犬上川にすむ魚にふれて	金尾滋史	20
7月 27日	自主防災防犯研究会	琵琶湖の環境変化に関する最近の話題	大塚泰介	35
7月 28日	京都造形芸術大学歴史遺産学科	琵琶湖博物館の基本理念・博物館における資料保存について・琵琶湖を核とした一般市民との活動および調査方法	渡部圭一	5
7月 29日	大津市立仰木の里公民館	琵琶湖の生き物 仰木の生き物	金尾滋史	32
7月 29日	滋賀県立大学環境科学部	滋賀県の植物/博物館の学芸員に必要なスキル	大槻達郎	18
8月 1日	佛教大学通信教育課程	民族収蔵庫の維持管理・有形民俗文化財の研究発信	渡部圭一	31
8月 3日	みらいKIDSにぎわい交流プロジェクト	湖のいまと私たち	戸田 孝	22
8月 18日	原生生物学会若手の会	原生生物ワークショップ	鈴木隆仁	24
8月 23日	生活協同組合コープしが	プランクトン観察および外来魚の解剖実習	中井克樹	40
8月 31日	滋賀県退職公務員連盟	ビワマスの生態と生息状況について	桑原雅之	19
9月 1日	国際湖沼環境委員会	報告会・評価会の対応	松田征也	20
9月 2日	文教大学国際学部山田ゼミナール	はしかけ制度、フィールドレポートについて	大塚泰介	3
9月 11日	吹田市人権啓発推進協議会山手地区委員会	琵琶湖における環境の現状や課題について	芳賀裕樹	35
9月 25日	梅光学院大学博物館学課程	琵琶湖博物館の活動	橋本道範	10
9月 28日	龍谷大学農学部	滋賀県の農業・農政	下松孝秀	204
9月 28日	京都府立大学	環境微生物学	大塚泰介	7

活動日	参加団体(依頼者)	内容・テーマ	担当者	参加者数
10月 5日	龍谷大学農学部	滋賀県の農業・農政	下松孝秀	205
10月 12日	滋賀県高等学校理科教育研究会	草地生態系について 草地の生き物たちと人の関わり	中村久美子	20
10月 16日	多景地区社会福祉協議会	座学研修	高橋啓一	40
10月 16日	琵琶湖研究会藤井寺支部	琵琶湖の形成について	里口保文	4
11月 2日	近江兄弟社高等学校	琵琶湖博物館での環境学習の取り組み	松田征也	14
11月 4日	京都造形芸術大学歴史遺産学科	琵琶湖博物館の基本理念・琵琶湖を核とした一般市民との活動および調査方法	渡部圭一	17
11月 7日	井上静雄	琵琶湖のおいたち	里口保文	25
11月 8日	三方五湖・北瀬湖水質保全対策協議会	環境・生態系保全等の取り組みについて	松田征也	7
11月 11日	NPO 法人自然と緑	琵琶湖のプランクトン検鏡観察	大塚泰介 鈴木隆仁	62
11月 13日	吹田市人権啓発推進協議会千里新田地区委員会	琵琶湖における環境の現状や課題について	芳賀裕樹	35
11月 25日	大阪府立豊中高等学校 SSH	プランクトン実習	鈴木隆仁	23
12月 6日	尾西北地区生物地学研究会	尾西北地区生物地学研究会	大槻達郎	12
12月 6日	龍谷大学社会学部 横山詠哉	子どもとの関わりと、ボランティア活動の支援（はしかけ）の現場の声	大塚泰介	3
12月 21日	シニア自然大学校	タニガワナマズと琵琶湖のナマズの進化について	田畑諒一	14
12月 22日	大阪産業大学デザイン工学部環境理工学科	琵琶湖に生息する魚類の生態および博物館の水族展示	田畑諒一	20
1月 6日	びわこ学院大学	滋賀の環境	金尾滋史	25
1月 9日	大阪 ECO 動物海洋専門学校	博物館や水族展示の概要、仕事内容、生物多様性保全について	金尾滋史	21
1月 12日	追手門学院大学社会学部	琵琶湖における水と人の関わりの社会的アプローチ	楊 平	190
1月 13日	追手門学院大学社会学部	琵琶湖における水と人の関わりの社会的アプローチ	楊 平	180
1月 13日	NACS-J 自然観察指導員兵庫連絡会	観察会が持つ様々な意味と価値	金尾滋史	20
2月 2日	湖西里山会	琵琶湖水系に生息する魚類について	桑原雅之	20
2月 3日	関西環境教育学会	花粉化石が語る琵琶湖の森と人の歴史―植生史から見つめる“人新世”―	林 竜馬	20
2月 7日	認定 NPO 法人シニア自然大学校	琵琶湖の固有種の進化	田畑諒一	35
2月 9日	だいひがワタカクラブ	琵琶湖の外来種の現状とワタカの放流について	金尾滋史	8
2月 9日	京都外国語大学公友会	琵琶湖と水辺の生活、水と人の関わり	楊 平	20
2月 20日	吹田市人権啓発推進協議会山二地区委員会	琵琶湖における環境の現状と課題について	芳賀裕樹	35
3月 5日	吹田市人権啓発推進協議会青山台地区委員会	琵琶湖における環境の現状と課題について	芳賀裕樹	35
3月 6日	吹田市人権啓発推進協議会山一地区委員会	琵琶湖における環境の現状と課題について	芳賀裕樹	35
3月 12日	京都府高等学校理科教育研究会連絡協議会	琵琶湖に生息する淡水魚の生態	田畑諒一	12
3月 13日	滋賀県レイカディア大学草津校	琵琶湖のプランクトン観察と講義	大塚泰介	16

(2) 地域での支援活動

活動日	参加団体(依頼者)	内容・テーマ	地域	担当者	参加者数
4月 15日	TANAKAMI こども環境クラブ	田上・天神川の中の生き物探し	大津市	榎永一宏	30
4月 16日	湖南企業生きもの応援団	狼川における生物・環境調査(春季調査)	草津市	中井克樹	25
5月 14日	大津市仰木の里公民館	琵琶湖岸に生育する海浜植物の来歴とその保全	大津市	大槻達郎	25
5月 19日	NPO 法人麻生里山センター	「森の観察会」(森林体験のワークショップ)	高島市	林 竜馬	10
5月 23日	福井県里山里海湖研究所(さとうみサロン)	滋賀県におけるイチモンジタナゴの保全再生活動の解説	三方上中郡若狭町	中井克樹	10
6月 2日	栗東市林公民館	ホタルの学習	栗東市	榎永一宏	80
6月 2日	川田町自治会(守山市環境政策課)	水環境保全「外来水生植物、藻の対策」に関する学習	守山市	中井克樹	15
6月 3日	草津市環境政策課	水質浄化施設における外来水生植物の巡回・監視・駆除	草津市	中井克樹	100
6月 4日	滋賀県立大学環境科学部	かつての津田内湖の周辺の暮らしについて	彦根市	渡部圭一	25
6月 10日	栗見出在家町魚のゆりかご水田協議会	魚のゆりかご水田 生き物観察会	東近江市	大塚泰介	180
6月 13日	ヤンマーミュージアム	ヤンマーミュージアム屋上ビオトープ維持管理会議	長浜市	中村久美子	10
6月 17日	オーガニック&つながるマーケット in 滋賀	森から考える人の暮らしのいまむかし	大津市	山本綾美	50
6月 19日	大津市立逢坂小学校	エコスクール支援委員会	大津市	松田征也	10
6月 23日	佐波江地区自治会	湖岸に生育する海浜植物	近江八幡市	大槻達郎	30
7月 1日	北びわ湖広域観光協議会	琵琶湖の宝石～ビワマス～	琵琶湖上	桑原雅之	150
7月 15日	勝部自治会	魚とりの際の魚の記録と最終の総括	守山市	金尾滋史	205
7月 26日	湖南企業生きもの応援団	狼川における生物・環境調査(夏季調査)	草津市	中井克樹	25
7月 27日	守山市下之郷史跡公園	弥生時代の魚・貝について/河川水路で魚つかみと観察	守山市	松田征也	20
8月 1日	草津市立クリーンセンター	草津市こども環境会議実行委員会	草津市	松田征也	10
8月 2日	シニア自然大学校	淡水魚(生態と分類)	大阪市	桑原雅之	40
8月 4日	美土里ネットまつもと	松元ダム自然体験学習	鹿児島市	中井克樹	30
8月 7日	シニア自然大学校	淡水魚(生態と分類)	大阪市	桑原雅之	40
8月 7日	快適環境づくりをすすめ	川の生き物観察会	彦根市	金尾滋史	30
8月 10日	海と日本プロジェクト in 滋賀県実行委員会	「水の守り人マップ」壁新聞政策へのアドバイス	泉南郡岬町	大塚泰介	25
8月 18日	日本魚類学会自然保護委員会	最近の外来種対策と今後の課題(市民公開講座)	札幌市	中井克樹	80
8月 19日	日本国際民間協力会(NICCO)	生きもの調査の指導および解説	東近江市	大塚泰介	25
8月 20日	守山市下之郷史跡公園	環濠の魚つかみと放流について	守山市	松田征也	20
9月 1日	こどもひかりプロジェクト	ミュージアムキッズ!全国フェアへの出展	京都市	中村久美子 妹尾裕介 森 智美 南 悠穂	500

活動日	参加団体(依頼者)	内容・テーマ	地域	担当者	参加者数
9月 5日	シニア自然大学校	淡水魚(採集と同定)	大津市	桑原雅之	40
9月 13日	シニア自然大学校	淡水魚(採集と同定)	大津市	桑原雅之	40
9月 16日	オーガニック&つながるマーケット in 滋賀	森から考える人の暮らしのいまむかし・その2	大津市	山本綾美	30
10月 6日	日本オオサンショウウオの会(長浜大会)	湖国・滋賀の生きものたち(基調講演)	長浜市	中井克樹	150
10月 9日	大阪産業大学	キャリアデザイン2	大東市	楊 平	150
10月 10日	滋賀県自然環境保全課	ビオトープ施設におけるオオバナミズキンバイの機械駆除	草津市	中井克樹	30
10月 13日	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	琵琶湖における外来種植物について	大津市	中井克樹	350
10月 20日	大津市立和邇図書館サークル連絡協議会	古琵琶湖から現代まで	大津市	里口保文	70
10月 22日	湖南企業生きもの応援団	狼川における生物・環境調査(秋季調査)	草津市	中井克樹	25
10月 26日	大津市立日吉中学校	シジミの生態・放流・個体調査	大津市	松田征也	23
10月 27日	日本自動車連盟滋賀支部	外来魚等の現状	草津市	中井克樹	50
10月 28日	水資源機構	お魚里帰り大作戦(施設で増殖した魚の湖への放流)	草津市	中井克樹	40
11月 3日	立命館大学(びわこ講座)	淡海の生きもの～にぎわいとつながりを未来へ～	草津市	中井克樹	100
11月 3日	(社)自然環境文化推進機構	「京に迫る外来種の脅威」セミナー	京都市	中井克樹	40
11月 6日	猪苗代湖・裏磐梯湖沼水環境保全対策推進協議会	湖の生き物と私たちの関わりをさぐる～水辺の生態系保全にむけて	耶麻郡猪苗代町	金尾滋史	200
11月 11日	滋賀の緑創造実践センター	第2回プロフェッショナルセミナー～プロの仕事や生き方をのぞいてみよう～	大津市	中村久美子	60
12月 1日	TANAKAMI こども環境クラブ	カヤネズミ調査隊	京都市	中村久美子	20
12月 9日	大阪府立大学 里環境の会 OPU	第12回さとかん環境職業説明会	堺市	中村久美子	30
12月 9日	京都環境フェスティバル2018(京都府自然環境保全課)	琵琶湖のオオバナミズキンバイの脅威	京都市	中井克樹	30
12月 15日	守山野洲市民交流プラザ	ふなずし研究のこれまでとこれから	守山市	橋本道範	40
1月 13日	守山市都市経済部都市活性化局	守山鮎寿司の会会員が漬けた鮎寿司9種類の食い比べ	守山市	橋本道範	20
1月 16日	滋賀県自然環境保全課	水陸両用作業船「浮き丸」による外来水草駆除	高島市	中井克樹	25
1月 30日	京とおうみ自然文化クラブ	花粉化石が語る琵琶湖の森と人の歴史	京都市	林 竜馬	50
2月 2日	箕面生物多様性会議	外来魚の現状と対策	箕面市	中井克樹	45
2月 8日	滋賀県自然環境保全課	水陸両用作業船ウォーターマスターによる外来水草駆除	草津市	中井克樹	20
2月 12日	湖南企業生きもの応援団	狼川における生物・環境調査(冬季調査)	草津市	中井克樹	25
2月 19日	京都新聞社滋賀北部総局	琵琶湖の漁撈・漁具について	近江八幡市	渡部圭一	30
2月 24日	ラムサール・ネットワーク日本	みんなで研究する田んぼの生きもの	東京都中央区	大塚泰介	35
3月 1日	堅田観光協会	中世のふなずし	大津市	橋本道範	20

(3) 質問対応

博物館利用者からの質問や疑問、要望や相談は、直接受け付ける「質問コーナー」と、いつでもどこからでも受け付ける通信網（電子メール等）を利用した「Query」で対応している。

1) 質問コーナー

第2期リニューアル工事に伴い閉鎖されていた質問コーナーは、7月5日にオープンした「おとなディスカバリー」の一角で再開された。質問コーナーでは、博物館利用者からの質問や疑問、相談を直接受け付けているほか、電話による質問や相談に応じている。専門的な内容を含む質問等は担当学芸職員がその場での対応、もしくはそれぞれ専門の学芸職員に回答を依頼したり、調べたりして後日回答したりする場合もある。また、当日担当の学芸職員が、展示室で「フロアトーク」を行うなど、博物館利用者との対話による情報交換ができる場となっている。

2018年度は、再開された7月5日からの質問コーナーでの対応状況は以下の通りであった。

- ・実施期間：7月5日～3月31日
- ・総質問数：832件（603名）　うち来訪による質問：793件、その他の形態による質問：39件

2) 通信網（電子メール「Query」）による対応

博物館との情報交換サービスを充実させるため、開館以来、質問、要望、相談などを受け付ける専用の電子メールアドレス（query@biwahaku.jp）を設定し、受付担当者が受信した電子メールの内容に応じて専門の学芸職員に転送し、回答するサービスを継続的に行っている。2018年度は総数117件あった。

専門的な内容を含む質問　生物（魚貝類12・その他水域9・陸域の昆虫10・その他陸域4・植物7）　地学4　歴史・民俗3　環境5　その他14	68件
施設利用や行事の問合せ・案内資料請求	18件
資料の提供・利用、収蔵資料に関する問合せ	11件
広報掲載・取材依頼（リンク許可・サイト登録を含む）	3件
館の運営への提案・意見・問合せ・その他（他機関のお知らせ等）	5件
上記質問に対する再質問及びその他	12件

(4) びわ博フェス2018

「はしかけ」、「フィールドレポーター」が集まる交流会を中心として、普段の、はしかけ活動等を一般の来館者に広く周知するとともに、琵琶湖博物館の活動と一緒に参加したい人々を増やす機会にすることを目的に実施した。具体的な内容としては、「はしかけ」、「フィールドレポーター」によるポスター展示を25件、ワークショップなどの活動紹介を行った。

- ・開催日　11月17日（土）・18日（日）
- ・主な内容　○体験コーナー：はしかけ・フィールドレポーターワークショップ（17日9件、18日7件）
○ポスター展示（25件）

■「びわ博フェス2018」のポスター展示・ワークショップのようす



琵琶湖博物館環境学習センター

(1) 環境学習に関する相談対応・情報提供

自治会や子ども会などの地域団体、学校、NPO、企業、市町などから相談を受け、環境学習・活動に関する活動団体や講師の紹介、研修場所や企画内容等について情報提供を行うほか、ホームページやメールマガジンなどにより発信を行い、環境学習活動の推進に努めた。

1) 環境学習に関する相談対応等

相談件数 192 件 (昨年度実績 180 件)
 教材貸出件数 132 件 (昨年度実績 121 件)

2) 環境学習情報のホームページ「エコロレーが」の運用

3) 環境学習情報メールマガジン「そよかぜ」の発行

発行回数 21 回 登録者数 1,063 人

4) ブース出展 4 回

7 月 21 日～22 日 第 11 回 水辺の匠 (ウォーターステーション琵琶・アクア琵琶)
 7 月 25 日 草津市エコフォーラム (草津市役所 2 階特大会議室)
 8 月 8 日 近江八幡市学校支援メニューフェア (近江八幡市立桐原小学校)
 1 月 26 日 草津市こども環境会議 (草津市役所)

(2) 環境学習の交流の場づくり

1) 環境・ほっと・カフェ

- | | | | |
|-----------------|-----------------------|--------------|------|
| ・ 8 月 5 日 (日) | IVUSA 「びわ湖大勉強会」 共催事業 | 会場:琵琶湖博物館 | 19 名 |
| ・ 8 月 6 日 (月) | 「地域の魚と遺伝子攪乱」 米原市環境教育部 | 会場:河南小学校 | 9 名 |
| ・ 8 月 8 日 (水) | 「びわ湖の外来生物のいま」 | 会場:琵琶湖博物館 | 48 名 |
| ・ 8 月 9 日 (木) | 「みんなでメダカを考える会」 | 会場:琵琶湖博物館 | 24 名 |
| ・ 10 月 11 日 (木) | 市町環境学習担当者会議 | 会場:琵琶湖博物館 | 12 名 |
| ・ 10 月 22 日 (月) | ビオトープ学習会 希少種の保全 | 会場:オムロン野洲事業所 | 77 名 |
| ・ 3 月 2 日 (土) | 「環境学習プログラムを開発しよう！」 | 会場:琵琶湖博物館 | 12 名 |



IVUSA 「びわ湖大勉強会」 共催事業



米原市環境教育部 「地域の魚と遺伝子攪乱」



「びわ湖の外来生物のいま」



「みんなでメダカを考える会」

2) 環境学習活動者交流会

- ・10月16日(火) 企業ビオトープを活用した環境学習プログラム 会場:ダイフク滋賀事業所 参加者25名
内容:エコロシーが登録指導者による、工場敷地内での観察会・学習会を開催して、学生、企業、教えてくれる人が集まり連携を図った。
- ・3月17日(日) 第2回びわく学生ミーティング 会場:琵琶湖博物館 参加者50名
内容:滋賀県内の中学生・高校生・大学生が一堂に集まり、環境学習活動の成果発表と交流を深めた。
- ・3月19日(火)～3月24日(日) びわく学生ミーティング・研究発表ポスター展
場所:琵琶湖博物館アトリウム
内容:滋賀県内の地域で環境に関わる調査研究活動を実施している、中学生・高校生の活動成果をポスター展示した。



← ダイフク滋賀
事業所での交流会

第2回びわく学生
ミーティング →



3) こどもエコクラブ事業

- ・淡海こどもエコクラブ活動交流会
期日:12月9日(日) 場所:琵琶湖博物館ホール
参加数:8チーム 審査対象外2チーム 計10チーム
内容:こどもエコクラブ登録クラブによる成果発表会および活動している子どもや指導者、サポーターの交流会(登録数:77クラブ メンバー:4,332人 サポーター:372人 2019年3月末現在)
- ・淡海こどもエコクラブ活動交流会終了後、活動成果ポスター展を開催した。
期間:12月11日(火)～2019年1月3日(木) 場所:琵琶湖博物館 アトリウム
内容:こどもエコクラブに登録するクラブの活動成果ポスター展示
- ・参加募集のチラシ作成・・・予算助成:平和堂財団 1000枚印刷
- ・こどもエコクラブ全国フェスティバル2019
3月24日 於:国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)

4) その他

- ・9月1日(土) 琵琶湖博物館の展示と環境学習(講義)、ベトナム国・グリーン成長促進プログラム(独立行政法人国際協力機構・ILEC)、20名
- ・11月2日(金) 琵琶湖博物館の展示と環境学習(講義)、ルン・アルン学園(タイ・バンコク;近江兄弟社高校の姉妹校)フィールドワーク、14名
- ・11月8日(木) 琵琶湖博物館における琵琶湖保全対策の取り組み(講義)、三方五湖・北瀬湖水質保全対策協議会視察、7名
- ・11月9日(金) 環境学習と企業連携について(意見交換)、国立台湾歴史博物館視察、4名
- ・1月16日(水)～2月17日(日) 琵琶湖博物館ギャラリー展示「トンボ100大作戦～滋賀のトンボを救え～」の支援(企業連携による生物保全活動の成果発表展示)、生物多様性びわ湖ネットワーク

- ・3月4日(月) アユモドキの生態についてのレクチャー、滋賀大学附属小学校(環境省 淀川水系アユモドキ生息域外保全事業への協力)、滋賀大学附属小学校にて
- ・3月12日(火) ハリヨの保全についてのレクチャー、米原市立双葉中学科学部、米原市立双葉中学にて

情報発信活動

(1) 地域発見！参加型移動博物館

「地域発見！参加型移動博物館」事業は、2011年度に「マザーレイク滋賀応援基金」を活用して制作した移動型の展示キットを、琵琶湖淀川流域をはじめとする各地で移動展示し、学芸員や交流員による対話を交えて琵琶湖や滋賀県に対する興味と関心を高め、琵琶湖博物館への誘客を図ることを目的としている。また、「サテライトミュージアム」事業は、2016年7月に第1期リニューアルオープンしたその広報要素も加えて展示を行うことを目的としている。

今年度は、海外1件(中国湖南省1件)、県外4件(大阪府2件、岐阜県1件、東京都2件)、県内5件の計10件で、サテライトミュージアム・移動博物館を展開した。特に9月に行われた博物館夏祭りでは、親子連れが多く訪れており、7月に完了した交流空間のリニューアルに加え、開催中の企画展示を広くアピールすることができた。また、7月から9月に長良川うかいミュージアムへ貸し出されたカワウ模型は2016年のC展示リニューアルの際に作成されたものであり、比較的新しく加わった展示物に関しても利用があった。本年度は特に県外での移住フェアへの展示物貸し出しが多く行われたが、いずれも好評であった。

開催日	イベント名	会場	運営者
7月7日	地方とつながる出会いの場！<移住>井戸端会 in 東京～岐阜県・三重県・滋賀県・京都府・和歌山県～	ダイヤモンドホール(東京)	市町振興課(貸出)
7月11日～9月3日	特別展示「夏休み企画 鵜と鮎のひみつ」	長良川うかいミュージアム(岐阜)	JNF うかいミュージアム(貸出)
8月4日～5日	BIWAKO 湖フェス 2018	サンシャインビーチ(大津)	芳賀、鈴木
9月19日	博物館夏祭り	Vivacity 彦根	芳賀、鈴木
10月17日	びわ湖環境ビジネスメッセ 2018	長浜バイオ大学ドーム	国際湖沼環境委員会(貸出)
11月11日～12日	滋賀県・湖南省友好提携35周年記念事業 平和堂物産観光フェア	平和堂中国一号店(中国湖南省)	観光交流局(貸出)
1月16日～2月17日	ギャラリー展示「トンボ100大作戦～滋賀のトンボを救え～」	琵琶湖博物館	松田(貸出)
2月9日	つながる滋賀 移住・交流フェア 2019 in 大阪	難波御堂筋ホール(大阪)	市町振興課(貸出)
2月17日	日本創世のための将来世代応援知事同盟共同事業「第4回いいね！地方の暮らしフェア」	池袋サンシャインシティ(東京)	市町振興課(貸出)
3月16日	SDGs 学生大会	滋賀県立大学	鈴木



BIWAKO 湖フェス 2018
サンシャインビーチ
(大津市)



SDGs 学生大会でポスターを
展示した滋賀県立大学

(2) インターネットを利用した館外への情報提供

当館は独自のインターネットウェブページを通じて展示案内・行事案内・交通案内などの利用情報を提供している。情報の更新頻度は週 10 回程度である。このほか、収蔵資料の情報も公開している。

2018 年度には、2017 年 11 月より運用を開始した自治体情報セキュリティクラウドを利用した新情報システムにあわせて、ウェブページについても全面的なリニューアルを行った。新たなウェブページは、1) 琵琶湖博物館の魅力を広く伝えること、2) 利用者が使いやすいデザイン・構成、3) 更新・管理のしやすさ、4) ユニバーサルデザインへの配慮、5) 多様な環境・機器への対応、6) 安全で、発信力のあるウェブサイトを目指して構築を行った。新ウェブページでは、博物館の展示やイベントなどの最新情報に関する「利用者案内ウェブサイト」とともに、博物館における研究成果を広く公開するための「研究情報公開ウェブサイト」を別デザインで新規構築、公開した。

収蔵資料データベースと図書資料データベースについても、外部クラウド型サービスを通して、それぞれデータベースの公開を行っている。

ウェブページの閲覧状況については、新ホームページ構築前の 10 月までは Wordpress の Jetpack プラグインを利用し、11 月移行の新ページ移行後についてはグーグルアナリティクスを利用したアクセス解析を行った。

旧サイトを公開していた 10 月までのページ表示数は、5 月の連休時期と夏休み時期にピークが見られた。新サイトに移行後には、新サイトリニューアルおよび樹冠トレイルのオープンがあった 11 月には比較的多くの閲覧があり、2 月以降になって閲覧数が上昇傾向を示した。

新サイトのアクセス解析の結果、博物館のホームページではトップページの閲覧について、料金とアクセスページの閲覧が多く、展示とイベントページの閲覧数もそれと同程度の需要があることが示された。また、新ページ移行後のホームページの閲覧端末としては、モバイル端末からの利用が 60% を超え、PC からの閲覧は 25% 程度であることが示された。

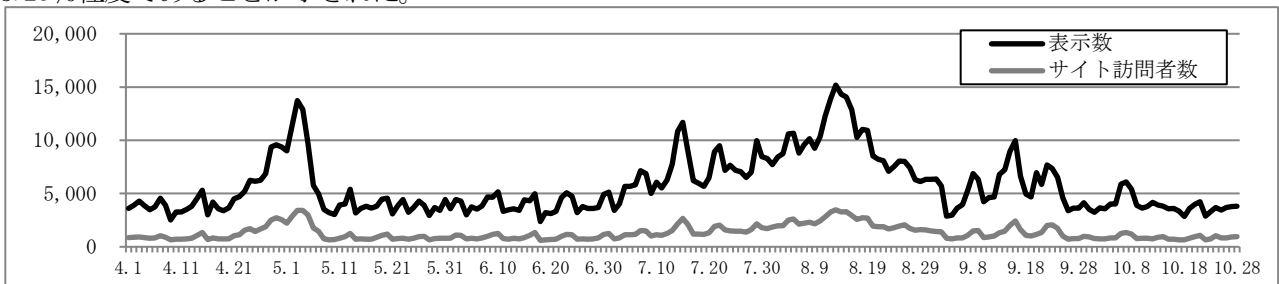


図 表示数およびサイト訪問者数 (2018 年 4 月 1 日～10 月 28 日) 注: アクセス解析には Wordpress の Jetpack プラグインを用いた。

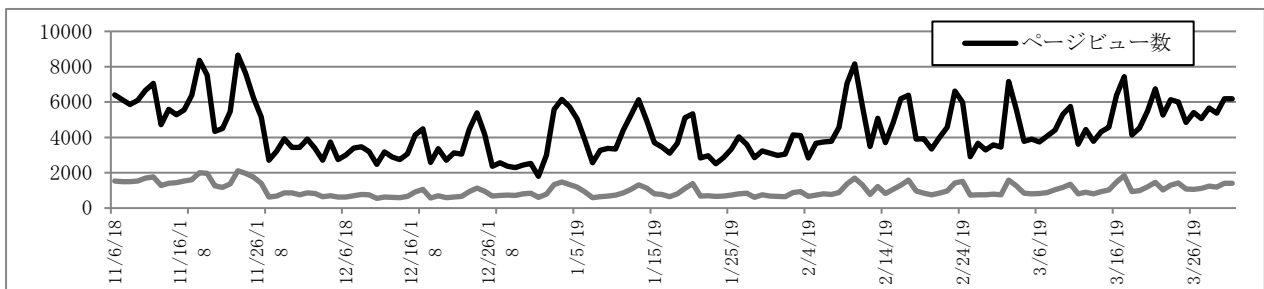


図 ページビュー数およびユーザー数 (2018 年 11 月 6 日～2019 年 3 月 31 日) 注: アクセス解析にはグーグルアナリティクスを用いた。

(3) 印刷物

1) 情報誌「びわはく」の出版

2017 年度の創刊号に引き続き、2018 年度には情報誌「びわはく」第 2 号を発行した。第 2 号より号ごとのテーマを前面に押し出し、研究の最前線を紹介する特集に重点を置いた紙面づくりとした。第 2 号のテーマは「琵琶湖の珪藻」であった。(A4、12 頁、6,000 部)

2) その他の印刷物

品名	サイズ	ページ数	発行部数
企画展示「化石林－ねむる太古の森」展示解説書	B5	64	800
企画展示「化石林－ねむる太古の森」ポスター	A1		1,000
企画展示「化石林－ねむる太古の森」チラシ	A4		30,000
広報用「琵琶湖と川の魚」カレンダーポスター 2018	A1		3,000
広報用「魚チラシ」	A4		265,000
ディスカバリールームリニューアルオープン チラシ	A4		5,000
新琵琶湖学セミナー チラシ	A4		3,000
琵琶湖博物館のイベント情報 チラシ 10月～2019年3月	A4		10,000
琵琶湖博物館のイベント情報 チラシ 2019年4月～9月	A4		10,000
研究調査報告書 第30号 滋賀のトンボ	A4	181	600
研究調査報告書 第31号 安心院動物化石群2	A4	86	500
「湖と人間の未来を考える」館内案内パンフレット（日本語）	A4	16	1,000
「湖と人間の未来を考える」館内案内パンフレット（英語）	A4	16	1,000
琵琶湖博物館展示案内（英語）	A5	16	2,000
琵琶湖博物館展示案内（中国語）	A5	16	2,000
びわはく 2号	A4	12	6,000
樹冠トレイル&屋外展示ガイド 改訂版	A5	16	3,000
からすまいちばん2018 カレンダー 夏のスタンプラリー (2018年7月～9月)	A4		12,000
からすまいちばんスタンプラリー2018 (2018年12月～2019年1月14日)	A4		7,000
琵琶湖博物館サイエンスセミナーちらし	A4		3,000
アトリウムコンサートちらし	A4		9,000

Ⅱ 新琵琶湖博物館の創造

新琵琶湖博物館の創造

琵琶湖博物館は、これまでの博物館像にとらわれない「湖と人間」をテーマにした新たな博物館として1996年に開館した。その後、『地域だれでも・どこでも博物館』を目標とする中長期基本計画を立案し、段階的に取り組んでいたところである。

開館以来20年が経過し、調査・研究および資料収集が進んでいたことから、これらの成果に基づき、「湖と人間」のかかわりを過去から現在にわたってとらえ直し、「これからの共存関係」をより多くの来館者と共に、考えていく新たな展開が、琵琶湖博物館に求められていた。

そのため、2012年度に新たな博物館像の提示・展開のあり方等について検討を行い、展示・交流空間の再構築の方向性を示す「新琵琶湖博物館創造ビジョン」をまとめ、2013年度に「新琵琶湖博物館創造基本計画」を策定し、2015年から2020年までを3期に分けてリニューアルを行うこととした。

第1期は、2014年度に体感型・参加型展示や実物資料を多く取り入れた発信力の高い展示となるようC展示室と水族展示の実施設計を行い、2015年度に展示および建設工事に着手し、2016年7月にリニューアルオープンを行った。

第2期は、2016年度に参加と発見、対話と交流を促し、次代を担う人が育つ交流拠点となるため交流空間の実施設計を行い、2017年度に展示および建設工事に着手し、2018年3月にミュージアムショップ、わくわく体験スペース（企画展示室）、4月にミュージアムレストラン、地域団体と学校向け交流・休憩ゾーン（別館）、7月にディスカバリールーム、おとなのディスカバリー、11月に樹冠トレイルのリニューアルオープンを行った。

第3期は、2018年度に「湖と人間」の未来を考えることができる展示となるようA展示室とB展示室の実施設計を行った。

(1) 第2期リニューアルオープン

- ・4月2日 ミュージアムレストラン、地域団体と学校向け交流・休憩ゾーン（別館）
- ・7月6日 ディスカバリールーム、おとなのディスカバリー
- ・11月3日 樹冠トレイル

(2) 滋賀県議会への報告等

滋賀県議会に、第2期リニューアルの内容や第3期リニューアル実施設計案の説明を行った。

- ①環境・農水常任委員会 7月11日
- ②環境・農水常任委員会 10月4日
- ③環境・農水常任委員会 県内行政調査 11月16日
- ④環境・農水常任委員会 12月14日
- ⑤環境・農水常任委員会 3月8日

(3) 第3期リニューアルにかかる展示設計の契約締結

- ・第3期にかかる実施設計業務委託

契約日：2018年6月25日 契約業者：(株)乃村工藝社

(4) 有識者評価の実施

有識者の学術的・専門的な視点からの意見を、第3期展示制作に反映させるための会議を開催した。

- ① 10月5日（布谷知夫氏、塩瀬隆之氏）
【A展示室・B展示室】
 - ・実施設計について
 - ・現状の展示室確認
 - ・全体議論
- ② 11月20日（布谷知夫氏、塩瀬隆之氏）
【A展示室・B展示室】
 - ・実施設計について
 - ・全体議論
- ③ 11月29日（高尾戸美氏）
【A展示室・B展示室】
 - ・実施設計について
 - ・高尾氏による事例紹介
 - ・全体議論

(5) 来館者による展示評価の実施

来館者の意見を集約し、第3期の展示制作に反映する調査を実施した。

- ① 11月18日（来館者のインタビュー調査）
【A展示室・B展示室】
 - ・印象に残った展示は何か。
 - ・どのような点が良かったか。
 - ・要望等はあるか。
- ② 1月26日～2月28日（来館者のアンケート調査）
【A展示室・B展示室】
 - ・何回目の来館か。
 - ・誰と来館したか。
 - ・何を期待して来館したか。
 - ・展示室で興味をもった展示は何か。
 - ・展示をみて新たに分かったことはあるか。
 - ・展示をみてもっと深く知りたいと思ったものはあるか。
 - ・展示室で何か感じたことはあるか。

(6) ユニバーサルデザイン評価の実施

ユニバーサルデザインの観点からの意見を第3期の展示制作等に反映させるための会議を開催した。

- ① 9月13日（田淵千恵子氏、美濃部裕道氏、渡邊孝宏氏、古閑正孝氏、古閑美恵子氏、山野勝美氏、今井寛氏、森川裕美氏、森川孝子氏）
 - ・第3期リニューアルについて
 - ・現場確認
 - ・その他
- ② 12月18日（田淵千恵子氏、美濃部裕道氏、古閑正孝氏、古閑美恵子氏、山野勝美氏、今井寛氏、森川裕美氏、森川孝子氏）
 - ・第3期実施設計素案について
 - ・サイン〈室名・ゾーン
 - ・コーナー〉について
 - ・触れる展示〈サンプル〉について
 - ・その他

Ⅲ 環境の整備

1 拠点としての施設整備

(1) 利用者用施設の整備

第2期リニューアルオープンに対応して、館内外において、順次案内看板の更新などを行うとともに、大型台風被害からの復旧のため、エリア内の多数の倒木、駐車場の入口ゲートテントおよび駐車場看板の転倒などに対して、それぞれ整備を行った。更に、以前から要望が多かった1階来館者用トイレの一部改修を行い、洋式トイレのウォシュレット化および多目的トイレのオストメイト対応等を実施した。

また、県立施設無料Wi-Fi整備事業により、館内に設置した5箇所のアクセスポイントの継続運用を行い、来館者の利便性の向上や利用機会の拡大につなげている。

(2) 情報システムの整備

1) 端末機器の更新

2018年度は、2017年度より利用を進めている滋賀県自治体情報セキュリティクラウドの継続的な利用を進め、安全性の高い情報システム運用を行った。また、情報機器の更新として、館内ネットワーク機器および職員使用パソコンの全面的な更新を実施した。

2) セキュリティ等

情報システムについては、滋賀県自治体情報セキュリティクラウドの中で、常時監視を行っている。端末のセキュリティについてはウィルス等対策ソフトウェアを全機にインストールしている。

(3) 来館者アンケート調査

博物館利用者のニーズや満足度を的確に把握しながら、今後の展示の企画や広報活動など博物館活動や運営を考え、利用しやすい博物館づくりを進めるため、定期的な来館者アンケートを年数回実施している。

本年度のアンケートは、昨年度と同様、1回目は夏休み期間の金曜日から日曜までの3日間、2回目は春休み期間の土曜日から月曜までの3日間で連続して実施した。アンケート用紙は、観覧券売り場に毎日1,000枚を準備し発券時に手渡して配布するとともに、アトリウム出口にも回収箱の脇に設置した。調査の内容は、来館回数、情報源、来館目的、交通手段、滞在時間、利用場所のほか、満足度および感想や改善についての意見など選択式12項目、記述式1項目の全13項目からなる。設問のうち、来館回数、きっかけ、滞在時間、満足度、記入者自身の年齢、性別、住居域は、これまで実施したアンケート調査での共通項目となっている。加えて、2018年7月にリニューアルした展示に対する満足度についても調査を実施した。

1) 実績

今年度は夏と初春の2回実施した。

第1回 8月10日(金)～12日(日)

第2回 3月23日(土)～25日(月)

2) 結果

回収率：今回の調査の回答率は、第1回調査が1.2%（日別では0.9～1.9%、回答総数132枚）、第2回調査が1.9%（日別では1.5～4.2%、回答総数87枚）であった。

来館回数：第1回調査、第2回調査ともに「はじめて」の割合がもっとも高く、ついで「4回以上」の割合が高く、昨年度と同様の傾向を示した。なお、一昨年度の第1回調査では、「はじめて」の割合が減少し、「4回以上」の割合が特に高くなり、第1回リニューアル直後で実施されたためリピート率が高くなった可能性が考えられたが、一昨年度の第2回調査以降、昨年度を経て本年度の第2回調査に至るまで、「はじめて」の割合が最も高く、「4回以上」の割合がそれに次ぐ状況が続いている。

情報源：昨年度と同様、「友人・知人」、「家族・親戚」という口コミ情報と、「ホームページ」を含むインターネット情報の選択割合が高い傾向にあり、インターネットを活用した効率的な情報発信の重要性が示唆される。

同行者・交通手段：昨年度と同様、同行者は「家族と」との回答が抜きんでて高く、交通手段では「自家用車」が最も高く、特に第2回調査では93.0%と高い数値を示した。

来館目的：昨年度と同様、「常設展示観覧」が最も高かった。「リニューアル展示観覧」は、昨年度の第2回調査で値が低下したが、今年度は両調査とも20%以上の値となった。これは、今年度は年度後半の11月に樹冠トレイルがオープンしたことが影響しているかもしれない。第1回調査は、昨年度は開催されなかった企画展示の開催期間中であつたことから、「期間限定展示観覧」も高い値を示した。

滞在時間：昨年度最も多かった「1～2時間」を凌いで、第1回調査、第2回調査とも「2～3時間」が最も多く、「3～4時間」の割合も昨年度の調査を上回った。このことは、昨年度と比較して、来館者の滞在時間が長くなったことを示唆している。

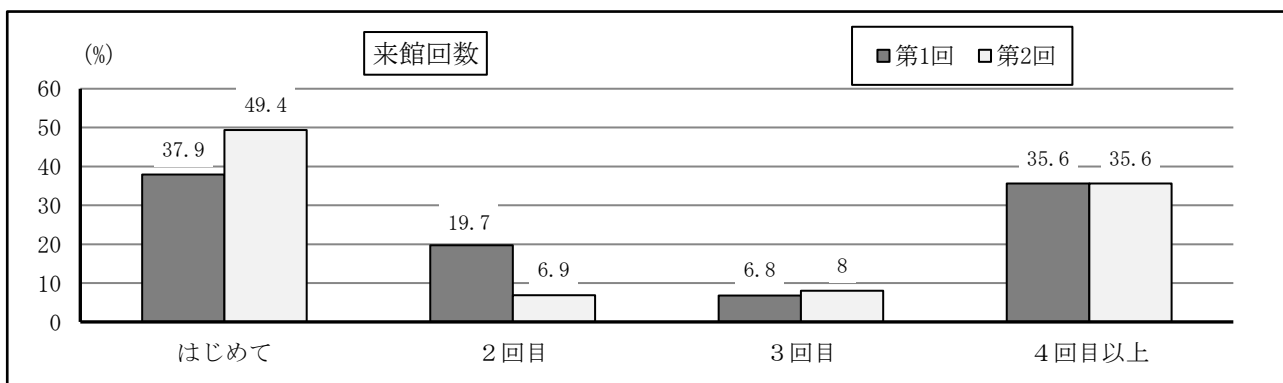
満足度：博物館の満足度については、「非常に満足した」と「満足した」を合わせると、第1回調査、第2回調査で、それぞれ92.3%、89.7%となり、高い水準を維持している。リニューアルされた3つの展示についても、「非常に満足した」と「満足した」を合わせて、7月にオープンしたディスカバリールームで81.1%、80.3%、おとなのディスカバリーで76.3%、82.6%、11月にオープンした樹幹トレイルでは第2回調査で76.3%となり、いずれも高い評価をうけた。

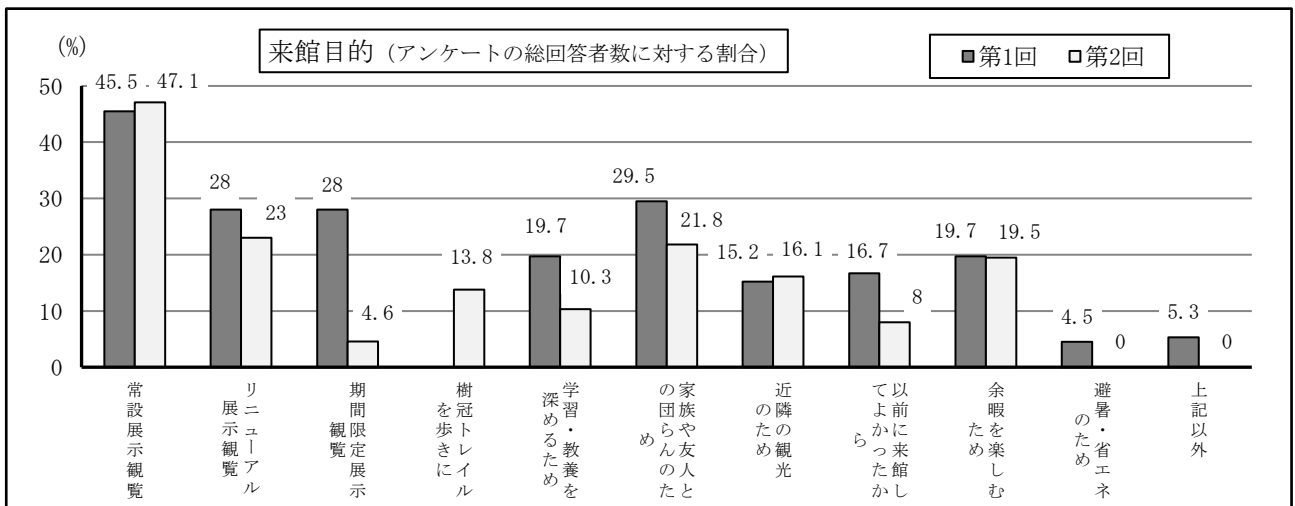
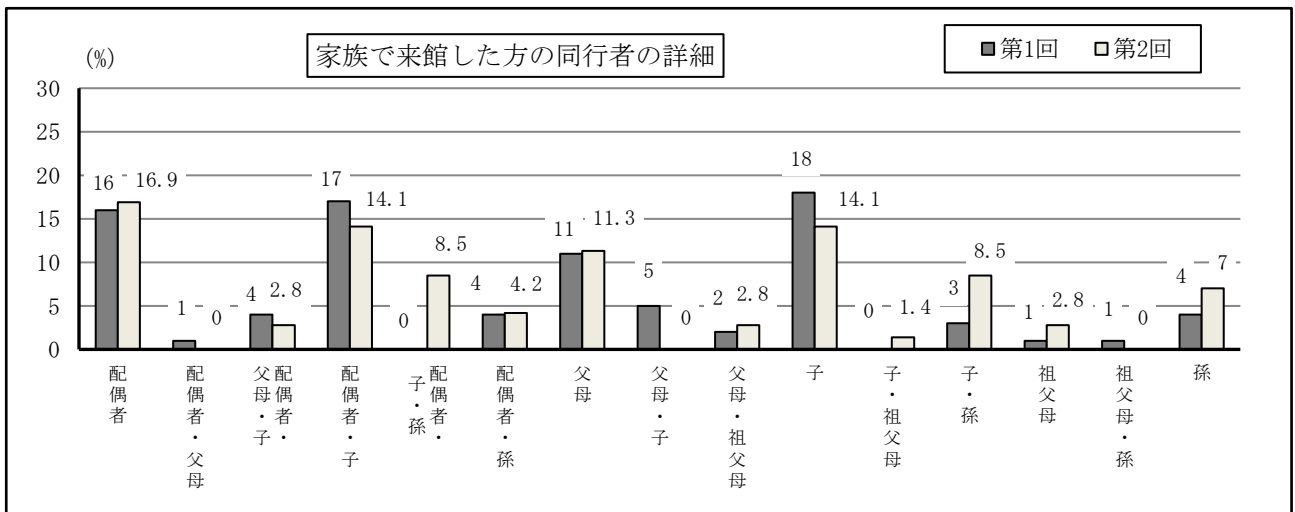
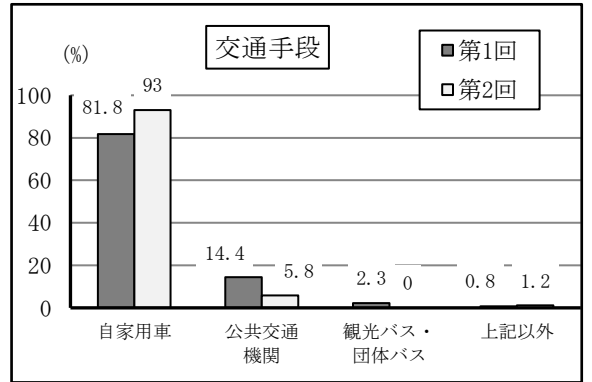
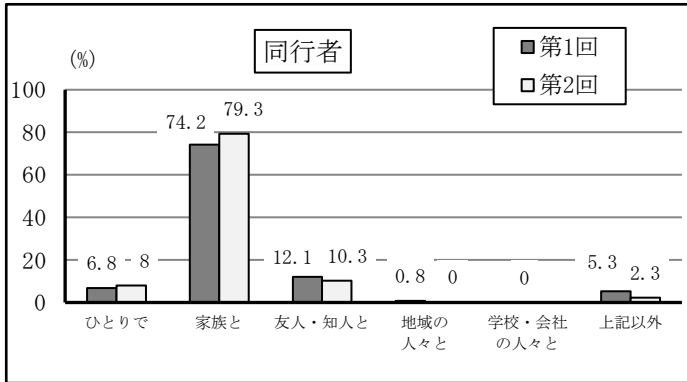
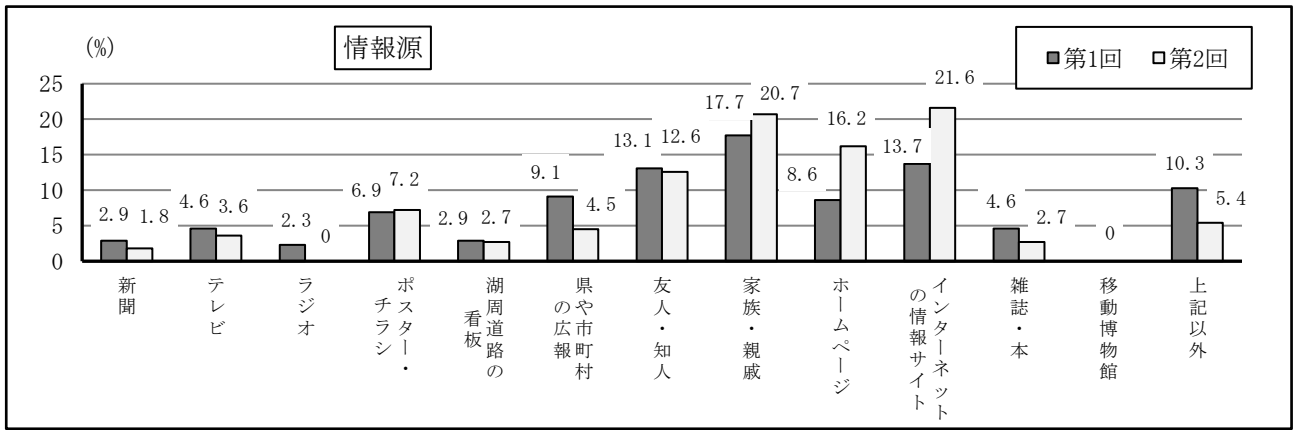
不満に思うこと：第1回調査の「レストラン」が最も高い値を示し、昨年度の第2回調査で「昼食場所」が最も高い値を示したと併せて、食事面での不満に留意する必要があることを示しているものと思われる。

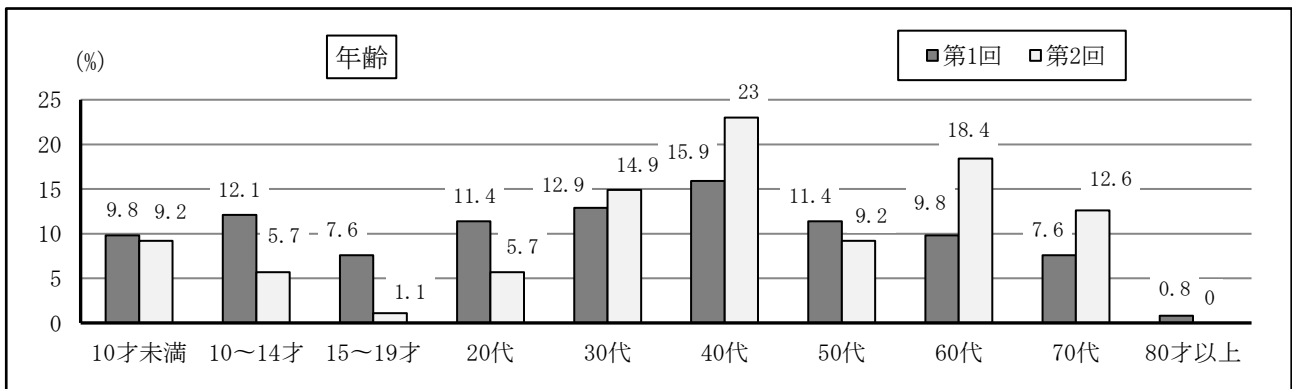
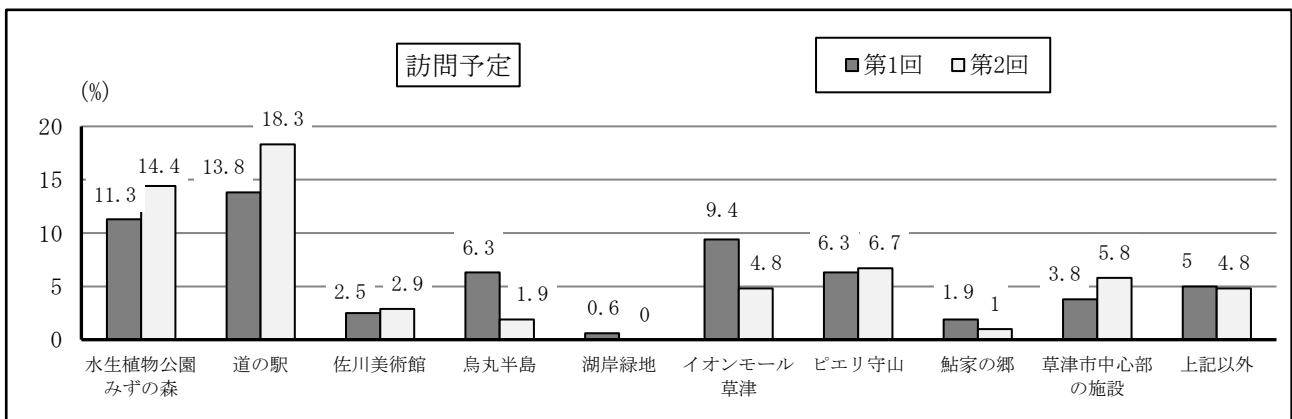
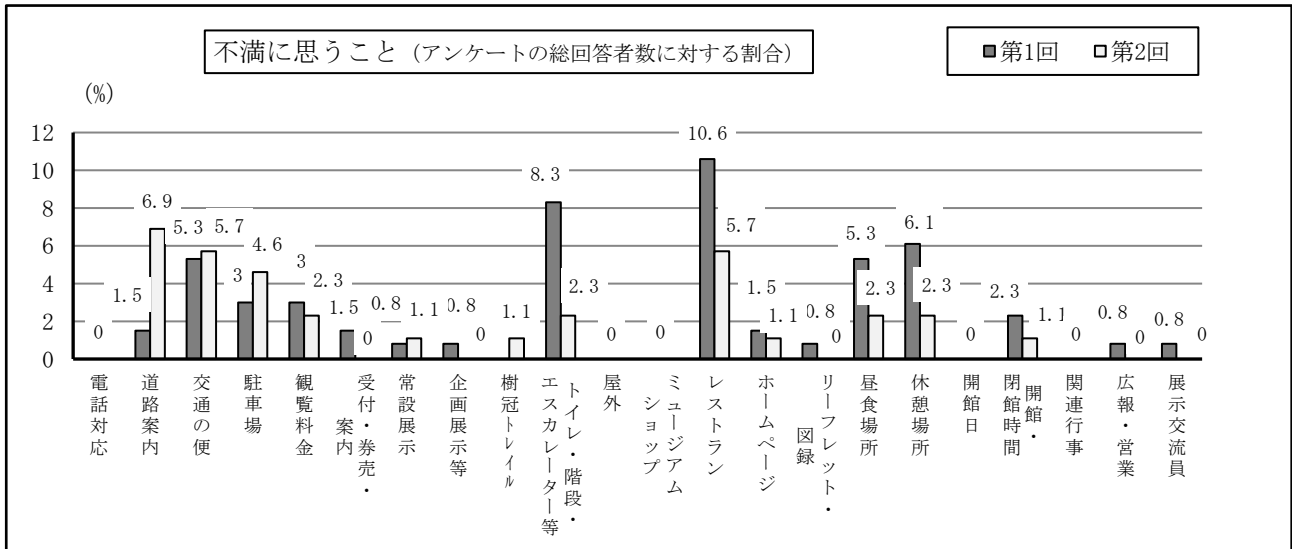
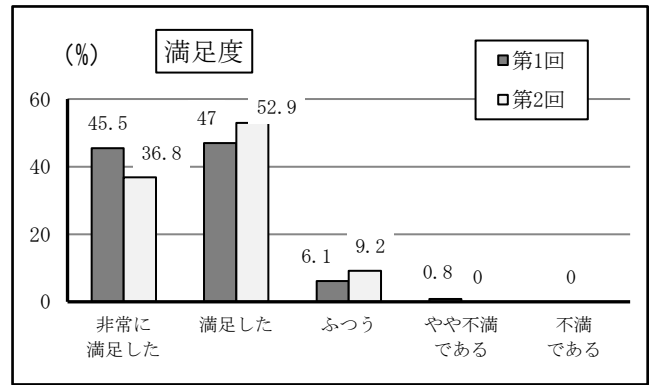
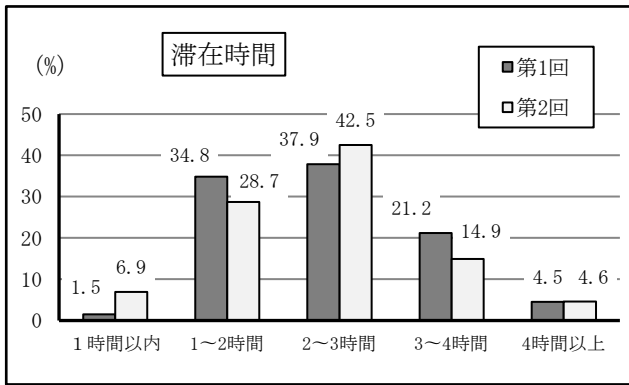
近隣施設の訪問予定：近接する「水生植物公園みずの森」と「道の駅」が高い値を示し、南北に離れた湖周道路沿いのショッピングモールの「イオンモール草津」と今年度新たに選択肢に加えた「ピエリ守山」がそれに続いた。

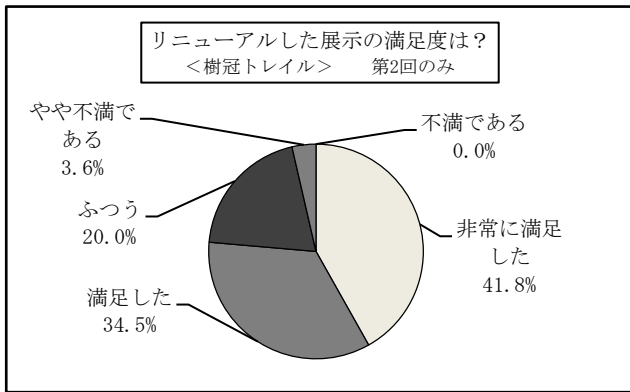
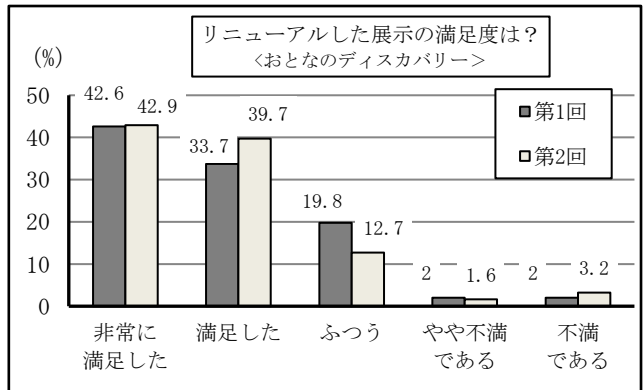
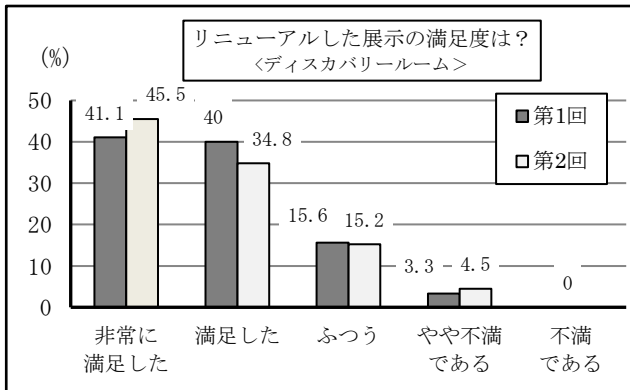
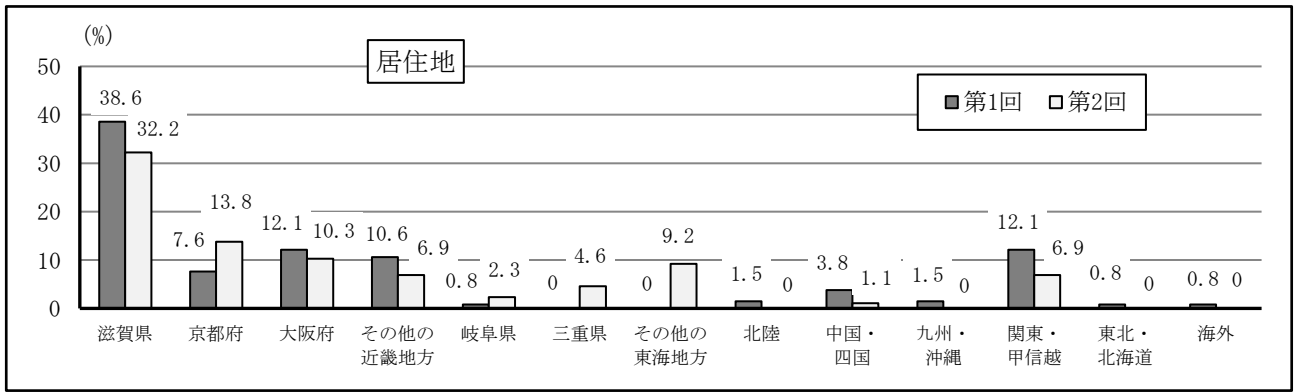
年齢層・居住地：年齢は、昨年度と同様に「40代」、「30代」が多いことに加えて、第2回調査では昨年度と比べても「60代」、「70代」の割合が多く10代（「10～14才」、「15～19才」）、「20代」が少ないことが特徴的であった。居住地は、県内からの利用者率が昨年度と同程度の値を示した。

(数値は特に断りのない限り、アンケート回答者数に対する各々の回答数の割合を百分率で示したもの)



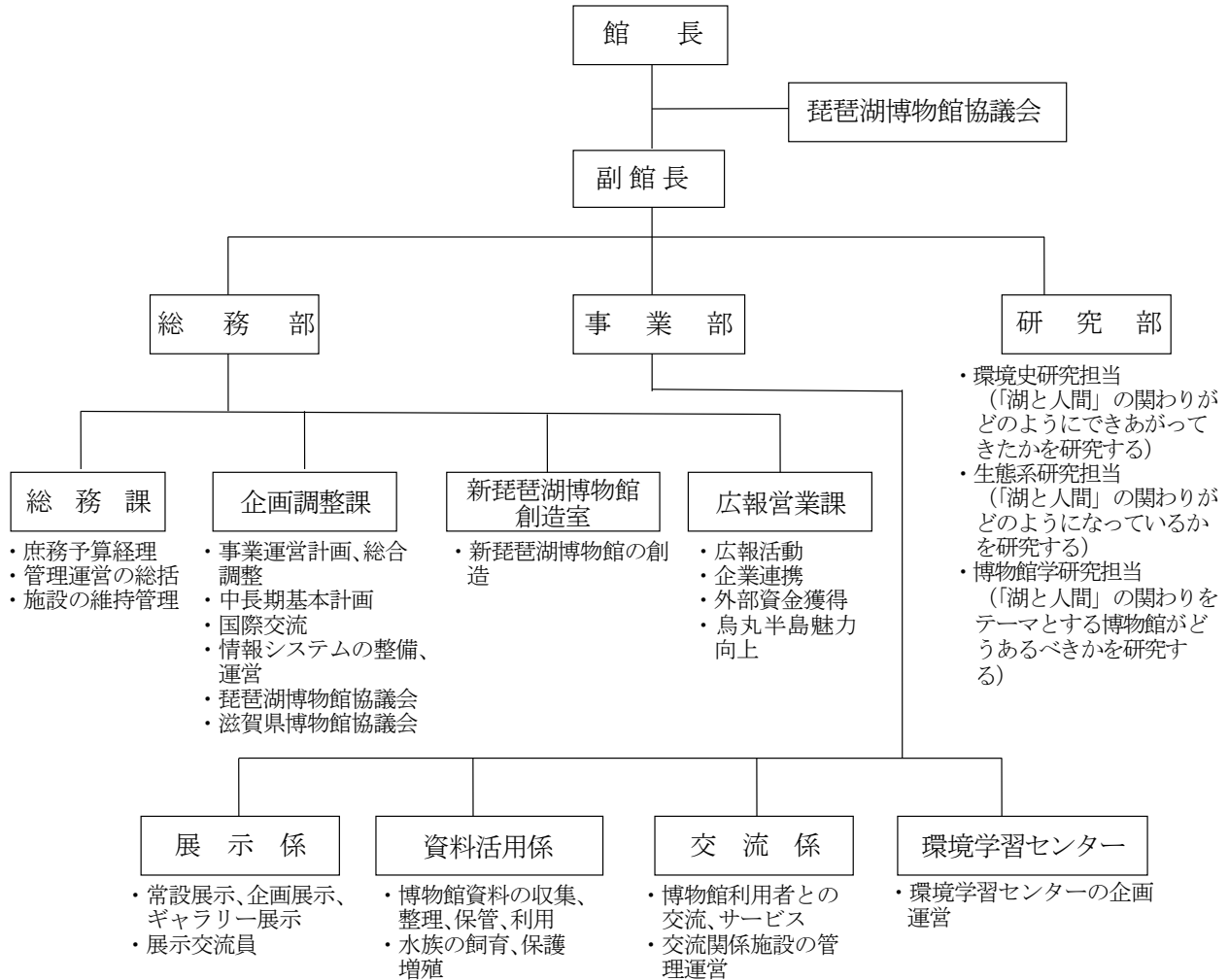






2 柔軟な運営組織

(1) 組織



職員構成（2018年10月1日現在：兼務・併任職員を含む）

区分	館長 (非常勤)	行政職	研究職	教育職	小計	嘱託等	合計
人数(名)	1	11	30	2	44	18	62

研究職の内訳

区分	学芸	水産	農業土木	土木	林業	合計
人数(名)	26	1	1	1	1	30

(2) 職員

(2018年10月1日現在)

○館長	篠原 徹
○副館長	高木 浩文
○副館長	高橋 啓一
○上席総括学芸員	山川千代美
○参事	梅村 徹弥

総務部

○部長(事務取扱) 高木 浩文

◇ 総務課

課長	磯間 貢志
副参事	初宿 文彦
主幹	萩山 幸代
主幹	中尾 和美
主任主事	宮田 晋太郎

◇ 新琵琶湖博物館創造室

(兼)	山川千代美
室長(兼)	梅村 徹弥
(兼)	里口 保文
室長補佐	藤田 和也
主任専門員(兼)	中村 靖浩
(兼)	榎永 一宏
(兼)	橋本 道範
(兼)	下松 孝秀
(兼)	北井 剛
(兼)	奥野 知之
(兼)	林 竜馬
(兼)	中村久美子
(兼)	小林 偉真
(兼)	渡部 圭一
(兼)	妹尾 裕介

◇ 企画調整課

課長(兼)	芳賀 裕樹
(兼)	亀田佳代子
課長補佐(兼)	田中 順子
(兼)	中井 克樹
(兼)	林 竜馬
(兼)	鈴木 隆仁

◇ 広報営業課

課長(兼)	梅村 徹弥
課長補佐	田中 順子
(兼)	片岡 佳孝
副主幹(兼)	卷上 博司
(兼)	金尾 滋史

事業部

○部長(兼) 桑原 雅之

◇ 展示係

係長(兼)	榎永 一宏
(兼)	橋本 道範
(兼)	戸田 孝
(兼)	北井 剛
(兼)	中村久美子
(兼)	妹尾 裕介

◇ 資料活用係

係長(兼)	ロビン ジェームス スミス
(兼)	里口 保文
(兼)	芦谷美奈子
(兼)	松岡 由子
(兼)	渡部 圭一
(兼)	田畑 諒一

◇ 交流係

係長(兼)	八尋 克郎
(兼)	大塚 泰介
(兼)	下松 孝秀
(兼)	山本 綾美
主査(併任)	奥野 知之
(兼)	楊 平
主任主事(併任)	小林 偉真
(兼)	大槻 達郎
(兼)	大久保実香

環境学習センター

所長(事務取扱)	松田 征也
副主幹	卷上 博司

研究部

○部長（兼） 山川 千代美

◇ 環境史研究係

係長 総括学芸員 里口 保文
 専門学芸員 橋本 道範
 主査（兼） 北井 剛
 主任学芸員 楊 平
 主任学芸員 林 竜馬
 学芸技師 渡部 圭一
 学芸員 大久保実香
 学芸員 妹尾 裕介
 学芸技師 田畑 諒一

◇ 博物館学研究係

係長 総括学芸員 大塚 泰介
 専門学芸員 戸田 孝
 （兼） 奥野 知之
 主任学芸員 芦谷美奈子
 主任学芸員 金尾 滋史
 主任学芸員 中村久美子
 （兼） 小林 偉真
 学芸員 松岡 由子

◇ 生態系研究係

係長 総括学芸員 亀田佳代子
 総括学芸員 松田 征也
 総括学芸員 桑原 雅之
 総括学芸員 八尋 克郎
 総括学芸員 芳賀 裕樹
 専門学芸員 中井 克樹
 専門学芸員 榊永 一宏
 専門学芸員 ロビン ジェームス スミス
 専門員（兼） 下松 孝秀
 主任主査 片岡 佳孝
 主任主査（兼） 山本 綾美
 学芸技師 鈴木 隆仁
 学芸技師 大槻 達郎

嘱託員・臨時的任用職員

田中 里美	館長秘書	三榎友梨香	資料標本整理
江川 久雄	広報・集客	草加 伸吾	交流事業
北浦 孝雄	企業連携	塩谷えみ子	交流事業
中川 優	屋外展示運営	植村 隆司	学校学習
徳本 智美	展示室運営	高木 成美	図書資料整理
南 悠穂	展示室運営	山本 藤樹	環境学習
高石 清治	展示物維持補修	鶴飼 菜香	環境学習
大喜のぞみ	資料標本整理	近藤 順子	環境学習
烏野 妙子	資料標本整理	松村 順子	交流事業
井上 晴絵	資料標本整理	中西美智子	資料保存環境管理

特別研究員

天野 一葉	池田 勝	今井 一郎	岩木 真穂	柏尾 珠紀	北村 美香	楠岡 泰
黒岩 啓子	朱 偉	鈴木 真裕	瀬口 眞司	高梨 純次	辻川 智代	寺本 憲之
中野 聰志	中野 正俊	根来 健	廣石 伸互	藤岡 康弘	矢田 直樹	山本 充孝
川那部浩哉	布谷 知夫	中島 経夫	前畑 政善	用田 政晴	マーク J. グライガー	

フィールドレポーター・はしかけ登録者（掲載承諾者のみ）

◇フィールドレポーター (登録者数 218 名(うちスタッフ 9 名))

土金 慧子	楠岡 泰	辻 いずみ	小野 麻代	松本 勉	若代 隆行	若代 智子
近藤 順子	矢野 典子	前田 雅子	中島いずみ	橋田 理絵	熊谷 明生	熊谷 明美
対中いずみ	宇野 啓明	酒井陽一郎	林 克子	大西 英雄	保科 秀行	保科 雅子
保科 政秀	保科 明俊	奥村 恵子	武田 滋	村上 靖昭	小松 大治	小松 連

中野 敬二	矢野 修	矢野としこ	土生 陽子	武田 繁	山本 篤	小篠 伸二
上田 修三	中場 弘二	鈴木 正範	吉居 晴美	藤本 昭義	増永裕里子	荒井 紀子
平井 政一	本田 幹雄	山本皓一郎	岡 隼斗	岡 亜紀	岡 奏多	角井 俊明
加藤美由紀	レイトーマス	山下 直子	山下泉マリー	山下遥ミヤ	山下悟ケイシ	山本 善康
福岡 敏雄	西村 有巧	田中 一茂	市原 龍	山川 栄樹	山川 茜	山川 和馬
山川 侑夏	山川佳那子	遠阪 聡子	中井 大介	北村 美香	遠藤 吉三	蜂屋 正雄
寺田 誠	後藤 真吾	杉田 薫	吉岡 伸子	宮本 直興	安井加奈恵	今井沙知子
今井虎ノ介	今井 花	川北 浩史	濱道 秀	寺澤 孝之	吉野 彰一	千田 祥生
佐々木由巳子	佐々木遼太郎	佐々木亜弥子	千田はる恵	千田 紘慈	千田 佳穂	青木 環
青木 春乃	佐々木榮一	立川 直樹	西之園保夫	柳 哲平	畑中 清司	片山 慈敏
井野 勝行	中井 民子	谷村 啓子	大橋 義孝	三田村緒佐武	加固 啓英	山本つや子
三谷 軌文	川南 仁	中村 絆那	福嶋 桂子	福嶋 啓志	青山 喜博	藤井 康行
片岡 庄一	手良村知央	手良村昭子	手良村知功	村山 晃彦	飯田 俊宏	桐江 利雄
中村 浩一	岡田 宗一	岡田 葵	岡田 和美	岡田 創暉	渡邊 共則	渡邊 純大
津田 國史	岡 隆宏	筈井美智子	佐野 和子	佐野 隼也	佐野 裕也	松本偉之助
八尋 由佳	山本由里子	穴蔵 雅彦	北側 忠次	藪内まゆ子	山本 充孝	水戸 基博
水戸 涼乃	水戸 涼介	奥村恵津子	浅井 良英	大岡 紀彦	村野 淳	村野 やえ
久国 正吉	矢原 功	堀 英輔	尾崎 友輔	久保 和友	津田久美子	勝見 政之
北川 眞造	椛島 昭紘	山崎 千晶	小林 隆夫	吉野 和夫	山元 祐人	小山 勝
大河原秀康	中尾 博行	江間 瑞恵	河崎 凱三	杉江ミサ子	井上 修一	山口 瑞彦
今井 洋	柿ノ木未希	柿ノ木理志	柿ノ木志希乃	柿ノ木唯乃	熊木 武志	熊木 慧弥
向田 直人	水相 修躬	佐藤良太郎	尾原 直行	川島 雅雄	間所 忠昌	土田 正文
桐畑 信夫	谷口 雅之	芝崎美世子	西岡 陸	大谷 祥子	澤田 知之	滝沢 仁希
三村 武士	小林 亮平	細木 京子	十塚 正治	渡辺圭一郎	吉川 秀司	永谷美津恵
永谷 想生	飯田 隆行	飯田 貞美	本田 英樹	川邊 咲子	中谷敬二郎	

◇はしかけ (登録者数 387名)

中野 和真	土金 慧子	楠岡 泰	藤田 成子	吉成 暁	榎本 真司	山本真里子
松田 道一	辻 いづみ	谷本 正浩	谷本 由美	北田 稔	小野 麻代	戸田 博通
戸田 歌子	中川 優	川田 裕元	川井 久美	川井 彩音	笹生 正則	松本 勉
若代 隆行	若代 智子	根来 健	近藤 順子	松里 香織	松里 凜	矢野 典子
前田 雅子	芦田 弘美	井上 晴絵	桑垣 瑞	橋田 理絵	熊谷 明生	熊谷 明美
白井 良平	対中いづみ	宇野 啓明	酒井陽一郎	林 克子	大西 英雄	前田 攝子
片山 康夫	武田 滋	川口 涼	村上 靖昭	小松 大治	小松 連	松川 郁子
中野 敬二	辻川 智代	中井菜美子	矢野 修	矢野としこ	土生 陽子	武田 繁
小篠 伸二	上田 修三	斉藤 文子	中場 弘二	村山 和夫	山野井邦彦	齊藤 眞琴
齊藤眞由美	鈴木 正範	吉居 晴美	増永裕里子	石田 勉	猪飼 徹	岡部 陽造
安原 輝	井上 聖花	山本皓一郎	和田 至博	岡 隼斗	加藤美由紀	大沢 果那
レイトーマス	山下 直子	山下泉マリー	山下遥ミヤ	山下悟ケイシ	山本 善康	福岡 敏雄
草加 伸吾	西村 有巧	木村 誠二	木村 爽	佐瀬 章男	田中 一茂	市原 龍
石井 千津	山川 栄樹	山川 茜	山川 和馬	山川 侑夏	山川佳那子	西川 美喜
一木 彰	中井 大介	北村 美香	遠藤 吉三	秋山 廣光	小川千奈美	小川 哲仙
吉本 由花	吉本 瀧侍	吉本 凜花	蜂屋 正雄	前田 博美	後藤 真吾	杉田 薫

吉井 隆	吉岡 伸子	富田久仁枝	宮本 直興	伊東 文彦	伊東 彬良	山本 阿子
安井加奈恵	今井沙知子	今井虎ノ介	今井 花	池田 勝	川北 浩史	濱道 秀
田井中由利子	石田 未基	村田 博之	竹元 冴矢	近持 照美	寺澤 孝之	吉野 彰一
佐々木由巳子	佐々木遼太郎	佐々木亜弥子	神谷 悦子	竹谷 満弘	辻 真宏	辻 実沙記
梅澤 正夫	辻本 智子	辻本 一暁	辻本紗也佳	門田なづな	門田 瑞樹	古川まや子
青木 環	青木 春乃	佐々木榮一	立川 直樹	西之園保夫	堀田 修身	堀田 博美
堀田 恵子	柳 哲平	藤橋 和弘	片山 慈敏	福永 和馬	水谷 智	村瀬 友斗
山田 正樹	山田 恵美	山田 和毅	三田村緒佐武	杉山 國雄	田付 翔	山本つや子
三谷 軌文	大前 健人	川南 仁	中村 絆那	福嶋 桂子	福嶋 啓志	青山 喜博
田中 治男	田中 雅也	片岡 庄一	手良村知央	手良村昭子	手良村知功	大堀 忠厚
肥田 嘉文	村山 晃彦	渡邊 達也	古川 麻依	北野 大輔	島津 心暖	大橋 洋
寺尾 尚純	龍見 幸祐	吉野千栄子	飯田 俊宏	池田 裕輝	中村 浩一	岡田宗一郎
岡田 葵	岡田 和美	岡田 創暉	津田 國史	北村 明子	岡 隆宏	金山 正之
金山美佐子	佐野 和子	佐野 隼也	佐野 裕也	鈴木 直子	八尋 由佳	岡田 徹
柳原 徳子	山本由里子	穴蔵 雅彦	飯住 達也	藪内まゆ子	古胡 陽介	水戸 基博
水戸 涼乃	水戸 涼介	山本 道子	大岡 紀彦	深田 元子	村野 淳	村野 やえ
久国 正吉	立石 文代	山口 幸江	矢原 功	尾崎 友輔	津田久美子	大喜のぞみ
瀬野 美貴	松本 隆	坂本 大介	椛島 昭紘	山崎 千晶	山口 拓朗	小林 隆夫
神戸 道典	吉田恵太郎	中山 法子	吉野 和夫	徳永 義利	徳永 成美	徳永 優
小山 勝	岸田 教敬	大河原秀康	中尾 博行	江間 瑞恵	前迫羽衣子	前迫 嘉光
畠山 寿枝	吉野まゆみ	吉野 心晴	宮崎 猛	宮崎 真	中村 重信	井上 修一
篠塚 裕子	篠塚 琢磨	篠塚 沙玖	山口 瑞彦	中島 財	藪内 和子	後長シマ子
今井 洋	遠藤 浩子	山本 藤樹	柿ノ木未希	柿ノ木理志	柿ノ木志希乃	柿ノ木唯乃
熊木 武志	熊木 慧弥	宇野 翔	向田 直人	綺田万紀子	荒川 忠彦	尾原 直行
福野 憲二	三輪 祐子	関谷 和久	川島 雅雄	間所 忠昌	服部 隆義	服部 雅也
服部 彩乃	涌井 大斗	南 和美	谷口 雅之	高田 昌彦	西岡 陸	中西 寛子
中西 春陽	中西 優一	佐々木信幸	佐々木則子	佐々木満保	佐々木幹朗	佐々木結衣
武田 広志	澤田 知之	内藤 真澄	内藤 裕行	内藤 結友	西村 義隆	三村 武士
小林 亮平	細木 京子	井上 藍	井上 貞行	井上 慧	井上 葉	十塚 正治
石井 利和	渡辺圭一郎	吉川 秀司	窪田美知留	堀江 夏妃	山中 裕子	永谷美津恵
永谷 想生	木下多津江	飯田 隆行	飯田 貞美	吉田 達矢	吉田 範香	富 小由紀
中村 聡一	宮田 孝	別所 宏二	別所かおる	岩西紗江子	斎藤 知行	桑田 向陽
中谷敬二郎	納屋内高史	大橋 正敏				

3 社会的支援と新しい経営

(1) 利用状況 (2018 年度入館者数)

1) 総入館者数

期 間：2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日

合 計：473,014 人

開館日数： 310 日

一日平均： 1,526 人

月 平均： 39,417 人

入館者区分別内訳

区分	個人 (人)	団体 (人)	合計 (人)	構成比 (%)
未就学児	63,498	26,291	89,789	19.0
小学生・中学生	55,343	60,144	115,487	24.4
高校生・大学生	8,050	6,596	14,646	3.1
一般	232,704	20,388	253,092	53.5
合計	359,595	113,419	473,014	100.0

年 月	開館日数	有料入館 (人)				無料入館 (人)									総 計 (人)	1 日 当 り 平 均 (人)
		一 般	高 大 学 生	小 中 学 生 (企画展示)	有 料 計	65 歳 以上	障 害 者	家 族 ふ れ あ い サ ン デ ー 等	体 験 学 習	1 A 3 0 日	学 校 行 事	小 中 学 生	そ の 他	無 料 計		
2018.4	27	10,026	2,148	0	12,174	957	890	1,367	2	0	9	6,082	9,089	18,396	30,570	1,132
5	27	13,561	960	0	14,521	1,184	1,401	1,176	5	1,065	326	10,950	11,059	27,166	41,687	1,544
6	26	9,790	409	0	10,199	951	1,401	1,368	1	0	150	7,092	8,351	19,314	29,513	1,135
7	26	15,761	1,179	836	17,776	1,352	1,597	1,877	0	0	151	9,530	16,497	31,004	48,780	1,876
8	30	29,536	2,274	3,683	35,493	2,635	2,695	1,898	21	0	305	17,397	20,688	45,639	81,132	2,704
9	24	14,257	1,422	676	16,355	829	1,495	2,005	7	0	1,243	7,695	12,054	25,328	41,683	1,737
10	27	10,572	859	720	12,151	919	1,276	1,088	10	0	5,650	12,725	8,421	30,089	42,240	1,564
11	26	10,553	521	632	11,706	1,786	1,608	3,467	7	0	2,545	9,026	10,937	29,376	41,082	1,580
12	21	6,194	704	0	6,898	555	896	1,063	2	0	26	2,841	7,320	12,703	19,601	933
2019.1	23	8,443	707	0	9,150	774	829	1,321	3	0	118	4,248	10,080	17,373	26,523	1,153
2	25	8,083	685	0	8,768	685	768	3,977	6	0	74	4,486	10,751	20,747	29,515	1,181
3	28	13,568	1,200	0	14,768	1,223	1,281	1,783	17	0	13	7,463	14,140	25,920	40,688	1,453
計	310	150,344	13,068	6,547	169,959	13,850	16,137	22,390	81	1065	10,610	99,535	139,387	303,055	473,014	1,526

*家族ふれあいサンデー等：「関西文化の日」における無料入場者を含む

2) 学校等入館者数

年 月		小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		大学など		総 計	
		学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数
2018.4	全 体	7	680	9	1,006	9	1,720	0	0	4	431	29	3,837
	県 内	0	0	1	159	1	254	0	0	0	0	2	413
5	全 体	32	3,239	19	3,360	3	431	3	127	5	262	62	7,419
	県 内	0	0	2	400	1	292	1	13	1	53	5	758
6	全 体	37	2,708	12	2,002	1	11	4	118	3	55	57	4,894
	県 内	24	1,540	1	112	0	0	3	37	0	0	28	1,689
7	全 体	5	242	13	1,110	8	490	2	33	3	150	31	2,025
	県 内	1	12	3	356	4	90	1	7	2	110	11	575
8	全 体	2	69	3	112	6	179	3	167	9	350	23	877
	県 内	0	0	0	0	1	40	2	48	0	0	3	88
9	全 体	35	2,844	0	0	4	369	5	97	6	315	50	3,625
	県 内	13	1,076	0	0	3	162	1	5	1	192	18	1,435
10	全 体	137	10,296	9	605	5	211	8	164	3	260	162	11,536
	県 内	77	5,034	6	486	1	44	4	67	1	193	89	5,824
11	全 体	53	4,539	6	946	2	49	5	70	4	92	70	5,696
	県 内	29	2,347	1	16	1	27	4	40	0	0	35	2,430
12	全 体	11	684	1	13	2	110	1	13	3	134	18	954
	県 内	4	299	0	0	0	0	1	13	0	0	5	312
2019.1	全 体	8	602	0	0	1	37	1	49	7	384	17	1,072
	県 内	7	469	0	0	1	37	1	49	2	79	11	634
2	全 体	13	810	1	17	2	86	2	48	5	232	23	1,193
	県 内	11	686	1	17	0	0	2	48	2	116	16	867
3	全 体	2	34	2	72	3	84	1	19	0	0	8	209
	県 内	2	34	0	0	0	0	1	19	0	0	3	53
合計	全 体	342	26,747	75	9,243	46	3,777	35	905	52	2,665	550	43,337
	県 内	168	11,497	15	1,546	13	946	21	346	9	743	226	15,078

4) 月別・曜日別入館者数

年月	日曜・祝祭日	土曜日(祝日除く)	その他	計
2018.4	14,798	5,400	10,372	30,570
5	22,040	5,216	14,431	41,687
6	10,281	7,746	11,486	29,513
7	21,972	8,741	18,067	48,780
8	20,907	7,807	52,418	81,132
9	20,434	10,421	10,828	41,683
10	11,298	6,056	24,886	42,240
11	17,510	6,758	16,814	41,082
12	10,997	4,738	3,866	19,601
2019.1	11,822	5,127	9,574	26,523
2	16,607	6,069	6,839	29,515
3	18,868	9,856	11,964	40,688
計	197,534	83,935	191,545	473,014
構成割合	41.8%	17.7%	40.5%	100.0%

(2) 広報活動

2018年度は、専門業者に広報業務を委託し、パブリシティ活動を中心とする広報活動を展開し、第2期リニューアルオープンに合わせたテレビ番組取材の誘致や、デジタル広告、SNSを通じた情報拡散などの広報を行った。また有料広告や資料提供等を通じた情報発信の結果、来館者数は47万人余りとなった。

広告掲載13件、資料提供71件の広報活動を行い、テレビ・ラジオ37件、新聞掲載239件、雑誌等掲載85件、またWEBでも262件取り上げられた。2019年度はさらなる来館者の増加を目指し、これまでのファミリー向け広報活動のほか、大人も楽しめる博物館の魅力を発信する広報等、さらなる広報活動を展開していく必要がある。

1) 広告掲載

掲載時期	掲載誌	体裁	スペース	地域	発行部数
4月	JR西日本京都駅地下鉄連絡口 デジタルサイネージ				
4-5月	リスティング広告(Google)				
7月	京都駅地下鉄コトチカビジョン デジタルサイネージ				
7月	毎日新聞「おおさか子ども元気アップ新聞」	タブロイド判	5段	大阪府	52.5万部
7月	朝日新聞高校野球特集(広報課枠)				
8月	リスティング広告(Google)				
11月	リスティング広告(Google)				
11月	リビング新聞折り込みチラシ	A4版		京都府 大阪府	10万部
2月	子どもとお出かけ情報サイト「いこーよ」広告				
3月	POPLEAD 2019年3月号	A5版	見開き 1.5ページ	滋賀県	12万部
3月	おでかけ moa 3月号	AB版	見開き 2ページ	滋賀県	18万部
3月	Cheki pon 3月号	B6版	1ページ	滋賀県	15万部
3月	ランチパスポート(広報課枠)				

2) 資料提供

	提供日	件名
1	4月13日	琵琶湖博物館のリニューアルへの御支援に対する感謝状の贈呈式を開催します
2	4月24日	「近美×びわ博 描かれた湖国の生き物と風景」展の開催について (近代美術館/琵琶湖博物館)
3	4月25日	記者発表 ゴールデンウィークは琵琶湖博物館に行こう！！
4	5月15日	滋賀県立琵琶湖博物館 「カイツブリ調査」や「橋の名前調査」の結果報告も！フィールドレポーターの交流会を開催します
5	5月31日	滋賀県立琵琶湖博物館 ハウネンエビやカイエビなどが大集合！マイクロアクアリウムで『水田のエビたち』を展示中！
6	6月5日	記者発表 琵琶湖博物館 7月6日 第2期リニューアルオープン！

	提供日	件名
7	6月18日	滋賀県立琵琶湖博物館協議会委員を募集します
8	6月22日	琵琶湖博物館環境学習センター 8月8, 9日 環境・ほっと・カフェを開催します！
9	6月26日	“子どもも大人も学んで楽しめる！” 「おとなのディスカバリー」「ディスカバリールーム」がいよいよ 7月6日(金)にオープンします！
10	7月12日	滋賀県立琵琶湖博物館 「おとなのディスカバリー」で展示開始 オスとメスの両方の特徴をもつ珍しい個体 雌雄モザイクのカブトムシが発見されました！
11	7月13日	滋賀県立琵琶湖博物館 第26回企画展示『化石林 ねむる太古の森』を開催します
12	7月20日	滋賀県立琵琶湖博物館 第30回水族企画展示『琵琶湖に固有な魚たちの歴史』を開催します
13	7月20日	滋賀県立琵琶湖博物館「おとなのディスカバリー」で展示開始 黄色いオタマジャクシが発見されました！
14	7月20日	夏休みは「びわ博」へGO！～夏イベントのご案内～
15	7月24日	国際標準模式地の審査状況について（2018年7月）
16	8月6日	からすまいちばんスタンプラリー実施中!!
17	8月17日	新種のナマズを発見しました!!
18	8月22日	琵琶湖博物館ブックレット⑦『琵琶湖はいつできたー地層が伝える過去の環境ー』を出版しました
19	8月28日	琵琶湖博物館リニューアルのための御寄附について寄附目録・感謝状の贈呈式を開催します
20	8月31日	琵琶湖博物館『樹冠トレイル』クラウドファンディングスタート！～皆様のご協力をお願いします！～
21	9月5日	琵琶湖博物館 水族トピック展示 『57年ぶりの新種発見！～タニガワナマズ <i>Silurus tomodai</i> ～』を開催します
22	9月11日	平成30年度第1回滋賀県立琵琶湖博物館協議会を開催します
23	9月14日	『樹冠トレイル』にお名前を刻みませんか？～琵琶湖博物館『樹冠トレイル』寄付金募集中！～
24	10月5日	琵琶湖博物館『樹冠トレイル』にお名前を刻みませんか～寄付金募集中！（残り27日）～
25	10月7日	滋賀県立琵琶湖博物館 企画展示「化石林ーねむる太古の森」の来場者数が3万人を突破しました！！
26	10月12日	琵琶湖博物館『樹冠トレイル』が11月3日(祝)オープン！
27	10月17日	琵琶湖博物館環境学習センター 10月22日 環境・ほっと・カフェを開催します！
28	10月24日	滋賀県立琵琶湖博物館 「樹冠トレイル」内覧会のお知らせ
29	10月24日	琵琶湖博物館アトリウムコンサートを開催します～私たちが奏でる琵琶湖の響き～
30	10月24日	残り8日！琵琶湖博物館『樹冠トレイル』にお名前を刻みませんか～寄付金募集中！～
31	10月24日	琵琶湖博物館 ディスカバリールームイベント『かぼちゃをさがそう!!』を開催します
32	10月30日	記者発表 琵琶湖博物館に「樹冠トレイル」がオープンします！
33	10月31日	琵琶湖博物館ホームページをリニューアルしました！
34	11月8日	日本植生史学会公開シンポジウム『時空を超えた埋没林・化石林研究の進展に向けて』を開催します
35	11月8日	琵琶湖博物館ブックレット⑧『古琵琶湖の足跡化石を探る』を出版しました
36	11月14日	琵琶湖博物館 第2弾コラボメニュー『愛菜ハンバーグ～トマ味噌仕立て～』をお披露目します！

	提供日	件名
37	11月15日	滋賀県立琵琶湖博物館 びわ博フェス2018を開催します ～期間中は「関西文化の日」に伴い常設展示観覧料が無料！～
38	11月19日	国際標準模式地の審査状況について（2018年11月）
39	11月22日	滋賀県立琵琶湖博物館 カメの公開身体測定を行います
40	11月22日	カゴメと湖南農業高校の協働メニュー 『愛菜ハンバーグ ～トマ味噌仕立て～』を琵琶湖博物館レストランでお披露目します！
41	11月30日	湖の拡大が進化を加速：40万年前に始まった琵琶湖固有カワニナの適応放散
42	12月5日	からすまいちばんスタンプラリー2018 実施中!!
43	12月7日	『淡海こどもエコクラブ活動交流会』の開催
44	12月12日	滋賀県立琵琶湖博物館 水族展示 今年もトンネル水槽にサンタクロースがやってきます！
45	12月14日	滋賀県立琵琶湖博物館『第9回 琵琶湖地域の水田生物研究会』を開催します
46	12月20日	滋賀県立琵琶湖博物館 田んぼ体験「しめ縄づくり」を開催します
47	12月20日	滋賀県立琵琶湖博物館 ディスカバリールーム「はたきをつくろう！」開催
48	12月21日	クリスマスの3連休には、琵琶湖博物館に行こう！
49	12月25日	琵琶湖博物館はしかけグループ「うおの会」が 日本水環境学会関西支部社会・文化賞を受賞しました！
50	12月27日	琵琶湖博物館はお正月2日から開館します！
51	1月4日	琵琶湖博物館リニューアルのための御寄附にかかる知事感謝状の贈呈式開催
52	1月10日	滋賀県立琵琶湖博物館『2018年度 新琵琶湖学セミナー』を開催します
53	1月11日	1月の3連休は琵琶湖博物館へ行こう！
54	1月15日	ギャラリー展示「トンボ100大作戦 ～滋賀のトンボを救え～」を開催します！
55	1月18日	ドキュメンタリー映画「鳥の道を越えて」上映会&ディスカッション
56	1月18日	ギャラリー展示「トンボ100大作戦 ～滋賀のトンボを救え～」開催セレモニーについて
57	2月7日	2月の3連休は、琵琶湖博物館の「樹冠トレイル」から比良山の雪景色を楽しもう！
58	2月8日	滋賀県立琵琶湖博物館サイエンスセミナー 『琵琶湖はいつできた？』を東京・ここ滋賀で開催します
59	2月12日	琵琶湖博物館 冬のアトリウムコンサートを開催します ～私たちが奏でる琵琶湖の響き～
60	2月23日	滋賀県立琵琶湖博物館協議会 平成30年度第2回会議を開催します
61	2月26日	琵琶湖博物館環境学習センター 環境・ほっと・カフェを開催します！
62	3月6日	琵琶湖博物館 冬のアトリウムコンサートを開催します ～私たちが奏でる琵琶湖の響き～
63	3月11日	琵琶湖博物館のリニューアルに対する御寄附にかかる感謝状の贈呈式を開催します
64	3月12日	琵琶湖博物館ブックレット⑨『ビワコオオナマズの秘密を探る』を出版しました！
65	3月15日	琵琶湖博物館リニューアル寄付金募集中！
66	3月15日	琵琶湖博物館環境学習センター 第2回びわく学生ミーティングを開催します！
67	3月20日	国登録有形民俗文化財「琵琶湖の漁撈用具及び船大工用具」登録記念ギャラリー展示 「琵琶湖 漁具図鑑-魚つかみの道具のヒミツ」を開催します
68	3月22日	琵琶湖博物館のリニューアルに対する御寄附にかかる感謝状の贈呈式を開催します
69	3月28日	春休みには 琵琶湖博物館 空中遊歩道「樹冠トレイル」へ行ってみよう！！
70	3月28日	琵琶湖博物館長の退任・就任会見について
71	3月29日	琵琶湖博物館長の退任・就任について

3) テレビ放映・ラジオ放送記録

放送日	番組名	内容	媒体	担当者
4	3 ニュースほっと関西	バイカルヨコエビの繁殖に成功	NHK 大阪	桑原雅之総括学芸員
4	20 NHK NEWS LINE	琵琶湖へ行こう！驚きのエコライフ	NHK インターナショナル	中井克樹専門学芸員 金尾滋史主任学芸員 片岡佳孝主任主査
4	20 NHK NEWS ROOM TOKYO		NHK インターナショナル	金尾滋史主任学芸員 片岡佳孝主任主査
4 5	30 1～ 2 おうみかわら版（滋賀）	近美×びわ博 描かれた湖国の生き物と風景展	ZTV	金尾滋史主任学芸員
5	6～ 12 Weekly!かわら版（滋賀）	近美×びわ博 描かれた湖国の生き物と風景展	ZTV	金尾滋史主任学芸員
5	10 おうみ発 630	近美×びわ博 描かれた湖国の生き物と風景展	NHK 大津	橋本道範専門学芸員
5	10 おうみ 845	近美×びわ博 描かれた湖国の生き物と風景展	NHK 大津	橋本道範専門学芸員
5	14 Voice 憤懣本舗	沖島のいのしし	毎日放送	
7	6～ 9 おうみかわら版（滋賀）	リニューアルオープン	ZTV	金尾滋史主任学芸員
7	8～ 14 Weekly!かわら版（滋賀）	リニューアルオープン	ZTV	金尾滋史主任学芸員
7	4 おうみ発 630	琵琶湖博物館改装工事一部終了	NHK 大津	榊永一宏専門学芸員
7	4 キラりん滋賀 BBCニュース	琵琶湖博物館内覧会	びわ湖放送	榊永一宏専門学芸員
7	10 ぐるっと関西おひるまえ	リニューアルオープン	NHK 大阪	榊永一宏専門学芸員
7	16 キラりん滋賀 BBCニュース	オスとメスの特徴持つカブトムシ	びわ湖放送	金尾滋史主任学芸員
7	16 青木和雄の昼までええやん！	リニューアルの話題について	ラジオ大阪	金尾滋史主任学芸員
7	18 ニッポンの里山	平安神宮のイチモンジタナゴ	NHKBS プレミアム	松田征也総括学芸員
7	18 博物館情報・メディア論」第15回	地域の総合博物館における情報・メディア（琵琶湖博物館）	BS 放送大学	高橋啓一副館長
7	23 関西ラジオワイド	第2期リニューアル	NHK ラジオ	金尾滋史主任学芸員
7	28 なりきり！むーにゃん生きもの学園	ちいさな妖精？カヤネズミになりきり！	NHKE テレ	中村久美子主任学芸員
7	29 BBCニュース	琵琶博・固有種紹介する企画展	びわ湖放送	金尾滋史主任学芸員
8	1 キラりん滋賀 BBCニュース	夏休み自由研究講座	びわ湖放送	
8	1 おうみ発 630	夏休み自由研究講座	NHK 大津	
8	1 おうみ 845	夏休み自由研究講座	NHK 大津	
8	2 なりきり！むーにゃん生きもの学園（再放送）	ちいさな妖精？カヤネズミになりきり！	NHKE テレ	中村久美子主任学芸員
8	3 news フェイス	ディスカバリー、おとなのディスカバリー	KBS 京都	榊永一宏専門学芸員 金尾滋史主任学芸員
8	8 サンぷん	ディスカバリー、おとなのディスカバリー	サンテレビ	榊永一宏専門学芸員 金尾滋史主任学芸員

放送日	番組名	内容	媒体	担当者
8/10	やさしいニュース	おとなもハマる!?体験型博物館 生中継	テレビ大阪	榊永一宏専門学芸員 金尾滋史主任学芸員
8/17	キラりん滋賀 BBCニュース 週末イベント情報	企画展示 化石林 ヨシ灯りをつくろう	びわ湖放送	山川千代美総括学芸員 中村久美子主任学芸員
8/20	キラりん滋賀 BBCニュース	57年ぶり新種ナマズ発見	びわ湖放送	田畑諒一学芸技師
8/20	お昼のニュース	動物の骨格標本を触って体験する視覚障害者向け講座	NHK 大津	小林偉真主任主事
8/20	ニュース	新種のナマズ	毎日放送	田畑諒一学芸技師
8/21	おやかまっさん	ディスカバリー、おとなのディスカバリー	KBS 京都	榊永一宏専門学芸員 金尾滋史主任学芸員
8/22	おうみ発 630	57年ぶり新種ナマズ発見	NHK 大津	田畑諒一学芸技師
8/22	おうみ 845	57年ぶり新種ナマズ発見	NHK 大津	田畑諒一学芸技師
8/25	一文字弥太郎の週末ナチュラルリスト 朝ナマ!	転職を探せシリーズ第5弾 学芸員への道	RCC ラジオ	金尾滋史主任学芸員
9/12	キラりん滋賀 BBCニュース	タニガワナマズの展示	びわ湖放送	田畑諒一学芸技師
9/12	プライムニュースデイズ	タニガワナマズの展示	関西テレビ	田畑諒一学芸技師
9/13	木曜ミステリー「遺留捜査」	博物館施設内でのロケ	テレビ朝日	金尾滋史主任学芸員
9/22	満天☆青空レストラン	写真・動画提供：『ビワマス』	日本テレビ	金尾滋史主任学芸員
9/23	ザ!鉄腕!DASH!!	写真提供：『マゴイ』	読売テレビ	金尾滋史主任学芸員
9/24	ワイド!スクランブル	タニガワナマズの展示	朝日放送	田畑諒一学芸技師
9/30	知っているようで知らなかった なるほどミュージアム 滋賀県×琵琶湖	滋賀県と琵琶湖にまつわる情報	びわ湖放送	篠原 徹館長 里口保文総括学芸員 金尾滋史主任学芸員
11/1	おうみ発 630	樹冠トレイルオープン	NHK 大津	篠原 徹館長 林 竜馬主任学芸員
11/1	おうみ 845	樹冠トレイルオープン	NHK 大津	篠原 徹館長 林 竜馬主任学芸員
11/2	キラりん滋賀 BBCニュース	樹冠トレイルオープン	びわ湖放送	林 竜馬主任学芸員
11/2	播磨まるごと探検隊 「テレフォン探検隊」		コミュニティFM (姫路市)	金尾滋史主任学芸員
11/8	キラりん滋賀 「海と日本プロジェクト」	彦根市立佐和山小学校5年生(事業:海洋教育パイオニアスクール)琵琶湖博物館での小学生の活動の様子	びわ湖放送	大塚泰介総括学芸員
11/21	タビフク+VR	琵琶湖博物館の紹介	BS-TBS	金尾滋史主任学芸員
11/21	昼めし旅	琵琶湖の湖畔でご飯調査、琵琶湖に生息する魚を見に博物館へ	テレビ東京	金尾滋史主任学芸員
11/22	おはようコール ABC	琵琶湖博物館の紹介	朝日放送	金尾滋史主任学芸員
11/24	BBCニュース	カメの公開身体測定	びわ湖放送	金尾滋史主任学芸員
11/28	タビフク+VR(再放送)	琵琶湖博物館の紹介	BS-TBS	金尾滋史主任学芸員
11/28	多田しげおの気分爽快〜朝からP.O.N	琵琶湖博物館の紹介	CBC ラジオ	金尾滋史主任学芸員

放送日		番組名	内 容	媒 体	担当者
11	29	森谷威夫のお世話になります	「樹冠トレイル」「おとなのディスカバリー」の紹介	KBS 京都ラジオ	金尾滋史主任学芸員
12	7	コミュニティ情報発信	「琵琶湖博物館の親しみ文化」について	FM おおつ	篠原 徹館長
12	8	テレビ滋賀プラスワン	リニューアルで魅力がUP!	びわこ放送	中村久美子主任学芸員 榊永一宏専門学芸員 林 竜馬主任学芸員 渡部圭一学芸技師
12	9	テレビ滋賀プラスワン(再放送)	リニューアルで魅力がUP!	びわこ放送	中村久美子主任学芸員 榊永一宏専門学芸員 林竜馬主任学芸員 渡部圭一学芸技師
12	16	BBCニュース	サンタトンネル水槽	びわ湖放送	金尾滋史主任学芸員
12	23	サンデーステーション	サンタトンネル水槽	朝日放送	
12	23	ABC ニュース	サンタトンネル水槽	朝日放送	
12	24	おうみ発 645	サンタトンネル水槽	NHK 大津	金尾滋史主任学芸員
2	10	ドクター敬子のYes!マップ	樹冠トレイル	J:COM チャンネル	
2	8~11	おうみかわら版(滋賀)	ギャラリー展示「トンボ100大作戦 ~滋賀のトンボを救え~」	ZTV	生物多様性びわ湖ネットワーク稲垣さん(松田征也総括学芸員)
2	10~16	Weekly!かわら版(滋賀)	ギャラリー展示「トンボ100大作戦 ~滋賀のトンボを救え~」	ZTV	生物多様性びわ湖ネットワーク稲垣さん(松田征也総括学芸員)
2	13	CAST	「樹冠トレイル」「おとなのディスカバリー」「水族展示」の紹介	朝日放送	金尾滋史主任学芸員
2	17	BBCニュース	アトリウムコンサート	びわ湖放送	
2	22	Friday Relaxing Go! Go!	琵琶湖固有種の進化について	FM 滋賀	田畑諒一学芸技師
2	27	キラりん滋賀 BBCニュース	北アフリカの研究者らが琵琶湖博物館に	びわ湖放送	中井克樹専門学芸員
3	2	おはよう朝日 土曜日です	「樹冠トレイル」「おとなのディスカバリー」「水族展示」の紹介	朝日放送	金尾滋史主任学芸員
3	4	キラりん滋賀 BBCニュース	「アユモドキ」復活に貢献の小学生に琵琶湖博物館が協力	びわ湖放送	松田征也総括学芸員
3	13	知ったかぶりカイツブリニュース	びわ博の中の人 川魚屋さん	びわ湖放送	金尾滋史主任学芸員
3	5	ニュース	「アユモドキ」復活に貢献の小学生に琵琶湖博物館が協力	NHK 大津	松田征也総括学芸員
3	29	BBCニュース	篠原館長退任会見	びわ湖放送	篠原 徹館長
3	31	知っているようで知らなかった なるほどミュージアム滋賀	琵琶湖の微小生物	びわ湖放送	鈴木隆仁学芸員

4) 新聞掲載記録

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
4	1	俳句と写真自然の大切さ 草津（琵琶湖博物館）で全国から 34 点展示	京都新聞
4	5	わら細工 自然を体験 中川優囑託職員	読売新聞
4	5	[びわ博コレクション おうみ漁具図鑑] <1>エビタツベ 仕掛け「家の印」で区別 渡部圭一学芸技師	京都新聞
4	10	[びわ博こだわり展示の裏話] <21>工事中の展示室はどんな風景？ 辺り一面平ら驚きの広さ 金尾滋史主任学芸員	毎日新聞
4	13	[美術館・博物館] 「近江水産図譜」の世界-明治期の琵琶湖漁撈 案内	毎日新聞
4	13	バイカルヨコエビの一種 幼体飼育に成功 県立琵琶湖博物館来月 6 日まで展示	朝日新聞
4	14	[湖国の人たち] 石集めの魅力伝える 琵琶湖博物館ブックレット「近江の平成雲根志」を出版 福井龍幸さん	毎日新聞
4	14	[湖岸より] <316>ショップとレストラン新装 渡部圭一学芸技師	中日新聞
4	19	[びわ博コレクション おうみ漁具図鑑] <2>オオギ 浅場の魚かぶせ手づかみ 渡部圭一学芸技師	京都新聞
4	20	[美術館・博物館] 「近江水産図譜」の世界-明治期の琵琶湖漁撈 案内	毎日新聞
4	24	[びわ博こだわり展示の裏話] <22>トンネル水槽の水が抜けたとき 恐怖!! 高さ 6メートルの崖つぶち 金尾滋史主任学芸員	毎日新聞
4	24	滋賀 感動・感激!! 大なる「琵琶湖」癒される旅を…。近美×びわ博「描かれた湖国の生き物と風景」	朝日新聞
4	27	[A+1 美術館・博物館] 近美×びわ博「描かれた湖国の生き物と風景」開催案内	朝日新聞<大阪版>(夕刊)
4	27	[美術館・博物館] 「近江水産図譜」の世界-明治期の琵琶湖漁撈 案内	毎日新聞
4	28	[湖岸より] <317>古代湖の世界 桑原雅之総括学芸員	中日新聞
5	2	子ども無料開放 「こどもの日」に県立の琵琶湖博物館などの 4 施設	京都新聞
5	2	Art Openings 近美×びわ博「描かれた湖国の生き物と風景」開催案内	JAPAN TIMES<東京版>
5	2	[美術館・博物館] 「近江水産図譜」の世界-明治期の琵琶湖漁撈 案内	毎日新聞
5	3	[びわ博コレクション おうみ漁具図鑑] <3>網モンドリ 通り道に立て入りを待つ 渡部圭一学芸技師 / 湖国の生き物と風景リアル 県立近美×琵琶博草津で初企画展 絵画・屏風 40 点歴史学の解説も	京都新聞
5	4	「こどもの日」琵琶湖博物館などの 4 県立施設子ども無料開放	読売新聞
5	10	[丘峰喫茶店による] 豊かな魚泳ぐ未来に	朝日新聞
5	10	[情報ちゅーぶ] 近美×びわ博「描かれた湖国の生き物と風景」開催案内	中日新聞<三重版>
5	11	[美術館・博物館] 「近江水産図譜」の世界-明治期の琵琶湖漁撈 案内	毎日新聞
5	11	[美術館] 近美×びわ博「描かれた湖国の生き物と風景」開催案内	京都新聞(夕刊)
5	12	[湖岸より] <316>見慣れた風景の新発見に期待 ロビン・ジェームス・スミス専門学芸員 / 古代ゾウ化石発見の多賀 企画人気 研究者と「夢」掘ろう プロジェクトに琵琶湖博物館の学芸員などの専門家も参加	中日新聞
5	12	[今さら聞けない PLUS] 環境 DNA 水をくめば分かる生き物の種類<写真提供:『琵琶湖の魚』>	朝日新聞<札幌・東京・名古屋・大阪・北九州版>
5	13	湖国の自然 絵と資料で紹介 琵琶博、県立美術館と共同展	読売新聞
5	13	ふなずしの歴史探る 19 日湖灯塾 琵琶博橋本道範専門学芸員が講演	京都新聞
5	14	「琵琶湖ハンドブック」改訂 県、環境保全など項目追加 琵琶湖博物館の環境学習センターで貸し出しも行っている	産経新聞
5	15	[びわ博こだわり展示の裏話] <23>マイクロバク湖水“カクテル”でミジンコ観察 プロの顕微鏡でじっくり 鈴木隆仁学芸技師	毎日新聞
5	16	博物館展示に市民の視点 琵琶湖博物館では第 1 期～第 2 期の常設展リニューアルに、14 年から毎年アンケート調査を行う 藤田和也創造室室長補佐のコメント	朝日新聞<札幌・東京・名古屋・北九州版>(夕刊)
5	17	[びわ博コレクション おうみ漁具図鑑] <4>ネギボウズ型タツベ 奇妙な形 急速に姿消す 渡部圭一学芸技師	京都新聞
5	18	[美術館・博物館] 「近江水産図譜」の世界-明治期の琵琶湖漁撈 案内	毎日新聞
5	18	[展覧会] 近美×びわ博「描かれた湖国の生き物と風景」開催案内	読売新聞(しが県民情報)
5	18	[A+1 美術館・博物館] 近美×びわ博「描かれた湖国の生き物と風景」開催案内	朝日新聞(夕刊)
5	19	[知事選 2018] 元知事に聞く<下> 前例ない仕事できる 県職員として琵琶湖博物館の設立にも携わった嘉田由紀子元知事	朝日新聞
5	19	[おうみ今昔] 琵琶湖文化館 1960 年大津市打出浜 湖上浮かぶ文化の殿堂 休館後水族部門は琵琶湖博物館へ	京都新聞
5	20	琵琶湖博物館と近代美術館コラボ 湖国の生物 描いた生物 描いた展示 田畑諒一学芸技師のコメント	中日新聞
5	20	ふなずし「工夫の結晶」湖灯塾 橋本道範専門学芸員が講演	京都新聞
5	21	[平成の県政] 稲葉稔知事(1986-98) 文化施設を積極整備 琵琶湖博物館の開館を実現	京都新聞
5	22	[平成の県政] <中>国松善次知事(1998-2006) 反発越え「固有種守る」 中井克樹専門学芸員のコメント	京都新聞
5	23	豊かな自然 維持に一役 トンボ種類 6 倍、希少種も飛来 旭化成住工東近江のビオトープ整備 1 年 表彰式は琵琶湖博物館で行われる	産経新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
5	25	[美術館・博物館]「近江水産図譜」の世界—明治期の琵琶湖漁撈 案内	毎日新聞
5	26	[遊・You・友]近美×びわ博「描かれた湖国の生き物と風景」開催案内	朝日新聞(夕刊)
5	26	[湖岸より]〈317〉15年越しの新種報告 大塚泰介総括学芸員	中日新聞
5	29	[びわ博こだわり展示の裏話]〈24〉湖魚料理のレプリカは本物の料理から 思わず手が出るリアルさ 金尾滋史主任学芸員	毎日新聞
5	31	[びわ博コレクション おうみ漁具図鑑]〈5〉タツベ 便利な円筒形、広く普及 渡部圭一学芸技師	京都新聞
6	1	[美術館・博物館]近美×びわ博「描かれた湖国の生き物と風景」開催案内	毎日新聞
6	1	[情報ワイド]ミュージアムガイド 近美×びわ博「描かれた湖国の生き物と風景」開催案内 / [おすすめ]滋賀の絵画×自然コラボ 近美×びわ博「描かれた湖国の生き物と風景」	京都新聞
6	1	[講座講演]プランクトンを見よう!開催案内	産経新聞
6	5	夢と希望乗せ新「うみのこ」就航 琵琶湖博物館と直接やり取りできるウェブ会議システムや、湖底を観察できる水中カメラなどが新設	毎日新聞
6	5	[知事選2018]県の課題 琵琶湖博物館は、展示内容に合わせた建物を造った先駆例	朝日新聞
6	7	[湖の幸里の幸]ピワマス 「琵琶湖八珍」の一つ上品な脂の甘み美味 藤岡康弘特別研究員の話	京都新聞
6	9	[湖岸より]〈318〉おとなのディスカバリー 榊永一宏専門学芸員	中日新聞
6	12	[びわ博こだわり展示の裏話]〈25〉アザラシ専用トンネル!?開放しました オスの「バイ」こっそり興味 松岡由子学芸員	毎日新聞
6	14	[びわ博コレクション おうみ漁具図鑑]〈6〉ドジョウ釜 水田の用水路に仕掛け 渡部圭一学芸技師	京都新聞
6	15	[遊覧選]下物探鳥会 「琵琶湖博物館」バス停集合	中日新聞
6	18	[人間発見]風景画を「曲面」打開する〈1〉琵琶湖の景観保全にも発言、琵琶湖博物館の先生方とも気さくに話し合える関係ができる 画家ブライアン・ウィリアムズさん	日本経済新聞(夕刊)
6	22	[遊・You・友]「びわ湖まるっと親子セミナー」琵琶湖博物館で開催案内	朝日新聞(夕刊)
6	23	[湖岸より]〈319〉親子で楽しむ博物館の入口 中村久美子主任学芸員	中日新聞
6	26	大人向け展示室など来月6日に2施設 琵琶湖博物館	産経新聞
6	27	「びわ活」企画発表 県が初3博物館スタンプラリー	中日新聞
6	27	「現代のことば」来月から篠原徹館長ら新執筆	京都新聞(夕刊)
6	28	来月1日びわ湖の日 3博物館巡ろう2か月、スタンプラリー	読売新聞
6	28	[びわ博コレクション おうみ漁具図鑑]〈7〉ドジョウ踏み 内陸部の農村で発達 渡部圭一学芸技師	京都新聞
6	29	「びわ湖まるっと親子セミナー」琵琶湖博物館で開催案内	産経新聞<京都版>
6	30	[湖岸より]〈320〉第2期リニューアルにむけて 篠原徹館長	中日新聞
7	2	[現代のことば]芭蕉のフェイバリット 篠原徹館長	京都新聞<京都版>(夕刊)
7	3	[びわ博こだわり展示の裏話]〈26〉工事期間中、魚はどこにいたの? 裏側の水槽へ引越す 金尾滋史主任学芸員	毎日新聞
7	5	琵琶湖博、体験スペース一新 あす公開標本観察も自由に 担当者のコメント	毎日新聞
7	5	標本手に さあ調べよう 琵琶博あす新装 / 琵琶博の2展示室あすリニューアル 好奇心くすぐる仕掛け多彩 標本・剥製触れて、学芸員の仕事間近に	京都新聞
7	5	琵琶湖博物館新装第2弾あすオープン 体験楽しむ“発見空間”	中日新聞
7	5	琵琶湖博物館大人も楽しく 展示体験室など、あすオープン	産経新聞
7	6	五感で発見びわ博 第2期リニューアルきょうオープン タヌキの生態体験、手で標本観察 / 琵琶湖博物館リニューアルオープン 11月には空中遊歩道樹冠トレイルがオープン	朝日新聞
7	7	土砂崩れで道路寸断 県内大雨、交通機関に乱れ 琵琶湖博物館では6日のリニューアルオープンにあわせて予定していた式典を中止	産経新聞
7	8	充実の剥製標本見て 琵琶湖博物館リニューアル開館	中日新聞
7	12	[びわ博コレクション おうみ漁具図鑑]〈8〉ミスクイ 奥深い歴史を秘める 三榊友梨香嘱託職員	京都新聞
7	13	雌雄の特徴持つカブトムシ発見 京の親子琵琶博に寄贈「大勢の人に見てほしい」	京都新聞
7	14	[湖岸より]〈321〉化石林 ねむる太古の森 山川千代美上席総括学芸員 / 雌雄どっち?珍しいカブトムシ 琵琶湖博物館で展示	中日新聞
7	16	[現場から]外来魚再放流依然多く 琵琶湖で条例施工15年 県、掲示で地道なPR「特効薬ない」 中井克樹専門学芸員のコメント	京都新聞
7		できることいっぱい琵琶湖博物館夏休みは家族とびわはくへ行こう!	毎日新聞(おおさか子ども元気アップ新聞)
7	19	暑い夏楽しく過ごそう!!希望ヶ丘文化公園と琵琶湖博物館を紹介	毎日新聞
7	24	[びわ博こだわり展示の裏話]〈27〉バイカル湖からの生中継 季節の変化氷の世界 金尾滋史主任学芸員	毎日新聞
7	25	琵琶博展示さらに楽しく 第2期改装「体験室」オープン	読売新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
7	26	[びわ博コレクション おうみ漁具図鑑]〈9〉ピンツケ 極めて珍しいガラス製 渡部圭一学芸技師	京都新聞
7	26	黄色いオタマジャクシ!?小学生が発見 琵琶博で展示 金尾滋史主任学芸員のコメント	読売新聞
7	26	[平成をあるく]29 広がる外来生物 目先の利益生態系壊す 中井克樹専門学芸員の話	山梨日日新聞<甲府版>
7	28	オスメス両方の特徴 珍カブトムシ展示 滋賀県立琵琶湖博物館	産経新聞
7	28	[湖岸より]〈322〉琵琶湖の魚たちの歴史に思いをはせてみませんか 田畑諒一学芸技師	中日新聞
7	29	珍しい!黄色の体 琵琶湖博物館 ツチガエルの幼生展示	中日新聞
7	31	烏丸半島9ヘクタール売却へ 30年未利用年度内入札目指す 売却予定地の周辺は、琵琶湖博物館や水生植物公園があり地域の活性化が期待されていた	京都新聞
7	31	産経WEST編集長のおすすめ [関西の議論]大人も夏休み自由研究 琵琶湖博物館が開設した「おとなのディスカバリー」	産経新聞<鳥取版>
7	31	[平成をあるく]29 在来種減り、危機に直面 外来生物法施行 果てしなきバス駆除 中井克樹専門学芸員の話	茨城新聞<水戸版>
8	2	[琵琶湖の魚たち]謎だらけの「主」ビワコオオナマズ 金尾滋史主任学芸員	産経新聞
8	3	[美術館・博物館]「琵琶湖に固有な魚たちの歴史」開催案内	毎日新聞
8	3	[種を後世に希少な動植物を守る]伏流水でハリヨ繁殖 旭化成守山製造所 金尾滋史主任学芸員ら専門家が協力	読売新聞(しが県民情報)
8	3	[平成をあるく]29 外来生物法 果てしなきバス駆除 生態系崩す繁殖力 琵琶湖で外来種防除と闘う中井克樹専門学芸員の話	神奈川新聞<横浜版>
8	5	[平成をあるく]外来生物法 バス駆除果てしなく 生態系崩す繁殖力 琵琶湖で外来種防除と闘う中井克樹専門学芸員の話	静岡新聞<静岡版>
8	6	草津と福島の子供ら交流 環境問題など議論 琵琶湖博物館などを見学	中日新聞
8	6	[平成をあるく]26 バスの駆除果てしなく 外来生物利益優先が生態系を破壊 中井克樹専門学芸員の話	新潟日報<新潟版>
8	7	[びわ博こだわり展示の裏話]〈28〉「おとなのディスカバリー」誕生 構想から16年想い形に 榎永一宏専門学芸員	毎日新聞
8	9	[びわ博コレクション おうみ漁具図鑑]〈10〉雑魚釜 モロコを捕るのに使用 辻川智代特別研究員	京都新聞
8	10	[美術館・博物館]「琵琶湖に固有な魚たちの歴史」開催案内	毎日新聞
8	10	[展覧会]水族企画展示「琵琶湖に固有な魚たちの歴史」開催案内	読売新聞(しが県民情報)
8	11	[湖岸より]〈323〉小さな生きものたちの日常をのぞいてみよう 鈴木隆仁学芸員	中日新聞
8	14	琵琶湖博物館に「知の交流所」誕生 大人も「自由研究」楽しんで 榎永一宏専門学芸員の話	産経新聞(夕刊)
8	15	ゴリの稚魚ご飯に合う つくだ煮あっさりクセなし 金尾滋史主任学芸員の話	読売新聞
8	18	新種ナマズ57年ぶり 飼育4年「体付きや歯並び違う」 琵琶湖博物館確認 琵琶湖博物館で9月8日から展示の予定	毎日新聞
8	18	国内57年ぶり新種ナマズ琵琶博学芸技師ら発見 4種類目、東海の谷川に生息 田畑諒一学芸技師の話 琵琶湖博物館で9月8日から展示の予定	京都新聞
8	18	細いナマズ57年ぶり新種 国内4種目、東海の谷川生息 田畑諒一学芸技師の話	中日新聞
8	18	ナマズ新種57年ぶり発見 国内4種目、東海地方中心に生息 田畑諒一学芸技師らの研究グループが発見 琵琶湖博物館で9月8日から展示の予定	産経新聞
8	18	[チャイム]田畑諒一学芸技師が8年前に見つけたナマズを新種と確認	産経新聞<東京版>
8	18	ナマズ、57年ぶり新種 琵琶湖博物館などのチームが三重など5県で発見	日本経済新聞
8	18	[くらし物語]自由研究、技術進化で難易度アップ 昆虫好きは博物館へ 琵琶湖博物館が「おとなのディスカバリー」コーナーを新設	日本経済新聞<東京版>
8	18	ナマズの新種、57年ぶり 東海の谷川生息 国内4種目発見 田畑諒一学芸技師の話	東京新聞<東京版>
8	18	[NEWS クリック]新種ナマズ57年ぶり確認 伊勢湾周辺の川で見つかったナマズを「タニガワナマズ」と命名<写真提供:『タニガワナマズ』>	日刊スポーツ<東京版>
8	18	57年ぶり新種ナマズ 伊勢湾周辺の川「タニガワナマズ」命名愛知など4県でも生息確認 2010年に田畑諒一学芸技師が発見<写真提供:『タニガワナマズ』>	日刊スポーツ<大阪版>
8	18	新種のナマズを発見 国内4種目57年ぶり、学術誌に掲載 9月8日から琵琶湖博物館で展示<写真提供:『タニガワナマズ』>	苫小牧民報<苫小牧版>
8	18	57年ぶり新種ナマズ 国内4種目田畑諒一学芸技師らの研究グループ発見 国際学術誌「ズータクサ」に掲載<写真提供:『タニガワナマズ』> 琵琶湖博物館で9月8日から展示の予定	北海道新聞<札幌版>
8	18	新種のナマズを発見 田畑諒一学芸技師らのグループが発表 三重・愛知・岐阜・長野各県の主に河川の上流域に生息	十勝毎日新聞<帯広版>
8	18	新種ナマズ発見 三重の川で国内4種目 琵琶湖博物館の話<写真資料提供:『タニガワナマズ』>	デーリー東北<八戸版>

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
8	18	新種ナマズ 57年ぶり 国内4種目三重など5県で確認 2010年に田畑諒一学芸技師が発見 琵琶湖博物館などのチームの話<写真提供:『タニガワナマズ』> 琵琶湖博物館で9月8日から展示の予定	東奥日報<青森版>
8	18	ナマズ 57年ぶり新種 三重など5県で確認 琵琶湖博物館などのチームが発表 2010年に田畑諒一学芸技師が発見 琵琶湖博物館とチームの話<写真提供:『タニガワナマズ』> 琵琶湖博物館で9月8日から展示の予定	岩手日報<盛岡版>
8	18	新種ナマズ 57年ぶり確認 2010年に田畑諒一学芸技師が発見、北九州市立自然史・歴史博物館の日比野友亮学芸員が確認	河北新報<仙台版>
8	18	57年ぶり新種のナマズ 琵琶湖博物館など発見 田畑諒一学芸技師らの研究グループの話<写真提供:『タニガワナマズ』> 琵琶湖博物館で9月8日から展示の予定	岩手日日<一関版>
8	18	57年ぶり新種ナマズ 5県で確認、国内4種目 琵琶湖博物館で9月8日から展示の予定<写真提供:『タニガワナマズ』> 琵琶湖博物館で9月8日から展示の予定	新潟日報<新潟版>
8	18	新種のナマズ 57年ぶり確認 国内4種目、三重の谷川で 琵琶湖博物館の話<写真提供:『タニガワナマズ』>	福島民報<福島版>
8	18	57年ぶり新種ナマズ 琵琶湖博物館の話<写真提供:『タニガワナマズ』>	福島民友<福島版>
8	18	新種ナマズ 57年ぶり確認 長野含む5県 2010年に田畑諒一学芸技師が発見 琵琶湖博物館の話<写真提供:『タニガワナマズ』>	信濃毎日新聞<長野版>
8	18	57年ぶり新種ナマズ発見 田畑諒一学芸技師らが発表 田畑諒一学芸技師の話	長野日報<諏訪版>
8	18	新種ナマズ確認 琵琶湖博物館とチームの話 <写真提供:『タニガワナマズ』>	山梨日日新聞<甲府版>
8	18	滋賀県立琵琶湖博物館 新種ナマズ 57年ぶり確認「タニガワナマズ」と命名<写真提供:『タニガワナマズ』>	下野新聞<宇都宮版>
8	18	新種ナマズ確認 三重など5県、61年以来 琵琶湖博物館の話	茨城新聞<水戸版>
8	18	新種ナマズ 57年ぶり確認 三重など国内4種目 2010年に田畑諒一学芸技師が発見 琵琶湖博物館の話<写真提供:『タニガワナマズ』> 琵琶湖博物館で9月8日から展示の予定	福井新聞<福井版>
8	18	新種のナマズを確認琵琶湖博物館 伊勢湾周辺の川国内4種目、57年ぶり 2010年に田畑諒一学芸技師が発見	日刊県民福井<福井版>
8	18	新種ナマズ 57年ぶり発見 琵琶湖博物館 命名「タニガワナマズ」 2010年に田畑諒一学芸技師が発見<写真提供:『タニガワナマズ』> 琵琶湖博物館で9月8日から展示の予定	北日本新聞<富山版>
8	18	新種のナマズ発見琵琶湖博物館、57年ぶり<写真提供:『タニガワナマズ』>	北國新聞<金沢版>
8	18	61年以来新種ナマズ 5県で生息確認 琵琶湖博物館の話<写真提供:『タニガワナマズ』>	富山新聞<富山版>
8	18	57年ぶり確認 新種ナマズ国内4種目 2010年に田畑諒一学芸技師が発見 琵琶湖博物館の話	上毛新聞<前橋版>
8	18	新種ナマズ確認 三重の川 本県内でも生息 2010年に田畑諒一学芸技師が発見琵琶湖博物館の話<写真提供:『タニガワナマズ』>	静岡新聞<静岡版>
8	18	岐阜に新種ナマズ 5県で確認 57年ぶり、国内4種目 2010年に田畑諒一学芸技師が発見 琵琶湖博物館の話<写真提供:『タニガワナマズ』>	岐阜新聞<岐阜版>
8	18	新種ナマズ確認 61年以来 三重など5県で国内4種目、琵琶湖博物館の話 琵琶湖博物館の話<写真提供:『タニガワナマズ』>	伊勢新聞<津版>
8	18	新種ナマズ 57年ぶり発見 三重などに生息、国内4種目 2010年に田畑諒一学芸技師が発見琵琶湖博物館の話<写真提供:『タニガワナマズ』>	神戸新聞<神戸版>
8	18	57年ぶり新種ナマズ 琵琶湖博物館の話	山陰中央新報<松江版>
8	18	新種ナマズを確認 国内4種目5県生息 2010年に田畑諒一学芸技師が発見 琵琶湖博物館の話<写真提供:『タニガワナマズ』>	中国新聞<広島版>
8	18	新種のナマズ 三重の川 57年ぶり、国内4種目 2010年に田畑諒一学芸技師が発見 琵琶湖博物館の話<写真提供:『タニガワナマズ』>	山陽新聞<岡山版>
8	18	新種のナマズ 57年ぶり発見、国内4種目 三重など5県の谷川国内4種目 2010年に田畑諒一学芸技師が発見 琵琶湖博物館の話<写真提供:『タニガワナマズ』> 琵琶湖博物館で9月8日から展示の予定	徳島新聞<徳島版>
8	18	新種ナマズ 57年ぶり 国内4種目確認 三重などの谷川に生息 2010年に田畑諒一学芸技師が発見 琵琶湖博物館の話<写真提供:『タニガワナマズ』> 琵琶湖博物館で9月8日から展示の予定	四国新聞<高松版>
8	18	ナマズ新種 57年ぶり 中部5県で確認谷川に生息 2010年に田畑諒一学芸技師が発見 琵琶湖博物館の話<写真提供:『タニガワナマズ』> 琵琶湖博物館で9月8日から展示の予定	高知新聞<高知版>
8	18	新種ナマズ確認、57年ぶり<写真提供:『タニガワナマズ』>	西日本新聞<福岡版>
8	18	57年ぶり新種ナマズ 琵琶湖博物館の話 2010年に田畑諒一学芸技師が発見 琵琶湖博物館の話<写真提供:『タニガワナマズ』>	大分合同新聞<大分版>
8	18	新種ナマズ確認、在来種で4種目 琵琶湖博物館	宮崎日日新聞<宮崎版>
8	18	新種ナマズ 57年ぶり確認、琵琶湖博物館 国内4種目、谷川に生息 2010年に田畑諒一学芸技師が発見<写真提供:『タニガワナマズ』>	長崎新聞<長崎版>
8	18	新種ナマズ 5県で確認 57年ぶり、国内4種目 琵琶湖博物館の話<写真提供:『タニガワナマズ』>	佐賀新聞<佐賀版>

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
8	18	新種「タニガワナマズ」確認 東海4県と永野河川の中上流 琵琶湖博物館の話<写真提供:『タニガワナマズ』>	南日本新聞<鹿児島版>
8	18	新種ナマズ確認 57年ぶり学術誌掲載 琵琶湖博物館の話<写真提供:『タニガワナマズ』>	沖縄タイムス<那覇版>
8	18	ナマズ57年ぶり新種、三重で発見、国内4種目 2010年に田畑諒一学芸技師が発見 琵琶湖博物館の話<写真提供:『タニガワナマズ』> 琵琶湖博物館で9月8日から展示の予定	北陸中日新聞<金沢版>(夕刊)
8	18	新種ナマズ57年ぶり確認、国内4種目、琵琶湖博物館の話 2010年に田畑諒一学芸技師が発見<写真提供:『タニガワナマズ』>	熊本日日新聞<熊本版>(夕刊)
8	19	新種ナマズ57年ぶり確認、国内4種目谷川に生息、琵琶湖博物館の話 2010年に田畑諒一学芸技師が発見<写真提供:『タニガワナマズ』>	神奈川新聞<横浜版>
8	19	新種ナマズ57年ぶり確認、三重で発見東海各地に 国内4種目谷川に生息、琵琶湖博物館の話 2010年に田畑諒一学芸技師が発見<写真提供:『タニガワナマズ』>	埼玉新聞<さいたま版>
8	19	新種ナマズ57年ぶり確認、国内4種目、琵琶湖博物館の話 <写真提供:『タニガワナマズ』>	大阪日日新聞<大阪版>
8	19	新種のナマズ57年ぶり発見、琵琶湖博チーム、琵琶湖博物館の話 2010年に田畑諒一学芸技師が発見 <写真提供:『タニガワナマズ』>	奈良新聞<奈良版>
8	19	新種ナマズ57年ぶり確認、国内4種目、琵琶湖博物館の話 <写真提供:『タニガワナマズ』>	日本海新聞<鳥取版>
8	19	新種のナマズを発見 国内4種目57年ぶり 琵琶湖博物館など、研究グループの話 琵琶湖博物館で9月8日から展示の予定<写真提供:『タニガワナマズ』>	島根日日新聞<出雲版>
8	19	[平成をあるく]29外来生物法(2005年) 果てしないバスとの闘い 地域感情の発露 政治的な存在 日常生活に 中井克樹専門学芸員の話	山陰中央新報<松江版>
8	19	新種ナマズ57年ぶり確認、琵琶湖博物館、国内4種目、谷川に生息「タニガワナマズ」と命名、2010年に田畑諒一学芸技師が発見 琵琶湖博物館の話 琵琶湖博物館で9月8日から展示の予定<写真提供:『タニガワナマズ』>	山口新聞<下関版>
8	20	57年ぶり新種ナマズ 褐色まだら模様 三重など5県で確認 田畑諒一学芸技師の話<写真提供:『タニガワナマズ』>	読売新聞
8	20	新種のナマズを発見 57年ぶり、国内4種目 琵琶湖博物館など、田畑諒一学芸技師の話 琵琶湖博物館で9月8日から展示の予定 <写真提供:『タニガワナマズ』>	陸奥新報<弘前版>
8	20	[平成をあるく]外来生物法 駆除果てしなき闘い 地域感情の発露 政治的な存在 日常生活に 中井克樹専門学芸員の話	山陽新聞<岡山版>(夕刊)
8	21	琵琶湖博物館 森林の化石や氷河期体験 夏休みもあと少し太古へ時間旅行 まだまだ思い出せよう 山川千代美上席総括学芸員の話	毎日新聞
8	21	新種「タニガワナマズ」確認 東海4県と永野河川の中上流 琵琶湖博物館の話 <写真提供:『タニガワナマズ』>琵琶湖博物館など 東海や中部谷川に生息、57年ぶり確認、命名 琵琶湖博物館の話 <写真提供:『タニガワナマズ』> 琵琶湖博物館で9月8日から展示の予定	山形新聞<山形版>
8	22	[平成をあるく]外来種だらけ終わりなきバスとの闘い 生態系崩し外来種の危機 中井克樹専門学芸員の話	毎日新聞<高知・愛媛・香川版>
8	23	[びわ博コレクション おうみ漁具図鑑]<11>投網 一発必中、使い方多彩 渡部圭一学芸技師	京都新聞
8	24	琵琶湖の関連施設(琵琶湖博物館・県琵琶湖環境研究センター・国立環境研究所琵琶湖分室)を環境事務官が視察	読売新聞
8	24	琵琶湖博物館が新種として発表した「タニガワナマズ」 犬山里山学研究所は57年ぶりに見つかった新種を展示	中日新聞<名古屋版>
8	24	[A+1美術館・博物館]琵琶湖博物館催し物案内(「化石林 ねむる太古の森」)	朝日新聞(夕刊)
8	25	[湖岸より]<324>交流空間の充実 小林偉真主任主事	中日新聞
8	26	使いやすさ考慮して オストメイト対応トイレ県内で徐々に広がり 第2期リニューアルオープンをした琵琶湖博物館に新設	中日新聞
8	27	琵琶湖博物館などのチームは、新種ナマズ57年ぶり確認 伊勢湾周辺の河川で発見	中部経済新聞<名古屋版>
8	28	[びわ博こだわり展示の裏話]<29>みんなで作ったディスカバリールーム来館者と昆虫で人文字 中村久美子主任学芸員	毎日新聞
8	29	琵琶湖博物館が新種として発表した「タニガワナマズ」 犬山里山学センターで展示	読売新聞<名古屋版>
8	30	企画展示「化石林 ねむる太古の森」案内	秋田魁新報<秋田版>
8	31	[美術館・博物館]琵琶湖に固有な魚たちの歴史 案内	毎日新聞
8	31	企画展示「化石林 ねむる太古の森」案内	産経新聞
9	1	[湖岸より]<325>地震が教えてくれる洪水の記録 里口保文総括学芸員	中日新聞
9	2	[平成をあるく]外来生物法 果てしなきバス駆除 利益優先、生態系崩す 中井克樹専門学芸員の話	埼玉新聞<さいたま版>
9	3	新種タニガワナマズ びわ博学芸技師ら発見 国内4種目 田畑諒一学芸技師の話 琵琶湖博物館で9月8日から展示の予定 <写真提供:『タニガワナマズ』>	朝日新聞
9	3	[平成をあるく]外来生物法 バス駆除果てしなく 琵琶湖在来種に危機 感情の発露 政治的な存在 日常生活に 遅すぎる対策 中井克樹専門学芸員の話	京都新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
9	3	[今週のこよみ]三重県の川で見つかった「タニガワナマズ」を琵琶湖博物館で展示	埼玉新聞<さいたま版>
9	4	[現代のことば]駄舌の京都 篠原徹館長	京都新聞(夕刊)
9	6	[びわ博コレクション おうみ漁具図鑑]12>ロクロ 地曳網支えた力持ち 岸妙子 囑託職員	京都新聞
9	7	[美術館・博物館]化石林 ねむる太古の森 案内	毎日新聞
9	7	[酔狂道中記]近江と琵琶湖の自然や文化を解説してくれる琵琶湖博物館の展示は見事 ものがたり観光行動学会副会長 高田公理	毎日新聞(夕刊)
9	7	[A+1 美術館・博物館]琵琶湖博物館催し物案内(「化石林 ねむる太古の森」)	朝日新聞(夕刊)
9	8	南湖2時間で水位1メートル低下 台風21号強風や低気圧で 戸田孝専門学芸員の話 / バングラの学生ら日本のインフラ学ぶ 草津の男性招待 下水処理施設や琵琶湖博物館など視察	京都新聞
9	8	台風接近なのに…水位1メートル低下 琵琶湖南湖強風などで「北上」戸田孝専門学芸員の話	京都新聞<京都版>
9	8	小さな生命体 想像つかぬ世界 「蠅たちの隠された生活」エリカ・マカリスト著 (榊永一宏専門学芸員監修) の紹介	朝日新聞
9	9	57年ぶり新種 タニガワナマズ 国内4種見比べて 琵琶博で生体展示 <写真提供:『タニガワナマズ』『ピワコオオナマズ』『イワトコナマズ』『ナマズ』>	京都新聞
9	11	[びわ博こだわり展示の裏話]30>匂いを作れ!大作戦 敏感な嗅覚で感じて 中村久美子主任学芸員	毎日新聞
9	11	希少な動植物 保全に課題 県、啓発活動強化 <写真提供:『ゲンゴロウ』>	産経新聞
9	11	[京滋ニュース]国内のナマズ全4種比べて 琵琶湖博物館で展示	福井新聞<福井版>
9	12	新種ナマズ会いに来て 琵琶博11月25日まで展示 田畑諒一学芸技師のコメント	読売新聞
9	13	[琵琶湖の魚たち]岩場に潜む神秘的魚イワトコナマズ 金尾滋史主任学芸員	産経新聞
9	13	台風琵琶湖の水動かす 強風や気圧差の影響指摘 戸田孝専門学芸員の話	中日新聞(夕刊)
9	14	琵琶湖の水を台風動かす 21号県内に再接近時 戸田孝専門学芸員の話	中日新聞
9	14	タニガワナマズ発見記念し展示 びわ博 田畑諒一学芸技師のコメント	朝日新聞
9	14	[美術館・博物館]化石林 ねむる太古の森 案内	毎日新聞
9	15	[湖岸より]326>企業連携でトンボ生息環境を保全へ 八尋克郎総括学芸員	中日新聞
9	16	びっくり!!黄色いスッポン 桑原雅之総括学芸員の話	読売新聞
9	18	湖岸の風景 琵琶博で手作り 「びわ湖大津草津景観推進協議会」の主催で貼り絵やベンガラ塗り	読売新聞
9	18	琵琶湖外来魚(ブルーギル) 謎の半減 環境異変起きた?成魚減っただけ?県、実態調査へ予算案 中井克樹専門学芸員の話	産経新聞(夕刊)
9	20	[びわ博コレクション おうみ漁具図鑑]13>サデ網 冬に魚 竿で追い込み 渡部圭一学芸技師	京都新聞
9	21	[美術館・博物館]化石林 ねむる太古の森 案内	毎日新聞
9	21	[イベント]「日本オオサンショウウオの会 長浜市大会」中井克樹専門学芸員の講演「湖国・滋賀の生きものたちのいま」	読売新聞(しが県民情報)
9	22	イナズマロックフェス2018 滋賀シビれた10年「音楽で恩返し」西川氏夢実現 琵琶湖博物館近くの芝生広場を会場にきょうから3日間	毎日新聞
9	22	イナズマフェスキょう開幕 西川貴教さんと児童交流 滋賀や琵琶湖のことを琵琶湖博物館で知ってほしい	朝日新聞
9	22	「樹冠トレイル」ネットで寄付募集 琵琶湖博物館	産経新聞
9	24	[平成をあるく]25 外来生物法 果てなき駆除の闘い 利益優先、生態系壊す 中井克樹専門学芸員の話	大分合同新聞<大分版>(夕刊)
9	27	敏感マミズクラゲ 飼育記録へ 忍野の水族館 順調なら来年2月更新 琵琶博に次ぎ現在国内2番目	朝日新聞<山梨版>
9	28	[美術館・博物館]化石林 ねむる太古の森 案内	毎日新聞
9	28	[灯]タニガワナマズ 東海地方の川で発見された新種のナマズを琵琶湖博物館で展	京都新聞(夕刊)
9	29	[湖岸より]327>縄文土器の名前由来は縄目模様 妹尾裕介学芸員 / 「弁柄塗り」児童が体験 大津、草津市 景観保全の講座 琵琶湖博物館で開催	中日新聞
9	30	マミズクラゲの連続飼育1年超 県立富士湧水の里水族館で琵琶博に次いで国内2番目	読売新聞<山梨版>
10	1	守ろう「生きた化石」6、7日大会開催オオサンショウウオの会 中井克樹専門学芸員が記念講演「湖国・滋賀の生きものたちのいま」	毎日新聞
10	1	[平成をあるく]外来生物法 駆除果てしない闘い。 利益優先、生態系崩す 中井克樹専門学芸員の話	長崎新聞<長崎版>
10	2	6日から長浜で研究者や愛好家ら集い全国大会 オオサンショウウオ保護議論 木之本での活動報告 中井克樹専門学芸員による基調講演「湖国・滋賀の生きものたちのいま」	京都新聞
10	4	[びわ博コレクション おうみ漁具図鑑]14>追い棒 機敏に動かし鵜にみせ 渡部圭一学芸技師 / 湖沼保全 自治体タッグ 滋賀など5県 茨城で世界会議 琵琶湖博物館の職員ら発表	京都新聞
10	5	[美術館・博物館]化石林 ねむる太古の森 案内	毎日新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
10	5	[展覧会]水族トピック展示「57年ぶりの新種発見～タニガワナマズ Silurus tomodai～」	読売新聞(しが県民情報)
10	5	[A+1 美術館・博物館]琵琶湖博物館催し物案内(「化石林 ねむる太古の森」)	朝日新聞(夕刊)
10	9	新種日本から報告続々 「保護や研究の進展に期待」 田畑諒一学芸師らのチームがナマズの新種を発見	朝日新聞(夕刊)
10	12	[美術館・博物館]化石林 ねむる太古の森 案内	毎日新聞
10	13	[湖岸より]<328>太古の気候変動刻む化石林の記憶 大槻達郎学芸師	中日新聞
10	13	[琵琶湖の魚たち]人間に関わりが深いナマズ 金尾滋史主任学芸員	産経新聞
10	13	あっさりブラックバス天井 琵琶湖博物館内レストラン「にほのうみ」	読売新聞(夕刊)
10	15	世界湖沼会議前に子どもたち 環境保全へ白熱議論 守山高校生徒チーム水草の堆肥化提案 琵琶湖博物館などで行った県民への聞き取り調査で好意的な回答	中日新聞
10	16	[現代のこぼれ]紋切り型 篠原徹館長	京都新聞(夕刊)
10	16	[びわ博こだわり展示の裏話]<31>植物で感じる季節感 時の流れ伝える標本 大槻達郎学芸師	毎日新聞
10	17	[平成をあるく]20 外来生物法 果てしなきバス駆除 利益優先、生態系崩す 中井克樹専門学芸員の話	大阪日日新聞<大阪版>
10	17	[平成をあるく]20 外来生物法 果てしなきバス駆除 利益優先、生態系崩す 中井克樹専門学芸員の話	日本海新聞<鳥取版>
10	18	[びわ博コレクション おうみ漁具図鑑]<15>ガバン 派手な音たて魚追う 渡部圭一学芸師	京都新聞
10	19	[美術館・博物館]化石林 ねむる太古の森 案内	毎日新聞
10	19	高い侵略性「早く手を」 中井克樹専門学芸員「急拡大する侵略的外来水生植物オオバナミズキンバイなどへの対策」と題して琵琶湖の事例紹介	中日新聞
10	19	[2018 湖沼会議 in 茨城]外来生物、成果を報告 分科会終了専門的視点 意見交わす	茨城新聞<水戸版>
10	20	インドネシア視察団訪問 琵琶湖の水質保全策学ぶ 琵琶湖博物館を見学	京都新聞
10	20	インドネシアの派遣団琵琶湖博物館を訪問 琵琶湖に立ち寄り環境保全政策学ぶ	中日新聞
10	21	レイクマラソン 2月24日号砲 ハーフなど10回目で催し多彩 リニューアルした琵琶湖博物館を表彰式会場に設定	京都新聞
10	25	[湖沼会議 2018]オオバナ駆除現状議論 ポスターセッション会場で琵琶湖博物館の学芸員が霞が関でのオオバナ駆除に関するポスターを見つけ国土交通省霞ヶ浦河川事務所職員と意見交換	読売新聞
10	26	[美術館・博物館]化石林 ねむる太古の森 案内	毎日新聞
10	27	[湖岸より]<329>樹冠トレイルオープン! 林竜馬主任学芸員	中日新聞
10	31	外来魚どこへ行った? 4~7月駆除量昨年の半分以上 県、原因緊急調査へ 中井克樹専門学芸員の話	読売新聞
10	31	びわ湖ホール開館20周年 琵琶湖博物館建設と並ぶ滋賀県の超大型事業	京都新聞<京都版>
11	1	[びわ博コレクション おうみ漁具図鑑]<16>モチバエの杓 渡り鳥とる巧妙な仕掛け 篠原徹館長	京都新聞
11	2	ヒトと自然の関わり 篠原徹琵琶湖博物館長講演	中日新聞
11	2	空中から森を観察 琵琶湖博物館樹冠トレイル完成 林竜馬主任学芸員のコメント / [美術館・博物館]化石林 ねむる太古の森 案内	毎日新聞
11	2	湖岸へ誘う空中遊歩道 総延長150m 琵琶博にあすオープン 林竜馬主任学芸員のコメント / [恵みを守る]世界湖沼会議・茨城から <中>つながる湖 外来魚や水草対策共有 中井克樹専門学芸員の話	京都新聞
11	3	鳥の目線で自然感じて きょうから公開琵琶湖博物館の樹冠トレイル 琵琶湖博物館のコメント	中日新聞
11	4	「上から目線」の新感覚琵琶湖博物館 林竜馬学芸員のコメント	朝日新聞
11	4	高さ10メートルの道眼前に樹、鳥 空中散歩道が完成 琵琶湖博物館 林竜馬学芸員のコメント	大阪日日新聞
11	6	[びわ博こだわり展示の裏話]<32>透明になれば何かが見える? 骨格、解剖せずに観察 田畑諒一学芸師	毎日新聞
11	6	空中散歩道で絶景いかが 樹幹トレイル琵琶湖も一望 林竜馬学芸員のコメント	産経新聞
11	7	琵琶博で空中散歩を 150メートル「樹冠トレイル」完成	読売新聞
11	7	美術館・博物館無料!!17・18日県内では琵琶湖博物館など41施設	毎日新聞
11	9	[美術館・博物館]化石林 ねむる太古の森 案内	毎日新聞
11	9	[まちかど]シンポジウム「時空を超えた埋没林・化石林研究の進展に向けて」案内	京都新聞
11	10	[湖岸より]<330>びわ博フェス2018 下松孝秀専門員	中日新聞
11	10	[琵琶湖の魚たち]アユは「耳石」で誕生日を特定 片岡佳孝主任主査	産経新聞
11	15	[びわ博コレクション おうみ漁具図鑑]<17>アユ小糸網 丈長くなり漁場は沖へ 渡部圭一学芸師	京都新聞
11	16	[美術館・博物館]化石林 ねむる太古の森 案内	毎日新聞
11	17	「泣いてもかまへんよ!」子育てパパとママ方言で応援 滋賀など14知事がステッカー作成 18日に琵琶湖博物館で配布	京都新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
11	18	琵琶博でフェス 自然多彩に親しんで 子ら骨格標本に興味津々	京都新聞
11	20	[びわ博こだわり展示の裏話]<33>おとなのディスカバーに引き継がれた機能 本や質問コーナー活用を 金尾滋史主任学芸員	毎日新聞
11	20	湖上観察に空中散歩道 琵琶湖博物館 林竜馬学芸員のコメント	中国新聞 SELECT<広島版>
11	20	湖から消えた外来魚 琵琶湖博物館担当者のコメント	読売新聞(夕刊)
11	23	[美術館・博物館]化石林 ねむる太古の森 案内	毎日新聞
11	24	[湖岸より]<331>第17回世界湖沼会議 中井克樹専門学芸員	中日新聞
11	25	カメの重さ測ってみたよ 琵琶湖博物館	毎日新聞
11	25	カメが大きくなったかな 琵琶博で身体測定を 金尾滋史主任学芸員が解説の後身体測定	読売新聞
11	25	「思ったより軽い！」子供ら、カメの公開測定 琵琶湖博物館	産経新聞
11	26	ソースがみそ！ハンバーグ完成 琵琶湖博物館レストランあす発売	朝日新聞
11	26	湖南農高生×カゴメ新メニュー 煮込みハンバーグに県産食材 あすから琵琶博のレストランで提供	読売新聞
11	26	もっと野菜をおいしくたっぷり 湖南農×カゴメ新メニュー 愛菜ハンバーグ〜トマ味噌仕立て〜琵琶湖博物館であすから	毎日新聞
11	28	琵琶湖博物館レストランに新メニュー 湖南農業高生考案“愛菜ハンバーグ”	中日新聞
11	28	琵琶湖の外来魚どこへ <写真資料提供：『ブルーギル』『オオクチバス』>	朝日新聞(夕刊)
11	29	[びわ博コレクション おうみ漁具図鑑]<18>藻とりマンガ 効率よく掻きとる「農具」 渡部圭一学芸技師	京都新聞
11	30	[近江すたいる]「びわ博」に新たな学びの場 観察体験室や空中散歩道 金尾滋史主任学芸員と林竜馬主任学芸員のコメント	読売新聞(しが県民情報)
11	30	[美術館・博物館]2億5千万年前の近江・美濃の化石 案内	毎日新聞
11	30	[遊覧選]「地域のにぎわいと湖国の未来 魚のゆりかご水田〜5つの恵み」琵琶湖博物館ホールで開催 案内	中日新聞
12	1	[湖岸より]<332>菅浦の意外な名産品 橋本道範専門学芸員	中日新聞
12	4	[びわ博こだわり展示の裏話]<34>毛を持つ動物たち 肌触りの違い確かめて 中村久美子主任学芸員	毎日新聞
12	7	[美術館・博物館]2億5千万年前の近江・美濃の化石 案内	毎日新聞
12	7	県、借金抑制へ収入源探る 国体負担控え 39億円増目標 命名権売却拡大・自販機の使用料・県の公用封筒や琵琶湖博物館の観覧券へも企業広告の掲載呼びかけ	京都新聞
12	9	[琵琶湖の魚たち]エラに特徴ゲンゴロウブナ 片岡佳孝主任主査	産経新聞
12	13	[びわ博コレクション おうみ漁具図鑑]<19>モロコ小糸網 手早く魚外し鮮度維持 渡部圭一学芸技師	京都新聞
12	14	[美術館・博物館]2億5千万年前の近江・美濃の化石 案内	毎日新聞
12	14	トマトみそ仕立てハンバーグいかが 湖南農業高生、愛彩菜使い考案 琵琶博レストランに登場	京都新聞
12	14	[講演講座]はたきをつくろう！ 案内	産経新聞
12	15	大津の市民団体に奨励賞、ぼてじゃこ繁殖 成果を発表 琵琶湖博物館で開催された「淡海こどもエコクラブ活動交流会」	読売新聞
12	15	[湖岸より]<333>生活を支える水辺の多様性 楊平主任学芸員 / 体験や参加型展示充実 県立琵琶湖博物館第3期改修の素案	中日新聞
12	15	琵琶博県が第3期改修概要発表 地層標本・ジオラマ、目玉に A・B両展示室、20年7月完成目指す 集客に懸念の県議も	京都新聞
12	16	サンタが泳いでやってきた 琵琶湖博物館	毎日新聞
12	16	テナガエビ復活させる 府立海洋高生が挑戦 琵琶湖博物館で開かれた日本水産学会近畿支部の例会の高校生ポスター発表の部で紹介	毎日新聞<京都版>
12	16	水中からメリークリスマス 琵琶博	読売新聞
12	16	魚と遊泳 手を振り 一足早いサンタ子ら大喜び 琵琶博	京都新聞
12	16	サンタさん人魚になる 琵琶湖博物館Xマス企画	中日新聞
12	16	[情報ちゅーぶ]琵琶湖博物館に「空中の散歩道」完成	中日新聞<名古屋・知多版・なごや東版>
12	17	魚と一緒にメリークリスマス☆ 琵琶湖博物館水槽サンタ登場	産経新聞
12	18	[びわ博こだわり展示の裏話]<35>転がして発見！縄文土器の模様 細かな工夫体験して 妹尾裕介学芸員	毎日新聞
12	18	[近畿圏ニュース]泳ぐサンタ登場 滋賀・琵琶湖博物館	毎日新聞<高知・愛媛・徳島・香川版>
12	18	草津市、烏丸半島購入へ 琵琶湖博物館と水生植物公園みずの森の間に位置する未利用地9ヘクタール、水資源機構に随契申し入れ / バス定額乗り放題検証 立命大と県、2社協力 実験路線には琵琶湖博物館やショッピングモール行きも含まれる	京都新聞
12	19	[取材ノートから]烏丸半島の空地活用 文化や景観相乗効果を	京都新聞
12	19	草津市烏丸半島9ヘクタール購入申し入れ 宿泊、飲食などの施設を想定 烏丸半島には琵琶湖博物館と水生植物公園みずの森が立地	産経新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
12	21	[美術館・博物館]2億5千万年前の近江・美濃の化石 案内	毎日新聞
12	21	[講座講演]「新琵琶湖学セミナー」「からすまいちばんスタンプラリー」案内	産経新聞
12	21	水槽内にサンタクロース登場 琵琶湖博物館	産経新聞<大阪版>
12	22	[よみがえれ琵琶湖]世界湖沼会議を振り返って<5>湖魚のゆりかごを守れ 農業水路埋め尽くす“外敵” 中井克樹専門学芸員のアドバイス	中日新聞
12	23	「サンタさん、魚みたい」 琵琶湖博物館	朝日新聞
12	24	湖国この1年 2018<1> 1/19 国の文化審議会は琵琶湖博物館が保管する「琵琶湖の漁撈用具及び船大工用具」を登録有形民俗文化財に登録、1/27 国際湖沼環境委員会の設立30周年を記念するシンポジウムを琵琶湖博物館で開催	京都新聞
12	27	[びわ博コレクション おうみ漁具図鑑]<20>ヤス 豪快、真夜中のコイ突き 渡部圭一学芸技師	京都新聞
12	28	「からすまいちばんスタンプラリー2018」案内	読売新聞(しが県民情報)
12	29	回顧 2018<3> 8/16 田畑諒一学芸技師らの研究グループが新種のナマズを確認	読売新聞
12	29	湖国この1年 2018<6> 11/3 琵琶湖博物館に空中遊歩道「樹冠トレイル」完成	京都新聞
12	29	2018 この1年 7/6 琵琶湖博物館で「おとなのディスカバリー」がオープン	産経新聞
1	1	県内の主な出来事 平成8年琵琶湖博物館オープン	朝日新聞
1	4	草津市「健幸都市」へ施設整備進む 近接する琵琶湖博物館などとともに集客力強化を図る	中日新聞
1	4	永島さん(元「乃木坂46」)観光PR 琵琶湖博物館などで撮影された動画を市HPで公開	毎日新聞
1	7	[現代のことば]耳障りな言葉 篠原徹館長	京都新聞(夕刊)
1	8	[湖国の平成 あのときこのとき]<6>平成27年9月琵琶湖博物館の大規模改修が始まる	朝日新聞
1	11	[美術館・博物館]2億5千万年前の近江・美濃の化石 案内	毎日新聞
1	12	[湖岸より]<334>第3期新装へ決意の新年 篠原徹館長	中日新聞
1	12	[琵琶湖の魚たち]アブラヒガイとビワヒガイ 進化は比較的最近!? 田畑諒一学芸技師	産経新聞
1	12	琵琶博改修役立てて 大津の会社「バンテック」、県に500万円寄付	京都新聞
1	13	魚の飾り上手にできた 琵琶博 親子らモビール作り	読売新聞
1	17	湖国の生態系を守れ外来植物駆除の“新兵器”? 水陸両用船 県が初投入 中井克樹専門学芸員のコメント	中日新聞
1	18	[遊・You・友]トンボ100大作戦 ～滋賀のトンボを救え～ 展示案内	朝日新聞(夕刊)
1	18	[美術館・博物館]2億5千万年前の近江・美濃の化石 案内	毎日新聞
1	19	トンボの保全活動紹介 琵琶博で観察記録など展示	京都新聞
1	21	[クラブ]うおの会 琵琶湖博物館を拠点とする市民グループとして琵琶湖で分布調査 / 定額乗り放題最適料金は? 立命館大、県地元バス2社と社会実験 実験路線には琵琶湖博物館に立ち寄れるものも含まれている	中日新聞
1	21	[びわ博こだわり展示の裏話]<36>漁業の道具作り方から紹介 ベテラン漁師手際鮮やか 渡部圭一学芸技師	毎日新聞
1	24	[びわ博コレクション おうみ漁具図鑑]<21>毛縄 戦後、化繊材料へ変化 渡部圭一学芸技師	京都新聞
1	25	[美術館・博物館]2億5千万年前の近江・美濃の化石 案内	毎日新聞
1	25	[展覧会]トンボ100大作戦 ～滋賀のトンボを救え～ 展示案内	読売新聞(しが県民情報)
1	25	[A+1 美術館・博物館]琵琶湖博物館催し物案内(「2億5千万年前の近江・美濃の化石」)	朝日新聞(夕刊)
1	26	[湖岸より]<335>2017年は南湖の水草が少ない年でした 芳賀裕樹総括学芸員 / マザーレイク応援寄付制度 使い道拡大会案へ 琵琶湖博物館にも独自の寄付制度あり	中日新聞
1	29	トンボ知って守ろう 草津の琵琶湖博物館で標本や写真を展示	中日新聞
1	30	琵琶湖や海の豊かさ教え合う 彦根・佐和山小と福井の児童 琵琶湖博物館などで調べたことを紹介	中日新聞
2	1	[美術館・博物館]2億5千万年前の近江・美濃の化石 案内	毎日新聞
2	5	[びわ博こだわり展示の裏話]<37>樹冠トレイルから見る琵琶湖 大きな虹かかる日も 金尾滋史主任学芸員	毎日新聞
2	7	[びわ博コレクション おうみ漁具図鑑]<22>ドンジョバサミ ドジョウ「きゅっと」捕獲	京都新聞
2	8	[美術館・博物館]2億5千万年前の近江・美濃の化石 案内	毎日新聞
2	8	[展覧会]収蔵庫をのぞいてみよう!「描かれた湖魚」 展示案内	読売新聞(しが県民情報)
2	9	県19年度一般会計当初予算案琵琶湖博物館第2期改装2億2500万円	京都新聞
2	10	[湖岸より]<336>遺跡から見る森と人の歴史 林竜馬主任学芸員 / 泥深い浅瀬の駆除OK 草津外来植物作業船の見学会 中井克樹専門学芸員のコメント	中日新聞
2	10	琵琶博の渡部圭一学芸技師講演 漁具の歴史や進化語る「湖灯塾」	京都新聞
2	11	稲・ヨシわら細工挑戦 琵琶湖博物館で親子連れら昔の農家生活触れる	京都新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
2	13	新潟の潟学にエール 湿地との共生考えるシンポ 前滋賀知事・嘉田さん琵琶湖博物館の設立に携わった経験を振り返り講演	新潟日報<新潟版>
2	15	[A+1 美術館・博物館]琵琶湖博物館催し物案内（「2億5千万年前の近江・美濃の化石」）	朝日新聞<大阪版>(夕刊)
2	15	[美術館・博物館]2億5千万年前の近江・美濃の化石 案内	毎日新聞
2	15	天皇陛下即位30年式典 24日は慶行事として琵琶湖博物館など県立施設3カ所を無料開放	京都新聞
2	19	琵琶湖の漁獲減実情調査 参議院環境委員会三日月知事と意見交換 琵琶湖博物館などを訪問	京都新聞
2	19	[現代のこぼれ]地域性 篠原徹館長	京都新聞(夕刊)
2	20	天皇陛下即位30年式典合わせ記帳所 24日は慶行事として琵琶湖博物館など県立施設3カ所を無料開放	中日新聞
2	21	[びわ博コレクション おうみ漁具図鑑]<23>テッポウ 魩の杭湖底に打ち込む 渡部圭一学芸技師	京都新聞
2	21	外来魚の駆除「地」と「知」の利 熱帯魚すむ「湯の滝」沢水と雪投入 ダム段階放水、卵を日干しに フェロモン仕掛け一網打尽 中井克樹専門学芸員のコメント	朝日新聞
2	22	[美術館・博物館]2億5千万年前の近江・美濃の化石 案内	毎日新聞
2	23	[湖岸より]<337>幼児を育てる自然あそび 中村久美子主任学芸員	中日新聞
2	23	[琵琶湖の魚たち]毎晩湖底から浮かび上がる「イサザ」 松岡由子学芸員	産経新聞
2	24	参院環境委の6人琵琶湖抱える課題知事らと意見交換 この後琵琶湖博物館も視察	中日新聞
2	25	山梨の水族館マミズクラゲ飼育 苦心534日連続展示国内最長これまでは琵琶博の533日が最長	読売新聞<東京版>(夕刊)
2	26	[びわ博こだわり展示の裏話]<38>おとなのディスカバリーで学芸員も発見 疑問から“研究磨き” 大槻達郎学芸技師	毎日新聞
3	1	[美術館・博物館]2億5千万年前の近江・美濃の化石 案内	毎日新聞
3	1	[A+1 美術館・博物館]琵琶湖博物館催し物案内（「2億5千万年前の近江・美濃の化石」）	朝日新聞<大阪版>(夕刊)
3	5	滋賀大付属小琵琶湖へ放流目指しアユモドキ大切に育てる 環境省、稚魚40匹引き渡し 琵琶湖博物館環境学習センターの学芸員などがアユモドキを取り巻く環境や生態について説明	京都新聞
3	6	電気や水道など県施設メーター379個が期限切れ 県庁や琵琶湖博物館など45施設	中日新聞
3	7	[びわ博コレクション おうみ漁具図鑑]<24>エビタツベ半製品 部品ごと作り足し効率化 渡部圭一学芸技師	京都新聞
3	7	[ぶらっと]淡水クラゲ展示で新記録山梨県立富士湧水の里水族館 これまでの最長記録は琵琶湖博物館の533日	朝日新聞<東京版>(夕刊)
3	8	[美術館・博物館]2億5千万年前の近江・美濃の化石 案内	毎日新聞
3	9	[湖岸より]<338>アザラシも暁を覚えず? 松岡由子学芸員	中日新聞
3	9	[学ぶ活動紹介]アユモドキ復活目指す滋賀大付属小学校 <写真資料提供:『アユモドキ』>	毎日新聞
3	12	[びわ博こだわり展示の裏話]<39>おとなのディスカバリーで広がる昆虫の世界 観察から未知の発見 榎永一宏専門学芸員	毎日新聞
3	15	[美術館・博物館]2億5千万年前の近江・美濃の化石 案内	毎日新聞
3	15	身近な環境に関心をタンポポ調査 滋賀の事務局琵琶湖博物館の芦谷美奈子主任学芸員が実行委員となり前回は約400人がデータを収集 はしかけ制度のグループ「タンポポ調査はしかけ」のメンバーで実行委員の前田雅子さんのコメント	読売新聞(しが県民情報)
3	18	[人あり]尽きぬ湖魚への好奇心 田畑諒一学芸技師	読売新聞
3	20	[美術館・博物館]2億5千万年前の近江・美濃の化石 案内	毎日新聞<大阪版>
3	20	[青鉛筆]琵琶湖博物館から寄贈された新種の「タニガワナマズ」が北九州市立いのちのたび博物館で20日から常設展示	朝日新聞<北九州版>
3	21	[びわ博コレクション おうみ漁具図鑑]<25>押し網 投網と同じ原理で捕獲 渡部圭一学芸技師	京都新聞
3	22	57年ぶりの新種 いのちのたび博物館タニガワナマズ常設展示	毎日新聞<北九州版>
3	23	[湖岸より]<339>国登録記念漁具展示が始まります 渡部圭一学芸技師	中日新聞
3	24	[琵琶湖の魚たち]おいしいホンモノ努力実り資源回復中 片岡佳孝主任主査	産経新聞
3	26	知事トップダウン強化 特別職の琵琶湖博物館長に高橋啓一副館長	京都新聞
3	28	鳥丸半島 リゾート構想頓挫の未利用地9ヘクタール(西隣に琵琶湖博物館、東隣に水生植物公園みずの森) 草津市公社が取得	読売新聞
3	29	[美術館・博物館]2億5千万年前の近江・美濃の化石 案内	毎日新聞
3	29	湖国の平成史 平成8年草津市に琵琶湖博物館オープン	京都新聞
3	30	琵琶博新館長に高橋氏 生え抜きで初のトップに	京都新聞
3	30	[湖岸より]<340>こどもエコクラブ 松田征也総括学芸員 / 琵琶湖博物館改修2社が50万円寄付 滋賀トヨタなど篠原徹館長から感謝状	中日新聞
3	31	「湖と人間」理念に楽しめる場目指す 篠原徹館長と高橋啓一新館長のコメント	中日新聞

5) 雑誌等掲載記録

月	記事テーマ	掲載雑誌社名
4	近美×びわ博「描かれた湖国の生き物と風景」の案内	博物館研究 vol. 53 No. 5 (No. 599 号)
4	遊びどころと見どころ満載！草津を楽しもう！琵琶湖博物館の紹介	KuSaTsu 観光ガイドマップ-びわ湖・草津-
4	滋賀県博物館協議会設立 35 周年記念 座談会「博物館を愉しく、旅を豊かに！ - みんなで語る！滋賀県の博物館の旅・観光-」パネリスト篠原徹 琵琶湖博物館館長 / 近美×びわ博「描かれた湖国の生き物と風景」の案内 / 新刊案内 琵琶湖博物館ブックレット 6「タガメとゲンゴロウの仲間たち」の案内	Duet 2018 春 vol. 127
4	[展覧会]近美×びわ博「描かれた湖国の生き物と風景」の案内	中日スポーツ
4	イマドキ水族館 NEWS ベスト 5 地元・琵琶湖の生きものを中心にユニークに掘り下げて紹介する琵琶湖博物館 / 淡水魚展示では最大のトンネル水槽	見て感じて癒される水族館びわあハンディ 全国版
4	近美×びわ博「描かれた湖国の生き物と風景」の案内	日経 REVIVE
4	琵琶湖博物館の紹介	SHIGA'S GUIDE
4	GWに行きたい注目スポット！In 草津 琵琶湖博物館の紹介	フェリエ南草津 MAGAZINE
4	琵琶湖博物館の紹介	デート DX 東海版 2018
4	[Event news]近美×びわ博「描かれた湖国の生き物と風景」の案内	ロトス 5月号 vol. 67
4	[Event news]近美×びわ博「描かれた湖国の生き物と風景」の案内	リクオラ 5月号 vol. 17
4	[Event news]近美×びわ博「描かれた湖国の生き物と風景」の案内	モリス 5月号 vol. 74
4	[Event news]近美×びわ博「描かれた湖国の生き物と風景」の案内	びわこと南版 5月号 vol. 66
4	[Event news]近美×びわ博「描かれた湖国の生き物と風景」の案内	びわこと北版 5月号 vol. 17
4	2017 年度日本トンボ学会滋賀大会 琵琶湖博物館で開催	月刊むし 5月号 567号
5	近美×びわ博「描かれた湖国の生き物と風景」の案内	博物館研究 vol. 53 No. 6 (No. 600 号)
5	湖と淡水魚の関係を学ぼう 琵琶湖博物館の紹介 / 琵琶湖博物館招待券プレゼント	まっふる家族でおでかけ東海・北陸' 18-19
5	琵琶湖をテーマにした日本有数の総合博物館 琵琶湖博物館の紹介	何度も行きたくなる動物園&水族館ベストランキング
5	滋賀ふるさと観光大使西川貴教さんからメッセージ琵琶湖博物館の紹介	虹色の旅へ。滋賀・びわ湖 (滋賀県観光キャンペーン H30. 7~12)
5	琵琶湖を知って食べて買って楽しむ琵琶湖博物館、ミュージアムレストラン「にほのうみ」、ミュージアムショップ「おいでや」の紹介 / 琵琶湖博物館招待券プレゼント	にゅーすもりやま No. 667
5	実施設計プロポ公告 新琵琶湖博物館創造第 3 期	日刊建設産業新聞 (東京) (5/14)
5	参加表明 8 日まで滋賀県の新琵琶湖博物館 3 期展示設計	建設通信新聞 (東京) (5/15)
5	生き物を観察したりふれたり…五感を使ってびわ湖をお勉強。琵琶湖博物館の紹介	じゃらん家族旅行 (関西・中国・四国版) 2018
5	さらにパワーアップ中！湖と人をさまざまな視点から 琵琶湖博物館の紹介	おとなのエルマガジン おでかけ美術館&博物館 (関西版)
5	農林水産業の営みと多様な生きもの展 「田んぼの生きもの春夏秋冬」絵巻 (琵琶湖博物館、オリザネット)	日刊食料新聞 (東京) (5/17)
5	[コンペ&プロポーザル]滋賀県【新琵琶湖博物館創造第 3 期にかかる実施計画】	建設通信新聞 (東京) (5/23)
6	企画展示「化石林 ねむる太古の森」の案内	博物館研究 vol. 53 No. 7 (No. 601 号)
6	企画展示「化石林 ねむる太古の森」、水族企画展示「琵琶湖に固有な魚たちの歴史」 / 「初心者のためのふなずし作り体験」「ヨシ灯りを作ろう！」「マイナス 80 度から生還した微小生物」「みんなで「かいこ絵日記」を作ろう！」「骨にふれてみよう！」の案内	れいかる (湖国文化情報) 7・8月号 vol. 105
6	ディスカバリールームがついに OPEN！ 琵琶湖博物館の紹介 / 琵琶湖博物館招待券プレゼント	夏びあ (関西版) 2018
6	滋賀の夏のおでかけスポット 琵琶湖博物館の紹介	ピースマム滋賀 vol. 42 summer
6	琵琶湖博物館へ行こう 琵琶湖博物館の紹介 / 環境・ほっと・カフェ (講演) の案内 / 写真提供：「明治期の開門」「カイツブリ」「ニゴロブナ」「ホンモロコ」	この夏！びわ活！ガイドブック
6	琵琶湖博物館招待券プレゼント	パリッシュ vol. 234
6	琵琶湖博物館の紹介	ヤンマーミュージアム紹介チラシ
6	地域のスポット琵琶湖博物館の紹介	NOSAI しが 2018 夏号
6	琵琶湖博物館 第 2 期リニューアルオープン！企画展示「化石林 ねむる太古の森」案内	教育しが 7月号 No. 68
7	この夏！びわ活！遊んで、食べて、学んで」、守って琵琶湖と関わる夏にしよう！琵琶湖について学ぶなら、まずはココ！琵琶湖博物館 / 【情報ガイド】企画展示「化石林 ねむる太古の森」、水族企画展示「琵琶湖に固有な魚たちの歴史」の案内	滋賀プラス 1 (県広報誌) 7・8月号 vol. 174
7	企画展示「化石林 ねむる太古の森」の案内	博物館研究 vol. 53 No. 8 (No. 602 号)

月	記事テーマ	掲載雑誌社名
7	にじいろレイク探検隊 光放つ十九の輝石 滋賀県に眠る虹色の秘宝を探そう！ 琵琶湖博物館観覧券・グッズプレゼント	滋賀トヨペット(株)イベントチラシ
7	新規リピーター獲得につながるか 県立琵琶湖博物館第2期リニューアルオープン	滋賀報知 (7/12)
7	滋賀県知事選挙 2003年琵琶湖博物館ホールで「外来魚のリリース禁止・琵琶湖ルールを考える」シンポジウム開催 パネリストとして中井克樹専門学芸員	月刊バサー新聞 8月号
7	人気館の研究 調査に市民も参加、研究で海外交流琵琶湖博物館 高橋副館長	日経グローバル (7/16) No. 344
7	琵琶湖博物館の魅力を紹介	カーライフ倶楽部 (関西版) 夏号
7	古代湖がはぐくんだ生物たちを知る！琵琶湖博物館の紹介	東海ウォーカー夏休み直前号 No. 887
7	県立琵琶湖博物館一部リニューアルオープン	広報くさつ (7/15) No. 1201
7	琵琶湖博物館 第2期リニューアルオープン！	広報鳥丸 (第49号)
7	企画展示「化石林 ねむる太古の森」 / 「おとなのディスカバリー」第2期リニューアルオープン！ / 琵琶湖博物館ブックレット7「琵琶湖はいつできた」の案内	Duet 2018 夏 vol. 128
7	[美術館・博物館・体験施設情報]五感を使う体験型展示！琵琶湖博物館の紹介	教育家庭新聞 (7/23)
7	滋賀のおすすめ！観光スポット10 琵琶湖博物館の紹介	滋賀じゃらん JAバンク滋賀
7	びわ湖のすべてを感じるミュージアム琵琶湖博物館	こどもと楽しむおでかけマップ
7	この夏行きたい水族館 琵琶湖固有種など150種！琵琶湖博物館	読売 Life
7	大人も楽しい！がいっぱいの学べる空間☆ リニューアルした琵琶湖博物館へ！！ / 琵琶湖博物館招待券プレゼント	パブリッシュ vol. 235
7	夏の自由研究 続々リニューアル中の琵琶湖博物館で、身近な生物の“不思議”を見つけよう！	RuSc 8月号 No. 57
7	「琵琶湖博物館の舞台裏」その1-川魚屋もある水族展示室 / その2-「古代湖の世界」展示コーナー	滋賀民報 (7/8・29)
8	企画展示「化石林 ねむる太古の森」、水族企画展示「琵琶湖に固有な魚たちの歴史 / 「古代生物をうつつし取ろう！」「田んぼ体験」「顕微鏡で観察しよう プラクトンでピンゴ」、はしかけ登録講座の案内	博物館研究 vol. 53 No. 9 (No. 603号)
8	企画展示「化石林 ねむる太古の森」、水族企画展示「琵琶湖に固有な魚たちの歴史」、「古代生物をうつつし取ろう！」「ドキ土器！おしゃれもようを楽しもう！」「田んぼ体験 (9・10月)」「顕微鏡で観察しよう プラクトンでピンゴ」「ビワマスの採卵現場を見学してみませんか！」の案内	れいかる (湖国文化情報) 9・10月号 vol. 106
8	「おとなのディスカバリー」がオープン！ / 琵琶湖博物館招待券プレゼント	関西秋 Walker
8	五感で琵琶湖を体感できる！ 琵琶湖博物館の紹介	遊・悠・West 関西版 春号
8	「琵琶湖旅」の手引きとなる博物館	ひととき 9月号
8	琵琶湖固有種の歴史に迫る 金尾滋史主任学芸員のコメント	滋賀報知 (8/24)
8	企画展示「化石林 ねむる太古の森」の紹介	RuSc 9月号 No. 58
8	琵琶湖型のライスがインパクト大 琵琶湖博物館レストラン「にほのうみ」	Leaf Special 自慢したくなる滋賀
8	新種のナマズ発見 国内では4種目 田畑諒一学芸技師の話	しんぶん赤旗 (8/20)
8	琵琶湖博物館など新種のナマズ発見 国内では4種目、57年ぶり 田畑諒一学芸技師の話	日刊水産経済新聞 (8/21)
8	琵琶湖博物館招待券プレゼント	e-press 9月号
9	企画展示「化石林 ねむる太古の森」 / 「田んぼ体験」「ドキ土器！おしゃれもようを楽しもう！」「ビワマスの採卵現場を見学してみませんか！」 / 琵琶湖博物館リニューアル情報 おとなが楽しむ新しい展示室「おとなのディスカバリー」	博物館研究 vol. 53 No. 10 (No. 604号)
9	美の宝庫・滋賀で芸術の秋 琵琶湖博物館の紹介	滋賀たび 2018autumn 虹色の旅へ
9	[情報コーナー]「樹冠トレイルがオープンします！ / 琵琶湖博物館招待券プレゼント	教育しが 10月号 No. 69
9	琵琶湖博物館の紹介	GOOD LUCK TRIP 滋賀 vol. 5 (SHIGA LAKE BIWA 2018-2019)
9	体験型博物館がリニューアル / 琵琶湖博物館招待券プレゼント / 秋イベントカレンダー企画展示「化石林 ねむる太古の森」の紹介	秋びあ (関西版)
9	湖南で旬のスポット巡り リニューアルで進化続々！琵琶湖博物館	じゃらん (関西・中国・四国) 10月号 (別冊付録) 肉旅 BOOK
9	57年ぶりに新種のナマズを発見 8日から琵琶湖博物館でトピック展示	滋賀報知 (9/6)
9	[湖国の人]新種のナマズを発見した田畑諒一学芸技師“ぼくにとって琵琶湖は、もう『聖地』ですね” / 「琵琶湖博物館の舞台裏」その3-マイクログリアリウム	滋賀民報 (9/2・9)

月	記事テーマ	掲載雑誌社名
10	企画展示「化石林 ねむる太古の森」の案内	博物館研究 vol. 53 No. 11 (No. 605号)
10	企画展示「化石林 ねむる太古の森」、公開シンポジウム「時空を超えた埋没林・化石林研究の進展に向けて」 / 「びわ博フェス 2018」「秋の色探しをしよう!」「綿にふれてみよう!」「田んぼ体験(12月)」「琵琶湖地域の水田生物研究会」の案内	れいかる(湖国文化情報) 11・12月号 vol. 107
10	琵琶湖博物館の案内 / 琵琶湖博物館招待券プレゼント	関西冬ウォーカー2019
10	琵琶湖博物館第2期リニューアル(草津市)	Yumeken 秋(滋賀県建設業協会広報誌) vol. 688
10	琵琶湖博物館の紹介	関西観光 MAP さあ西の都へ SUPER KANSAI DIGITAL STAMP RALLY
10	水族館ビジネス 展示・コラボ・シナジー	月刊レジャー産業資料 11月号
10	グランドオープンに向け、第2期の大幅改装が完了 琵琶湖博物館に大人向けフロア誕生	時局 11月号
10	「琵琶湖博物館の舞台裏」その4ーディスカバリールーム	滋賀民報(10/14)
10	コイの放流の問題と防除 『飼育型のコイ』『マゴイ』写真資料提供	なごや生物多様性ガイドブック
11	「田んぼ体験(12月)」「綿にふれてみよう!」「はたきをつくろう!」の案内	博物館研究 vol. 53 No. 12 (No. 606号)
11	おとなのディスカバリー 標本を手にとって見られる新展示が大人に人気	日経トレンディ
11	「琵琶湖博物館の舞台裏」その5ー大人のディスカバリー	滋賀民報(11/11)
11	琵琶湖のいろんな知識が学べる♪ 琵琶湖博物館の紹介	倶楽部Q vol. 74
11	天皇家の研究力 秋篠宮さま2001年来館	サンデー毎日(12/2)
11	新琵琶湖学セミナー「森と水辺の物語ー新しい歴史展示をつくる」の案内	教育しが 12月号 No. 70
12	トピック展示「2億5千万年前の近江・美濃の化石」、収蔵庫をのぞいてみよう!「描かれた湖魚」 / 「お魚モデルを作ろう!」「樹冠トレイルを歩こう!」「田んぼ体験(2月)」「節分☆オニのお面をつくろう!」「おひなさまをつくろう!」新琵琶湖学セミナー「森と水辺の物語ー新しい歴史展示をつくる」の案内	れいかる(湖国文化情報) 1・2月号 vol. 108
12	琵琶湖を学べる博物館がリニューアル	関西ウォーカー No. 25(12/5~14)
12	「はたきをつくろう!」の案内	ミュージアムキッズ vol. 8
12	滋賀県三日月知事のNEW YEAR MESSAGE 写真資料:リニューアルオープンした樹冠トレイル	月刊コロンプス 1月号
12	カゴメが湖南農業高校とメニュー開発 琵琶湖博物館の食堂で販売 包括連携協定「地産地消および食育の推進」の取り組みとして実施	食料醸界新聞(大阪) 12/3
12	「愛菜ハンバーグ〜トマ味噌仕立て〜」カゴメと滋賀県の包括連携協定から 湖南農業高校が開発 琵琶湖博物館レストランのメニューリストに	週間醸界通信(神戸) 12/12
12	新しいメニューお披露目 カゴメ、滋賀県の高校生と	帝飲食糧新聞(大阪) 12/12
12	滋賀で産官学連携進む 湖南農業高校考案のハンバーグ 琵琶湖博物館で発表 篠原館長挨拶	フードウィークリー(大阪) 12/17
1	[情報ガイド]新琵琶湖学セミナー「森と水辺の物語ー新しい歴史展示をつくる」(全3回)の案内	滋賀プラス1(県広報誌) 1・2月号 vol. 177
1	「田んぼ体験」の案内	博物館研究 vol. 54 No. 2 (No. 608号)
1	館内展示とデジタル情報から、より知識を深掘りできる専門図書室 琵琶湖博物館図書室	NewテクノマートSO(創)
1	大人がハマる!ユニークな展示と多数の標本 リニューアルでさらに魅力的に! 琵琶湖博物館の紹介	関西ウォーカー(1/5~15)
1	日本最大級の規模を誇る淡水生物の展示 琵琶湖博物館の案内 / 琵琶湖博物館招待券プレゼント	春夏秋冬ぴあ(関西版)
1	「田んぼ体験(わら細工)」の案内	まま・ここと vol. 10 冬号
1	活動紹介 琵琶湖博物館リニューアル	CLUB CHIYO vol. 8(県会議員駒井千代活動レポート)
1	週末のおとな旅 琵琶湖の400万年、歴史と今! 琵琶湖博物館の紹介	月刊ウララ 2月号
1	滋賀レジャー施設 琵琶湖博物館の紹介	家族で超トク パスポートなび(ネットヨタびわこ)
1	琵琶湖博物館に誕生した新スポット 空中遊歩道「樹冠トレイル」を歩こう! / 琵琶湖博物館招待券プレゼント	バリッシュ vol. 241
1	琵琶湖が育む自然と水のめぐみに癒されて 琵琶湖博物館の紹介	草津市暮らしの便利帳(2019保存版)
1	滋賀県19年度予算要求額 琵琶湖博物館の代3期リニューアルなど	日刊建設工業新聞(東京)
2	トピック展示「2億5千万年前の近江・美濃の化石」、ギャラリー展示「琵琶湖の漁撈用具展」(仮) / 「火起こし体験をしよう!」「はしかけ登録講座」、新琵琶湖学セミナー「森と水辺の物語ー新しい歴史展示をつくる」の案内	れいかる(湖国文化情報) 3・4月号 vol. 109
2	琵琶湖について学べる体験施設 琵琶湖博物館の紹介 / 琵琶湖博物館招待券プレゼント	こどもとおでかけ365日関西版(2019-2020)

月	記事テーマ	掲載雑誌社名
2	子供も大人も学んで楽しめる博物館 琵琶湖博物館の紹介 / 琵琶湖博物館招待券プレゼント	関西春 Walker vol. 241
3	体験セミナー 琵琶湖と生きるー刺し網漁とモンドリ漁 篠原徹館長、渡部圭一学芸技師	国立民族学博物館友の会ニュース
3	近美×びわ博「描かれた湖国の生き物と風景」の案内	まっふる家族でおでかけ東海・北陸 持ち歩ける滋賀本
3	世界に誇るべき偉大なる湖 琵琶湖を遊び尽くす 琵琶湖の生き物にも出会える！ 里口保文総括学芸員	春びあ（関西版）
3	びわ湖のすべてを感じるミュージアム 琵琶湖博物館の案内 / イベントカレンダー「おひなさまをつくろう！」 / 琵琶湖博物館招待券プレゼント	SHIGA'S GUIDE スバルでエンジョイしよう！お得なクーポンが満載！クーポンブック（近畿地区スバルグループ）
3	セミナー「琵琶湖はいつできたー地層が伝える過去の環境ー」	滋賀民報（3/3）
3	琵琶湖の自然、歴史、文化を大人も子供も楽しく学べる体験型博物館！ 琵琶湖博物館の紹介	びわ湖“周遊浪漫”紀行 2019 春夏 日本旅行赤い風船（'19.4～9）チラシ 教育しが 4月号 No. 72
3	「琵琶湖博物館の舞台裏」その6ー空中遊歩道「樹冠トレイル」	わくわくどきどきしが探検
3	琵琶湖博物館の紹介	
3	気ままに癒し旅♪びわ湖さんぽ 琵琶湖博物館の紹介	
3	ギャラリー展示「琵琶湖 漁具図鑑ー魚つかみの道具のヒミツ」の案内 / 琵琶湖博物館など県立施設無料開放スマイルカード	
3	しがの自然を体感する子ども編集委員勝手にランキング 琵琶湖博物館の紹介	

(3) 予算

2018年度歳入 (円)

科目	決算額
使用料及び手数料	151,977,606
財産収入	308,760
諸収入	15,335,604
合計	167,621,970

2018年度歳出 (円)

事業名	事業内容	決算額
管理運営費	施設維持費、烏丸半島整備費、事務費、広報費	344,575,529
調査資料収集事業費	研究費、研究備品、資料収集製作、資料整理保管、水族飼育	113,762,774
展示事業費	企画展示、常設展示、展示維持管理、展示用印刷物 展示交流空間再構築事業	403,090,047
情報交流事業費	情報システム管理、データ入力、図書整備、交流事業開催、 フィールドレポーター	15,629,195
環境学習推進費	環境学習センターの運営	2,709,250
合計		879,766,795

(4) 寄付など

1) 企業連携 (寄附・協賛)

110件 27,145千円

リニューアルサポーター	21件	19,860千円
水槽サポーター	42件	3,100千円
樹冠トレイルサポーター	11件	1,200千円
メンバーシップ	33件	2,600千円
キャンパスメンバーズ	3件	335千円

2) 個人(寄附)

202件 2,741千円

4 存在基盤の確立

(1) 琵琶湖博物館協議会

第1回

開催日時 2018年9月18日(火) 13:10～15:30

場 所 琵琶湖博物館セミナー室

- 議 題 ① 平成30年度の博物館活動について
 ② 新琵琶湖博物館創造基本計画にかかる行動計画
 平成30年度取組状況について
 ③ 来館者を増やす取組について
 ④ 第3期リニューアルについて

第2回

開催日時 2019年2月28日(木) 13:10～15:15

場 所 琵琶湖博物館セミナー室

- 議 題 ① 平成30年度の博物館の運営状況について
 ② 新琵琶湖博物館創造基本計画にかかる行動計画について
 平成30年度取組結果について
 ③ 第3期リニューアルについて

第12期委員

(任期：2018年9月1日～2020年8月31日)

氏 名	区分	現 職 (2019年3月現在)
山崎 賢	学校教育	草津市立老上小学校校長
下澤 辰次	学校教育	高島市立安曇川中学校校長
橋詰 純子	社会教育	カワセミ自然の会
鹿田 由香	家庭教育	滋賀子育てネットワーク代表
菊池 玲奈	環境保全	結・社会デザイン事務所代表
中田 春美	文化財保護	近江歴史回廊倶楽部会員
上西 良平	学識者	西宮市貝類館顧問
土井 通弘	学識者	就実大学名誉教授
橋立 敬生	学識者	日本経済新聞社大津支局長
中坊 徹次	学識者	京都大学名誉教授
中川 毅	学識者	立命館大学 総合科学技術研究機構古気候学研究センター長(教授)
稲垣 和美	その他	積水樹脂(株)評価・環境管理部安全・品質・環境グループ
田淵 千恵子	その他	手話通訳士
山本 勇造	その他	公募委員
高尾 裕貴子	その他	公募委員

(2) 企画・計画

1) 新琵琶湖博物館創造基本計画 行動計画

現在、琵琶湖博物館は平成32年(2020年)まで6年間に及ぶリニューアルの途上にある。このリニューアルによって琵琶湖博物館が目指すべき姿を示したものが平成26年(2014年)3月に策定した「新琵琶湖博物

館創造基本計画」である。この計画の実現に向けて、具体的な達成目標と進捗計画を記した「新琵琶湖博物館行動基本計画 行動計画」を平成29年（2017年）3月に策定した。

計画は「常設展示の再構築」「交流空間・交流機能の再構築」「利用者の利便性・快適性を高める施設整備」「多様な主体との連携」「広報・営業活動の強化」「資料を利用しやすい博物館への進化と飼育生物の計画的繁殖」「『湖と人間』の関係を考える研究の推進」の7つの柱からなり、全体で66の目標と、各年度における進捗目標を掲げている。

2) 琵琶湖博物館広報・経営戦略

2018年度は、交流空間の段階的なリニューアルオープン時期を核としつつ、年間を通じた切れ目のない広報や話題づくりにより、メディアへの露出を増やし、京阪神ファミリー層に訴求することで、県内ファミリー層への効果も狙った拡散性の高い取組を行うことを方針として広報を展開してきた。

広報用チラシ・ポスターの配布、ホームページによる情報発信、広報担当職員による県内外小中学校訪問などを行ってきた。従来の報道機関に加え、プレスリリースの配信・掲載サービスを利用した資料提供や、JR京都駅地下のマルチビジョンを使った広告、大阪府内の小学生向けの新聞への広告掲載、京阪神地域へのリビングの折り込み広告の投函など、広域的な広報活動を行った。またSNSの広告やWebメディアへの記事掲載等も行い、情報拡散にも力を注いだ。さらにリニューアル時期に合わせた地元へのチラシ配布など、県内への広報活動も行った。

IV 2018年度をふり返って

1 研究部

琵琶湖博物館は1996年4月に設立し、10月に開館してから、今年度21年目に突入した。今年度は2016年度に策定した新琵琶湖博物館創造基本計画の研究活動方針に沿って、行動計画の研究事業を進めた。博物館では研究活動は博物館の根幹であると位置づけ、「湖と人間」のテーマのもと、琵琶湖とその周辺の多面的な価値を地域の人たちと共に探る研究を継続して行うとしている。その方向性として(1)琵琶湖地域の「湖と人間」の関係性を探る総合的な研究の推進、(2)「古代湖」としての琵琶湖の価値を探る比較研究、(3)「木から森へ」の博物館学の追求を掲げ、2020年度までの行動計画を実現していくものである。

その創造基本計画に従い、第2期交流空間のリニューアルとして、2018年7月に「おとなのディスカバリー」と「ディスカバリールーム」をオープンさせ、11月には屋外展示「樹冠トレイル」をお披露目することができた。また、これまで20年間の当館ならではの学際的・地域的研究、また他の研究機関や地域の人びととともに調査研究した成果および研究調査に基づいた資料の集積を活かし、第3期展示リニューアルA・B展示室の実施設計を行った。

研究活動方針の1つである、琵琶湖淀川水系の文化や固有種を含む生物多様性とその形成過程など東アジア水系の特徴を明らかにする研究を2016年から進めている。特に、琵琶湖博物館とMOUを締結している韓国洛東江生物資源館と共同研究に向けた相互交流活動や二国間合同セミナーを実施した(2018年7月/12月滋賀)。二国間合同セミナーは、日本学術振興会二国間交流事業共同研究・セミナー「日本と韓国における淡水生物の多様性と変遷」の助成を受けて行った。もう1つの方針である、古代湖としての琵琶湖の価値を高めるため、湖の形成とその環境変化、固有種の成立、種分化や進化、湖辺での暮らしや歴史的な人と湖との関わり捉える研究に取り組んでいる。マケドニア共和国のオフリド水生生物研究所とのMOUの推進を図るため、2018年10月に開催された世界湖沼会議(茨城)に合わせて博物館での協議を検討したが、折り合いがつかず、双方のホームページ上での情報リンクを行うにとどまった。今後、国際協力協定を結んでいる海外の博物館、研究機関との資料交換や共同研究など協力関係を継続して密接にとり、「古代湖」や「東アジア水系」の特徴や価値を見出す比較研究を推進していきたい。

今年度の研究発信は、学術論文27件、専門分野の著述27件、一般向けの著述116件、学会発表は145件であった。研究成果の発信数は、ここ数年論文数が低い水準に留まっている。その一方で、学会や研究会での発表が増加しており、今後論文としての公表が見込まれるが、まとまった研究時間の確保が急務となる。研究発信のひとつである第26回企画展示では、「化石林 ねむる太古の森」と題し、7月21日から11月25日まで開催した。観覧者数は49,128人で好評であった。また、研究の成果をわかりやすく一般の方に伝えるために、中日新聞連載コラム「湖岸より」などへの執筆のほか、琵琶湖博物館ブックレットシリーズの刊行を継続している。今年度は第7号「琵琶湖はいつできた 地層が伝える過去の環境」第8号「古琵琶湖の足跡化石を探る」第9号「ピワコオオナマズの秘密を探る」を発刊し、今後も継続してその充実を図っていく予定である。新琵琶湖学セミナーでは「森と水辺の物語—新しい歴史展示をつくる」と題し、地域環境史という自然と人間の関係の歴史について、総合研究の成果を中心に紹介する機会とした。この成果は、第3期展示リニューアル(B展示室)にも反映させる予定であり、その内容や研究の裏話などについてもより深く学べるセミナーとした。セミナーは1月、2月、3月の3回に渡って、学芸員や外部研究者による6本の発表を行い、合計199名の参加があった。

今年度も2016年度に受けた滋賀県立試験研究機関に対する外部監査の主な指摘事項、1) 評価体制に関すること、2) 劇物・毒物等薬品類の管理体制や運用に関すること、3) 研究機器類の管理と運用に関すること

について改善を進め、通常業務として取り組めるように整備した。その中で3)の機器類の管理と廃棄の点が課題として残されている。

研究予算としては、年々県費による研究費が減少する中で、これまで科学研究費などの外部資金の獲得を組織的に取り組んできた。今年度の科学研究費については7件の新規採択があり、継続を合わせて9件という結果であった。新規採択数を増加、維持していくため、今後も科学研究費申請は研究を本務とする学芸職員の義務という位置づけを継続し、論文による研究成果の公表を高め、申請書の作成にあたっての努力を惜しまないようにする必要がある。また、科学研究費以外の外部助成に積極的に応募するなど研究費の確保を行っていく。また、特別研究員の受け入れが21名になり、科研費の申請にかかわる課題や当館が行う研究調査が幅広く推進されてきているが、共同利用室のスペースや博物館への研究成果の還元の方法など課題が残る。研究環境の改善として、研究棟のカビ発生や空調設備の老朽化問題、大型精密分析機器や調査船など（DNAシーケンサー、走査電子顕微鏡）研究備品の更新が必要となってきた。今後、特別研究員と連携した琵琶湖博物館の研究推進や研究成果の共有、研究不正の防止体制づくりを視野に入れた、他の館外研究者の受け入れ制度全体を見直す必要がある。

特に、2020年度までリニューアル期間が継続することで、通常業務に加え一人あたりの業務量が増加していることが挙げられる。働き方改革による業務の見直しとともに、いかに集中して研究時間の確保を行うかが課題である。今年度は研究専念日として週1日確保を目標に、各学芸員が曜日を設定し実施する試みを行った。研究時間の現状把握として、2018年11月から12月の任意1週間、無記名によるアンケート調査を行った。6サンプルの回答から1日約2.7時間の研究時間(11%)が確保されている結果となった。しかしながら、研究以外の業務(37%)に対して、1:4の比率であり、研究時間の4倍の博物館運営業務に時間を費やしていることとなった。この傾向は、昨年度(2018年1月~2月)の実施では1:8の比率から減少しているものの、多様な博物館業務をこなしている実態を示していると思われる。これまでの現状調査から、個人差や担当業務、季節によってかなり異なっており、さらに異なる時期の現状調査を行い、研究時間の確保に向けた取り組みを進める必要がある。そのひとつとして、年間を通じて、業務と研究のバランスを考えた学芸職員のマネジメント力も高めることも含まれるだろう。

2 事業部

(1) 展示

2018年7月6日に第2期リニューアルオープンしたディスカバリールームとおとなのディスカバリー、そして11月3日には樹冠トレイルが新たに登場した。これらは好評でたいへんな賑わいとなり、来館者数も第1期リニューアルを超えることとなった。また樹冠トレイルの効果により、屋外展示や湖岸を散策される方が増加したり、屋外から館内に戻る際にレストランが必然と目に入ることとなりレストランの利用者が増加したりした。これらは想定していたことであるが、実際にねらい通りになったことはうれしいことである。

第26回企画展示「化石林 ねむる太古の森」は、地層にねむる化石林・埋没林を通して、太古の森に生息した動物など豊かな生態系を再現し、古琵琶湖から琵琶湖に至るまで、湖を取り巻いてきた森の様子や移り変わりを紹介した。また、最終氷期の植生や当時の気候を体感することで森が変化する要因を示し、縄文時代の温暖な森を利用した人の営みも紹介した。第30回水族企画展示「琵琶湖に固有な魚たちの歴史」では、琵琶湖に生息する固有種16種を生体展示し、パネル・標本と合わせて、最新の研究成果からわかった琵琶湖の固有種の長く、複雑な歴史や進化について紹介した。併せて、固有種の近縁種8種についても紹介した。

第2期リニューアルがオープンした2018年7月6日から、総合受付とは別に新たにチケットブースが3台設置され、これより先のアトリウムが有料空間となった。ただし、ショップ、レストラン、質問コーナーの利用は、別途手続きにより無料利用できるように配慮した。これに伴い、ディスカバリールームと新設されたおとなのディスカバリーが有料空間となり、常設展示に位置付けされ、それぞれD展示室、E展示室となった。アトリウムの丸い柱には三角柱の館内地図のサインが2箇所設置された、四角い木製の椅子が20個

設置された。来館者が増えたことはうれしい状況であるが、展示交流員の増員はされておらず、展示室運営における重要な課題の一つとなっている。そこで、展示交流員の配置数が十分でないために、配置ポストや仕事の効率化を計った。具体的には、8月4日から車イスとベビーカーの貸出手続きは、交流員が直接行っていたが、利用者のセルフサービスに変更した。10月13日からエスカレーター下の交流員のポストを廃止した。11月3日から樹冠トレイルのオープンに合わせて、ユニバーサルデザインの観点よりアトリウムから屋外に通じる扉が自動ドアとなった。ここには交流員が配置され屋外から館内に入る人のチケット確認を行うこととなった。

(2) 資料の整備・活用

2018年度は、第2期リニューアルのとくに大人のディスカバリー展示室のオープンに合わせた資料の整備と展示に向けた活動と、第3期リニューアルに向けた資料の整備を視野にいれながら、琵琶湖地域や湖と人間に関する資料を長く保管できる環境の整備に努めた。また、昨年度から汎用性の高いクラウド型データベースへの移行によって、新たなカテゴリによるデータベースの作成を進めつつあり、第3期リニューアルでも重要な歴史系資料のデータベースの構築を進めた。

これまでに収集し、当館に収蔵されている資料は130万点を超え、そのうち登録資料は60万点を超えることとなったが、収蔵資料の約半数が登録されていないことから、今後の利用を考えた資料の整理および登録を着実に進めていく必要がある。また、収蔵施設の環境整備の改善の取り組みとして収蔵庫空間の温湿度センサーの較正のほか、空気環境の改善を行った。このような総合的有害生物防除管理（IPM）と合わせ、必要最低限の燻蒸処理をいくつかの方法によって行った。

(3) 交流・サービス活動

博物館周辺や県内各地で、計10件の観察会等を実施した。うち7件は、他団体との共同事業としての実施であった。また、4種類の講座を計8回行い、459人を集めた。依頼に応じて講義や観察会などを行う地域連携事業は、館内では58件・参加者2,269名、館外では57件・参加者3,588名の活動実績となり、件数、参加者ともに前年度を大きく上回った。

学校行事で来館した入館学校数は550校、児童生徒数は43,337人で、前年度より23校、2,885人増加した。特に県外の小学校、高等学校、大学などの入館学校数、児童生徒数が増加した。体験学習を実施した学校数は108校で前年度より17校、受講者数は878人減少した。特に、県外の小学校、中学校の実施校数、受講者数が減少した。

フィールドレポーターはアンケート型調査として「オオキンケイギクを調べよう」「集まれ！モミジ（カエデ）の仲間たち」の2件を行った。登録者数は218名であった。「はしかけ」制度の登録者は年度末時点で387名であった。2018年度には3グループ増加し、25グループでの活動展開となり、1グループが翌年度の新設に向けて準備中である。

びわ博フェスでは、「はしかけ」、「フィールドレポーター」によるポスター展示、ワークショップなどの活動紹介を行い、来館者との交流を深めた。

3 総務部

(1) 来館者の状況

2018年度は、レストラン・ミュージアムショップ・別館(4月)、ディスカバリールーム・おとなのディスカバリー(7月)、樹冠トレイル(11月)という形で、第2期リニューアルオープンを行うことで、各時期ごとに話題があったことなどにより、多くの来館者を迎えることができた。企画展示「化石林 ねむる太古の森」(7月21日～11月25日)、びわ博フェス(11月17・18日)などを開催し、2018年度の来館者は473,014人となり、目標としていた57万人を下回ることであったが、対前年度約5.7万人増となった。また、「俱

楽部LBM」の普及に努め、10,410人(H29 6,215人)の方に入会いただいた。

(2) 企業・団体との連携

CSRやSDGs等の環境保全の取り組みが大きな社会的役割を果たすようになり、博物館においても企業・団体等を重視すべきパートナーと位置づけ、「リニューアルサポーター制度」や「メンバーシップ制度」、「水槽サポーター制度」に加え「樹冠トレイルサポーター」を創設した。積極的な働きかけを行った結果、多くの賛同を得ることができた。さらに樹冠トレイルの整備に際し、「クラウドファンディング」を実施し、一般の方からも多くのご寄附をいただくことができた。

(3) 広報戦略

2018年は第2期リニューアルオープンを機に、琵琶湖博物館の魅力を周知し、更なる来館者の増加を図ることを目的に、広報活動を展開した。

広報業務については、専門的な知識や豊富な実践経験を持つ民間業者に委託した。業務委託にあたっては、「リニューアルを核としつつも年間を通じた切れ目のない広報」「訴求するターゲットは、京阪神地域（淀川流域）に居住する未就学児や小学生がいる家族」とし、パブリシティ活動や駅等での広告掲示、ウェブを活かした広報等を展開した。

(4) 施設整備

第2期リニューアルオープンに対応して、館内外において、順次案内看板の更新などを行うとともに、大型台風被害からの復旧のため、エリア内の多数の倒木、駐車場の入口ゲートテントおよび駐車場看板の転倒などに対して、それぞれ整備を行った。更に、以前から要望の多かった1階来館者用トイレの一部改修を行い、洋式トイレのウォシュレット化および多目的トイレのオストメイト対応等を実施した。

また、県立施設無料Wi-Fi整備事業により、館内に設置した5箇所のアクセスポイントの継続運用を行い、来館者の利便性の向上や利用機会の拡大につなげている。

(5) 新琵琶湖博物館創造

琵琶湖博物館は、「湖と人間」のよりよい共存関係を築くことを目的に1996年に開館した。以来、環境学習の拠点として、展示・交流活動を通じて、琵琶湖の価値を再発見し、琵琶湖や地域に関心をもつ人づくり・地域づくりに努め、着実に成果をあげてきた。

この間、新たな環境課題の顕在化、暮らしと環境に対する県民の考え方の多様化により地域での取り組みも活発化していた。しかしながら当館で進展した調査・研究、蓄積した知見、収集された多くの資料や標本を伝える大規模な展示更新が行われていない状況であった。

県政の課題や高度化・複雑化した情報をわかりやすく知りたい、体験・交流の機会を求める県民のニーズに応え、琵琶湖博物館が拠点施設として次の時代に向けて「湖と人間」のこれからのかわりを問い続けていくために、展示と交流の情報発信力を高めるとともに、次世代を担う人材を育成する交流機能を充実する必要があった。

こうしたことから、2012年度にリニューアルの方向性を示す「新琵琶湖博物館創造ビジョン」をまとめ、2013年度に「新琵琶湖博物館創造基本計画」を策定し、2015年から2020年までを3期に分けてリニューアルを行うこととなった。

第1期として、2014年度において、体感型・参加型展示や実物資料を多く取り入れた発信力の高い展示となるようC展示室と水族展示の実施設設計を行い、2015年度に展示および建設工事に着手し、2016年7月のリニューアルオープンによりC展示室と水族展示の再構築を図った。

また、第2期として、2016年度において、参加と発見、対話と交流を促し、次代を担う人が育つ交流拠点

となるため交流空間の実施設計を行い、2017 年度に展示および建設工事に着手し、2018 年 3 月のミュージアムショップ、わくわく体験スペース（企画展示室）、4 月のミュージアムレストラン、地域団体と学校向け交流・休憩ゾーン（別館）、7 月のディスカバリールーム、おとなのディスカバリー、11 月の樹冠トレイルのリニューアルオープンにより交流空間の再構築を図った。

さらに、第 3 期として、2018 年度に「湖と人間」の未来を考えることができる展示となるよう A 展示室と B 展示室の実施設計を行った。

琵琶湖博物館 年報
第 23 号 2018 年度（平成 30 年度）

令和元年（2019 年）9 月発行

編集：滋賀県立琵琶湖博物館

発行：滋賀県立琵琶湖博物館

〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091 番地
電話 077-568-4811